プロファイル管理 2607 LTSR

プロファイル管理は、Citrix Virtual Appsサーバー、Citrix Virtual Desktops™で作成された仮想デスクトップ、および物理デスクトップ向けのプロファイルソリューションとして使用されます。プロファイルを管理する各コンピューターにプロファイル管理をインストールします。

Active Directoryグループポリシーオブジェクトを使用すると、Citrix®ユーザープロファイルの動作を制御できます。多くの設定を調整できますが、一般的には、これらのトピックで説明されているように、一部の設定のみを構成すれば十分です。

展開に適したポリシー選択のセットを選ぶ最善の方法は、構成を決定する記事の質問に答えることです。

プロファイル管理の利用権限はEULAに記載されています。

これらのトピックで使用されている用語については、用語集を参照してください。

新機能

2607 LTSR の新機能

このリリースでは、全体的なパフォーマンスと安定性の向上に役立ついくつかの問題に対処しています。

修正された問題

Profile Management 2607 LTSR には、以下の修正された問題が含まれています。

- ユーザーが同じVDAマシンで重複セッションを起動すると、「The Group Policy Client service failed the sign-in. Access is denied.」というエラーメッセージが表示された黒い画面が発生する場合があります。
- アクティブなライトバックが有効になっている場合、Profile Managementサービスがクラッシュする可能性があります。
- `upmjit.sys` ドライバーが原因で、ブルースクリーンオブデス (BSOD) が発生する可能性があります。
- Microsoftアプリケーション（Microsoft Teamsなど）によって設定された再解析ポイントが原因で、ログオフ後にローカルプロファイルがクリーンアップされない場合があります。
- Profile Managementによって設定された再解析ポイントが原因で、ログオフ後にローカルプロファイルがクリーンアップされない場合があります。
- レジストリのアクティブなライトバックが有効になっている場合、`SessionInfo` レジストリキーがユーザー ストアに誤って同期され、アプリケーションの自動起動動作に影響を与える可能性があります。
- コンテナベースのプロファイルの場合、Directorのパーソナライズページでプロファイルデータが**オフライン**と表示されることがあります。
- VDAのアップグレード後にフォルダーリダイレクトが有効になっている場合、ユーザーのログオンが遅くなることがあります。
- 既存の通知レジストリ値が大きい場合、インストール中にProfile ManagementがWinlogon通知の登録に失敗することがあります。その結果、ユーザープロファイルが処理されず、管理対象プロファイルの代わりにローカルプロファイルが作成されます。

- ディスクインターフェイスクエリが失敗し、返されたポインターが検証なしで使用された場合、セッション中のコンテナ同期中にProfile Managementサービスがクラッシュする可能性があります。
- 既存のユーザープロファイルがリセットされた後、最初のログオン時にWindows Searchやその他のユーザーごとのUWPアプリが動作しなくなることがあります。
- 親フォルダーがワイルドカード (`*`) を使用して除外されている場合、**ミラーリングするフォルダー**で構成されたフォルダーがログオフ時にユーザー ストアに保存されないことがあります。
- プロファイルストリーミングが有効になっている場合、Profile Managementが、別のスレッドによって再解析ポイントがすでに削除されているフォルダーに対してキャッシュフィルを試行するため、ユーザーログオンがハングする可能性があります。
- VDAsのログオンパフォーマンスデータは、Profile Managementが監視しているWindowsイベントログのいずれかが読み取れない場合、Citrix Directorに表示されない場合があります。
- Citrix Directorの**Personalization**ページで、ローカルキャッシュ付きの**Profile container**全体が有効になっている場合、**Profile Path**がSMBユーザー保存パスではなく、マウントされたコンテナボリュームパスを表示し続ける場合があります。Profile Management 2603でこのケースに対して報告された以前の修正は不完全でした。WMI HealthCheckパスをカバーしていなかったため、ボリュームパスはそのパスを通じて引き続き報告される可能性がありました。このリリースで修正が完了します。

既知の問題

Profile Management 2607 LTSR には、以下の既知の問題が含まれています。

- ユーザーがフォルダーをゴミ箱に移動すると、以下の状況で「フォルダーアクセス拒否」というメッセージが表示されます。
  - 部分プロファイルコンテナまたはOneDriveコンテナが有効になっている場合、ユーザーはいずれかのコンテナからフォルダーを削除しようとします。
  - 完全プロファイルコンテナが有効になっている場合、ユーザーはユーザープロファイルフォルダー内にはないが、プロファイルと同じディスク上にあるフォルダーを削除しようとします。

  「フォルダーアクセス拒否」(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/known-issues-2206-1.png)

  この問題を回避するには、代わりに完全に削除を実行します。

- フォルダーを選択し、**Shift + Delete** を押して完全に削除します。
- **ごみ箱のプロパティ**を**ファイルをゴミ箱に移動しないで、削除時に直ちにファイルを削除する**に設定します。

「ごみ箱のプロパティ」(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/known-issues-2206-1-workaround.png)

- 既存のユーザープロファイルに対してフォルダーリダイレクトを有効にすると、サブフォルダーが失われる可能性があります。

  この問題は、既存のCitrix Profile Management (CPM) ユーザープロファイルにのみ影響します。**フォルダーリダイレクト** (MicrosoftまたはCPM) がフォルダーに対して新しく有効になり、同時に**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**も有効になっている場合、サブフォルダーが新しい場所に移行しない可能性があります。

  たとえば、**ドキュメント**の下にサブフォルダー (**FolderA**) が存在し、**ドキュメント**がまだリダイレクトされていない場合、フォルダーリダイレクトを有効にすると、通常は次回のログオン時に**ドキュメント**フォルダーが新しいリダイレクト先に移行します。しかし、**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**がオンになっている場合、**FolderA**とその内容は移行せず、失われる可能性があります。

  回避策:

  a. 既存のユーザープロファイルに対して**フォルダーリダイレクト**を有効にする前に、**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**ポリシーを無効にします。
  b. 次回のユーザーログオン後、リダイレクトされたフォルダーが新しい場所に正常に移行されたことを確認します。
  c. **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**ポリシーを再度有効にします。

- Windows 11 および Windows Server 2025 では、Citrix Profile Management 2402 CU4、2507 CU2、2607 LTSR、またはそれ以前のバージョンがインストールされていると、Windows Search サービスがクラッシュする可能性があります。詳細については、ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを有効にするを参照してください。

サードパーティ通知

Profile Management 2607 LTSR には、以下のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

Profile Management サードパーティ通知

システム要件

ソフトウェア要件

Profile Managementを実行するシステムは、以下のいずれかのオペレーティングシステムに基づいている必要があります。

- **デスクトップ** - Microsoft Windows 11、Windows 10

  Citrix virtual desktops™環境では、Windows Storeアプリケーション（UWPアプリとも呼ばれます）がサポートされています。

- **サーバー** - Windows Server 2025、Windows Server 2022、Windows Server 2019、Windows Server 2016 の スタンダード および データセンター エディション

> **注:**
>
> Citrix Profile Managementは、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

> すべてのユーザーは、プロファイルが集中管理されるネットワークフォルダーであるユーザーストアにアクセスできる必要があります。または、必要に応じて、プロファイルをユーザーのホームドライブに保存することもできます。詳細については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

Profile ManagementがCitrix Studioに統合されているXenDesktop 7を使用しない限り、構成にはActive Directory (AD) グループポリシーオブジェクト (GPO) が必要です。Windows Server 2008およびWindows Server 2012ネイティブモードのADフォレスト機能レベルおよびドメイン機能レベルがサポートされています。詳細については、「Profile Managementでのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。または、構成設定にローカルの.iniファイルを使用することもできますが、一般的に.iniファイルはテスト目的でのみ使用されます。.iniファイルの設定は、GPOで構成されていない設定、つまり「未構成」状態のままになっているグループポリシー設定に適用されます。

Profile Managementで使用しているCitrix製品またはコンポーネントで短いファイル名（8.3形式のファイル名とも呼ばれます）が必須である場合、Profile Managementの展開で短いファイル名のサポートを無効にしないでください。無効にすると、ファイルがユーザーストアとの間でコピーされる際に問題が発生する可能性があります。

Profile Management Serviceを実行しているコンピューターでは、プロファイルをドライブ文字でマウントされた単一のディスクに保存します。ディスクがユーザープロファイルを保存するために使用されるフォルダーにマウントされている場合（一般的な例は`C:\Users`）、サービスからマスクされ、処理されない可能性があります。

Citrix製品の互換性

Profile Managementは、以下のCitrix製品で使用できます。

- シトリックス バーチャルデスクトップ
- シトリックス バーチャルアプリ™
- シトリックス バーチャルアプリおよびデスクトップ™
- Citrix DaaS™ (旧 Citrix バーチャルアプリおよびデスクトップ サービス)

Profile ManagementとCitrix Virtual Apps and Desktopsの互換性マトリックスについては、「Citrix Profile Managementの追加ライフサイクル情報」を参照してください。

Long Term Service Release (LTSR) プログラムの詳細、Current Release (CR) との違い、その他のFAQについては、「Knowledge Centerの記事」を参照してください。

ダウンロード

Profile Managementをダウンロードするには

1. Citrixダウンロードページに移動します。
2. マイアカウントにログオンします。アカウントは、展開したCitrix製品のライセンス資格に関連付けられている必要があります。アカウントがライセンス資格に関連付けられていない場合は、Citrixカスタマーサービスにお問い合わせください。
3. で、製品を選択し、ダウンロードの種類として を選択します。
4. Profile Managementの最新バージョンをダウンロードします。

診断機能

Citrix Diagnostic Facilityを使用してトレースログをキャプチャする前に、監視するプロファイルを持つデバイス、仮想デスクトップ、またはCitrixサーバーで使用されているCitrix製品またはコンポーネントでそれが利用可能であることを確認してください。

クロスプラットフォーム設定

このリリースでクロスプラットフォーム設定機能を使用するには、Profile Management Serviceを実行しているすべてのコンピューターにMicrosoft Core XML Services (MSXML) 6.0 Service Pack 1以降をインストールします。このコンポーネントはMicrosoft .NET Framework 3.5の一部であり、定義ファイルを処理するために必要です。

この機能は、サポートされているオペレーティングシステムとアプリケーションのセットでのみ使用してください。詳細については、「クロスプラットフォーム設定でサポートされているオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。

既存のプロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行する

次のプロファイルタイプからCitrixユーザープロファイルへの移行がサポートされています。

- Windowsローミングプロファイル
- 次のいずれかのオペレーティングシステムに基づくローカルプロファイル:
  - ウィンドウズ 11
  - ウィンドウズ 10
  - ウィンドウズ 8
  - ウィンドウズ 7
  - ウィンドウズ ビスタ
  - ウィンドウズ XP
  - ウィンドウズ サーバー 2025
  - ウィンドウズ サーバー 2022
  - Windows サーバー 2019
  - Windows サーバー 2016
  - ウィンドウズ サーバー 2012 R2

  - Windows サーバー 2012
  - Windows サーバー 2008 R2
  - ウィンドウズ サーバー 2008
  - ウィンドウズ サーバー 2003
- User Profile Manager 2.0 で作成された Citrix ユーザープロファイル

以下のプロファイルの種類から Citrix ユーザープロファイルへの移行はサポートされていません。

- Microsoft の強制プロファイル。 ヒント: Profile Management のテンプレートプロファイル機能を使用すると、Microsoft の強制プロファイルを Citrix の強制プロファイルとして構成できます。Citrix の強制プロファイルはすべてのログオンに使用され、ユーザーの変更が保存されないことを除けば、通常の Citrix ユーザープロファイルとまったく同じように機能します。詳細については、 テンプレートまたは強制プロファイルを指定するを参照してください。
- Citrix の強制プロファイル。
- User Profile Manager のテクニカルプレビューリリースまたはベータリリースで作成された Citrix ユーザープロファイル。
- サードパーティプロファイル (sepagoPROFILEs を含む)。

32ビットの Citrix ユーザープロファイルから64ビットのプロファイルにアップグレードすることはできません。

クイックスタートガイド

この記事では、Profile Management のインストールと構成に関するクイックリファレンスを提供します。

前提条件

すべてのシステム要件が満たされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

Profile Management のインストール

Profile Management は、Virtual Delivery Agent (VDA) のインストールに含まれています。VDA の場合、Profile Management をインストールまたはアップグレードするには、VDA ソフトウェアをインストールまたはアップグレードするだけです。

Profile Management の展開は、.msi ファイルと、.adm または .admx ファイルのいずれかをインストールすることで構成されます。ファイルをインストールするには、「インストールとセットアップ」の手順に従ってください。

> **注：**
>
> 潜在的な競合を避けるため、Citrix Profile Management プロセス (`%ProgramFiles%\Citrix\User Profile Manager\UserProfileManager.exe`) をアンチウイルスソフトウェアの除外リストに追加してください。詳細については、「Citrix Antivirus Best Practices」を参照してください。

Profile Management を集中管理する場所を決定する

Profile Management を集中管理するには、次の3つの方法があります。以下のいずれかの方法を選択してください。

- Active Directory の GPO を使用する
- Citrix Studio のポリシーを使用する

- ワークスペース エンバイロメント マネジメント™ (WEM) を使用する

  Active Directory の GPO を使用して Profile Management を構成する手順については、Knowledge Center の記事「CTX222893」を参照してください。

  Citrix Studioのポリシーを使用してProfile Managementを構成する手順については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。

  WEMを使用してProfile Managementを構成する手順については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

Profile Managementを構成する

基本設定を構成する

1. ユーザーストアを作成する

   安全なユーザーストアの作成に関する推奨事項（ファイル共有の作成やフォルダー権限の設定を含む）は、Microsoftの記事Deploying Roaming User Profilesで入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作において高いレベルのセキュリティを確保します。

2. ユーザーストアへのパスを指定する
3. Profile Managementを有効にする
4. 基本設定を確認する

   基本設定を確認するには、次の手順を実行します。

   a. Citrix Studioで、**Enable logging**、**Logon**、**Logoff**の各ポリシーを**Enabled**に設定します。

   b. VDAにログオンし、`gpupdate /force`を管理者として実行します。

   c. VDAからログオフし、再度ログオンします。

   d. デフォルトのログファイルパス`C:\Windows\System32\Logfiles\UserProfileManager`に移動し、`pm.log`ファイルを開き、ログオンイベントを探して、次のメッセージが存在することを確認します。

   ```
   Starting logon processing…

   Finished logon processing successfully in [s]:
   ```

Profile Managementの構成を計画する

1. プロファイル管理の展開を計画する(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/plan.html)には、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。ユーザープロファイルの**自動構成**機能は、Citrix仮想アプリおよびデスクトップの展開におけるこの意思決定の一部を簡素化します。

   展開の推奨アプローチを決定するには、環境に関する次の基本的な質問に答えてください。

   - パイロットまたは本番
   - プロファイルの移行または作成
   - 永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有
   - モバイルまたは静的
   - 使用中のアプリケーション

2. それに応じてプロファイル管理を構成するには、次の手順を実行します。

   - ユーザープロファイルをストリームする。「ユーザープロファイルのストリーム」を参照してください。
   - アクティブライトバックを有効にする。「アクティブライトバックの構成」を参照してください。
   - 必須プロファイルを指定する。「テンプレートまたは必須プロファイルの指定」を参照してください。
   - 除外を構成する。「項目の含める/除外」を参照してください。
   - フォルダーリダイレクトを構成する。「フォルダーリダイレクトの構成」を参照してください。
   - アプリケーションを構成する。「ネイティブOutlook検索エクスペリエンスの有効化」を参照してください。

3. プロファイル管理の設定を確認します。

   a. この記事で前述したように、基本設定を確認します。

   b. ポリシー設定について`pm_configure.log`ファイルを確認します。次のメッセージが存在することを確認します。

   ```
   Configuration value read from Policy: LoggingEnabled=

   Configuration value read from INI file: CEIPEnabled=
   ```

```
Configuration value PSAlwaysCache set neither in policy nor in INI
file. Defaulting to:
```

トラブルシューティング

詳細については、トラブルシューティングを参照してください。

Profile Management の仕組み

Profile Management は、同じユーザーによる同時ドメインログオンがプロファイルに複雑さと一貫性の問題を引き起こす環境におけるユーザープロファイルの欠点を解決します。たとえば、ユーザーがローミングプロファイルに基づいて2つの異なる仮想リソースへのセッションを開始した場合、最後に終了したセッションのプロファイルが最初のセッションのプロファイルを上書きします。「最後の書き込みが優先される (last write wins)」として知られるこの問題は、ユーザーが最初のセッションで行ったパーソナライズ設定をすべて破棄します。

各リソースサイロに個別のプロファイルを使用することで、この問題に対処できます。ただし、このアプローチでは、管理オーバーヘッドとストレージ容量の要件が増加します。もう1つの欠点は、ユーザーがアクセスするリソースサイロによって異なる設定を経験することです。

Profile Management は、プロファイルを簡単かつ確実に最適化します。中間段階およびログオフ時に、レジストリの変更とプロファイル内のファイルおよびフォルダーは、各ユーザーのユーザー ストアに保存されます。一般的に、ファイルが存在する場合、以前のタイムスタンプを持つ場合は上書きされます。

ログオン時に、ユーザーのレジストリエントリとファイルはユーザー ストアからコピーされます。ローカルにキャッシュされたプロファイルが存在する場合、2つのセットは同期されます。その結果、すべてのアプリケーションとサイロのすべての設定がセッション中に利用可能になります。また、各サイロに個別のユーザープロファイルを維持する必要もなくなります。Citrix® ストリーミングユーザープロファイルは、ログオン時間をさらに向上させることができます。

Profile Management は、ネットワーク障害を経験するモバイルユーザー（オフラインプロファイル機能が構成されている場合）や、異なるオペレーティングシステムからリソースにアクセスするユーザー（クロスプラットフォーム設定機能が構成されている場合）のアプリケーション設定を保護するのに役立ちます。

注: Profile Management は、ローカルアカウントではなくドメインユーザーのログオンを処理します。

ネットワークベースのプロファイルが使用されている場合は、組織で Profile Management の導入を検討してください。強制プロファイルやローミングプロファイルなどの他のソリューションを実装し、Microsoft Windows の標準的な知識でそれらを維持することもできます。ただし、展開が

制限されている場合（たとえば、ユーザーのカスタマイズが制限されているため強制プロファイルが適切なコールセンターなど）を除き、Profile Management が推奨される場合があります。

Citrix は、ユーザー固有のデータがプロファイルとは別に保存されるように、フォルダーリダイレクトを使用することを推奨します。

ホームフォルダーとテンプレートのパスは、ネットワークの場所のみで構成する必要があります。

プロファイルについて

Windowsユーザープロファイルは、ユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。これらの設定は、管理構成に応じて、ユーザーがカスタマイズできます。カスタマイズできる設定の例は次のとおりです。

- 壁紙やスクリーンセーバーなどのデスクトップ設定
- ショートカットとスタートメニューの設定
- Internet Explorerのお気に入りおよびホームページ
- Microsoft Outlookの署名
- プリンタ

一部のユーザー設定とデータは、フォルダーリダイレクトによってリダイレクトできます。ただし、フォルダーリダイレクトが使用されていない場合、これらの設定はユーザープロファイル内に保存されます。

プロファイルの種類

Windowsには、いくつかの種類のプロファイルが含まれています。

プロファイルの種類	保存場所	構成場所	アプリケーション	変更を保存しますか？
ローカル	ローカルデバイス	ローカルデバイス	ローカルデバイスのみ	はい
ローミング	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	はい
強制 (強制ローミング)	ネットワーク	アクティブディレクトリ	アクセスされた任意のデバイス	いいえ

プロファイルの種類	保存場所	構成場所	アプリケーション	変更を保存しますか？
一時	該当なし	該当なし	ローカルデバイスのみ	いいえ

一時プロファイルは、特定のプロファイルタイプを割り当てられない場合にのみ割り当てられます。強制プロファイルを除き、通常、ユーザーごとに個別のプロファイルが存在します。強制プロファイルでは、ユーザーはカスタマイズを保存できません。

Remote Desktop Services ユーザーの場合、Remote Desktop Services セッションとローカルセッションで同じプロファイルがユーザーに割り当てられた場合に発生する可能性のある問題を回避するために、特定の移動プロファイルまたは強制プロファイルを割り当てることができます。

プロファイルのバージョン

Microsoft Windows ユーザープロファイルのバージョンは次のとおりです。

- バージョン 6 – Windows 11、Windows 10 バージョン 1607 以降、Windows Server 2016、Windows Server 2019、および Windows Server 2022 の各バージョン
- バージョン 5 – Windows 10 RTM
- バージョン 4 – Windows 8.1 および Windows Server 2012 R2
- バージョン 3 - Windows 8 および Windows Server 2012
- バージョン 2 - Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 の各バージョン
- バージョン 1 – Windows Vista および Windows Server 2008 以前のオペレーティングシステム

Microsoft のバージョン 1 プロファイルのフォルダー構造 (または名前空間) は、ほとんど互換性があります。たとえば、Windows XP と Windows Server 2003 のフォルダーはほぼ同じです。同様に、バージョン 2 プロファイルの構造もほとんど互換性があります。

ただし、バージョン 1 とそれ以降のプロファイルでは名前空間が異なります。このフォルダー構造は、ユーザーおよびアプリケーションデータ用に分離されたユーザー固有のフォルダーを提供するために、後のオペレーティングシステムで変更されました。バージョン 1 プロファイルは、ルートフォルダーである **Documents and Settings** にデータを保存します。バージョン 2 プロファイルは、より直感的な名前のフォルダーである **Users** にデータを保存します。たとえば、Windows Vista の **AppData\Local** のフォルダーの内容は、Windows XP の `Documents and Settings\<username>\Local Settings\Application Data` の内容と同じです。

バージョン 1 とそれ以降のプロファイルの違いの詳細については、Managing Roaming User Data Deployment Guide を参照してください。

プロファイルを割り当てる

Windowsでユーザーにプロファイルを割り当てるには、どのような方法があります?

この記事は、Citrix Profile Managementではなく、Microsoft Windowsにおけるプロファイルの割り当てについて説明しています。

ユーザーにプロファイルを割り当てるには、いくつかの方法があります。

- Active Directory (AD) のユーザーアカウントプロパティを使用する
- グループポリシー (GP) を使用する
- 上記の方法を使用して、Remote Desktop Services (旧称 Terminal Services) セッションに固有のプロファイルを割り当てる

これらの方法の一部は、特定のオペレーティングシステムでのみ利用可能です。

- **Remote Desktop Services**。Windows Server 2008 R2でRemote Desktop Servicesプロファイルを割り当てるには、GPO設定「Set path for Remote Desktop Services Roaming User Profile」を使用します。これは「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Component\\Remote Desktop Services\\Remote Desktop Session Host\\Profiles」にあります。以前のマルチセッションオペレーティングシステムでは、「Computer Configuration\\Administrative Templates\\Windows Components\\Terminal Services」にある「Set path for TS Roaming Profiles」設定を使用します。

  個々のユーザーのプロファイルを構成するには、ADのユーザーアカウントプロパティページで個々のアカウントに「Set path for TS Roaming Profiles」を設定することもできます。ただし、通常はGPでこの割り当てを行う方がはるかに優れています。

  ターミナルサーバーで「Use mandatory profiles」設定を使用して、強制プロファイルの使用を強制できます。

- **Windows 7、Windows 8、およびWindows Server**：ユーザーアカウントプロパティページを使用して、個々のアカウントに移動プロファイルを設定します。また、Windows Server 2008 ADおよびWindows 7デバイスの場合、GPO設定「Set roaming profile path for all users logging on to this computer」を使用できます。これは「Computer\\Administrative Templates\\System\\User Profiles」にあります。Windows 8またはWindows Server 2012コンピューターにログオンするユーザーの場合、Windows Server 2012のActive Directoryを使用してユーザーのホームフォルダーを設定することもできます。

複数の方法が使用されている場合、ドメインユーザーにプロファイルを配信するための優先順位はどうなります?

When Profile Management is used to manage a user's profile, it takes precedence over any other profile assignment method. A user whose profile data is not managed by Profile Management might be assigned a profile using multiple methods. The actual profile used is based on the following precedence:

1. Citrix user profile (that is, a profile created by Profile Management)
2. GPOによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
3. ユーザープロパティによって割り当てられたリモートデスクトップサービスプロファイル
4. GPOによって割り当てられた移動プロファイル (Windows Server 2008 AD および Windows 7 のみ)
5. ユーザープロパティによって割り当てられた移動プロファイル

プロファイル管理のアーキテクチャ

この記事では、ユーザーストアとクロスプラットフォーム設定ストアのフォルダー構造について説明します。ユーザーストアは、Citrix®ユーザープロファイルの中央の場所です。クロスプラットフォーム設定ストアは別の場所です。

プロファイル管理ストアに関する重要な情報

ユーザーストアとクロスプラットフォーム設定ストアの構造は、情報提供と、ローカライズおよびトラブルシューティングの支援を目的としてここに記載されています。プロファイルデータの問題を最小限に抑え、セキュリティを維持するために設計された、以下の重要な推奨事項に従ってください。

- いずれのストアの構造も変更しないでください。
- ストアのどの部分にもファイルやフォルダーを直接書き込まないでください。ユーザーストアは、この点でリダイレクトされたフォルダーとは異なります。
- ユーザーストアは、リダイレクトされたフォルダーとは別に保管してください。たとえば、`\\server1\profiles\%username%` と `\\server1\folders\%username%` のように、同じファイルサーバーまたはDFS名前空間の別々の共有に保管できます。この手法により、バージョン1とバージョン2のプロファイルを一緒にサポートし、両方のプロファイルバージョンで共有される単一のリダイレクトフォルダーセットをサポートすることがはるかに容易になります。
- ユーザーがユーザーストアを見る必要はないため、ドライブ文字を割り当てないでください。

- ユーザーストアにクォータを適用しないでください。プロファイルサイズを制限する場合は、クォータを使用するのではなく、項目を除外することを検討してください。

ユーザーストアのフォルダー構造

ユーザーストアは、デフォルトでユーザーのホームディレクトリにある **WINDOWS** フォルダーになります。これはパイロットインストールを簡素化しますが、運用システムでは、ユーザーストアをネットワーク共有または（最高の拡張性のために）DFS名前空間として構成してください。エンタープライズ対応のユーザーストアのサポートされる構成については、「High availability and disaster recovery with Profile Management」で説明されています。

安全なユーザーストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「Create a file share for roaming user profiles」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザーストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザープロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

注： Windows 7およびWindows 2008 R2クライアントデバイスでは、Windows 2012 R2ファイルサーバーで共有を作成する際に、**Encrypt data access**チェックボックスを選択しないでください。

ルートレベルのユーザーストアのフォルダー構造を次の表に示します。

フォルダ	注
	ユーザー ストア内のプロファイルのルート。
`\UPM_Profile`	このフォルダーには、プロファイルからのファイルとフォルダーが含まれています。
`\UPM_Drive_C`	このフォルダーには、プロファイル外から含まれる項目（この場合はドライブ C から）が含まれています。このフォルダーは、Profile Management 4.x 以前からのアップグレード時に存在します。Profile Management 5.0 では、プロファイル外の項目を管理することはサポートされていません。
`\Pending`	このフォルダーには、ロックファイル、保留中のファイル、およびストリーミング機能が使用されている場合はスタンプファイルが含まれています。

いくつかの例をこの表に示します。

フォルダー名の例	注
`\UPM_Profile\Data`	ユーザープロファイル内の **Data** フォルダーの同期されたコンテンツ。
`\UPM_Profile\AppData_upm_var`	ユーザープロファイル内の非ローカライズされた Application Data フォルダーの同期されたコンテンツ。このフォルダーは、Profile Management 4.x 以前からのアップグレード時に存在します。バージョン 1 プロファイル（Application Data はその一例です）の管理は、Profile Management 5.0 ではサポートされていません。

保留領域

ユーザー ストアには保留領域が含まれています。この領域は、ストリーミングされたユーザープロファイルとアクティブなライトバック機能によって使用される保持領域です。ユーザーが最後のセッションからログオフした後、すべてのファイルは保留領域からユーザー ストアに同期されます。新しいセッションでは、ユーザー ストアと保留領域の両方からファイルがダウンロードされるため、ユーザーは常に最新のプロファイルを体験できます。

サーバーが応答しなくなった場合、保留領域内のファイルをユーザー ストアに戻すタイムアウトを設定できます（ストリーミングされたユーザープロファイル機能の一部として構成されている場合）。

複数のプラットフォームを持つユーザー ストアのフォルダー構造

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合、複数のプラットフォームが関係します。各プラットフォームのプロファイルを分離するために、プラットフォーム固有のフォルダーを定義する必要があります。通常、これはユーザー ストアへのパスポリシーで Profile Management 変数を使用して行います（たとえば、パスに `%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を使用するなど）。

クロスプラットフォーム設定ストアは、クロスプラットフォーム設定機能が構成された後、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。ストアの名前と場所は、構成時に指定します（クロスプラットフォーム設定ストアへのパスポリシーを使用）。このストアには、オペレーティングシステム間でローミングするユーザー設定のサブセットが保持されます。

たとえば、Windows XP と Windows 7 の間で設定をローミングしたい場合があります。プラットフォーム固有のフォルダーには、Windows XP と Windows 7 に固有のユーザー設定が含まれています。クロスプラットフォーム設定ストアには、これらのオペレーティングシステム間でローミングする設定のサブセットが含まれています。ログオン時に、このサブセットはプラットフォーム固有のフォルダーにコピーされ、その一部として残ります。ログオフ時に、サブセットへの変更が抽出され、クロスプラットフォーム設定ストアに戻されます。

各プラットフォーム固有のフォルダーには、標準のサブフォルダー（例：UPM_Profile）が含まれています。詳細については、「ユーザー ストアのフォルダー構造」を参照してください。さらに、UPM_CPS_Metadata サブフォルダーも存在します。このシステムによって作成されたフォルダーには、オペレーティングシステム間で共有される一時設定が含まれています。

ユーザー ストアとADフォレスト

Citrixユーザープロファイルは、フォレストをまたいで管理することはできません。同じフォレスト内のドメインをまたいで管理することは可能で、同じログオン名を持つ複数のユーザーがフォレスト内の同じリソースにアクセスできます。これには、ユーザー ストアへのパスにある`%USERDOMAIN%`および`%USERNAME%`変数を使用してプロファイルを一意に識別することが含まれます。

ただし、この場合、ユーザー ストアへのパスを設定する際に、同じログオン名を区別するために変数を使用する必要があります。これを行うには、ドメイン名変数をパスに追加します。また、ユーザー ストアのアクセス許可を設定し、Active Directoryのユニバーサルグループを使用してProfile Managementの「処理済みグループ」設定を有効にする必要があります。

オペレーティングシステムのバージョンを設定するには、%ProfVer%などの手動で定義されたシステム変数を使用できます。または、Profile Management変数を使用して、オペレーティングシステム名、ビット数、またはプロファイルバージョンを設定することもできます。ADフォレスト内のユーザー ストアパスの例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアのローカライズ

次の表は、プロファイルデータがユーザー ストアとの間で移動されるときに、Profile Managementがフォルダーをローカライズおよび非ローカライズする方法の概要を示しています。フォルダー名のみがローカライズおよび非ローカライズされます。たとえば、スタートメニューのエントリやレジストリ設定は、Profile Managementによって正しい言語に翻訳されません。

この情報は、Profile Management 4.x以前からアップグレードする場合にのみ関連します。この場合、バージョン1のプロファイルが存在する可能性があります。Profile Management 5.0では、バージョン1のプロファイルの管理はサポートされていません。

バージョン1の英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー
アクセシビリティ	Accessibility_upm_var
アクセサリ	Accessories_upm_var
管理ツール	AdminTools_upm_var
アプリケーションデータ	AppData_upm_var
クッキー	Cookies_upm_var
デスクトップ	Desktop_upm_var
エンターテイメント	Entertainment_upm_var
お気に入り	Favorites_upm_var
履歴	History_upm_var
リンク	Links_upm_var
ローカル設定	LocalSettings_upm_var
マイドキュメント	MyDocuments_upm_var
マイミュージック	MyMusic_upm_var
マイピクチャ	MyPictures_upm_var
マイビデオ	MyVideos_upm_var
ネットフード	NetHood_upm_var
プリントフード	PrintHood_upm_var
プログラム	プログラム_upm_var
最近	Recent_upm_vars
スタートメニュー	StartMenu_upm_var
テンプレート	テンプレート_upm_var

バージョン1の英語フォルダー	ユーザー ストアフォルダー
インターネット一時ファイル	TemporaryInternetFiles_upm_var
SendTo	SendTo_upm_var
スタートアップ	スタートアップ_upm_var
システムツール	SystemTools_upm_var

プロファイルコンテナ (VHDX) アーキテクチャ

Profile Management は、ファイルベースとコンテナベースの2つのストレージモデルをサポートしています。以下のセクションでは、コンテナベース (VHDX) モデルについて説明します。

ファイルベースストアとコンテナベースストアの比較

ファイルベースモデルでは、プロファイルはログオン時にユーザーストアからローカルマシンにコピーされ、ログオフ時にコピーバックされます。プロファイルコンテナベースモデルでは、プロファイルはVHDX仮想ディスク内に存在し、ログオン時にアタッチされ、一括コピーなしでその場でアクセスされます。ユーザーのライブプロファイルフォルダーは、マウントされたディスクへのディレクトリジャンクションになります。

コンテナの種類とVHDXファイル

Profile Management は複数のコンテナタイプをサポートしています。各タイプは独自のポリシーによって制御されるため、すべての展開にそれらすべてが含まれるわけではありません。

コンテナ	VHDXファイル	有効化元
フルプロファイルコンテナ	ProfileContainer.vhdx (差分ディスク用の ProfileContainer_RW.vhdx および ProfileContainer_RO.vhdx を含む)	プロファイルコンテナポリシー
OneDriveコンテナ	OneDrive.vhdx (インデックス付きまたは差分の子 OneDrive_N.vhdx を含む)	OneDriveコンテナポリシー
アプリケーションアクセスコンテナ	共有親ディスク、ボリュームラベル AppRepoContainer	アプリケーションアクセスコンテナ機能

コンテナ	VHDXファイル	有効化元
ミラーフォルダーアクセラレーション	MirrorFolders.vhdx	フォルダーミラーリングアクセラレーション
共有ファイル（重複排除）ストア	SharedFile.vhdx、ボリュームラベル DeduplicationVolume	ファイルの重複排除

完全なプロファイルコンテナのボリュームラベルは、ユーザーのsAMAccountNameに`-Profile`サフィックスを加えたものです。OneDriveコンテナは`-OneDrive`を使用し、ミラーフォルダーコンテナは`-MirrFldrs`を使用するため、検査時に各ユーザーのディスクを識別できます。

コンテナファイルのユーザー保存パス

コンテナVHDXファイルは、ユーザー保存領域の以下のパスに保存されます。

```
Full profile container:  <user store>\ProfileContainer\<OS-short-
name>\ProfileContainer.vhdx

OneDrive container:      <user store>\OneDrive\OneDrive.vhdx

Mirror-folder:           <user store>\MirrorFolders\MirrorFolders.vhdx
```

`<OS-short-name>`は、ファイルベースのパスで使用される`!CTX_OSNAME!`変数に対応する短いOS識別子（例：Windows 2022またはWindows 11）です。これにより、異なるOSバージョンのプロファイルが分離されます。

プロファイルコンテナ内のフォルダーレイアウト

VHDXは、ドライブ文字なしでボリュームGUIDパスとしてアタッチされます。ユーザーごとのマウントパスは、レジストリの次の場所に記録されます。

```
HKLM\Software\Citrix\UserProfileManager\<SID>    value:
ProfileContainerVolumePath
```

ユーザーのローカルプロファイルディレクトリは、ディスク内の`Profiles`フォルダーにジャンクションされます。コンテナボリュームには、以下のフォルダーが含まれます。

フォルダ	目的
プロファイル	ローミングされたWindowsプロファイルツリー（NTUSER.DATとUsrClass.datがここにあります）。これはジャンクションターゲットであり、ファイルベースモードのUPM_Profileに相当します。
SyncIncludeProfiles	プロファイルインクルードルールのステージングルート
SyncIncludeFiles	ファイルインクルードルールのステージングルート
SyncIncludeDirs	フォルダーインクルードルールのステージングルート
ResetProfile	プロファイルリセット機能で使用されるマーカーファイル

ファイルベースの概念がコンテナモードにどのようにマッピングされるか

ファイルベースの概念	コンテナ相当
UPM_Profile（コピーされたプロファイルコンテンツ）	VHDX内のProfilesフォルダー。ジャンクションを介してアクセスされます。データのコピーは行われません。
保留中（ストリーミングまたはアクティブなライトバック保持領域）	読み取り専用および読み書きボリュームハンドルを持つ個別のPendingArea.vhdx。コンテナモードでは、共有上にPendingフォルダーは存在しません。
UPM_Drive_C (レガシーなストリーミングされたフルツリー)	使用されません。完全なプロファイルはProfileContainer.vhdxディスクであり、SyncIncludeステージングルートがドライブごとのフォルダーを置き換えます。
OSごとの変数 !CTX_OSNAME!! CTX_OSBITNESS!	OSごとのProfileContainerストアサブフォルダーとして保持されます

プロファイル管理のユースケース

Citrix Profile Managementは、アプリケーションがユーザーにどのように配信されるか、またはどこに格納されているかに関わらず、さまざまなシナリオでユーザーのプロファイルを管理するために実装できます。以下に、これらのシナリオの例を示します。

- 公開アプリケーションを使用するCitrix Virtual Apps™
- 公開デスクトップを使用するCitrix Virtual Apps
- 分離環境にストリーミングされたアプリケーションを使用するCitrix Virtual Apps
- Citrix Virtual Desktops™にストリーミングされたアプリケーション
- Citrix Virtual Desktopsにインストールされたアプリケーション
- 物理デスクトップにストリーミングされたアプリケーション
- 物理デスクトップにローカルにインストールされたアプリケーション

これらのシナリオのうち、Citrixは以下を最も一般的なユースケースと見なしています。

- **複数セッション** - ユーザーは複数のCitrix Virtual Appsサーバーサイロにアクセスするため、複数のセッションを開いています。ただし、サーバー上でのアプリケーション分離とストリーミングは、サーバーサイロの代替手段であることに注意してください。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **「最後の書き込みが優先される」とローミングプロファイルの整合性の問題** - ローミングプロファイルへの最後の書き込みにより、すべての設定が保存されます。そのため、複数のセッションが開いていて一時的な変更が行われた場合、ローミングプロファイルが正しいデータを保持しない可能性があります。さらに、ネットワーク、ストレージの問題、またはその他の問題の結果として、設定がプロファイルに正しく書き込まれない場合があります。このシナリオについては、このトピックで詳しく説明します。
- **大規模なプロファイルとログオン速度** - プロファイルの肥大化により、ユーザープロファイルが扱いにくくなり、ストレージと管理の問題が発生する可能性があります。通常、ログオン時にWindowsはユーザーのプロファイル全体をネットワーク経由でローカルユーザーデバイスにコピーします。肥大化したプロファイルの場合、この動作によりユーザーのログオン時間が長くなる可能性があります。

複数セッション

特に大規模な環境では、ユーザーが同じファーム内または複数のファーム内の異なるCitrix Virtual Appsサーバーに格納されている異なるアプリケーションにアクセスするために、複数のセッションを開く必要がある場合があります。可能な場合は、アプリケーション分離またはストリーミングを検討して、同じCitrix Virtual Appsサーバーにアプリケーションを格納し、ユーザーが単一の

サーバーからすべてのアプリケーションにアクセスできるようにし、それによって単一のセッションを使用できるようにします。ただし、事業部門が特定のサーバーを制御している場合や、アプリケーションをストリーミングできない場合は、これが不可能な場合があります。

ユーザーがさまざまなCitrix仮想アプリサーバーからアプリケーションにアクセスする必要があることが判明した場合、プロファイルへの影響を特定する必要があります。

次の図は、複数のセッションが存在する場合にアプリケーション設定が失われる可能性がある例を示しています。

図(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/upm-multiple-sessions-1.png)

例えば、MaryはApp A、App B、App Cにアクセスしたいと考えており、それぞれServer 1、Server 8、Server 12にルーティングされます。各アプリケーションにログオンすると、Maryのターミナルサービスローミングプロファイルが各サーバーにロードされ、各セッションのフォルダーがリダイレクトされます。MaryがServer1のApp Aにログオンしているときに、Setting1を変更し、そのセッションからログオフします。その後、Maryは他の2つのアプリケーションでの作業を完了し、ログオフします。

ログオフ時に、Server 1のセッション内でMaryが行った変更は上書きされます。これは、一時的な変更ではなく、最後に閉じられたセッション内の設定が保持されるためです。翌日、MaryがApp Aにログオンすると、彼女が行った変更が表示されないため、不満を感じます。

Profile Managementは、一般的にこの状況の発生を防ぐことができます。Profile Managementは、セッション中に変更された特定のプロファイル設定のみを書き戻し、その他の変更されていない設定はそのまま保持されます。したがって、発生する可能性のある唯一の競合は、Maryが別のセッション内でSetting1を変更した場合です。しかし、このシナリオでProfile Managementが使用されている場合、ユーザーは最新の変更が保持されることを期待するでしょうし、実際にそのようになります。

「最後の書き込みが優先される」問題とローミングプロファイルの整合性の問題

このシナリオは、このトピックの最初のシナリオと似ています。「最後の書き込みが優先される」問題はさまざまな形で現れる可能性があり、アクセスするデバイスの数が増えるにつれてユーザーの不満が高まる可能性があります。

ローミングプロファイルは、リダイレクトされたフォルダーを除き、すべてのプロファイルデータを保持するため、ユーザープロファイルは大きくなる可能性があります。これにより、プロファイルをダウンロードする必要があるためログオン時間が増加するだけでなく、特にネットワークの

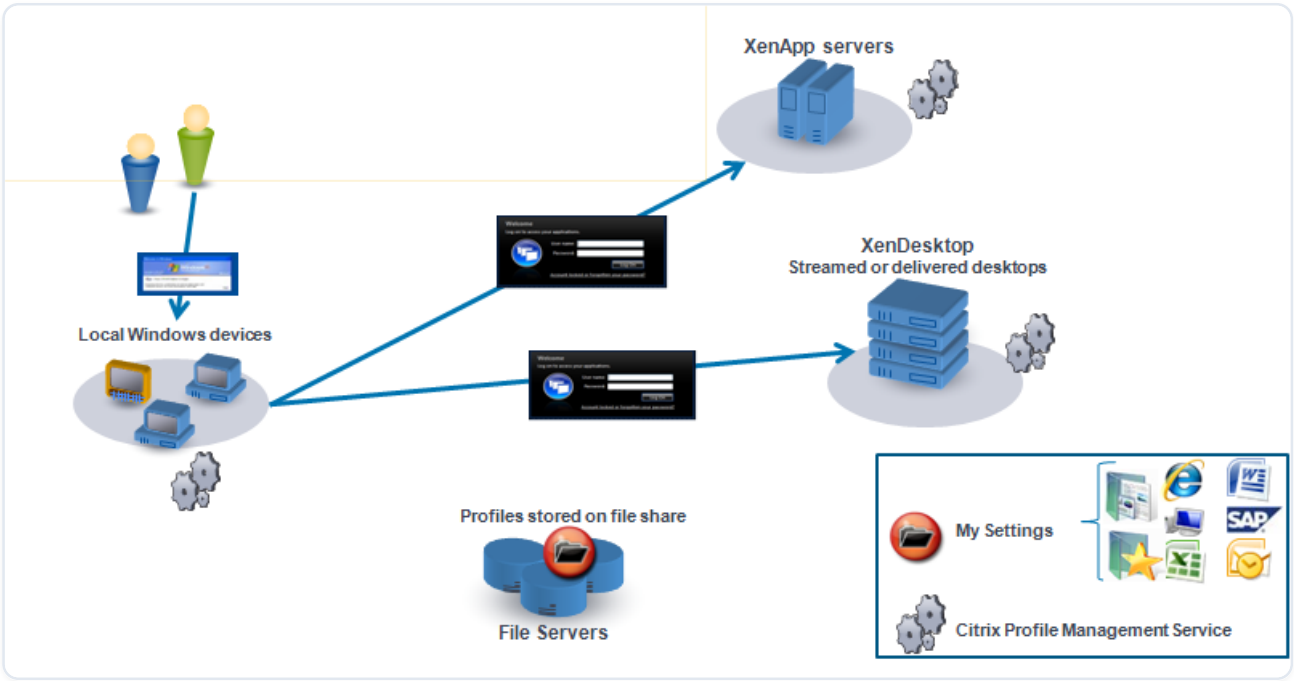
問題がある場合、ログオフの書き込みフェーズ中に整合性の問題が発生する可能性が高まります。

Profile Managementを使用すると、特定のデータをユーザープロファイルから除外できるため、ユーザープロファイルを最小限のサイズに保つことができます。プロファイルには差分のみが書き込まれるため、ログオフの書き込みフェーズはデータ量が少なく、高速になります。Profile Managementは、一時データにプロファイルを使用するものの、アプリケーション終了時にクリーンアップしないアプリケーションにとって有益です。

複数のリソースへのアクセス

ユーザーが複数のリソースにアクセスするにつれて、プロファイルはより複雑になります。ネットワークに保存されたプロファイルの場合、Microsoft Windowsはレジストリを使用してユーザー設定を保存します。プロファイルはログオン時にネットワークからローカルデバイスにコピーされ、ログオフ時にネットワークにコピーし直されます。ユーザーは日常的に複数のコンピューターにアクセスし、デスクトップとラップトップを切り替え、Citrix Virtual Apps and Desktops™またはCitrix DaaS（旧Citrix Virtual Apps and Desktops service）で作成された仮想リソースにアクセスします。

この図は、単一のCitrix®ユーザープロファイルが、複数のリソースにログオンするユーザーにどのように追従するかを示しています。



たとえば、ユーザーはローカルの物理デスクトップを持ち、そこからCitrix Virtual Appsで公開されたアプリケーションにアクセスします。また、Citrix Virtual Desktopsで作成された仮想デスクトップにもアクセスします。これらのリソース全体でユーザー設定が適切に構成されていない限り、設定は均一ではありません。

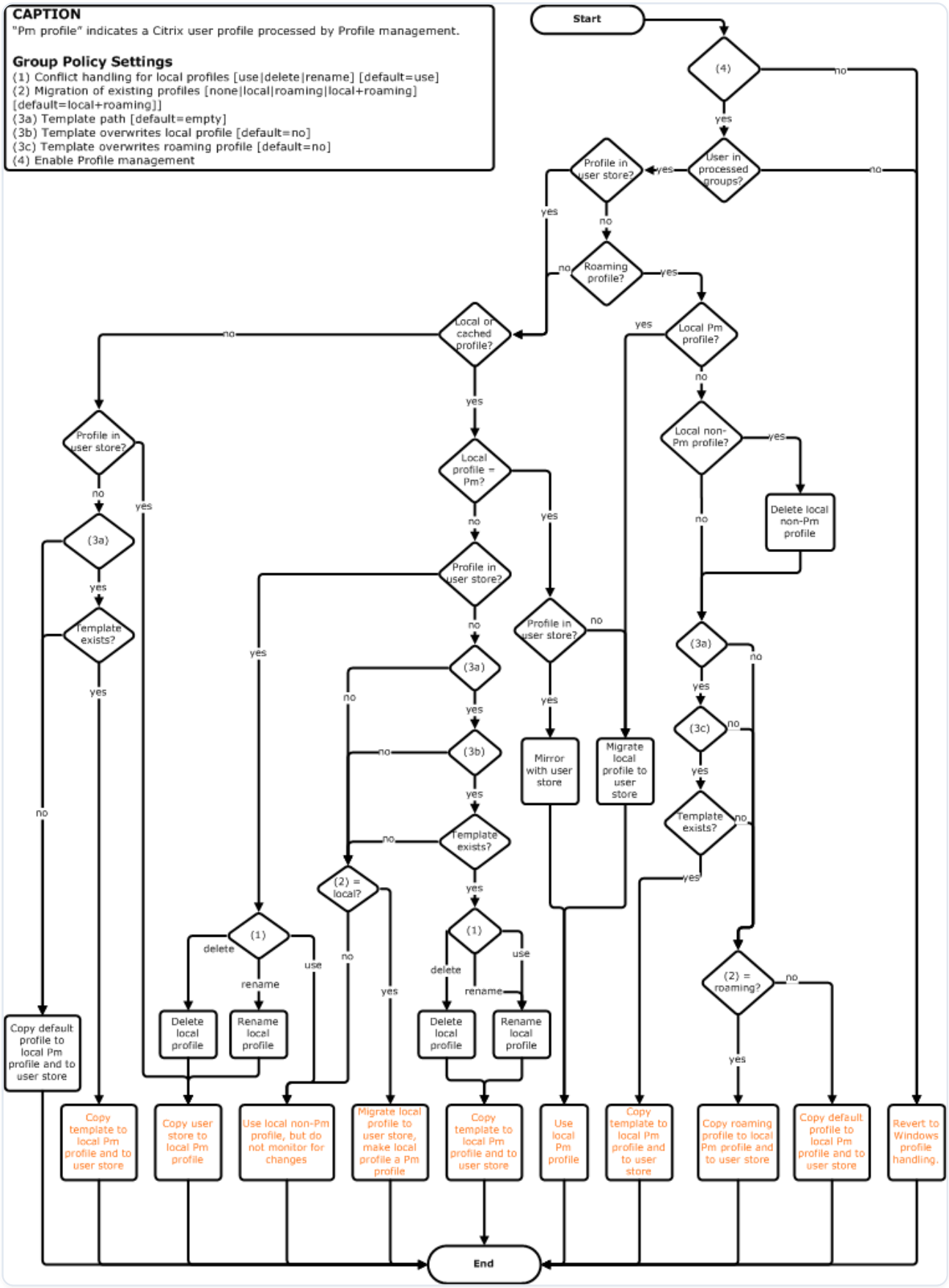
さらに、共有リソースにアクセスする場合、ローミングプロファイルの動作は「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。たとえば、管理者がローミングプロファイルを有効にし、ユーザーがローカルデスクトップの背景色を変更したとします。その後、ユーザーはCitrix仮想デスクトップにログオンし、ローカルデスクトップからログオフし、仮想デスクトップからログオフします。ローカルデスクトップと仮想デスクトップの両方が同時に開いており、最後のログオフは仮想デスクトップからでした。したがって、仮想デスクトップセッションからの設定がプロファイルに最後に書き込まれ、背景色の変更は失われます。

ログオン図

この図は、ユーザープロファイルの移行戦略の詳細を検討するのに役立ちます。また、パフォーマンスの以下の側面についても説明します。

- プロファイルを移行すると、2つのネットワークコピーが発生し、ログオンプロセスが遅くなる可能性があります。たとえば、**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルおよびユーザーストアにコピー**する操作には、次の2つのコピーが含まれます。1つはローミングプロファイルストアからローカルコンピューターへの完全なプロファイルコピー、もう1つはローカルコンピューターからユーザーストアへの完全なプロファイルコピーです。
- キャッシュされたプロファイルが使用される場合、ネットワークを介したプロファイルデータのコピーは行われません。

図を下から上に読みます。下部のボックスで目的の操作を確認し（例：**デフォルトプロファイルをローカルPmプロファイルおよびユーザーストアにコピー**）、パスをたどって必要な移行設定を特定します。

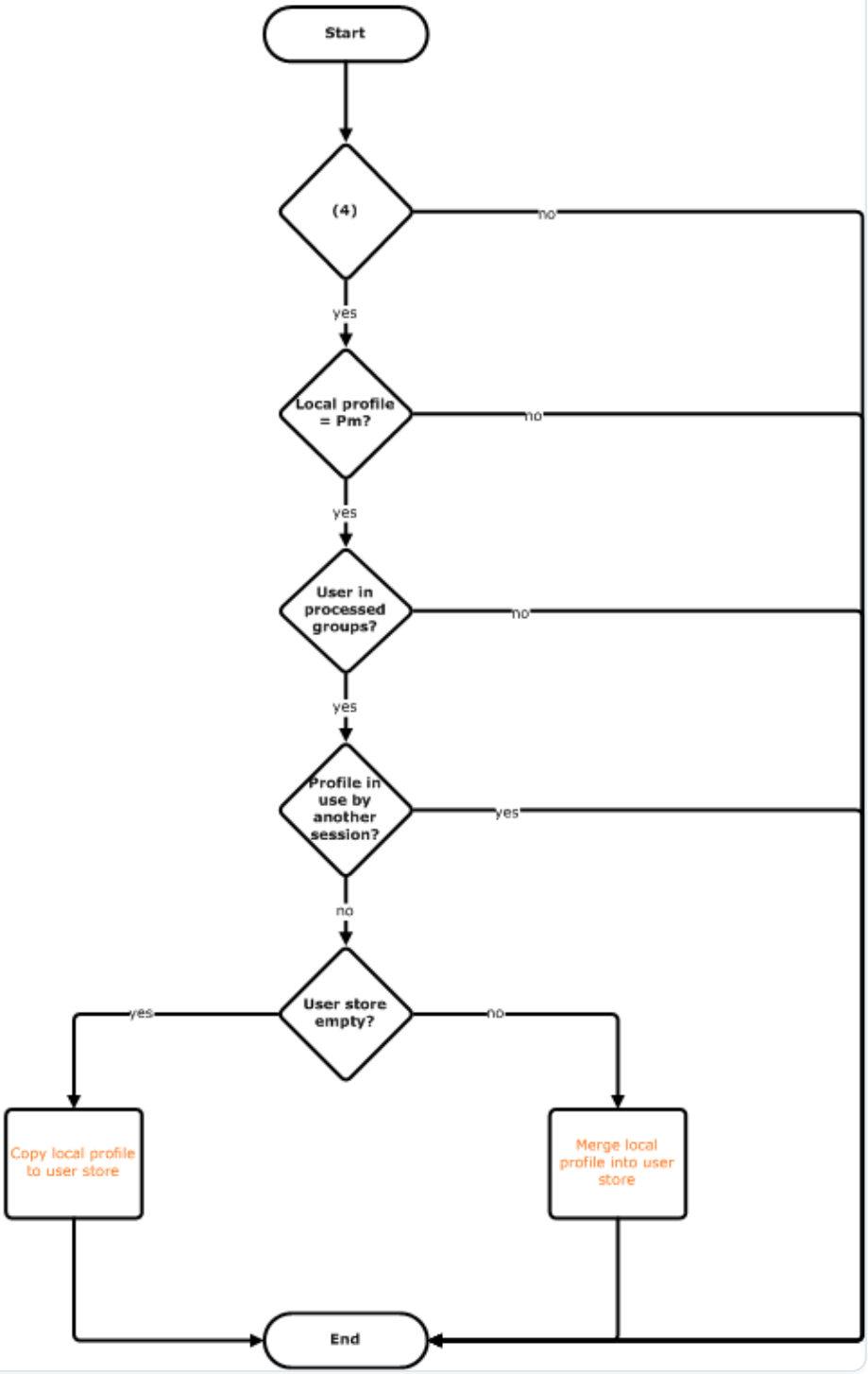

CAPTION
"Pm profile" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.
Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management
Start
(4)
User in processed groups?
Profile in user store?
Roaming profile?
Local or cached profile?
Local Pm profile?
Local non-Pm profile?
Delete local non-Pm profile
Local profile = Pm?
Profile in user store?
(3a)
Template exists?
(3b)
(2) = local?
(1)
Delete local profile
Rename local profile
Mirror with user store
Migrate local profile to user store
(3c)
(2) = roaming?
Copy default profile to local Pm profile and to user store
Copy template to local Pm profile and to user store
Copy user store to local Pm profile
Use local non-Pm profile, but do not monitor for changes
Migrate local profile to user store, make local profile a Pm profile
Use local Pm profile
Copy roaming profile to local Pm profile and to user store
Revert to Windows profile handling.
End

ログオフ図

この図は、ログオフ時にプロファイルデータをコピーまたはマージするために使用されるロジックを説明しています。

CAPTION
"Pm" indicates a Citrix user profile processed by Profile management.

Group Policy Settings
(1) Conflict handling for local profiles [use|delete|rename] [default=use]
(2) Migration of existing profiles [none|local|roaming|local+roaming] [default=local+roaming]]
(3a) Template path [default=empty]
(3b) Template overwrites local profile [default=no]
(3c) Template overwrites roaming profile [default=no]
(4) Enable Profile management



デプロイの計画

Profile Managementの展開を計画するには、環境とユーザーに適した構成を形成する一連のポリシー設定を決定します。自動構成機能は、Citrix仮想デスクトップの展開におけるこの意思決定の一部を簡素化します。任意の展開でこの重要なタスクを実行するためのガイドとして、「構成の決定」(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/plan/configuration.html)を参照してください。

構成を決定し、それをレビューおよびテストした後、一般的な展開は次の要素で構成されます。

1. ユーザーストアの作成
2. Profile Managementのインストール
3. Profile Managementの有効化

.iniファイルを使用したパイロットスタディの計画

以下の情報は、パイロットスタディまたは評価中にProfile Managementの.iniファイルを使用する際に役立つことを目的としています。

重要: 評価目的で.iniファイル (UPMPolicyDefaults_all.ini) を使用する予定がある場合は、実稼働環境でグループポリシー (GP) の使用に切り替える前に、そのファイルの名前を変更してください。たとえば、ファイルの名前をUPMPolicyDefaults_all_old.iniに変更します。ファイルの名前を変更することで、実稼働設定のみが適用され、評価中に指定した設定が使用されないことを確認できます。

ファイルの名前が変更されていない場合、Profile Managementはグループポリシーで構成されていない設定を調べ、見つかった非デフォルト設定を採用します。したがって、不要な設定が導入されるリスクを排除するには、実稼働環境で使用したいすべての設定を.iniファイルではなくグループポリシーを使用して構成してください。

.iniファイルには.admファイルおよび.admxファイルと同じポリシーが含まれていますが、ポリシーの名前は異なります。GPの名前を熟知しており、.iniファイルを使用したパイロットスタディを計画している場合は、「Profile Managementポリシー」(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/policies/settings.html)の表を使用して名前を比較してください。

.iniファイルの展開の詳細については、「Profile Managementのアップグレード」(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/upgrade-and-migrate/upgrade.html)および「ローカルGPOを使用した

Profile Managementのテスト」(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/install-and-set-up/test-with-local-gpo.html)を参照してください。

ファイルベースプロファイルとコンテナベースプロファイルの選択

Citrix Profile Management (CPM) は2種類のプロファイルタイプをサポートしています。**ファイルベース**と**コンテナベース**です。適切なタイプを選択することで、ユーザーエクスペリエンスの向上、ストレージ要件の削減、プロファイル管理の簡素化に役立ちます。また、両方のタイプを組み合わせて、さまざまなユーザーケースをサポートすることもできます。

2種類のプロファイルタイプを理解する

どのプロファイルタイプを使用するかを決定する前に、それぞれの仕組みと、どのような点が異なる環境に適しているかを理解することが重要です。

- ファイルベースプロファイル

  ファイルベースプロファイルは、ユーザーデータと設定をプロファイルストア上の個別のファイルとフォルダーに保存します。ログオン時に、CPMはプロファイルをローカルセッションにコピーし（プロファイルストリーミングが有効になっていない限り）、ログオフ時にストア内のプロファイルを更新します。

  この軽量で柔軟な方法は、ストレージ容量やネットワークパフォーマンスが懸念される場合に最適です。

- コンテナベースプロファイル

  コンテナベースプロファイルは、ユーザープロファイルをプロファイルストア上の仮想ハードディスク (VHDX) ファイルに保存します。コンテナはログオン時にマウントされ、セッション中は更新がプロファイルストアに直接書き込まれます。

  このアプローチは、プロファイルの包含および除外ロジックを簡素化し、OneDriveやUWPアプリなどの最新のアプリを扱う場合にしばしば推奨されます。

ファイルベースプロファイルを使用する場合

次の場合にファイルベースプロファイルを選択します。

- **ストレージ容量が限られている場合。** ファイルベースプロファイルは、コンテナベースプロファイルよりもはるかに少ないストレージ容量を使用します。デフォルトでは、CPMコンテナはユーザーあたり50 GBのストレージ容量を持っています。

- **プロファイルが小さいかシンプルである場合。** ユーザーが通常1 GB未満のプロファイルデータしか持たず、大きなアプリケーションキャッシュやパーソナライゼーションを必要としない場合、ファイルベースプロファイルはうまく機能します。
- **ネットワークへの依存度を減らしたい場合。** ファイルベースプロファイルは、ログオン時にデータをVDAにコピーするため（プロファイルストリーミングが無効になっている場合）、セッション中のネットワーク中断による影響はありません。また、トラブルシューティングにネットワークチームの助けが必要な場合に遅延を避けるために、ネットワークへの依存度を減らしたいと考えるかもしれません。
- **既存のセットアップに満足している場合。** ファイルベースのプロファイルをすでに正常に使用している場合は、新しいアプリケーション要件が発生しない限り、切り替える必要はないかもしれません。

コンテナベースのプロファイルを使用する場合

次の場合にコンテナベースのプロファイルを選択します。

- **OneDrive同期アプリをサポートする必要がある場合。** ファイルベースのプロファイルはOneDrive同期をサポートしていません。コンテナベースのプロファイルを使用するか、プロファイルのこの部分に対してOneDriveコンテナを有効にし、残りのプロファイルはファイルベースのままにします。

  > **注：**
  >
  > Microsoftは、同じコンテナを使用した複数の同時OneDrive同期セッションをサポートしていません。詳細については、このMicrosoftの記事を参照してください。同期アプリで複数の同時セッションが必要な場合は、セッションごとに個別のコンテナを使用するか、セカンダリセッションでブラウザを介してOneDriveにアクセスしてください。

- **プロファイル構成を簡素化したい場合。** コンテナベースのプロファイルは、詳細な包含ルールや除外ルールを必要としません。すべてのプロファイルデータはVHDXファイルに保存されるため、管理作業は軽減されますが、ストレージ要件は増加します。
- **堅牢なストレージとネットワークがある場合。** コンテナベースのプロファイルは、リアルタイムの読み書きのためにVDAとプロファイルストア間の安定した接続に依存します。

ハイブリッドアプローチを使用する場合

ファイルベースのプロファイルとコンテナベースの機能を組み合わせて、パフォーマンスとストレージの両方を最適化できます。このアプローチは、プロファイルの一部のみがコンテナベースのプロファイルを必要とする場合に役立ちます。

Citrix Profile Managementは、以下のコンテナ機能をサポートしています。

- Outlookの検索インデックスローミング：Microsoft Outlook `.OST`ファイルと検索インデックスを別のVHDXに保存します。
- OneDriveコンテナ：OneDriveデータを別のVHDXファイルに保存し、OneDrive同期をサポートします。
- UWPアプリのロード高速化：Universal Windows Platform（UWP）アプリをVHDXに保存し、ロード時間を短縮します。
- フォルダーミラーリングの高速化：ミラーリングされたフォルダー（ブラウザのCookieなど）をVHDXに保存し、データの整合性を維持します。

> **注記:**
>
> フォルダミラーリングは、データ整合性を維持するためにプロファイルサブフォルダ全体を単一の単位として同期させる必要がある場合に使用されます。たとえば、フォルダ内のファイルが互いを参照している場合などです。一般的な使用例はブラウザのCookieで、インデックスファイルが同じフォルダ内の個々のCookieファイルを指しています。

概要

最適なプロファイルタイプは一つではありません。ユーザーペルソナ、アプリケーション要件、およびITリソースに最も適したものを選択してください。決定に際してサポートが必要な場合は、Citrixチームにご相談ください。

構成を決定する

Profile Management を構成するには、環境に関する以下の基本的な質問に答えることをお勧めします。

1. パイロットまたは本番
2. プロファイルの移行または作成
3. 永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有

4. モバイルまたは静的
5. 使用中のアプリケーション

回答に基づいて、展開環境の Profile Management を構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにすることができます。

次のステップ

- インストールとセットアップ
- トラブルシューティング

ヒント

Profile Management の設定を確認および展開する際は、以下のヒントを参照してください。

UPMConfigCheck ツールを使用して設定を確認する

UPMConfigCheck は、稼働中の Profile Management 展開環境を調査し、最適に構成されているかどうかを判断する PowerShell スクリプトです。詳細については、Knowledge Center の記事 CTX132805 を参照してください。

コンピューターをOUにグループ化する

複数のコンピューターセットに対して質問への回答が同じである場合は、それらをActive Directory 組織単位 (OU) にグループ化することを検討してください。また、そのOUにリンクされた単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用してProfile Managementを構成することも検討してください。

これらの質問への回答が異なる場合は、コンピューターを個別のOUにグループ化することを検討してください。

あるいは、ドメインがWMIフィルタリングをサポートしている場合は、すべてのコンピューターを同じOUにグループ化し、WMIフィルタリングを使用して適切に構成されたGPOを選択できます。

パイロットまたは実稼働

パイロット展開の目的は、ソリューションを迅速かつ確実に実証できるようにすることです。重要な目標は、パイロット内のコンポーネントの数を減らすことかもしれません。Profile Managementの場合、2つのコンポーネントはユーザー ストアと、プロファイルが処理されるユーザーの選択です。

ポリシー: ユーザー ストアへのパス

Citrix® ユーザー プロファイル用のユーザー ストアのセットアップは、Windows ローミング プロファイル用のプロファイル ストアのセットアップとまったく同じです。

パイロット展開の場合、これらの考慮事項を無視できることがよくあります。「ユーザー ストアへのパス」ポリシーのデフォルト値は、ユーザーのホーム ディレクトリにある**Windows**フォルダーです。これは、1つのオペレーティングシステム（したがって1つのプロファイルバージョン）のみが展開されている限り、シングルプラットフォームのパイロットでうまく機能します。プロファイルバージョンについては、「プロファイルについて」を参照してください。このオプションは、ユーザーのホーム ディレクトリに十分なストレージがあり、ファイルサーバーのクォータが適用されていないことを前提としています。Citrixは、プロファイルでのファイルサーバーのクォータの使用を推奨していません。その理由は、「複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する」に記載されています。

実稼働展開の場合、セキュリティ、負荷分散、高可用性、および災害復旧を慎重に検討する必要があります。ユーザー ストアの作成と構成については、以下のトピックの推奨事項に従ってください。

- Profile Management アーキテクチャ
- ユーザー ストアを作成する
- ユーザー ストアへのパスを指定する
- Profile Management を使用した高可用性と災害復旧

ポリシー: 処理対象グループ、除外グループ

実稼働展開の複雑さにより、Profile Management の展開をすべてのユーザーに同時にリリースするのではなく、段階的に行う必要がある場合があります。展開が進行中である間、ユーザーは異なるリソースに接続すると異なるプロファイルエクスペリエンスを受け取ると伝えることができます。

パフォーマンス上の理由から、Profile Management は組み込みのライセンスチェックではなく、EULA によってライセンス供与されます。ライセンス割り当ては、ユーザーをActive Directory (AD) ユーザーグループに割り当てるか、適切な既存のADグループを使用することで管理することを選択できます。

パイロット展開では、Profile Management の使用は、単一の代表的なADグループを使用できない、おそらく複数の部門からの小規模なユーザーグループへの招待によって制限されます。この場合、「処理対象グループ」および「除外グループ」ポリシーは未構成のままにします。Profile Management はグループメンバーシップのチェックを行わず、すべてのユーザーが処理されます。

これらのポリシーの詳細については、「どのグループのプロファイルを処理するかを定義する」を参照してください。

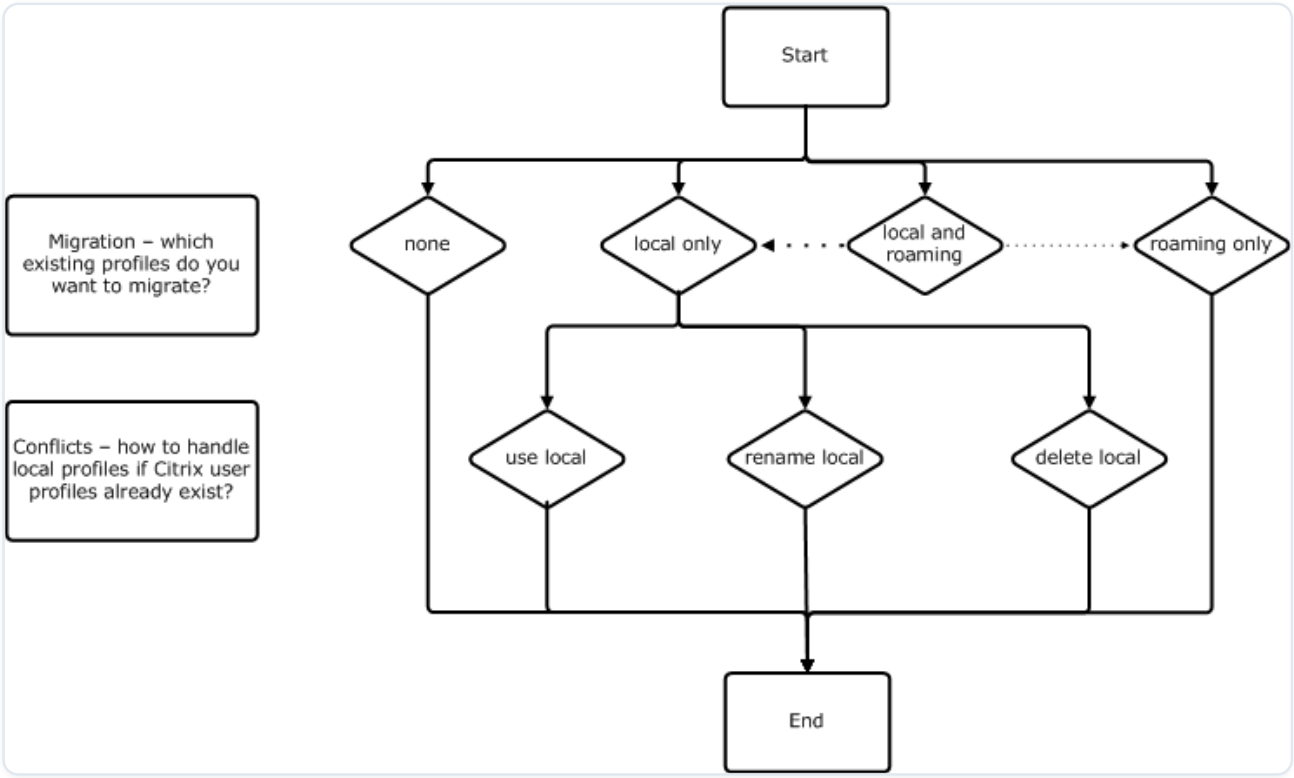
重要: いずれの場合も、Profile Managementによって処理されるユーザー数が、関連するEULAによって設定された制限を超えないことを必ず保証してください。

プロファイルを移行または作成する

Profile Managementの展開を利用して、組織のプロファイルを更新できます。最初は小規模でカスタマイズされたプロファイルを使用し、それへの追加を厳密に制御します。あるいは、既存のプロファイルをProfile Management環境に移行し、長年にわたって蓄積された個人設定を保持する必要があるかもしれません。

既存のプロファイルを移行することを決定した場合は、「既存のプロファイルの移行」および「ローカルプロファイルの競合処理」ポリシーを構成します。

次の図は、この質問に対する回答に基づいてこれらのポリシーを構成する方法を示しています。



ポリシー：テンプレートプロファイル

まったく新しいプロファイルセットを作成する場合は、「テンプレートプロファイル」ポリシーを使用して、この目的のためのテンプレートを作成することを検討してください。詳細については、「テンプレートまたは必須プロファイルを指定する」を参照してください。テンプレートを

作成しない場合、Profile ManagementはユーザーにデフォルトのWindowsプロファイルを提供します。テンプレートが不要な場合は、このポリシーを無効のままにします。

テンプレートプロファイルポリシーは、**ユーザーストアへのパス**ポリシーに似ています。このポリシーは、Profile Managementによって管理されているコンピューターにユーザーが初めてログオンしたときに、ユーザープロファイルを作成するための基礎として使用できるプロファイルの場所を指定します。

オプションで、すべてのログオンに対してテンプレートをCitrix®必須プロファイルとして使用できます。計画の一環として、ユーザーがアクセスするアプリケーションの特定などのタスクを実行する必要があります。それに応じて、プロファイル内のレジストリの状態、ショートカット、デスクトップ設定を構成する必要があります。プロファイルフォルダーのアクセス許可を設定し、ユーザーのログオンスクリプトを変更する必要があります。

> **注：**
>
> Citrix Virtual Desktops™展開で必須プロファイルを選択する場合は、Profile Managementの.admまたは.admxファイルではなく、Citrix Studioを使用することをお勧めします。

永続的かプロビジョニング済みか、専用か共有か

プロファイルを作成するマシンの種類は、構成の決定に影響します。主な要因は、マシンが永続的かプロビジョニング済みか、および複数のユーザーで共有されるか、1人のユーザー専用であるかです。

永続システムには何らかのローカルストレージがあり、その内容はシステムがオフになっても永続することが期待されます。永続システムは、SANなどのストレージテクノロジーを使用してローカルディスクを模倣する場合があります。対照的に、プロビジョニング済みシステムは、ベースディスクと何らかのIDディスクから「オンザフライ」で作成されます。ローカルストレージは通常、RAMディスクまたはネットワークディスクによって模倣され、後者は高速リンクを備えたSANによって提供されることがよくあります。プロビジョニングテクノロジーは通常、Provisioning ServicesまたはMachine Creation Services™（あるいはサードパーティ製の同等品）です。プロビジョニング済みシステムが永続的なローカルストレージを持つ場合もあり、これはPersonal vDisksによって提供されることがあります。これらは永続的として分類されます。

これら2つの要因を合わせると、次のマシンタイプが定義されます。

- **永続的かつ専用** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix virtual desktops™内）で作成された静的割り当てとPersonal vDiskを持つシングルセッションOSマシン、および物理ワークステーションとラップトップで作成されたPersonal vDiskを持つデスクトップがあります。
- **永続的かつ共有** - 例としては、Machine Creation Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたマルチセッションOSマシン、およびCitrix virtual apps™サーバーがあります。
- **プロビジョニング済みかつ専用** - 例としては、Provisioning Services（Citrix virtual desktops内）で作成された、静的割り当てを持つがPersonal vDiskを持たないシングルセッションOSマシンがあります。
- **プロビジョニング済みかつ共有** - 例としては、Provisioning Services（Citrix virtual desktops内）で作成されたランダム割り当てを持つマルチセッションOSマシン、およびCitrix virtual appsサーバーで作成されたPersonal vDiskを持たないデスクトップがあります。

以下のProfile Managementポリシー設定は、異なるマシンタイプに対する推奨ガイドラインです。これらは通常うまく機能しますが、展開の要件に応じて逸脱することもできます。

注: Citrix virtual desktops展開では、「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」、「プロファイルストリーミング」、および「常にキャッシュする」は自動構成機能によって適用されます。

ポリシー	永続的かつ専用	永続的かつ共有	プロビジョニング済みかつ専用	プロビジョニング済みかつ共有
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除	無効	有効	無効 (注 5)	有効
プロファイルストリーミング	無効	有効	有効	有効
常にキャッシュ	有効 (注 1)	無効 (注 2)	無効 (注 6)	無効
アクティブライトバック	無効	無効 (注 3)	有効	有効
ローカル管理者ログオンの処理	有効	無効 (注 4)	有効	有効 (注 7)

注

1. このマシンタイプではプロファイルストリーミングが無効になっているため、「常にキャッシュ」設定は常に無視されます。
2. 「常にキャッシュ」を無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限(MB単位) を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルに読み込まれるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
3. Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルに変更を保存する場合を除き、「アクティブライトバック」を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
4. ホスト型共有デスクトップの場合を除き、「ローカル管理者ログオンの処理」を無効にします。この場合は、このポリシーを有効にします。
5. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除しないようにします。これにより、ローカルにキャッシュされたプロファイルが保持されます。マシンは個々のユーザーに割り当てられているため、プロファイルがキャッシュされているとログオンが高速になります。
6. 常にキャッシュを無効にします。ただし、このポリシーを有効にし、ファイルサイズ制限（MB単位）を定義することで、ログオン後できるだけ早く大きなファイルがプロファイルに読み込まれるようにすることができます。このサイズ以上のファイルは、できるだけ早くローカルにキャッシュされます。
7. ローカル管理者のログオン処理を有効にします。ただし、Citrix Virtual Appsサーバー間をローミングするユーザーのプロファイルは除きます。この場合、このポリシーを無効にします。

モバイルまたは静的

お使いのマシンはActive Directoryドメインに永続的に接続されていますか？ラップトップや同様のモバイルデバイスは、おそらく接続されていません。同様に、一部の展開では、永続的なローカルストレージを持つ固定マシンがあるものの、それらのマシンが長期間データセンターから分離されている場合があります。たとえば、遠隔地の支社が衛星通信で本社と接続されている場合などです。別の例としては、災害復旧があり、インフラが復旧中で、電力や通信が断続的である場合です。

通常、Profile Managementは、ユーザーがネットワークが利用できない間にログオフしない限り、短時間のネットワーク障害（24時間未満）に耐性があります。このような状況では、ログオンプロセスを大幅に高速化するいくつかの方法でProfile Managementを最適化できます。これが静的ケースです。

長期間の切断が予想される場合、または企業ネットワークから切断されている間にユーザーがコンピューターをログオフまたはシャットダウンできる必要がある場合、Profile Managementを最適化することはできません。ユーザーが再接続すると、ユーザーストアからプロファイル全体がフェッチされるため、ログオンが遅くなります。これがモバイルケースです。

モバイルケース

長期間の切断（およびActive Directoryドメインへの接続が断続的な期間のみ）の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを有効にします。このアプローチにより、サポートされていない最適化を制御する以下のポリシーの効果が自動的に無効になります。これらのポリシーはグループポリシーでは無効になっていないように見えるかもしれませんが、効果はありません。

- プロファイルストリーミング
- 常にキャッシュ

注: もし オフラインプロファイルサポートが有効になっている場合、 **アクティブライトバック**は尊重されますが、コンピューターがネットワークに接続されている場合にのみ機能します。

静的ケース

ポリシー: オフラインプロファイルサポート

短期間の切断の場合、オフラインプロファイルサポートポリシーを無効にします。これにより、以下のいずれかのポリシーを設定できます。

ポリシー: ストリームユーザープロファイルグループ

ストリームユーザープロファイルグループポリシーを「未構成」に設定します。このポリシーを有効にしても、プロファイルストリーミングも有効になっている場合にのみ効果があります。ストリームユーザープロファイルグループは、ストリームプロファイルの利用を特定のActive Directoryユーザーグループに制限するために使用されます。これは、Profile Managementの以前のバージョンから移行する際の一部のシナリオで役立ちます。このポリシーの設定方法については、「ユーザープロファイルのストリーム」を参照してください。

このポリシーに適用される高可用性と災害復旧に関する情報については、「シナリオ4 - 移動ユーザー」を参照してください。

ポリシー: 保留中のエリアロックファイルのタイムアウト

「**保留中のエリアロックファイルのタイムアウト**」ポリシーを「未構成」に設定すると、デフォルトの操作が適用されます。これは、保留中のエリアロックの1日間のタイムアウトです。これが唯一サポートされている値であるため、このポリシーを調整しないでください。

ポリシー: アクティブなライトバック

このポリシーの詳細については、永続的またはプロビジョニング済み、および専用または共有を参照してください。

使用中のアプリケーション

展開環境で使用されているアプリケーションは、Profile Management の構成方法に影響します。ただし、他の構成決定とは異なり、単純な「はい」または「いいえ」で答えられる推奨事項はありません。決定は、アプリケーションが永続的なカスタマイズをどこに保存するか（レジストリまたはファイルシステム）によって異なります。

アプリケーションが設定とユーザーのカスタマイズをどこに保存するかを特定するために、ユーザーのアプリケーションを徹底的に分析し、理解してください。アプリケーションのバイナリを監視するには、Process Monitor などのツールを使用します。Google も別の情報源です。Process Monitor の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>` を参照してください。

アプリケーションの動作を理解したら、インクルージョンを使用して処理するファイルと設定を定義します。除外を使用して、処理しないものを定義します。デフォルトでは、`AppData\Local` 内のファイルを除き、プロファイル内のすべてが処理されます。展開環境に次のいずれかのアプリケーションが含まれている場合は、`AppData\Local` のサブフォルダーを明示的に含める必要がある場合があります。

- DropBox
- グーグル クローム
- Visual Studio のワンクリック発行で作成されたアプリケーション

シンプルなアプリケーション

シンプルなアプリケーションとは、適切に動作するアプリケーションのことです。これらは、パーソナライズ設定を HKCU レジストリハイブに、パーソナライズファイルをプロファイル内に保存します。シンプルなアプリケーションには基本的な同期が必要であり、そのためには次の方法で項目を含めたり除外したりする必要があります。

- これらのポリシーにおける相対パス（%USERPROFILE% に対する相対パス）：
  - 同期するディレクトリ
  - 同期するファイル
  - 除外リスト - ディレクトリ
  - 除外リスト - ファイル

- ミラーリングするフォルダー

注： %USERPROFILE% は Profile Management によって暗黙的に指定されます。これらのポリシーに明示的に追加しないでください。

- これらのポリシーにおけるレジストリ相対パス（HKCU ルートに対する相対パス）：
  - 除外リスト
  - 包含リスト

項目の含め方と除外方法については、「項目の含め方と除外方法」を参照してください。

レガシーアプリケーション

レガシーアプリケーションは適切に動作せず、パーソナライズファイルをプロファイル外のカスタムフォルダーに保存します。推奨される解決策は、レガシーアプリケーションで Profile Management を使用するのではなく、Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用することです。

複雑なアプリケーション

複雑なアプリケーションには特別な処理が必要です。アプリケーションのファイルは相互参照する可能性があり、相互に関連するグループとして扱われる必要があります。Profile Management は、複雑なアプリケーションに関連する2つの動作（Cookie 管理とフォルダーミラーリング）をサポートしています。

Internet Explorer での Cookie 管理は、以下の両方のポリシーが常に指定される基本的な同期の特殊なケースです。

- ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する
- ミラーリングするフォルダー

フォルダーミラーリング、Cookie 管理、およびこれらのポリシーの設定方法の詳細については、「トランザクションフォルダーの管理」を参照してください。

クロスプラットフォームアプリケーション

クロスプラットフォームアプリケーションとは、複数のプラットフォームでホストされる可能性のあるアプリケーションです。Internet Explorer および Microsoft Office の特定のバージョンでは、Profile Management はプラットフォーム間でのパーソナライズ設定の共有をサポートしています。これらの設定は、レジストリまたはプロファイル内のファイルとして保存されます。

クロスプラットフォームアプリケーションの推奨ポリシー設定については、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」に記載されています。

他のアプリケーションの設定をプラットフォーム間で共有したい場合は、Sepago の Profile Migrator を使用することをお勧めします。

Java および Web アプリケーション

Java アプリケーションはプロファイル内に多くの小さなファイルを残す可能性があり、これによりプロファイルの読み込み時間が大幅に増加する可能性があります。したがって、`AppData\Roaming\Sun\Java` を除外することを検討してください。

ポリシーの概要

次の表は、さまざまな種類のアプリケーションに対して Profile Management を構成するために使用するポリシーをまとめたものです。表では次の用語が使用されています。

- **相対パス**。ローカルボリューム上の相対パスで、%USERPROFILE% (指定してはならない) を基準とします。例: `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`、`AppData\Roaming\Adobe\`。
- **絶対パス**。ローカルボリューム上の絶対パス。例: `C:\BadApp*.txt`、`C:\BadApp\Database\info.db`。
- **レジストリ相対パス**。HKCU ハイブ内のパスを参照します。例: `Software\Policies`、`Software\Adobe`。
- **フラグ**。パス情報が不要な処理を有効または無効にするためにフラグを使用します。例: 有効、無効。

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
同期するディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	
同期するファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
除外リスト - ディレクトリ	フォルダ	はい	相対	絶対値	

ポリシー	ポリシーの種類 (レジストリ、フォルダー、またはファイル)	ワイルドカードのサポート?	アプリケーションの種類 - シンプル	アプリケーションの種類 - レガシー	アプリケーションの種類 - 複雑
除外リスト - ファイル	ファイル	はい	相対	絶対値	
包含リスト	レジストリ		レジストリ相対		
除外リスト	レジストリ		レジストリ相対		
ミラーリングするフォルダー	フォルダ			絶対値	相対
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する					フラグ

ファイル名とフォルダー名でのワイルドカード処理

ファイルとフォルダー（レジストリエントリではなく）を参照するポリシーは、ワイルドカードをサポートしています。詳細については、「ワイルドカードの使用」を参照してください。

包含ルールと除外ルール

Profile Managementは、ユーザープロファイルのファイル、フォルダー、およびレジストリキーをユーザーストアに含めたり除外したりするためのルールを使用します。これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。そこから、トップレベルの例外を除外として構成し、次にトップレベルの例外に対するより深い例外を包含として構成することができます。ルールに関する詳細情報（項目の包含と除外の手順を含む）については、「項目の包含と除外」を参照してください。

プロファイル内の英語以外のフォルダー名

バージョン1プロファイルを使用する英語以外のシステムでは、包含リストと除外リストに相対パスを現地語で指定します。たとえば、ドイツ語システムでは、**Documents**ではなく**Dokumenten**

を使用します。複数のロケールをサポートしている場合は、各言語で包含または除外する項目をそれぞれ追加します。

次のステップ

1. 構成の決定に記載されているすべての質問に回答します。
2. 回答に基づいて、展開用にProfile Managementを構成します。その他のすべてのポリシーはデフォルトのままにしておくことができます。
3. 設定をテストおよび確認し、「ローカルGPOでProfile Managementをテストする」の説明に従ってProfile Managementを有効にします。

複数のプラットフォームの計画

複数のプラットフォーム上のユーザープロファイルがなぜ課題となるのか?

ユーザーが複数のコンピューティングデバイスにアクセスすることは一般的です。あらゆる種類のローミングプロファイルにおける課題は、これらのデバイス上のシステム間の違いから生じます。たとえば、デスクトップにローカルファイルへのショートカットを作成し、別のデバイスに移動したときにそのファイルが存在しない場合、デスクトップには壊れたショートカットが残ります。

シングルセッションオペレーティングシステム (OS) とマルチセッションOSの間でローミングする場合にも同様の問題が発生します。一部の設定 (電源設定やビデオ設定など) は、サーバーでは適用できない場合があります。さらに、各デバイスでアプリケーションが同様にインストールされていない場合、ローミング時に他の問題が発生する可能性があります。

一部のパーソナライズ設定 (マイ ドキュメント、お気に入り、OSやアプリケーションのバージョンに依存しないその他のファイルなど) は、他の設定よりも管理がはるかに簡単です。しかし、ドキュメントの種類が1つのシステムでのみサポートされている場合、これらの設定でさえローミングが困難になることがあります。たとえば、ユーザーが1つのシステムにMicrosoft Projectをインストールしているが、別のデバイスではそのファイルの種類が認識されない場合などです。同じアプリケーションが2つのシステムに存在しても、一方のシステムでは異なるアドオンがインストールされており、ドキュメントがそれを期待している場合、この状況はさらに悪化します。

アプリケーションのインストール方法を変更すると、どのように問題が発生するか?

プラットフォームが同じようにインストールされていても、各プラットフォームでアプリケーションが異なる構成になっている場合、アプリケーションの起動時にエラーが発生する可能性があり

ます。たとえば、あるプラットフォームのExcelではマクロやアドオンがアクティブになるが、別のプラットフォームではアクティブにならない、といった場合です。

スタートメニュー

スタートメニューにはリンク (LNKファイルおよびLNK2ファイル) が含まれています。メニューのユーザー固有の部分はプロファイルに保存され、ユーザーはその部分を変更できます。カスタムリンク (実行可能ファイルやドキュメントへのリンク) を追加することは一般的です。さらに、言語固有のリンクは、同じアプリケーションに対して複数のスタートメニューエントリを作成します。また、ドキュメントを指すリンクは、他のコンピューターでは無効になる可能性があります。その理由は、ドキュメントへのパスが別のシステムに対する相対パスであるか、アクセスできないネットワークパスであるためです。

デフォルトでは、Profile Managementはスタートメニューフォルダーの内容を保存しません。これは、実行可能ファイルを指すリンクがコンピューターに依存することが多いためです。ただし、システムが類似している状況では、Profile Managementの構成にスタートメニューを含めることで、ユーザーがデスクトップ間をローミングする際の整合性が向上します。または、フォルダーリダイレクトを使用してスタートメニューを処理することもできます。

注： 最も無害に見える変更からでも、予期せぬ副作用が生じることがよくあります。たとえば、Sepagoブログの`<https://helgeklein.com/blog/2009/09/citrix-user-profile-manager-upm-and-the-broken-rootdrive/>`にある記事を参照してください。

常に、プラットフォーム間でスタートメニューの動作をテストおよび検証してください。

クイック起動ツールバー

クイック起動ツールバーにはリンクが含まれており、ユーザーが構成できます。デフォルトでは、**クイック起動**ツールバーはProfile Managementによって保存されます。環境によっては、リンクがコンピューターに依存する可能性があるため、**クイック起動**ツールバーの保存が望ましくない場合があります。

プロファイルからツールバーを除外するには、フォルダー除外リストに次のエントリを追加します。`AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch`。

作成するプロファイルの種類?

重要：構造の違いにより、複数のプラットフォームを含む環境では、各ユーザーに対して個別のバージョン1およびバージョン2プロファイルを作成することをお勧めします。Windows VistaとWindows 7のプロファイル名前空間の違いにより、これらのプラットフォーム間でプロファイルを共有することは困難です。また、Windows XPとWindows Server 2003の間でも障害が発生する可

能性があります。バージョン1およびバージョン2プロファイルの詳細は、 プロファイルについて を参照してください。

ここでの複数のプラットフォームの定義には、複数のオペレーティングシステム（異なるビット数のものを含む）だけでなく、同じオペレーティングシステムで実行されている複数のアプリケーションバージョンも含まれます。この推奨事項の理由を次の例で示します。

- 32ビットシステムには、オペレーティングシステムに32ビットオペレーティングシステムに固有の場所でアプリケーションを起動するように指示するレジストリキーが含まれている場合があります。64ビットシステムでCitrix®ユーザープロファイルによってキーが使用される場合、そのシステムにその場所が存在しない可能性があり、アプリケーションが起動に失敗します。
- Microsoft Office 2003、Office 2007、およびOffice 2010は、一部のWord設定を異なるレジストリキーに保存します。これらのアプリケーションが同じオペレーティングシステムで実行されている場合でも、Wordアプリケーションの3つの異なるバージョンに対して個別のプロファイルを作成する必要があります。

プロファイルの相互運用性を確保するために、CitrixユーザープロファイルでMicrosoftフォルダーリダイレクトを使用することをお勧めします。Windows VistaまたはWindows 7がWindows XPと共存する必要がある環境では、それはさらに重要です。

ヒント：組織のデータ管理ポリシーによっては、Active Directoryから削除されたユーザーアカウントのプロファイルをユーザーストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアから削除することをお勧めします。

複数のファイルサーバーで Citrix® ユーザープロファイルを共有する

Profile Management の最もシンプルな実装は、ユーザー ストアが 1 つの地理的ロケーションのすべてのユーザーをカバーする 1 つのファイル サーバー上にあるものです。このトピックでは、複数のファイル サーバーを含む、より分散された環境について説明します。高度に分散された環境については、「Profile Management を使用した高可用性と災害復旧」を参照してください。

注: ユーザー ストアのサーバー側ファイル クォータは無効にしてください。クォータがいっぱいになるとデータ損失が発生し、プロファイルをリセットする必要があるためです。プロファイルに保持される個人データ (例: ドキュメント、ミュージック、ピクチャ) の量を制限するには、フォルダー リダイレクトを使用して、サーバー側ファイル クォータが有効になっている別のボリュームに保存する方が適切です。

ユーザー ストアは複数のファイル サーバーにまたがって配置でき、これは多くのプロファイルをネットワーク全体で共有する必要がある大規模な展開でメリットがあります。Profile Management は、単一の設定である でユーザー ストアを定義するため、この設定に属性を追加することで複数のファイル サーバーを定義します。Active Directory のユーザー スキーマで定義されている任意の LDAP 属性を使用できます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/adschema/attributes-all?redirectedfrom=MSDN>` を参照してください。

ユーザーが異なる都市にある学校に所属しており、#l# 属性 (location の小文字の L) がこれを表すように構成されているとします。ロンドン、パリ、マドリードに拠点があります。ユーザー ストアへのパスは次のように構成します。

`\#l#.userstore.myschools.net\profile#sAMAccountName#\%ProfileVer%\`

パリの場合、これは次のように展開されます。

`\\Paris.userstore.myschools.net\profile\JohnSmith\v1\`

次に、利用可能なサーバー間で都市を分割します。たとえば、DNS で Paris.userstore.myschools.net を Server1 を指すように設定します。

この方法で属性を使用する前に、そのすべての値を確認してください。それらの値は、サーバー名の一部として使用できる文字のみを含んでいる必要があります。たとえば、#l# の値にはスペースが含まれていたり、長すぎたりする場合があります。

#l# 属性を使用できない場合は、同様のパーティション分割を実現する #company# や #department# などの他の属性について AD ユーザー スキーマを調べてください。

カスタム属性を作成することもできます。`Sysinternals` ツールである Active Directory Explorer を使用して、特定のドメインでどの属性が定義されているかを確認できます。Active Directory Explorer は `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/adexplorer>` で入手できます。

注: プロファイルやサーバーを区別するために、%homeshare% などのユーザー環境変数を使用しないでください。Profile Management はシステム環境変数を認識しますが、ユーザー環境変数は認識しません。ただし、関連する Active Directory プロパティである `#homeDirectory#` を使用できます。したがって、ユーザーの HOME ディレクトリと同じ共有にプロファイルを保存したい場合は、ユーザー ストアへのパスを `#homeDirectory#\profiles` に設定します。

ユーザー ストアへのパスでの変数の使用については、次のトピックで説明しています。

- ユーザー ストアへのパスを指定する

- OU 内および OU 間でプロファイルを管理する
- Profile Management を使用した高可用性と災害復旧

OU内およびOU間でプロファイルを管理する

OU内

Profile Management が組織単位 (OU) 内でプロファイルを管理する方法を制御できます。Windows Server 2008 環境では、Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、.adm または .admx ファイルを OU 内のコンピューターのサブセットに制限します。WMI フィルタリングは、Group Policy Management Console with Service Pack 1 (GPMC with SP1) の機能です。

WMI フィルタリングの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc779036(v=ws.10)>` および `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/previous-versions/windows/it-pro/windows-server-2003/cc758471(v=ws.10)>` を参照してください。

GPMC with SP1 の詳細については、`<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=21895>` を参照してください。

以下の方法を使用すると、単一の OU で単一のグループポリシーオブジェクト (GPO) を使用して、異なる OS を持つコンピューターを管理できます。各方法は、ユーザー ストアへのパスを定義するための異なるアプローチです。

- ハードコードされた文字列
- プロファイル管理変数
- システム環境変数

ハードコードされた文字列は、1 種類のコンピューターのみを含む場所を指定します。これにより、それらのコンピューターからのプロファイルを Profile Management によって一意に識別できます。たとえば、Windows 7 コンピューターのみを含む OU がある場合、**ユーザー ストアへのパス**に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Windows7` を指定できます。この例では、Windows7 フォルダーがハードコードされています。ハードコードされた文字列は、Profile Management Service を実行するコンピューターでのセットアップを必要としません。

Profile Management 変数は、コンピューターを一意に識別するために柔軟に組み合わせることができ、セットアップが不要であるため、推奨される方法です。たとえば、異なるビット数のオペレーティングシステムで実行されている Windows 7 および Windows 8 プロファイルを含む OU が

ある場合、**ユーザー ストアへのパス**に `\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` を指定できます。この例では、2 つの Profile Management 変数は、Win7x86 (Windows 7 32 ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) および Win8x64 (Windows 8 64 ビットオペレーティングシステムで実行されているプロファイルを含む) のフォルダーに解決される可能性があります。Profile Management 変数の詳細については、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

システム環境変数には、いくつかの構成が必要です。これらは、Profile Management Service を実行する各コンピューターで設定する必要があります。Profile Management 変数が適切でない場合は、次のようにシステム環境変数をユーザー ストアへのパスに組み込むことを検討してください。

各コンピューターで、%ProfVer% というシステム環境変数を設定します。(ユーザー環境変数はサポートされていません。) 次に、ユーザー ストアへのパスを次のように設定します。

```
`\\upmserver\upmshare\%username%.%userdomain%\%ProfVer%`
```

たとえば、Windows 7 32 ビットコンピューターの場合は %ProfVer% の値を Win7 に、Windows 7 64 ビットコンピューターの場合は Win7x64 に設定します。Windows Server 2008 32 ビットおよび 64 ビットコンピューターの場合は、それぞれ 2k8 および 2k8x64 を使用します。これらの値を多数のコンピューターで手動で設定するのは時間がかかりますが、Provisioning Services を使用する場合は、ベースイメージに変数を追加するだけで済みます。

ヒント: Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2012 では、グループポリシーを使用して環境変数の作成と適用を高速化できます。グループポリシー管理エディターで、 **コンピューターの構成** > **基本設定** > **Windows の設定** > **環境** をクリックし、次に **操作** > **新規** > **環境変数** をクリックします。

OU間

Profile Management が OU 間でプロファイルを管理する方法を制御できます。OU の階層と GPO の継承に応じて、複数の OU に適用される Profile Management ポリシーの共通セットを 1 つの GPO に分離できます。例えば、**ユーザー ストアへのパス**と**Profile Management を有効にする**は、すべての OU に適用する必要があります。したがって、それらを専用の GPO に個別に保存し、そこでこれらのポリシーのみを有効にすることができます（他のすべての GPO では未構成のままにします）。

継承されたポリシーを上書きするために、専用の GPO を使用することもできます。GPO の継承に関する情報については、Microsoft の Web サイトを参照してください。

Profile Managementにおけるドメインおよびフォレストのサポート

Profile Managementは、Windows Server 2008およびWindows Server 2012のドメインおよびフォレストの機能レベルをサポートしています。古いオペレーティングシステムはサポートされていません。

システム環境変数を使用すると、複数のドメインにおけるユーザー名の曖昧さを解消できます。詳細については、「OU内およびOU間でのプロファイルの管理」を参照してください。

Profile Management を使用した高可用性とディザスターリカバリ

前提条件として、ユーザー ストアの構造と作成方法をよく理解してください。詳細については、「Profile Management のアーキテクチャ」と「ユーザー ストアの作成」を参照してください。

これらのトピックでは、Citrix Profile Management に適用される高可用性とディザスターリカバリのサポートされるシナリオについて説明します。シナリオを関連する基盤となる Microsoft テクノロジに関連付け、サポートされているものを特定します。

- シナリオ 1: 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本的なセットアップ
- シナリオ 2: 複数のフォルダー ターゲットとレプリケーション
- シナリオ 3: ディザスターリカバリ
- シナリオ 4: 移動ユーザー
- シナリオ 5: ユーザー ストアの負荷分散

Profile Management は、信頼性の高い環境で動作することを前提としています。この信頼性は、主に Active Directory (AD) とネットワーク ユーザー ストア (NUS) の可用性に適用されます。どちらも利用できない場合、Profile Management はプロファイルを提供できず、Windows に責任を委ねます。Windows は通常、デフォルトのプロファイルを提供します。

移動プロファイルとの比較

ディザスターリカバリおよび高可用性のシナリオでは、Citrix Profile Management は Microsoft の移動プロファイルに影響するのと同じ問題の影響を受ける可能性があります。特に明記されていない限り、Profile Management はそのような問題を解決しません。

特に、次の点に注意してください。

- Profile Management のサポートは、移動プロファイルもサポートされているシナリオに限定されます。
- オフライン ファイルのキャッシュ オプションは、移動ユーザー プロファイル共有で無効にする必要があります。同じ制限が Profile Management 共有にも適用されます。
- 移動プロファイルは DFS 共有からロードされません。同じ制限が Profile Management 共有にも適用されます。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2533009>` を参照してください。

シナリオ 1 - 地理的に隣接するユーザー ストアとフェールオーバー クラスターの基本設定

「ユーザーには、常に地理的に隣接した、優先されるネットワーク ユーザー ストア (NUS) をプロファイルに使用させたい。」この場合、オプション 1 と 2 が適用されます。

「NUS をフェールオーバー クラスター上に配置して、高可用性を実現したい。」この場合、オプション 2 が適用されます。

次の図は、このシナリオを示しています。北米 (NA) のユーザーは、ブリスベンにある NUS ではなく、ニューヨークにある NUS を使用したいと考えています。目的は、遅延を減らし、オーストラリアまたはニュージーランド (ANZ) への大陸間リンクを介して送信されるトラフィックを最小限に抑えることです。

図(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/upm-ha-dr-scenario1-1.png)

オプション 1 – DFS 名前空間

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、DFS 名前空間の概要 を参照してください。

このオプションの実装

DFS 名前空間は、ブログ記事で提示されている問題の一部を解決できます。

`\\MyCorp\Profiles` と呼ばれる NUS の名前空間を設定しましょう。これは名前空間のルートです。ニューヨークとブリスベン (およびその他のサイト) に名前空間サーバーを設定します。各名前空間サーバーには、各 Active Directory の場所に相当するフォルダーがあり、それらのフォルダーはニューヨークまたはブリスベンのサーバー上のターゲットを持っています。

Active Directory (ユーザー レコードの一部) には、次の場所が構成されている場合があります。

AD ロケーション属性 (#L#)	地理的位置
ワガワガ	ANZ
ダーウィン	ANZ
ブリスベン	ANZ
オークランド	ANZ
シアトル	該当なし
サンディエゴ	該当なし
ウェストパームビーチ	該当なし
ポキプシー、ニューヨーク	該当なし

以下の図は、DFS名前空間を使用してこれを設定する1つの方法を示しています。

グラフィック(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/upm-ha-dr-scenario1-option1-1.png)

設定が完了したら、ユーザー ストアへのパス設定を次のように構成します。

```
\\MyCorp\Profiles&num;l#
```

8つのサイトに属するユーザーのプロファイルは、シナリオで要求される地理的制約を満たし、わずか2つのサーバーに分散されます。

代替案

名前空間ターゲットを順序付けし、次のように順序付けルールを使用できます。DFS名前空間が使用するターゲットを解決する際、ローカルサイト内のターゲットのみが選択されるように指定できます。これは、特定のユーザーについて、すべてのデスクトップとサーバーが同じサイトに属することが保証されている限り機能します。

例えば、通常ポキプシーに拠点を置くユーザーがワガワガを訪れる場合、この手法は失敗します。そのユーザーのラップトッププロファイルはブリスベンから来るかもしれませんが、公開されたアプリケーションで使用されるプロファイルはニューヨークから来るかもしれません。

推奨される手法であるAD属性を使用すると、ユーザーが開始するすべてのセッションで同じDFS名前空間の選択が行われることが保証されます。その理由は、#l#がマシンの構成ではなく、ユーザーのAD構成から派生するためです。

オプション2 - フェールオーバークラスタリングを使用したDFS名前空間

背景情報

- 2ノードファイルサーバーフェールオーバークラスターの構成に関するステップバイステップガイドについては、2ノードクラスターファイルサーバーの展開を参照してください。
- 名前空間タイプの選択に関する情報については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/choose-a-namespace-type>`を参照してください。

このオプションの実装

フェールオーバークラスタリングを追加することで、基本的な高可用性を提供できます。

このオプションの重要な点は、ファイルサーバーをフェールオーバークラスターにすることです。これにより、フォルダーターゲットは単一のサーバーではなく、フェールオーバークラスターでホストされます。

名前空間サーバー自体に高可用性が必要な場合は、スタンドアロンの名前空間を選択する必要があります。ドメインベースの名前空間は、名前空間サーバーとしてフェールオーバークラスターの使用をサポートしていません。フォルダーターゲットは、名前空間サーバーのタイプに関係なく、フェールオーバークラスターでホストされる場合があります。

重要: フェールオーバークラスター内のサーバーが失敗した場合、ファイルロックの状態が保持されない可能性があります。プロファイル管理は、プロファイル処理中の特定の時点でNUS上のファイルロックを取得します。重要な時点でのフェールオーバーがプロファイルの破損につながる可能性があります。

シナリオ 2 - 複数のフォルダーターゲットとレプリケーション

「ローカルNUSが利用できない場合、ユーザーが企業ネットワーク上の別のバックアップ場所からプロファイルデータを取得できるようにしたい。変更を加えた場合、その変更は、優先NUSが再び利用可能になったときに、そこに戻される必要がある。」

このシナリオにおける基本的な要件は、ネットワーク上のプロファイルの代替場所を提供することです。ユースケースには、ネットワークインフラストラクチャの部分的な障害や、フェールオーバークラスターなどのフォルダーターゲットの完全な利用不能が含まれます。

検討する必要があるオプションは、複数のフォルダーターゲットの使用とDFSレプリケーションの使用です。

オプション 1 - 複数のフォルダーターゲットへの紹介

背景情報

DFS名前空間のチューニングについては、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-namespaces/tuning-dfs-namespaces>`を参照してください。

このオプションについて

紹介とは、ユーザーデバイスが順番に試行するターゲットの順序付きリストです。これは、ソフトウェアライブラリのようにターゲットが読み取り専用であるシナリオ向けに設計されています。ターゲット間に連携がないため、この手法をプロファイルで使用すると、同期できない複数のプロファイルが作成される可能性があります。

ただし、紹介内のターゲットに対して、順序付け方法とターゲット優先度の両方を定義することは可能です。適切な順序付け方法を選択すると、すべてのユーザーセッションによって一貫したターゲットが選択されるように見えます。しかし実際には、ユーザーのすべてのデバイスが同じサイト内にある場合でも、サイト内ルーティングの問題により、異なるセッションによって異なるターゲットが選択される可能性があります。この問題は、デバイスが紹介をキャッシュするとさらに悪化する可能性があります。

重要: このオプションはProfile Managementの展開には適しておらず、サポートされていません。ただし、ファイルレプリケーションは、単一セッションのみが保証され、 アクティブライトバックが無効になっている一部の特殊な展開で使用されています。これらの特殊なケースについては、Citrix Consultingにお問い合わせください。

オプション 2 - 分散ファイルシステムレプリケーション

背景情報

- 分散ファイルシステムレプリケーション (DFSR) の概要については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/dfs-replication/dfsr-overview>`を参照してください。
- レプリケートされたユーザープロファイルデータに関するサポートステートメントについては、`<https://techcommunity.microsoft.com/t5/ask-the-directory-services-team/microsoft-8217-s-support-statement-around-replicated-user/ba-p/398230>`を参照してください。
- DFSR が分散ファイルロックをサポートしない理由を理解するには、`<https://blogs.technet.com/b/askds/archive/2009/02/20/understanding-the-lack-of-distributed-file-locking-in-dfsr.aspx>` を参照してください。

このオプションの実装

DFS レプリケーションは、帯域幅が制限されたネットワーク接続を介したフォルダー同期を提供します。このオプションは、単一の名前空間フォルダー定義が参照する複数のフォルダーターゲットを同期するため、オプション1の問題を解決するように見えます。実際、フォルダーがフォルダー定義のターゲットとして追加されると、レプリケーショングループに属するものとして指定できます。

考慮すべきレプリケーションには2つの形式があります。

- 一方向レプリケーション（アクティブ-パッシブ レプリケーションとも呼ばれる）は、重要なデータを安全なリポジトリにバックアップするために設計されています。このレプリケーションは、たとえば災害復旧サイトの維持に適しています。パッシブターゲットが参照に対して無効になっており、災害復旧計画がアクティブ化されたときにのみ呼び出される限り、Profile Management で動作させることができます。
- 双方向レプリケーション（アクティブ-アクティブ レプリケーションとも呼ばれる）は、グローバル共有データへのローカルな読み書きアクセスを提供することを目的としています。ここでは、即時レプリケーションは必ずしも要件ではありません。共有データはめったに変更されない可能性があります。 重要: アクティブ-アクティブ DFSR はサポートされていません。

スケジュールは、データがレプリケートされる頻度を定義します。頻繁なスケジュールはCPUと帯域幅の両方でより集中的ですが、即時更新を保証するものではありません。

Profile Management は、その操作のさまざまな時点で、(共有) ユーザー ストアへの更新を調整するために、NUS 内の特定のファイルをロックする必要があります。通常、これらの更新はセッションの開始時と終了時、およびアクティブなライトバックが有効になっている場合はセッションの途中で行われます。DFS レプリケーションでは分散ファイルロックがサポートされていないため、Profile Management は NUS として1つのターゲットしか選択できません。この設定により、双方向レプリケーション (アクティブ-アクティブ レプリケーション) の価値が事実上排除され、したがって Profile Management には適しておらず、サポートされていません。一方向レプリケーション (アクティブ-パッシブ レプリケーション) は、災害復旧システムの一部としてのみ Profile Management に適しています。その他の用途はサポートされていません。

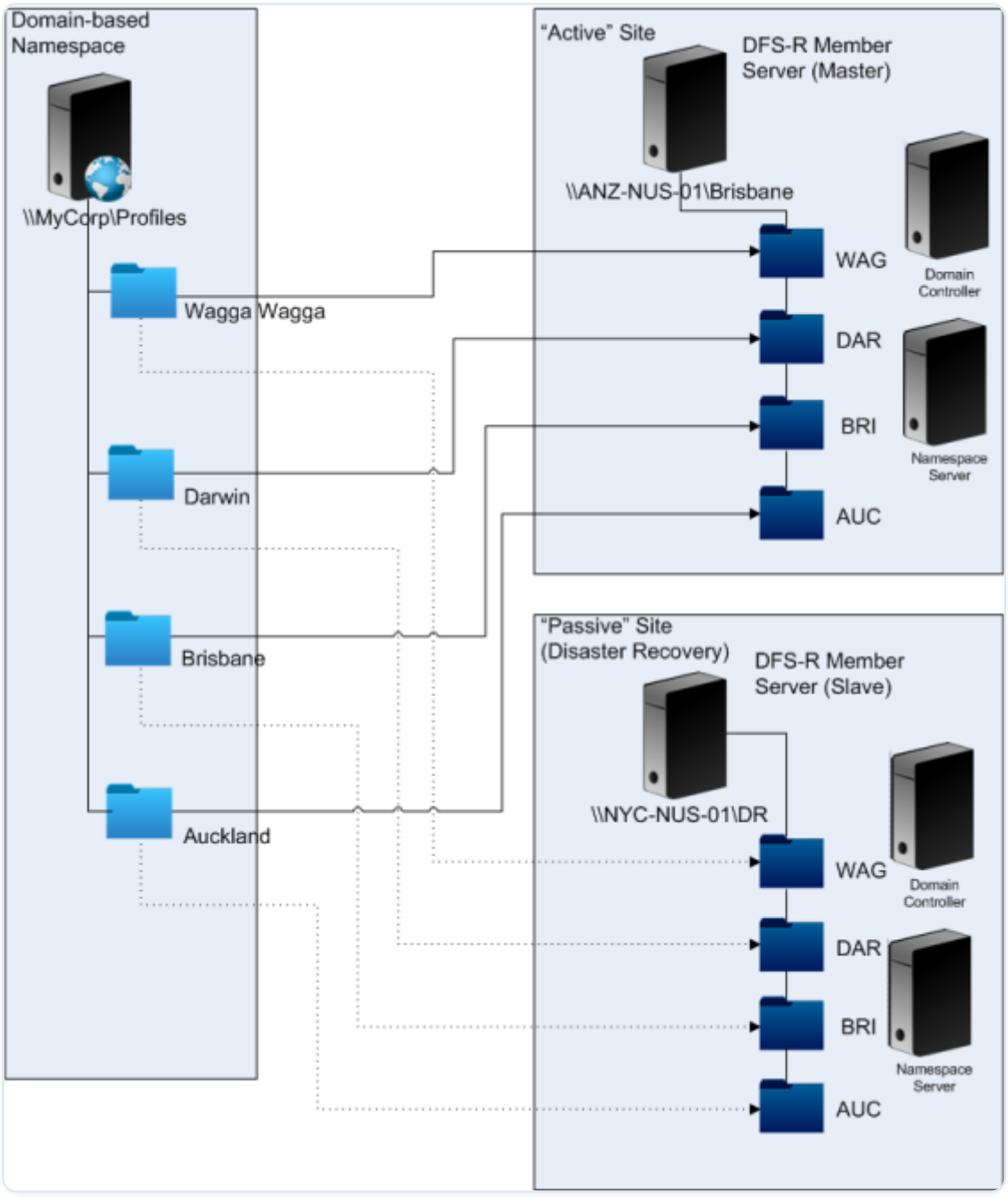
シナリオ 3 - 災害復旧

「Citrix®ユーザープロファイルを処理するために、完全な災害復旧サイトをどのように設定すればよいですか？」

Profile Management は、災害復旧 (DR) に必要な主要な機能をサポートしています。

- **DFS 名前空間**。ドメインベースの名前空間サーバーは、DRサイトが独自の名前空間サーバーを持つことができるため、このシナリオでは推奨されます。(スタンドアロンの名前空間サーバーはレプリケートできませんが、フェールオーバークラスターでホストできます。)
- **複数のフォルダーターゲットとDFSレプリケーション**。各NUSについて、少なくとも2つのターゲットを提供しますが、通常の操作では1つだけを有効にします。無効なターゲット (DRサイトにある) が最新の状態に保たれるように、一方向のDFSレプリケーションを設定します。
- **個々のフォルダーターゲットをホストするためのフェールオーバークラスター**。オプションです。DRサイトのリソースを無駄にする可能性があります。

この図では、ドメインベースの名前空間がNUSを管理します。(シナリオ1の図では、意図的に名前空間を含んでいませんでした。) DRサイトを含む各サイトに名前空間サーバーを含めることができます。すべてのサーバーは、名前空間の同じビューをサポートします。



DRプランがアクティブ化されると、DRサイトのNUSは、マスターNUSからレプリケートされた変更で最新の状態になります。ただし、名前空間サーバーはまだ名前空間の誤ったビューを反映しているため、その構成を更新する必要があります。各フォルダーについて、マスターサイトのフォルダーターゲットを無効にし、DRサイトのフォルダーターゲットを有効にする必要があります。

ADの更新が伝播した後、名前空間サーバーはDRフォルダーターゲットを正しく特定し、DRサイトはProfile Managementによって使用できるようになります。

注: 「ユーザーストアへのパス」設定は、実際のサーバーではなく、名前空間フォルダーを参照するため、Profile Managementの構成を更新する必要はありません。

実際には、DRサイトは通常プロファイルには使用されないため、一方向または双方向のレプリケーションが可能です。災害が終了すると、DRサイトからマスターサイトへの接続により、災害中にNUSに加えられた変更がマスターサイトにレプリケートされます。

シナリオ 4 - 移動するユーザー

「私のスタッフが異なるオフィス間を移動する際、彼らの優先NUSを変更し、地理的に近いNUSを使い続けられるようにしたい。」

このシナリオの難しさは、ユーザーのログオンセッションが複数の場所から集約される可能性があることです。彼らは通常、デスクトップセッションをあるサイトから別のサイトへとローミングします。しかし、彼らのアプリケーションの多くは、ユーザーのデスクトップの現在の場所を認識しないバックエンドサーバーでホストされています。

さらに、ユーザーは切断されたセッションに再接続する可能性がありますが、それらは恐らくホームロケーションでホストされています。もし何らかの理由でセッションがユーザーの新しい場所にあるNUSに切り替わることを強制された場合、そのパフォーマンスは低下します。

ホットデスクを利用する出張者にとって、**プロファイルストリーミング**と**常にキャッシュ**の設定を使用することが最善の選択肢です。固定されたマシンでは、Citrix®ストリーミングユーザープロファイルを使用して、引き続き迅速にログオンできます。常にキャッシュを有効にすると、プロファイルの残りの部分がバックグラウンドで読み込まれます。

シナリオ 5 - ユーザー ストアの負荷分散

「複数の地理的に隣接するネットワーク ユーザー ストア (NUS) 間でユーザーの負荷分散を行いたい。」

背景情報

Microsoft DFS 名前空間テクノロジーの概要については、DFS 名前空間の概要を参照してください。

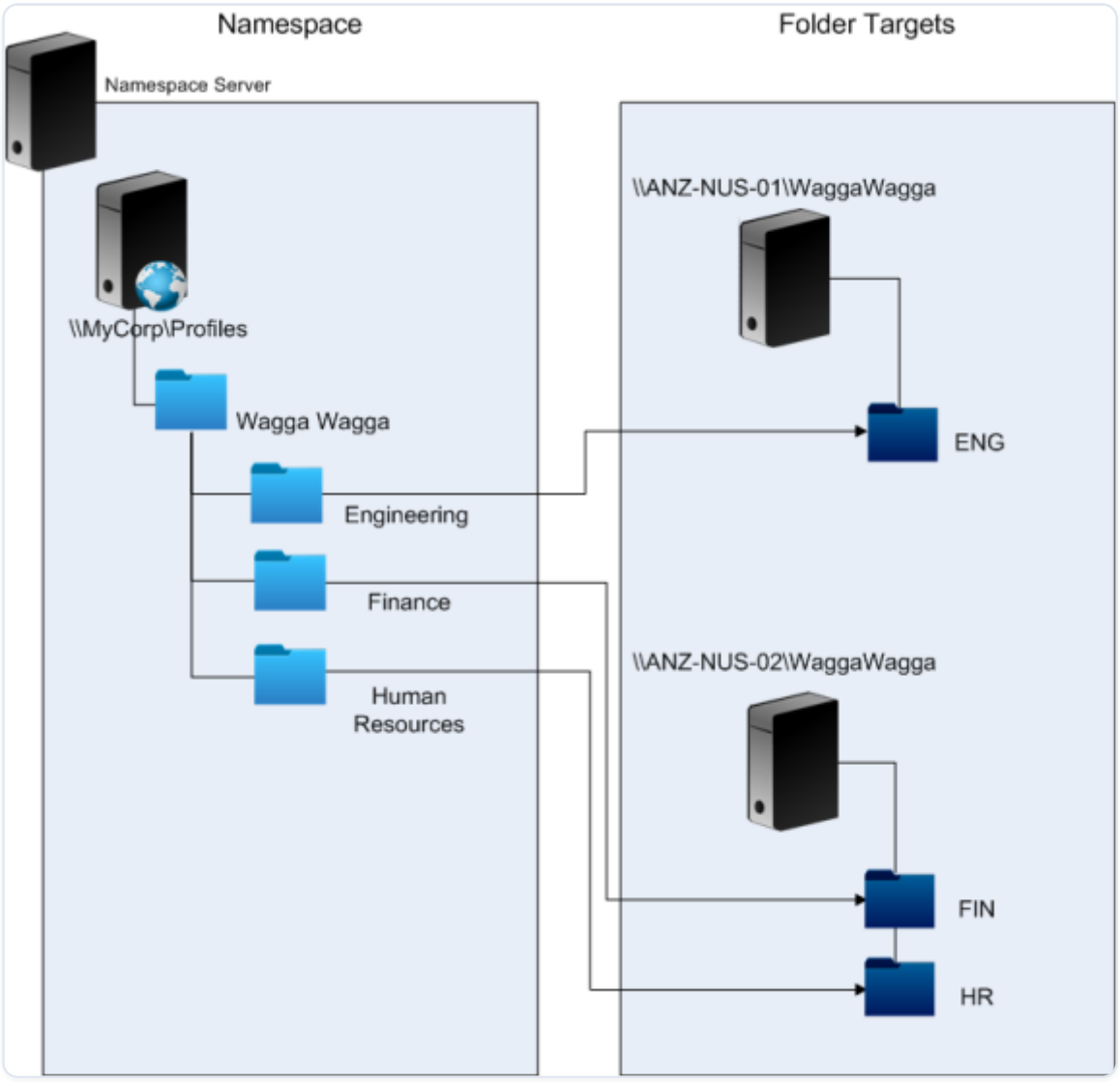
シナリオ 1 とは異なり、このシナリオでは、複数の NUS を必要とするほど大規模な単一サイトがあります。DFS 名前空間を使用すると、シナリオ 1 のソリューションを改善できます。

シナリオ 1 (オプション 1) では、DFS 名前空間を使用して、複数のサイトを同じサーバー上の異なるフォルダーにマッピングしました。同様の手法を使用して、名前空間のサブフォルダーを異なるサーバー上のフォルダーにマッピングできます。

理想的には、ユーザー アカウントを #department# のように同程度のサイズのチャンクに分割する AD 属性が必要です。シナリオ 1 と同様に、#department# は常に定義され、正しいフォルダー名が含まれていることが保証されている必要があります。

シナリオ 1 と同様に、NUS の名前空間を `\\MyCorp\Profiles` と設定します。

この図は、名前空間の設定方法を示しています。



セットアップが完了したら、 設定を次のように構成します。

`\\MyCorp\Profiles#l##department#`

この構成により、Wagga Wagga のユーザーは、両方ともローカルの 2 つの NUS サーバーに分散されます。

Profile Management を使用したフォルダーリダイレクトの計画

Profile Management はフォルダーリダイレクトをサポートしており、その使用が推奨されます。

Active Directory (AD) を使用すると、アプリケーションデータやドキュメントなどのフォルダーをネットワークの場所に保存（リダイレクト）できます。フォルダーの内容はリダイレクトされた場所に保存され、ユーザープロファイルには含まれないため、プロファイルのサイズが削減されます。AD のバージョンによっては、一部のフォルダーはリダイレクトできますが、他のフォルダーはできません。さらに、フォルダーリダイレクトを構成することで、強制プロファイルを持つユーザーは、プロファイルの使用を制限しながらも、一部の設定、ファイル、その他のデータを保存できます。

一般的なガイドラインとして、ネットワーク帯域幅が許す限り、セッション内で定期的にアクセスされないすべてのユーザーデータに対してフォルダーリダイレクトを有効にすることをお勧めします。

リダイレクト可能なすべてのフォルダーが AD でアクセスできるわけではありません。特定のオペレーティングシステムでリダイレクトできるフォルダーは、レジストリの `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User Shell Folders` にあります。

フォルダーリダイレクトに関する重要な情報

Profile Management でフォルダーリダイレクトを使用する際の以下の重要な点に注意してください。

- XenDesktop 7 では、Citrix Virtual Desktops™ ポリシーを使用して Studio でリダイレクトするフォルダーを指定します。詳細については、Citrix Virtual Desktops のドキュメントを参照してください。
- フォルダーリダイレクトを正常に構成するには、バージョン 1 とバージョン 2 のプロファイル間のフォルダー構造の違いに注意してください。
- フォルダーリダイレクトを使用する際のセキュリティに関する詳細については、Secure および Microsoft TechNet Web サイトの「Folder Redirection Overview」を参照してください。
- ユーザーストアは、リダイレクトされたフォルダーに使用される共有とは異なるものとして扱います。
- リダイレクトされたフォルダーを除外リストに追加しないでください。

詳細については、このビデオをご覧ください。

サードパーティのディレクトリ、認証、およびファイルサービス

この記事では、Microsoft が提供するサービス以外のディレクトリ、認証、およびファイルサービスに対するサポートについて説明します。

ディレクトリサービス

重要: Active Directory (AD) は、Profile Management の運用に不可欠です。他のディレクトリサービスはサポートされていません。これらのサービスには以下が含まれます。

- ノベル eDirectory。
- Windows 2000 Server またはそれ以前のオペレーティングシステム (OS)。Windows 2000 Server は AD をサポートしていますが、必要なレベルではありません。詳細については、「Profile Management でのドメインとフォレストのサポート」を参照してください。Microsoft Windows NT 4.0 は AD より前のものです。
- Samba 4 またはそれ以前のバージョン。

認証サービス

他の認証サービスはドメイン内で AD と共存できますが、Profile Management ではサポートされていません。その理由は、Profile Management Service と同様に、これらのサービスが winlogon.exe と相互作用し、ユーザーログオンプロセスに問題を引き起こす可能性があるためです。たとえば、Novell の認証サービスは、ユーザーがプリンターやファイル共有などの Novell リソースにアクセスすることを許可しますが、サポートされていません。

ファイルサービス

サードパーティのファイルサービスは、ユーザーストアおよびフォルダーリダイレクト (使用されている Windows オペレーティングシステムでサポートされている場合) に使用できます。ファイルサーバーは、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) タイプであり、NTFS ファイルシステムをサポートしている必要があります。これらの理由により、以下がサポートされています。

- Windows Server 2003 またはそれ以降
- サンバ 3

重要: Novell ディレクトリに対する認証が必要なため、Novell ファイルサービスはサポートされていません。

複数のプラットフォーム上のプロファイルとProfile Managementの移行に関するFAQ

このセクションでは、複数のWindowsオペレーティングシステム、または単一オペレーティングシステムの複数のバージョンやビット数を持つ環境でプロファイルを使用することに関する質問と回答を掲載しています。

プロファイルとの互換性の問題を確実に回避するにはどうすればよいですか?

異種環境をサポートする必要性と、ユーザーとそのデバイスを追跡するためのパーソナライズ設定の必要性のバランスを取ります。通常、これら2つのニーズのバランスは、管理者とIT部門によってのみ決定できます。ユーザープロファイルを次のように調整することで、異なるシステムを管理します。プロファイルがローミングする場合、問題は適切に処理されるか、必要に応じて設定は完全に無視され、まったく追跡されないようにする必要があります。これは、多くのサードパーティ製ソフトウェアソリューションの基礎となっています。

トラブルシューティングを最小限に抑えるには、同じデバイス設定（インストールされているアプリケーション、OSバージョンなど）間でプロファイルをローミングするようにしてください。しかし、現代の多くのシナリオでは、これは容易に達成できず、不完全なユーザーエクスペリエンスにつながります。たとえば、ユーザーは複数のオペレーティングシステムを使用しているからといって、お気に入りやマイドキュメントを複製する必要はありません。管理者は、この場合、フォルダーリダイレクトを使用することでユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。このMicrosoft機能の使用は、他のシナリオでも推奨されます。

異なるシステム間でプロファイルを共有できますか?

Citrixは、プラットフォームごとに1つのベースプロファイルを持つことを推奨しています。これは、オペレーティングシステムごとに1つのプロファイルを持つことと必ずしも同じではありません。この推奨事項の詳細については、「複数のプラットフォームの計画」を参照してください。これにより、連携しない可能性のある設定や、特定のOSに適用されない設定の数が最小限に抑えられます。たとえば、デスクトップの電源設定は、サーバーシナリオやリモートデスクトップサービス（旧ターミナルサービス）を含むシナリオには適用されません。

プロファイルの数を簡素化および削減しようとし、それらが複数のOSで使用される場合、設定の競合のリスクが高まります。システムが同じでない場合、これはさらに複雑になります。たとえば、Microsoft Officeアドインはすべてのデバイスに存在するとは限りません。幸いなことに、特定

のデバイスに適用されないこのような設定は、多くの場合無視されます。無視されない場合にサポートの問題が発生します。アドインが存在しない場合、Microsoft Excelは起動に失敗します。

Profile Managementは、複数のバージョンまたはプラットフォーム間で設定をどのように有効にしますか?

Citrix®は、複数のベースプロファイル間で共通設定をローミングする機能を提供します。Citrixは、Microsoft Office、Internet Explorer、壁紙などの設定のローミングを可能にします。これらの種類のシナリオをサポートする能力は、アプリケーションがプラットフォーム間の設定のローミングをどの程度サポートしているかによって制限されます。次の質問のリンクは、Microsoftの立場とベストプラクティスをカバーしています。

Microsoftは、プラットフォームとバージョン間でローミングプロファイルをどのようにサポートしていますか?

関連情報については、「ローミングユーザープロファイルの展開」を参照してください。

Office 2007のツールバー設定については、「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」を参照してください。

標準のMicrosoft Windowsプロファイルソリューションが技術的、カスタム、またはビジネス要件を完全に満たさない場合、Profile Managementは実行可能なソリューションとなります。

x86プラットフォームとx64プラットフォーム間でプロファイルを共有することは可能ですか?

Windows x86 と x64 間で 1 つのプロファイルを共有することは、一般的に機能する可能性がありますが、いくつかの問題が発生する可能性があります。

いくつかの理由があります。たとえば、その理由の 1 つは、使用ごとのファイル関連付けが `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes` に保存されることです。非管理者が Firefox を既定のブラウザとして設定した場合、32 ビットシステムには次が保存されます。

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes\FirefoxHTML\shell\open\command` -\> "`C:\Program Files\Mozilla Firefox\firefox.exe`" -requestPending -osint -url "%1"

このパスを含むプロファイルが Windows x64 で使用される場合、OS は Firefox の 64 ビットバージョンを探しますが、これは存在しません。代わりに、32 ビットバージョンが `C:\Program Files (x86)\Mozilla Firefox` にインストールされている可能性があります。これにより、ブラウザが起動しなくなります。

逆もまた同様です。x64 プラットフォームでパスが設定されていても、x86 プラットフォームで使用される場合です。

複数のプラットフォームで 1 つのプロファイルがどのように動作するかをテストしたいのですが、どこから始めればよいですか?

複数のプラットフォームで 1 つのプロファイルを使用する実験を行うには、テストと検証が重要です。推奨されるアプローチは、プラットフォームごとに 1 つのプロファイルを持つことです。単一のプロファイルが複数のプラットフォームでどのように動作するかを調べたい場合は、以下の情報が役立つかもしれません。

次の質問に答えることで、何が問題を引き起こす可能性があるかを特定することから始めます。このトピックの残りの質問を、問題への対処と追跡のアイデアとして使用してください。

プラットフォーム間で機能する項目：

- マイドキュメントと「お気に入り」
- 構成情報（デフォルトを含む）を完全にプロファイル内に保存するアプリケーション

機能しない可能性がある項目：

- ハードコードされたデータ、パスデータなどを保存するアプリケーション
- x64 または x86 プラットフォームに固有の設定
- すべてのシステムに存在するわけではない Excel アドインなど、同一ではないアプリケーションのインストール。これらのインストールは、アプリケーションによって異なるあらゆる種類のエラー状態を引き起こす可能性があります。

ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます?

はい。Profile Management は、ローカルデスクトップ、Citrix Virtual Apps、Citrix Virtual Desktops™、またはこれらの任意の組み合わせに基づいてプロファイルを適用できます。

適切な Profile Management 設定が有効になっている場合、Remote Desktop Services (旧 Terminal Services) プロファイルは、ユーザーがターミナルサーバーまたは Citrix Virtual Apps セッションを持っている場合にのみ使用されます。この設定は、ユーザーが Remote Desktop Services セッションを介してログオンするときに、既存のプロファイル (Citrix ユーザープロファイルを除く) をすべて上書きします。

Windows 7 では、GPO コンピューター設定を使用して、ユーザーがログオンするコンピューターに基づいてプロファイルを割り当てることができます。繰り返しになりますが、これは GP に基づいているため、プロファイルの割り当ては GPO が適用される OU に依存します。

コンピューターに基づくプロファイルの割り当てが望ましいのはなぜですか?

個別のユーザーエクスペリエンスが必要な場合、ユーザーがログオンするコンピューターにプロファイルを割り当てることは有用です。たとえば、管理者は、Remote Desktop Services (旧 Terminal Server) セッションで使用されるプロファイルを、デスクトップで使用されるプロファイルとは別に保持することを決定する場合があります。

Profile Management は Windows ユーザープロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行しますか?

Profile Management を構成して、ユーザーがログオンするときに既存のローミングプロファイルとローカルプロファイルを自動的に移行できます。また、テンプレートプロファイルまたはデフォルトの Windows プロファイルを新しい Citrix ユーザープロファイルのベースとして使用することもできます。

Profile Management の移行の計画と設定については、(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/plan/new-or-existing.html) を参照してください。ソフトウェアが Windows ユーザープロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行する方法の詳細については、(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/how-it-works/logon-diagram.html) を参照してください。

どのプロファイルを Citrix ユーザープロファイルに移行できますか?

Profile Management は、Windows ローカルプロファイルと Windows ローミングプロファイルを移行できます。必須プロファイル (.man ファイル) は Profile Management によって無視されますが、Citrix ユーザープロファイルのテンプレートとして使用できます。Profile Management が正しく機能するように、すべてのユーザーへの必須プロファイルの割り当てを無効にしてください。

既存の Windows 必須プロファイルをテンプレートとして使用するには、(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/template.html) を参照してください。

テンプレートプロファイルを使用するにはどうすればよいですか?

Profile Management を使用すると、新しい Citrix ユーザープロファイル作成の基礎として使用されるテンプレートプロファイルを指定できます。通常、初めてプロファイルを割り当てられたユーザーは、ログオンする Windows デバイスのデフォルトユーザープロファイルを受け取ります。これは許容できるかもしれませんが、異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルにバ

リエーションがあると、ユーザー用に作成されるベースプロファイルに違いが生じることを意味します。したがって、テンプレートプロファイル機能はグローバルなデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

ユーザーがプロファイルデータに変更を加えるのを防ぎたい場合は、テンプレートプロファイルを Citrix 必須プロファイルとして識別することもできます。

詳細については、「テンプレートプロファイルまたは必須プロファイルを指定する」(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/template.html)を参照してください。

インストールとセットアップ

この記事では、インストーラーを使用してProfile Managementをインストールするための一般的なワークフローについて説明します。また、Profile Managementをセットアップするためのベストプラクティスも提供します。

Profile Managementをインストールするための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. インストールパッケージをダウンロードする(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/install-and-set-up/files-in-download.html)
2. Profile Managementをインストールする(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/install-and-set-up/install.html)

Profile Managementをセットアップする際は、以下のベストプラクティスを参照してください。

- ローカルGPOでProfile Managementをテストする(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/install-and-set-up/test-with-local-gpo.html)
- ユーザーストアを作成する(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/install-and-set-up/create-user-store.html)

インストールパッケージをダウンロードする

開始する前に、有効なCitrix®アカウントがあることを確認してください。

ダウンロードを完了するには、次の手順に従います。

1. Citrix Virtual Apps and Desktopsダウンロードページにアクセスします。
2. ダウンロードしたいバージョン（例: 2206）を見つけて展開し、「**Sign in to access restricted downloads**」をクリックします。
3. Citrixアカウントの資格情報でサインインします。
4. **Citrix Virtual Apps and Desktops™ 7** `<Version_Number>` **> 製品ソフトウェア > Citrix Virtual Apps and Desktops 7** `<Version_Number>`**, 全エディション**を選択します。
5. **Components that are on the product ISO but also packaged separately**ノードを展開し、**Profile Management**サブノードの**Download File**をクリックします。

6. 表示される**Download Agreement**ダイアログボックスで、ダウンロードを開始するために契約に同意します。

   ダウンロードが完了すると、`ProfileMgmt_<version_number>.zip`ファイル（例: ProfileMgmt_2206.zip）がダウンロードフォルダーに表示されます。

ダウンロードに含まれるファイル

ダウンロードしたパッケージを解凍します。パッケージに含まれるファイルについては、次の表を参照してください。

ファイル名	説明	場所
x86.msi	32ビットシステム用インストーラー	
x64.msi	64ビットシステム用インストーラー	
CitrixBase.adml および CitrixBase.admx	プロファイル管理ポリシー階層用のADMXテンプレートファイル	`\Group Policy Templates\CitrixBase`
ctxprofile.adml および ctxprofile.admx	プロファイル管理ポリシー設定用のADMXテンプレートファイル	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)

プロファイル管理のインストール

プロファイル管理は、VDAインストーラーのオプションコンポーネントです。VDAと同時に、または個別にインストールできます。この記事では、独自のインストーラーを使用してプロファイル管理をインストールする方法について説明します。

VDAと同時にプロファイル管理をインストールする方法の詳細については、Citrix Virtual Apps and DesktopsドキュメントのVDAのインストールを参照してください。

概要

ユーザープロファイルを管理する各コンピューターにプロファイル管理をインストールする必要があります。通常、配布ツール、イメージングソリューション、またはストリーミングテクノロ

ジーを使用して、コンピューター上でそのMSIインストーラーを実行します。任意のコンピューターに直接インストールすることもできます。サイレントインストールがサポートされています。

一般的なインストール手順は次のとおりです。

1. MSIインストーラーを実行する。
2. グループポリシーを使用してプロファイル管理を構成するには、ADMXテンプレートファイルをグループポリシーに追加する。

> **注:**
>
> すべてのユーザーコンピューターに同じバージョンのプロファイル管理をインストールすることをお勧めします。また、同じバージョンのADMXテンプレートファイルをグループポリシーに追加してください。このアプローチにより、異なるユーザープロファイルストア構造（異なるバージョンからのもの）が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

MSIインストーラーを実行する

この手順では、単一のコンピューターにプロファイル管理をインストールします。

1. 管理者としてコンピューターにログオンします。
2. インストールパッケージのルートフォルダーにあるMSIインストーラーを実行します。インストールウィザードが表示されます。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了します。
4. コンピューターを再起動します。

インストーラーは、DLLやその他のファイルに加えて、インストール場所（デフォルトでは`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager`）にこれらのファイルを作成します。

ファイル名	説明
UPMPolicyDefaults_all.ini	Profile Management .iniファイル
UserProfileManager.exe	Profile Managementによって管理されているコンピューター上で機能を実行するWindowsサービス

コマンドラインからMSIインストーラーを実行する

コマンドラインからMSIインストーラーを実行すると、ユーザーの操作なしでインストールを完了できます。

コマンドラインインストールでは、以下のインストールオプションも提供されます。

- `/norestart`オプションを使用して再起動を抑制します。

  オペレーティングシステムによっては、コンピューターが再起動するまでProfile Managementが機能しない場合があります。たとえば、Windows 7ワークステーションを再起動する必要はありません。
- 必要に応じて`INSTALLDIR`を指定します。
- Profile Managementの.iniファイルのインストールを防ぐには、`INSTALLPOLICYINIFILES`を`no`に設定します。

  以前のバージョンで.iniファイルを使用しており、その以前の設定をこのバージョンで使用したい場合は、インストール後に各設定をGroup Policy Editorの対応するProfile Managementポリシーに手動で転送してください。
- アップグレードには`OVERWRITEINIFILES=yes`オプションを使用します。詳細については、「Profile Managementのアップグレード」を参照してください。

次の例では、ユーザーインターフェイスと再起動を表示せずにProfile Managementをインストールします。UACが有効になっている場合は、昇格された特権で`msiexec`コマンドを実行します。たとえば、管理者として実行したコマンドプロンプトから実行します。

```
msiexec /i <path to the MSI file> /quiet [/norestart]
[INSTALLDIR=<installation directory>]   [OVERWRITEINIFILES=yes]
[INSTALLPOLICYINIFILES=no]
```

Profile Managementをアンインストールする

この手順は、単一のコンピューターからProfile Managementをアンインストールします。開始する前に、コンピューターの管理者であることを確認してください。

1. データ損失を避けるため、すべてのユーザーがログオフしていることを確認してください。
2. プログラムと機能のインストール済みプログラムの一覧から、**Profile Management**を選択し、**アンインストール**をクリックします。
3. **はい**をクリックします。

4. コンピューターを再起動します。

無人モードでProfile Managementをアンインストールすることもできます。

ADMXテンプレートファイルをグループポリシーに追加する

グループポリシーを使用してProfile Managementを構成する方法に応じて、ADMXテンプレートファイルを*ドメインコントローラー*または*コンピューター*に追加します。

- OU内のコンピューターに対してProfile Managementを一元的に構成するには、すべてのドメインコントローラーにADMXテンプレートファイルを追加します。
- 各コンピューターに対してProfile Managementを個別に構成するには、そのコンピューターにADMXテンプレートファイルを追加します。

インストールパッケージから以下のファイルをコピーし、ドメインコントローラーまたはコンピューター上の場所に貼り付けます。詳細な手順については、以下の表を参照してください。

ファイル名	元 (インストールパッケージ)	先 (ドメインコントローラーまたはコンピューター)
CitrixBase.adml	`\Group Policy Templates\CitrixBase`	`C:\Windows\PolicyDefinitions\<language>` (例: `C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US`)
CitrixBase.admx	`\Group Policy Templates\CitrixBase`	`C:\Windows\PolicyDefinitions`
ctxprofile.adml	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)	`C:\Windows\PolicyDefinitions\<language>` (例: `C:\Windows\PolicyDefinitions\en-US`)
ctxprofile.admx	`\Group Policy Templates\<language>` (例: `\Group Policy Templates\en`)	`C:\Windows\PolicyDefinitions`

ADMX テンプレートファイルの詳細については、この Microsoft 記事を参照してください。

GPO を使用して Profile Management ポリシーを構成する

ADMX ファイルをドメインコントローラーに追加したら、次の手順に従って Profile Management ポリシーを表示および構成します。

1. ドメインコントローラーで、**Active Directory ユーザーとコンピューター**を開きます。Profile Management がインストールされているコンピューターを含む OU を特定します。
2. **グループポリシーの管理**を開き、OU を右クリックし、**このドメインに GPO を作成し、ここにリンク**を選択して、GPO を作成します。

   > **注:**
   >
   > GPO にセキュリティフィルターを適用する場合は、認証済みユーザーグループまたはコンピューターグループのいずれかを使用してください。個々のユーザーのみを含むセキュリティグループは使用しないでください。

3. **グループポリシーオブジェクト**から、新しく作成した GPO を右クリックし、**編集**を選択します。グループポリシー管理エディターウィンドウが表示されます。
4. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート... > Citrix コンポーネント > Profile Management**を選択します。すべての Profile Management ポリシーが表示されます。
5. 必要に応じて Profile Management を構成します。

ローカルGPOでProfile Managementをテストする

本番環境にProfile Managementを展開する前に、テスト環境をセットアップすることをお勧めします。設定をドメイングループポリシーオブジェクト (GPO) に転送するための完全にサポートされた簡単な方法は、マシンへのローカルインストールに基づいています。

一般的なワークフローは次のとおりです。

1. マシンにProfile Managementをインストールします。
2. (/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/plan/configuration.html)に記載されている質問への回答に基づいて、ローカルGPOでProfile Managementポリシーを構成します。
3. (/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/enable.html)。
4. ログオンおよびログオフの動作をテストします。
5. 満足のいく結果が得られるまで、ローカルGPO設定を調整します。

概要

マシンが本番OUのメンバーである場合、ローカルGPOを使用してProfile Managementを安全にテストできます。ローカルGPOポリシーは、OUおよびドメインのGPOが利用できない場合に有効になります。ローカルGPOを使用する場合は、Profile Management GPOが他の場所（たとえば、ドメインやサイト）で使用されていないことを確認してください。

ドメインGPOを使用してグループポリシーを構成できない場合は、ローカルGPOを長期的なソリューションとして使用できます。ただし、この方法では、次のような複雑さが環境に導入されます。

- 各マシンにProfile Management ADMXファイルがインストールされている必要があります。
- ドメインユーザーは、複数のマシンにアクセスする際に設定を維持できない可能性があります。

> **重要：**
>
> ローカルGPOを長期的なエンタープライズソリューションとして使用することはお勧めしません。

ユーザーエクスペリエンスをテストする

プロファイルソリューションを実装する際は、ユーザーがさまざまなマシンからリソースにアクセスする際のユーザーエクスペリエンスの違いを最小限に抑える必要があります。

ユーザーのレジストリとファイルは、物理マシン、プロファイル構成、およびオペレーティングシステムによって異なる場合があります。したがって、ユーザーがローミングするマシンのシステムインストール間の違いに対処するようにProfile Managementを構成する必要があります。

そのためには、本番環境を模倣する方法でリソースへのユーザーアクセスを確認します。これらのリソースには、次のようなものがあります。

- ローカルにインストールされたアプリケーションを持つマシン
- ストリーミングされたアプリケーションまたはローカルにインストールされたアプリケーションを含む仮想デスクトップ
- 仮想アプリサーバーで公開されているか、またはそこからストリーミングされている仮想アプリ
- ターミナルサービスクライアント

オペレーティングシステムのバリエーションをテストする

ユーザーは異なるオペレーティングシステムからアプリケーションにアクセスする場合があります。それらの間のバリエーションは、単一のユーザープロファイル内で競合する設定を作成する可能性があります。

詳細については、プロファイルバージョンを参照してください。

ユーザー ストアを作成する

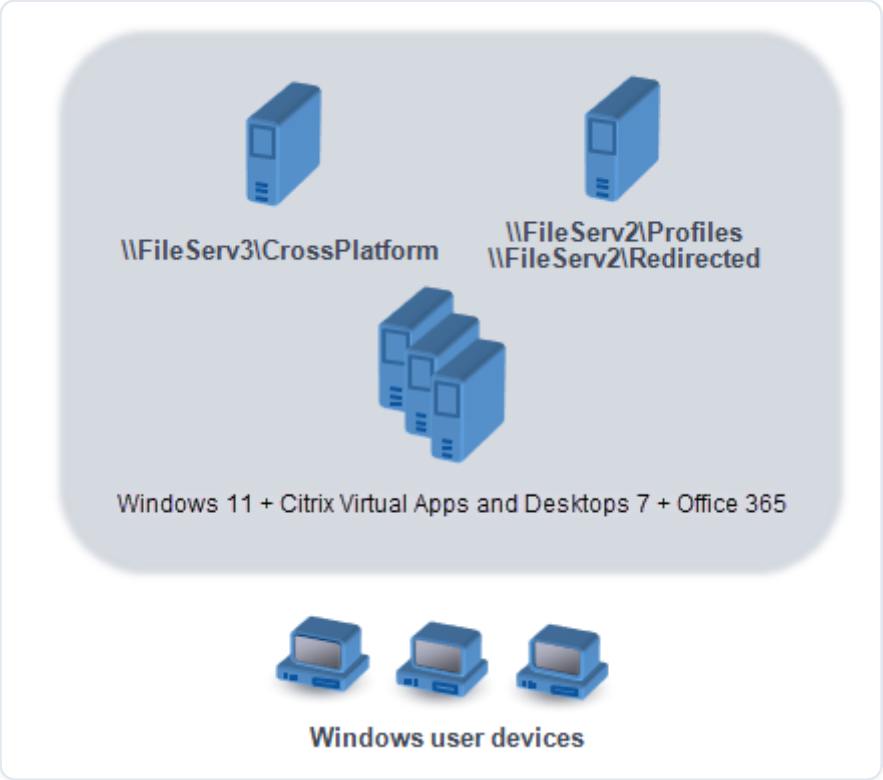
この記事では、組織に最適な方法でユーザー ストアを作成するのに役立ちます。ここに記載されている情報を確認するだけでなく、ユーザー ストアへのパスを可能な限り効率的に構成するようにしてください。たとえば、変数を適切に使用してパスを構成します。その件に関するアドバイスと例については、「ユーザー ストアへのパスを指定する」を参照してください。

ユーザー ストアは、Citrix® ユーザー プロファイルを保存するための中央のネットワーク ロケーションです。

ユーザー ストアには、任意のServer Message Block (SMB) またはCommon Internet File System (CIFS) ファイル共有を使用できます。ベストプラクティスは、以下を確実にすることです。

- 共有が、Citrixユーザープロファイルで使用されるアカウントからアクセス可能であること。
- 共有が、プロファイルデータを保存するのに十分な大きさであること。
- 共有が、ディスクまたはネットワーク障害の場合に堅牢であること。

この図は、リダイレクトされたフォルダー項目、クロスプラットフォーム設定ストア（別のファイルサーバー上）、およびMicrosoft Officeを実行しているWindows 11仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™で公開）のストレージに関連するユーザー ストアの例を示しています。仮想デスクトップにアクセスするユーザーデバイスも参照用に示されています。



安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Webサイトの「ローミングユーザープロファイル用のファイル共有を作成する」という記事で入手できます。これらの最小限の推奨事項は、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティを保証します。また、ユーザーストアへのアクセスを構成する際には、Citrixユーザープロファイルを変更または削除するために必要なAdministratorsグループを含めてください。

展開に複数のプラットフォームが含まれている場合は、「複数のプラットフォームの計画」でバージョン1およびバージョン2のプロファイルタイプに関する情報を確認してください。ユーザー ストアの構造については、「Profile Managementのアーキテクチャ」を参照してください。

注: アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのアクセス制御リスト (ACL) を変更した場合、Profile Managementはそれらの変更をユーザー ストアに複製しません。この動作は、Windowsローミングプロファイルと一貫しています。

詳細については、このビデオをご覧ください詳細はこちら**:**

アップグレードと移行

このセクションでは、Profile Managementソフトウェアをアップグレードする手順と、既存のWindowsユーザープロファイルをCitrixユーザープロファイルに移行するための情報について説明します。たとえば、これらの手順を使用して、バージョン3.xからバージョン5.xに簡単にアップグレードできます。

アップグレードする前に、アップグレード元およびアップグレード先のリリースで利用可能なProfile Managementの機能と設定を理解してください。この情報を確認するには、「Profile Managementのポリシー」を参照してください。.iniファイルからグループポリシーへのアップグレードを容易にするため、このトピックでは.iniファイルの設定を.admおよび.admxファイルの設定にマッピングしています。

アップグレード中にProfile Managementを構成しないでください（グループポリシーまたは.iniファイルのいずれでも）。まず展開をアップグレードし、次に必要に応じて設定を構成することで、これら2つのタスクを分離してください。理想的には、「構成の決定」の質問に答えることで設定を構成します。

ヒント：Profile Management 2.1.1以降の展開は、最新バージョンにアップグレードすることでホットフィックスできます。アップグレード後、必要に応じて以降の機能を有効にできます。

混在展開

異なるバージョンのProfile Managementが共存する展開では、次の操作を行います。

- 混在展開が存在する期間を最小限に抑えます。
- 最新バージョンの.admまたは.admxファイルを、すべてのドメインコントローラー上の各グループポリシーオブジェクトに追加します。すべての新機能が無効になっていることを確認し、新しいポリシーが伝播する時間を確保してください。
- すべてのコンピューターをProfile Managementの最新バージョンにアップグレードしてから、ポリシーを有効にしてください。

バージョン5.xと3.2を含む混在展開はサポートされています。ただし、このような展開は、以前のバージョンから新しいバージョンへの移行中に存在する一時的な状態として扱ってください。

重要： バージョン5.xとバージョン2.1.1以前のバージョン（Citrix Technical Previewまたはベータリリースを含む）が混在する展開はサポートされていません。ただし、アップグレードできず、これらのバージョンが展開内で共存する必要がある場合は、このトピックの残りの部分が役立つかもしれません。

Profile Management 2.1.1以前を含む混在展開

このトピックの残りの部分では、Profile Management 2.1.1以前とProfile Management 3.xまたは5.xの共存に関する情報が含まれています。あるバージョンから別のバージョンへ移行する方法について説明します。このトピックでは、これらのバージョンの略語としてバージョン2とバージョン5が使用されています。

各バージョンを別々のOUに分離し、各バージョンを実行しているコンピューター用に別々のユーザーストアを維持します。あるいは、単一のユーザーストアが両方のバージョンを実行しているコンピューターにサービスを提供する場合、すべてのコンピューターがバージョン5にアップグレードされるまで、すべてのバージョン5の設定が無効になっていることを確認してください。「混在」ユーザーストアでバージョン4の設定を有効にした後でも、ユーザーはバージョン2を実行しているコンピューターにログオンできます。ただし、一時的なWindowsユーザープロファイル（ネットワーク上のCitrix®ユーザープロファイルではない）を受け取り、そのプロファイルに行った変更は保存されません。混在展開は一時的なものと見なし、アップグレードを完了するまでの期間を最小限に抑える必要があります。

個別のOUとユーザーストアを使用すると不便な場合があります。これらの制約を回避するには、以下の2つの戦略のいずれかを使用できます。Profile Managementの適切なバージョンで、設定を使用して各グループを構成します。戦略2は戦略1よりも手間がかかります。前者の場合、バージョン5の処理済みユーザーグループを更新し続けることになります。また、2組のアプリケーションとデスクトップを維持します（ただし、Citrix Virtual Apps™からアプリケーション定義をエクスポートすることで自動化できます）。利点は、移行に時間をかけることができる点です。

注：以下の戦略の代替として、Windows Server 2008 Active Directoryでは、WMIフィルタリングを使用してGPOをOU内のコンピューターのサブセットに適用し、どのバージョンのProfile Managementがインストールされているかを判断できます。これにより、適用されるポリシーをバージョンに合わせて自動的に調整できます。

戦略1：一度限りの移行

このシナリオでは、ある程度のダウンタイムが許容されることを前提としています。すべてのコンピューターが同時に移行されます。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。
2. すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの**無効**に依存しないでください。
3. すべてのコンピューターをバージョン2からバージョン5にアップグレードし始めます。これを通常のメンテナンスおよび更新スケジュールに組み込みます。1つの例外を除き、バージョン5は、バージョン5の設定を有効にするまでバージョン2として機能します。例外は次のとおりです。これはまれですが、このアップグレード手順が長期間にわたって段階的に行われる場合に発生する可能性が高くなります。ユーザーが複数のサーバーからCitrixユーザープロファイルにアクセスすると、複数のバージョン4セッションが作成されます。たとえば、最初にワークステーションを使用してあるサーバー上の仮想デスクトップにアクセスし、次にラップトップを使用して別のサーバー上の公開アプリケーションにアクセスします。Profile Managementは、2番目のラップトップセッションに保留領域を使用する必要があります。この時点で、OU全体がバージョン5の展開として扱われます（ただし、バージョン5の機能は何も構成されていません）。そして、PmCompatibility.iniがこの変更を反映するように更新されます。
4. オプションで、バージョン5の処理済みユーザーグループに小規模なパイロットグループのメンバーのみを含めるように設定します。ADグループポリシーの変更がネットワーク全体に伝播するのを待ちます（たとえば、週末にかけて）。この変更が行われている間、他のユーザーのアクセスを妨げる必要はありません。パイロットグループのプロファイルをバックアップします。その後、パイロットグループにProfile Managementをテストさせます。
5. パイロットグループの結果に満足したら、他のユーザーのプロファイルをバックアップしていることを確認します。
6. 次のスケジュールされたメンテナンス期間を使用して、残りのユーザーをバージョン5の処理済みユーザーグループに追加します。ADグループポリシーの変更が伝播するのに十分な時間を確保し、残りのユーザーがログオンできるようにします。

戦略2：段階的な移行

このシナリオでは、すべてのマシンまたはユーザーを一度に新しいバージョンに移行できないため、ユーザーのサブセットをバッチで移行することを選択します。複数のデータセンターや地理的に分散したユーザーがいる展開に適しています。

移行戦略は次のとおりです。

1. バージョン2のADMファイルをバージョン5のファイルに置き換えます。後者は以前のバージョンと互換性があるため、バージョン2のコンピューターは引き続き正常に動作します。

2. すべてのバージョン5設定が無効になっていることを確認します。デフォルトの「無効」に依存しないでください。
3. いくつかのコンピューター（最初のバッチ）をバージョン5にアップグレードします。または、新しいコンピューターにバージョン5をインストールします。デフォルトでは、バージョン5で処理されるユーザーグループには空のグループが含まれているため、どのユーザーもバージョン5ユーザーとして処理されません。フェーズ移行でコンピューターをアップグレードする場合にも適用される可能性がある、戦略1で説明されている例外に注意してください。
4. バージョン5コンピューターから新しいアプリケーション（Citrix Virtual Appsを使用）または仮想デスクトップ（Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktops™を使用）を公開します。これらのアプリケーションとデスクトップは、名前を除いて、以前にバージョン2コンピューターから公開されたものと同じです。これらの名前は、バージョン5ユーザーが使用するためのものであることを示します。
5. このバッチで選択されたユーザーは、アプリケーションまたはデスクトップにログオンします（たとえば、Web Interfaceを使用）。彼らは新しいアプリケーションを選択します。（ユーザー名またはグループメンバーシップに基づいて、Web Interfaceを使用してこの手順を強制します）。その結果、セッションはバージョン4コンピューターで実行されますが、バージョン2の設定で処理されます。
6. すべてのユーザープロファイルをバックアップしていることを確認してください。
7. ユーザーをバージョン2処理済みユーザーグループからバージョン4グループに移動します。ADグループポリシーの変更がバージョン5コンピューターに伝播するのを待ちます。次回ログオンすると、ユーザーのセッションはバージョン5の設定で処理されます。
8. 前述のとおり、次のバッチのコンピューターをアップグレードし、次のバッチのユーザーを移行します。

Profile Management のアップグレード

この記事では、Active Directory を使用して Profile Management 展開をアップグレードする方法について説明します。

重要: このアップグレードプロセスでは、手順の順序に従うことが重要です。新しい .adm または .admx ファイルをグループポリシーに追加した後にのみ、すべてのコンピューターでソフトウェアをアップグレードしてください。事前にアップグレードすると、ログファイルが2つの場所に保存される可能性があります。1つは古いバージョンのログファイルを含み、もう1つは新しいバージョンのファイルを含みます。この考慮事項は、特に Citrix virtual desktops™ 展開に影響します。

また、アップグレードはスケジュールされたメンテナンス期間中に行うことも重要です。または、Active Directory のレプリケーションによって変更が展開全体に伝播される時間帯にアップグレードしてください。通常、アップグレードには最大24時間かかることがあります。

アップグレードプロセスには以下が含まれます。

1. グループポリシーオブジェクト（GPO）を作成し、新しい .adm または .admx ファイルを新しい GPO に追加する

   \- または -

   この記事の後半で説明するように、既存の .adm または .admx ファイルをアップグレードする.
2. この記事の後半で説明するように、すべてのコンピューターで .msi ファイルをアップグレードする.
3. GPO を適用する.

既存の .adm ファイルをアップグレードするには

以前のバージョンの Profile Management .adm ファイルがグループポリシーに存在する場合、以下の手順を使用してアップグレードできます。アップグレード時に、以前のバージョンのすべてのポリシー設定が保持されます。

1. ドメインコントローラーで、次のいずれかを実行します。

   - 既存の .adm ファイルをインポートします。このファイルは、ダウンロードパッケージの GPO_Templates フォルダーにあります。
   - ダウンロードパッケージの GPO_Templates フォルダーから .admx ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions` フォルダーにコピーし、.adml ファイルを `C:\Windows\PolicyDefinitions\<localized` フォルダーにコピーします\>。たとえば、英語のオペレーティングシステムでは、\<localized folder\> は en-US です。
2. Profile Management を構成するために使用するコンピューターで、グループポリシーオブジェクトエディターを開きます。
3. グループポリシーオブジェクトエディターで、**管理用テンプレート**を右クリックし、**テンプレートの追加と削除**を選択します。
4. 既存の Profile Management .adm ファイルのバージョン (例: ctxprofile5.4.1) を選択し、**削除**をクリックしてから**閉じる**をクリックします。管理用テンプレート\Citrix フォルダーが削除されます。
5. **管理用テンプレート**を右クリックし、もう一度**テンプレートの追加と削除**を選択します。

6. **追加**をクリックし、新しいバージョンの .adm または .admx ファイルの場所 (例: ctxprofile5.5.0) を参照して選択し、**閉じる**をクリックします。新しいファイルがインポートされますが、古い設定は保持されます。

.msi ファイルをアップグレードするには

すべてのユーザーデバイスに同じバージョンの Profile Management をインストールし、その同じバージョンの .adm または .admx ファイルをすべてのドメインコントローラーの各グループポリシーオブジェクトに追加することをお勧めします。これにより、異なるユーザープロファイルストア構造 (異なるバージョンからのもの) が存在する場合に発生する可能性のあるプロファイルデータの破損を防ぐことができます。

新しい設定を有効にする前に、すべてのコンピューターを最新バージョンの Profile Management にアップグレードすることをお勧めします。使用しているバージョンで設定が新しいかどうかを確認するには、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

1. アップグレードするコンピューターからすべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. 各コンピューターで .msi ファイルを実行して、既存のバージョンに新しいバージョンの Profile Management をインストールします。詳細については、「インストールとセットアップ」を参照してください。

.ini ファイルをアップグレードするには

Profile Management の以前のバージョンで .ini ファイルを編集し、新しいバージョンにアップグレードします。ソフトウェアはファイルが編集されたことを検出し、デフォルトでは上書きしません。既存の .ini ファイルの設定を保持し、新しいバージョンの新しい設定を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しいバージョンの .ini ファイルから新しい設定を、既存の編集済み .ini ファイルに手動で追加します。
- 既存の編集済みバージョンの .ini ファイルのコピーを保存します。アップグレード中にファイルを強制的に上書きするには、コマンドラインオプション OVERWRITEINIFILES=yes を使用します。保存した設定をアップグレードされた .ini ファイルに追加します。例:

  ```
  msiexec /i <path to the MSI file> /quiet [INSTALLDIR=<installation directory>] [OVERWRITEINIFILES=yes] [INSTALLPOLICYINIFILES=no]
  ```

> **注**

HDX™ を介して Profile Management ポリシーを構成するには、次の操作を行う必要があります。

- Delivery Controllerをアップグレードします。その理由は、HDXがXenAppおよびXenDesktopのレイアウト`image-full\x64\Citrix Desktop Delivery Controller`にあるUserProfileManager_PowerShellSnapIn.msiファイルからProfile Managementポリシー設定を読み取るためです。
- Profile Managementの最新バージョンを入手するためにVDAをアップグレードします。

その他のリソース

- Profile Managementポリシー
- インストールとセットアップ

ユーザープロファイルを移行する

この記事では、次の2つの移行ワークフローについて説明します。

- Citrix®コンテナベースのプロファイルソリューションへの移行
- Windowsローミングプロファイルソリューションへの移行

移行戦略の詳細については、「アップグレードと移行」を参照してください。

Citrixコンテナベースのプロファイルソリューションへの移行

Profile Managementインストールパッケージに含まれる移行ツールを使用して、次のプロファイルソリューションからCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションにユーザープロファイルを移行できます。

- Windowsローカルプロファイルソリューション
- Citrixファイルベースのプロファイルソリューション
- FSLogix プロファイルコンテナ
- Windowsローミングプロファイルソリューション

移行ワークフロー

現在のプロファイルソリューションをCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションに移行するには、次の手順に従います。

1. ストレージサーバー上にCitrixユーザーストアをセットアップし、そのWindowsアクセス制御リスト（ACL）を構成します。

   詳細については、「ユーザーストアの作成」を参照してください。

2. Profile Managementに付属の移行ツールを使用してユーザープロファイルを移行します。

   詳細については、例：FSLogix Profile Container のユーザープロファイルを移行するを参照してください。

3. お使いのマシンにProfile Managementをインストールします。

   詳細については、インストールとセットアップを参照してください。

4. 特定のProfile Managementポリシーを構成して、コンテナベースのプロファイルソリューションをセットアップします。基本的なワークフローは次のとおりです。

   a. Profile Managementを有効にする

   b. ユーザーストアへのパスを指定します (ユーザーストアへのパス)。

   c. ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にします (プロファイルコンテナ)。

   プロファイルコンテナの詳細設定については、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナを参照してください。

5. (FSLogix Profile Containerの場合) マシンでFSLogix Profile Containerを無効にします。無効にしないと、Citrixコンテナベースのソリューションが正常に機能しません。詳細な手順は次のとおりです。

   a. **レジストリエディター**で、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\FSLogix\Profiles`に移動します。

   b. **Enabled** を **0** に設定します。

例：FSLogix Profile Containerのユーザープロファイルを移行する

このセクションでは、VHDXベースのFSLogix Profile ContainerからCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションにユーザープロファイルを移行する方法について詳しく説明します。

開始する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- ストレージサーバー上にCitrixユーザーストアをセットアップし、そのWindowsアクセス制御リスト (ACL) を構成していること。
- FSLogix Profile ContainerのVHDXの場所を把握していること。

- ドメイン管理者の資格情報を持っている必要があります。

詳細な手順は次のとおりです。

1. ドメイン管理者アカウントを使用してマシンにログオンします。
2. 管理者として **Windows PowerShell ISE** を実行します。
3. PowerShellコンソールで、Profile Managementインストールパッケージ内の **\tool** フォルダーにアクセスし、**CPM_ProfileContainer_Migration_Tool.ps1** を実行します。
4. プロンプトが表示されたら、移行タイプ **3** を選択します。これは、FSLogix Profile Container (VHDX) からCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションへのユーザープロファイルの移行を表します。
5. 移行するユーザーとグループをコンマで区切って入力します。例: `<DOMAIN NAME>\<USER NAME1>,<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME1>`
6. FSLogix Profile ContainerのVHDXの場所を入力します。
7. Citrix VHDXストアへのパスを入力します。

   > **注:**
   >
   > - Citrix VHDXストアとして、Citrixユーザーストアまたは別のネットワークストレージを使用できます。
   > - すべての変数の中で、`%USERNAME%` のみがサポートされています。

8. マシンのWindows OSバージョンを短縮名で指定します。Windows OSバージョンの短縮名については、Profile Management policies を参照してください。

   > **注:**
   >
   > 指定されたOSタイプのユーザープロファイルのみが移行されます。
   >
   > 完了すると、移行結果が画面に表示されます。

Windowsローミングプロファイルへの移行

Citrixユーザープロファイルはいつでも Windowsローミングプロファイルに移行できます。プロファイルデータを、ローミングプロファイルが保存されているネットワークの場所に移動します。移行後、Profile Managementはユーザーログオンやアプリケーション設定の処理に関与しません。

1. すべてのユーザーがログオフしていることを確認します。
2. ソフトウェアが管理するすべてのコンピューターから、プロファイル管理サービスを削除します。
3. ユーザーストアで、`\UPM_Profile` の内容をローミングプロファイルの場所に移動します。クロスプラットフォーム設定ストアの内容を移動する必要はありません。
4. (バージョン1プロファイルのみ) `\UPM_Profile` のすべてのサブフォルダーから _upm_var サフィックスを削除します。 注：スクリプトを使用すると、この手順が簡素化される場合があります。

構成

このトピックでは、展開要件を満たすようにProfile Managementポリシーを構成する方法について説明します。

構成の優先順位

Group Policyと.iniファイルを使用してProfile Managementを構成できます。構成設定は次のように適用されます。

1. Group Policyで定義された設定が優先されます。ポリシー設定が**未構成**に設定されている場合にのみ、.iniファイルが照会されます。

   注：

   - Group Policy Object (GPO)を組織単位内のサイトやドメインに選択的に適用する場合、さらに優先順位が適用されます。Group Policy: Filtering and Permissionを参照してください。ドメインおよびOUのGroup Policyは、ローカルポリシーよりも優先されます。
   - Workspace Environment Management™ (WEM)を使用してProfile Managementを構成する場合、WEMはGPOと同じ優先順位レベルで設定を適用します。

2. ポリシーによって設定が定義されていない場合、Profile Managementは.iniファイルから設定を読み取ろうとします。
3. 設定がGroup Policyまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト設定が使用されます。

Group Policyと.iniファイルで同じ設定を異なる方法で構成したい場合があります。たとえば、Group Policy設定でデフォルトのログ記録を有効にし、トラブルシューティングに使用するコンピューターで.iniファイルを使用して詳細なログ記録を有効にする場合などです。

Profile Management .iniファイルについて

デフォルト構成

Profile Managementには、.iniファイルに保存されたデフォルト構成が付属しています。このファイルは、Profile Management Serviceが認識できるようにインストールフォルダーに配置する必要があります。デフォルト構成はほとんどの環境に適しています。すべてのグループのすべてのユーザーのプロファイルを処理します。

Windows XPまたはWindows Server 2003で実行されているProfile Managementの非英語展開を使用している場合は、UPMPolicyDefaults_all.iniを使用して.iniファイルの適切な言語バージョンを作成する必要があります。このファイルのコピーを言語に合わせて名前変更し（例：スペイン語の場合はUPMPolicyDefaults_all_es.ini）、フォルダー名をローカライズします。以下のファイル名を使用してください。

- フランス語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_fr.ini
- ドイツ語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_de.ini
- スペイン語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_es.ini
- 日本語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_ja.ini
- 簡体字中国語オペレーティングシステムの場合、UPMPolicyDefaults_all_zh-CN.ini

.iniファイルを変更する

.iniファイルにエントリを追加する場合は、変数と値が正しい形式であることを確認してください。

フラグ（オン/オフインジケーター）は、次の形式である必要があります。

```
<variable>=<value>
```

値が1の場合、設定が有効になり、それ以外の値または値がない場合は無効になります。たとえば、次のエントリは`ServiceActive`設定を有効にします:

```
ServiceActive=1
```

次のいずれかのエントリは、設定を無効にします。

```
ServiceActive=ON

ServiceActive=OFF

ServiceActive=TRUE

ServiceActive=FALSE

ServiceActive=
```

リストエントリは、次の形式である必要があります。

```
<value>=
```

次のエントリは、同期するMicrosoft Officeファイルを指定します。

```
[SyncFileList]

AppData\Local\Microsoft\Office\*.OfficeUI
```

グループポリシー設定の変更は、ターゲットコンピューターで手動または自動のポリシー更新が行われたときに有効になります。.iniファイルの変更は、推奨されるコマンド **gpupdate /force** を発行したときに有効になります。または、ターゲットコンピューターでProfile Management Serviceを再起動したときに変更が有効になります。

プロファイル管理を有効にする

既定では、展開を容易にするため、プロファイル管理はログオンまたはログオフを処理しません。プロファイル管理は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix®ユーザープロファイルが環境でどのように機能するかをテストした後でのみ有効にしてください。

グループポリシーを使用してプロファイル管理を有効にするには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理**で、**プロファイル管理を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルを使用してプロファイル管理を有効にすることもできます。そのためには、次の手順に従います。

1. プロファイル管理がインストールされているマシンで、`C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager\UPMPolicyDefaults_all.ini`に移動します。
2. メモ帳を使用してUPMPolicyDefaults_all.iniを開きます。
3. 設定を編集して、特定の要件を反映させます。

この設定がグループポリシーで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルのいずれでも構成されていない場合、プロファイル管理はWindowsユーザープロファイルを一切処理しません。

次の方法でプロファイル管理を有効にすることもできます。

- Citrix Studio。Citrix Studioを使用してプロファイル管理を有効にする方法については、Knowledge Centerの記事CTX222893を参照してください。
- Workspace Environment Management (WEM)。WEMを使用してプロファイル管理を有効にする方法については、Knowledge Centerの記事CTX229258を参照してください。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

このビデオで詳細を確認してください:



ユーザー ストアへのパスを指定する

ユーザー ストアへのパスを指定する前に、 Profile Management architecture を参照し、展開に関連する場合は、次の影響を理解してください。

- 多言語プロファイルの保存
- 含める項目と除外する項目を組み合わせる

1. Profile Management で、 ポリシーをダブルクリックします。
2. を選択し、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されるディレクトリ（ユーザー ストア）へのパスを入力します。

パスは次のいずれかです。

- **相対パス**。このパスはホームディレクトリに対する相対パスである必要があります。ホームディレクトリは通常、Active Directory (AD) のユーザーの #homeDirectory# 属性として構成されます。
- **UNC パス**。このパスは通常、サーバー共有または DFS 名前空間を指定します。
- **無効または未構成**。この場合、`\#homeDirectory#\Windows` の値が想定されます。

この設定には、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: %ProfVer%）。システム環境変数には通常、追加のセットアップが必要です。詳細については、(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/plan/administer.html) を参照してください。
- ハッシュで囲まれた AD ユーザー オブジェクトの属性（例: #sAMAccountName#）。
- Profile Management 変数。詳細については、(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/policies/settings.html) を参照してください。

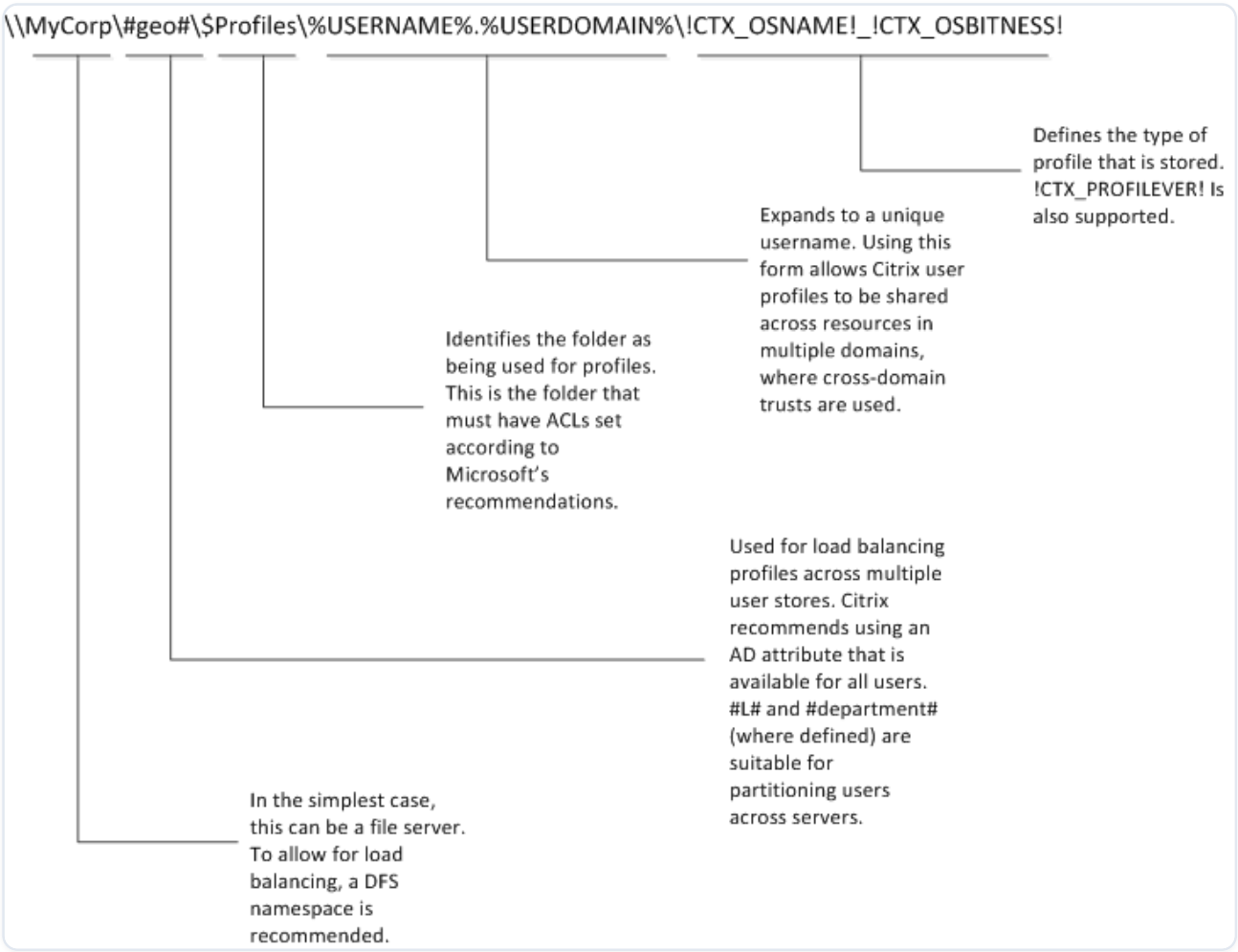
ユーザー環境変数は、`%username%` および `%userdomain%` を除き、使用できません。場所やユーザーなどの組織変数を定義するために、カスタム AD 属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定を UNC パス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの #sAMAccountName# が JohnSmith に解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、この設定がNTUSER.DATを含むフォルダーの1つ上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile` に含まれている場合、ユーザー ストアへのパスを `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に設定します（`\UPM_Profile` サブフォルダーではありません）。

この図は、AD属性、環境変数、およびProfile Management変数を組み込んだ、ユーザー ストアへの一般的なパスのコンポーネントを示しています。



ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーでCitrixユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリのWindowsサブディレクトリに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ホームドライブのWindowsディレクトリが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

自動構成を使用する

自動構成は、Profile Management の展開を簡素化するのに役立ちます。Citrix 環境に基づいて推奨されるポリシー設定が自動的に適用されるため、 手動での構成が減り、パフォーマンスが向上します。

仕組み

Profile Management は、実行時に環境を評価し、それに応じてポリシー設定を調整します。次のような要素を確認します。

- Windows OS のバージョン
- Citrix Virtual Desktops およびパーソナル vDisk の有無
- インストールされているアプリケーション（例：Microsoft 365 Apps）
- 既存の Citrix Profile Management (CPM) ポリシー設定

自動構成は、ポリシーを次の2つの方法で調整します。

- カスタマイズが保持されるポリシー
- カスタマイズが上書きされる可能性があるポリシー

カスタマイズが保持されるポリシー

Profile Management は、以下のポリシーが に設定されている場合にのみ調整します。カスタム設定は変更されません。

- アクティブライトバック
- 常にキャッシュする
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する
- キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延
- プロファイルストリーミング

カスタマイズが上書きされる可能性のあるポリシー

プロファイル管理は、スタートメニューのローミングやMicrosoft 365の資格情報のローミングなどの機能との互換性を確保するために、以下のポリシーを調整する場合があります。

- ミラーリングするフォルダー
- 除外リスト - ディレクトリ、除外リスト - ファイル
- 同期するディレクトリ、同期するファイル

- プロファイルコンテナーから除外するフォルダー、プロファイルコンテナーに含めるフォルダー
- 除外リスト (レジストリ)、既定の除外リスト (レジストリ)
- プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ

表: 自動構成による調整

条件	機能サポート	構成の変更
ファイルベースのプロファイルソリューションまたは**コンテナベースのプロファイルソリューション**で**プロファイルコンテナのローカルキャッシュ**が有効になっている場合	スタートメニューのローミング。詳細については、「スタートメニューのローミングのベストプラクティス」を参照してください。自動構成を無効にすると、スタートメニューに問題が発生する可能性があります。	• 「**ミラーするフォルダー**」と「**同期するディレクトリ**」に `AppData\Local\Packages` と `AppData\Local\Microsoft\Windows\Caches` を追加します。「**除外リスト - ディレクトリ**」からこれらのパスを削除します。 • 「**同期するファイル**」に `AppData\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.Dat*` を追加します。「**除外リスト - ファイル**」からこのパ

条件	機能サポート	構成の変更
		スを削除します。
	OneDrive同期を防止します。詳細については、「Profile Managerおよび仮想デスクトップでのMicrosoft OneDrive使用時の制限事項」を参照してください。	**「除外リスト - ディレクトリ」**に`OneDrive`と`OneDrive -*`を追加します。
	アイテムまたはその親ディレクトリが除外されている場合でも、ミラーフォルダーが常に有効になるようにします。	**「ミラーするフォルダー」**内のすべてのアイテムを**「同期するディレクトリ」**に追加します。
前述と同じプロファイルソリューションであり、`AppData\Local\Microsoft\OneNote`とそのサブパスが**「除外リスト - ディレクトリ」**に含まれていない場合	OneNoteキャッシュフォルダーの同期	**「ミラーするフォルダー」**と**「同期するディレクトリ」**に`AppData\Local\Microsoft\OneNote`を追加します。
前述のプロファイルソリューションと同じで、Office 365がインストールされている	Office 365の資格情報ローミング。自動構成を無効にすると、Office 365の資格情報ローミングで問題が発生する可能性があります。（新しいユーザーセッションを開始するときに、Office 365の	次のパスを**ミラーするフォルダー**と**同期するディレクトリ**に追加し、これらのパスを**除外リスト - ディレクトリ**から削除します。

条件	機能サポート	構成の変更
	資格情報を再入力する必要がある場合があります。）	• `AppData\Local\Packages` • `AppData\Local\Microsoft\Windows\Caches` • `AppData\Local\Microsoft\Credentials` • `AppData\Local\Microsoft\IdentityCache` • `AppData\Local\Microsoft\OneAuth` • `AppData\Local\Microsoft\TokenBroker` • `AppData\Local\Microsoft\Vault` • `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies` • `AppData\Roaming\Microsoft\Credentials` • `AppData\Roaming\Microsoft\Crypto`

条件	機能サポート	構成の変更
		• `AppData\Roaming\Microsoft\Protect` • `AppData\Roaming\Microsoft\SystemCertificates` • `AppData\Roaming\Microsoft\Vault` • `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`
コンテナベースのプロファイルソリューションで、**プロファイルコンテナのローカルキャッシュ**が無効になっている場合	プロファイルコンテナ全体が有効になっている場合にAutoCADを開けない問題の回避策	`AppData\Local\Temp`、`AppData\Roaming\Autodesk\AutoCAD 2025*`、および `AppData\Local\Autodesk\AutoCAD 2025*`を**プロファイルコンテナから除外するフォルダ**に追加します。 **注:** `*`は、**BindLinkリダイレクトを有効にする**が無効になっている場合にのみこの項目が追加されることを示します。
App-Vが無効になっている	App-Vレジストリ統合を無効にする	`Software\Microsoft\AppV\Client\In`

条件	機能サポート	構成の変更
		`tegration` と `Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing` を**除外リスト (レジストリ)** および **デフォルトの除外リスト (レジストリ)** から削除します。
OneDriveコンテナが有効になっている	OneDrive SSOローミング。自動構成を無効にすると、**OneDriveコンテナ**のSSOで問題が発生する可能性があります。	`AppData\Local\Packages\Microsoft.AAD.BrokerPlugin_cw5n1h2txyewy` を**ミラーするフォルダと同期するディレクトリ**に追加します。このパスを**除外リスト**から削除します。
デスクトップOSで**フォルダのプロファイルストリーミング**が有効になっている	フォルダリダイレクト移行の回避策。たとえば、フォルダリダイレクトのAppData (Roaming)が新しく有効になった場合、一部のファイルが新しい場所に正しく移動せず、エクスプローラーのクイックアクセスで問題が発生する可能性があります。	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Recent` と `AppData\Roaming\Microsoft\Internet Explorer\Quick Launch\User Pinned\TaskBar` を**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**に追加します。

自動構成の管理

自動構成はデフォルトで*有効*になっています。トラブルシューティングを行う場合や、高度なカスタマイズを適用する場合にのみ無効にしてください。

自動構成を無効にするには、次の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**に移動します。
3. **自動構成を無効にする**を開きます。
4. **有効**を選択します。
5. **OK**を選択して変更を保存します。
6. 影響を受けるマシンで`gpupdate /force`を実行します。
7. 変更を有効にするには、ログオフしてから再度ログオンします。

トラブルシューティング

自動構成に関連する問題のトラブルシューティング、またはProfile Managementの問題のトラブルシューティングが必要な場合は、自動構成を無効にして、必要な設定を手動で構成します。

1. 自動構成の管理の手順を使用して、自動構成を無効にします。
2. 前の表のガイダンスに基づいてポリシー設定を更新します。
3. 影響を受けるマシンで`gpupdate /force`を実行します。
4. 変更を適用するには、ユーザーをログオフさせてから再度ログインさせてください。

ファイルベースのプロファイルソリューションの項目を含める/除外する

> **注：**
>
> この記事では、ファイルベースのプロファイルソリューションに焦点を当てています。コンテナベースのプロファイルソリューションに相当するポリシーの詳細については、「プロファイルコンテナのセットアップ」を参照してください。

> この記事では、Profile Management がファイルベースのプロファイルソリューションのユーザープロファイルから項目を含めたり除外したりするプロセスについて説明します。ユーザーのログオンおよびログオフエクスペリエンスを向上させるために、デフォルトの包含リストまたは除外リストを変更することを決定した場合は、このプロセスを理解していることを確認してください。この変更が必要かどうかを判断するには、「使用中のアプリケーション」を参照してください。

たとえば、Microsoft Word は高度にカスタマイズ可能で頻繁に使用されるアプリケーションであり、アクセス方法に関わらずローミングユーザーに同じエクスペリエンスを提供する必要があるため、含めることができます。逆に、一部のグループではめったに使用されないエンタープライズアプリケーションは、ログオンおよびログオフのたびにプロファイルデータをダウンロードする必要がないため、除外することができます。

デフォルトでは、ローカルプロファイル内のすべてのファイルとフォルダーはユーザーストアと同期されます。同期したくないファイルとフォルダーは、除外リストに追加することで指定できます。フォルダーを除外した場合でも、同期したいサブフォルダーは包含リストに追加することで指定できます。

含めることができるものと除外できるもの：

- プロファイル内に含まれるファイルとフォルダー。
- 個人設定を保存するHKCUハイブのレジストリエントリ。HKLMハイブのエントリはデフォルトでは処理されず、そのように構成することもできません。

> **注：**
>
> Profile Management バージョン 2407 以降、レジストリの除外および包含ポリシーは、*ファイルベース*と*コンテナベース*の両方のプロファイルソリューションに適用されます。

項目を含める/除外する前に

ユーザープロファイルの内容を調整する前に、組み込みのWindowsパフォーマンス監視（Perfmon）カウンターのセットを使用することを検討してください。これらはプロファイルの動作に関する洞察を提供します。利用可能なカウンターには、プロファイルサイズとローカルコンピューターでCitrix®ユーザープロファイルを作成するのにかかる時間の測定値が含まれます。

プロファイルをローカルにキャッシュするかどうか（Profile Management を実行するコンピューター上）を決定する必要がある場合があります。この決定に影響する要因には、展開内のCitrix製品、ローカルコンピューターで利用可能なスペース、および展開内のユーザー数があります。

ファイルとフォルダー

含まれるフォルダー名と除外されるフォルダー名はすべて言語固有です。ただし、ユーザーストア内のフォルダー名は、オペレーティングシステムの言語に依存しない形式です。

オペレーティングシステムによってローカルとして扱われるディスク上のファイルまたはフォルダーを同期できます。ネットワークマップされたドライブ上のファイルまたはフォルダーは同期できません。

レジストリ

既存のユーザーの場合、HKCUハイブ全体がユーザーストアにコピーされます。新規ユーザーの場合、Microsoftのローカル、移動、デフォルト、またはテンプレートプロファイルのハイブがコピーされます。ユーザーストアに変更が加えられると、ハイブにインクルージョンが追加され、エクスクルージョンが削除されます。

不要なキーを含むテンプレートプロファイルがある場合は、SepagoのProfile Nurseなどのツールを使用して、それらをユーザーストアから削除してください。

除外について

除外はログオン時ではなくログオフ時に処理されます。これらはユーザーストアからデータを削除するのではなく、新しいデータが書き込まれるのを防ぎます。

デフォルトの除外を除けば、通常、Profile Managementを最初に展開するときにアイテムを除外する必要はありません。その後、アプリケーションのパフォーマンスを追跡し、ユーザーからのフィードバックを収集するにつれて、複数のアプリケーションの設定が競合する場合や、不要な設定の収集によりユーザーのNTUSER.DATファイルが大きくなった場合に、アイテムを除外する必要があるかもしれません。

リダイレクトされたフォルダーを除外として追加しないでください。

重要： Citrixでは、`AppData\LocalLow`フォルダーを同期から除外することを推奨しています。デフォルトの構成では、除外リストにはすでに`AppData\LocalLow`が含まれています。さらに、`AppData\Local`フォルダーから一部のコンテンツを除外することも選択できます。`AppData\LocalLow`または`AppData\Local`を除外しない場合、大量のデータがネットワーク経由で転送され、ユーザーはログオン遅延を経験する可能性があります。これらのフォルダーは、標準のWindows移動プロファイルでは同期されません。

包含と除外のルール

Profile Managementがファイル、フォルダー、およびレジストリキーを包含および除外する際に、以下のルールが使用されます。

1. すべてのアイテムはデフォルトで含まれます
2. 同じパスが包含と除外の両方として構成されている場合、包含が優先されます

3. 同じフォルダー内では、包含が除外よりも優先されます
4. フォルダ階層の上位にある除外よりも、包含が優先されます。
5. フォルダ階層の上位にある包含よりも、除外が優先されます。

これらのルールにより、合理的で直感的な動作が実現されます。すべての項目はデフォルトで含まれます。その出発点から、最上位の例外を除外として構成し、次に、最上位の例外に対するより深い例外を包含として構成し、以降同様に設定できます。

デフォルトの包含と除外

> **注:**
>
> デフォルトの包含と除外は、ファイルベースのプロファイルソリューションにのみ適用されます。

> このトピックでは、Profile Managementが処理に含めるデフォルトの項目と除外するデフォルトの項目について説明します。展開内のアプリケーションによっては、追加の（デフォルト以外の）項目が必要になる場合があります。含めるまたは除外する追加項目を決定するには、「使用中のアプリケーション」を参照してください。

重要：.iniファイルではなくグループポリシーを使用する場合（または、.iniファイルでのテストが成功した後にグループポリシー展開を展開する場合）、インストールされている.iniファイルとは異なり、.admまたは.admxファイルではデフォルトで項目が包含または除外されません。デフォルトの項目は手動でファイルに追加する必要があります。これらの項目は、このトピックの表に示されています。以下に注意してください。

- .iniファイルと.admまたは.admxファイルの設定名をマッピングし、Profile Management変数（例：\!ctx_internetcache\!）がどのように展開されるかを理解するには、Profile Managementポリシーを使用します。
- .iniファイルから包含と除外を貼り付ける際は、各項目の末尾の=（等号）を削除してください。
- 包含と除外の先頭にバックスラッシュを追加しないでください。

レジストリ包含リスト

デフォルト値
空

レジストリ除外リスト

デフォルト値
`Software\Microsoft\AppV\Client\Integration=`
`Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing=`
`Software\Microsoft\Speech_OneCore=`

注: Microsoft App-V を使用している場合、この除外は正しくなく、 Profile Management と App-V に記載されているように、異なる除外が必要です。

フォルダー包含リスト

デフォルト値
空

プロファイル内のすべてのフォルダーは、デフォルトで含まれます。

フォルダー除外リスト

この表のフォルダーは同期から除外されます。

デフォルト値
!ctx_internetcache!=
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cache=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\Cached Theme Images=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIcons=`
`\\!ctx_localappdata!\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsOld=`

デフォルト値
`\\!ctx_localappdata!\GroupPolicy=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\AppV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Messenger=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Office\15.0\Lync\Tracing=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\OneNote=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Terminal Server Client=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\UEV=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows Live Contacts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Application Shortcuts=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Burn=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\CD Burning=`
`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\Notifications=`
`\\!ctx_localappdata!\Packages=`
`\\!ctx_localappdata!\Sun=`
`\\!ctx_localappdata!\Windows Live=`
`\\!ctx_localsettings!\Temp=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Microsoft\AppV\Client\Catalog=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\cache=`
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\log=`

デフォルト値
`\\!ctx_roamingappdata!\Sun\Java\Deployment\tmp=`
$Recycle.Bin=
`AppData\LocalLow=`
トレース=

ファイルの包含リスト

デフォルト値
<空>

プロファイル内のすべてのファイルは、デフォルトで含まれます。

ファイルの除外リスト

デフォルト値
<空>

プロファイル内のファイルは、デフォルトでは除外されません。

項目を含める/除外する

> **注：**

> この記事では、ファイルベースのプロファイルソリューションの包含および除外ポリシーについて説明します。コンテナベースのプロファイルソリューションの同等のポリシーの詳細については、「プロファイルコンテナのセットアップ」を参照してください。

> 前提条件として、包含と除外の仕組みを理解していることを確認してください。詳細については、「項目を含める/除外する」を参照してください。デフォルトで含まれる項目と除外される項目については、「デフォルトの包含と除外」を参照してください。

ミラーするフォルダーポリシーと除外ポリシーの優先順位は、Citrix Profile Managementのバージョンによって異なります。これらのポリシーを適切に構成することで、トランザクションフォルダーの正確な同期が保証され、不要なデータ転送が防止されます。

> **注：**
>
> Profile Managementバージョン2407以降、レジストリの除外および包含ポリシーは、*ファイルベース*と*コンテナベース*の両方のプロファイルソリューションに適用されます。

項目を除外する

プロファイル同期からファイル、フォルダー、またはレジストリ項目を除外するには、次の手順に従います。

1. **Profile Management** \> **Registry**で、**Exclusion list**ポリシーをクリックします。
2. **Enabled**を選択します。
3. **Show**をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで同期したくない`HKCU`ハイブ内のレジストリキーを追加します。例：`Software\Policies`。
4. **Profile Management** \> **File system**で、**Exclusion list - directories**ポリシーをダブルクリックします。
5. **Enabled**を選択します。
6. **Show**をクリックし、Profile Managementで同期したくないフォルダーを追加します。項目を除外するときは、Enterキーを使用して複数のエントリを区切ります。

   以下の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスを使用してフォルダーを指定し、パスの先頭のバックスラッシュは省略します。
   - プロファイルの場所を特定するには変数`%USERPROFILE%`を使用しますが、このポリシーに変数を直接入力しないでください。
   - Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `Desktop`。`Desktop`フォルダーは同期されません。
     - `MyApp\tmp`。`%USERPROFILE%\MyApp\tmp`フォルダーは同期されません。

7. **Profile Management** \> **ファイルシステム**で、**除外リスト - ファイル**ポリシーをダブルクリックします。
8. **有効**を選択します。
9. **表示**をクリックし、Profile Managementで同期したくないファイルを追加します。項目を除外する際に複数のエントリを区切るには、Enterキーを使用します。

   以下の点に注意してください。

   - ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスでファイル名を指定します。このポリシーに変数を (%USERPROFILE%) 入力しないでください。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。Profile Management 7.15以降、垂直バー (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。
   - Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `Desktop\Desktop.ini`. `Desktop` フォルダー内の `Desktop.ini` を無視します。
     - `AppData*.tmp`. `AppData` フォルダーとそのサブフォルダー内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
     - `AppData*.tmp|`. `AppData` フォルダー内のみの `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
     - `Downloads*\a.txt`. `Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダー内の `a.txt` を無視します。

「**除外リスト**」が無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

「**除外リスト - ディレクトリ**」が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

「**除外リスト - ファイル**」が無効になっている場合、ファイルは除外されません。この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

項目を含める

除外されたファイル、フォルダー、またはレジストリ項目のサブフォルダーをプロファイル同期に含めるには、次の手順に従います。

> **ヒント:**
>
> 特定のトップレベルフォルダーを含めることができます。共同作業環境では、この手順により、重要なフォルダーを他の管理者に通知できるという利点があります。

1. **Profile Management** \> **Registry** で、**Inclusion list** ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ログオフ時にProfile Managementで処理する、`HKEY\_CURRENT\_USER` ハイブ内のプロファイル関連のレジストリキーを追加します。例: `Software\Adobe`。項目を含める場合は、Enterキーを使用して複数のエントリを区切ります。
4. **Profile Management** \> **File system** \> **Synchronization** の下で、**Directories to synchronize** ポリシーをダブルクリックします。
5. **Enabled** を選択します。
6. **Show** をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、Profile Managementで同期させたいフォルダーを追加します。例: `Desktop\exclude\include` は、フォルダー `Desktop\exclude` が同期されない場合でも、`include` サブフォルダーが同期されるようにします。項目を含める場合は、Enterキーを使用して複数のエントリを区切ります。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスを使用してフォルダーを指定します。
   - Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。
7. **Profile Management** \> **File system** \> **Synchronization** の下で、**Files to synchronize** ポリシーをダブルクリックします。
8. **Enabled** を選択します。

9. **Show** をクリックし、除外されたフォルダー内にあるが、Profile Managementで同期させたいファイルを追加します。項目を含める場合は、Enterキーを使用して複数のエントリを区切ります。

   次の点に注意してください。

   - ユーザープロファイルに対する相対パスを使用してファイルを指定します。
   - ファイル名でのワイルドカードはサポートされており、再帰的に適用されます。ただし、ワイルドカードをネストすることはできません。Profile Management 7.15以降、縦棒 (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限し、サブフォルダーに適用されないようにすることができます。
   - Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

     例:

     - `AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat`。デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
     - `AppData\Local\MyApp*.cfg`。`AppData\Local\MyApp`フォルダーとそのサブフォルダー内の、`.cfg`拡張子を持つすべてのファイルを指定します。
     - `Downloads*\a.txt`。`Downloads`フォルダーの直下のサブフォルダー内の`a.txt`を指定します。
   - Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。このリストにファイルを追加してユーザープロファイルに含める必要はありません。

ここで**包含リスト**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKEY_CURRENT_USERハイブ全体が処理されます。

ここで**同期するディレクトリ**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

ここで**同期するファイル**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていない

ファイルのみが同期されます。この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ワイルドカードを使用する

ファイルやフォルダーを参照するポリシーでは、疑問符 (`?`) やアスタリスク (`*`) などのDOS形式のワイルドカード文字を使用できます。例としては、ファイルの包含/除外リストやフォルダーの包含/除外リストがあります。疑問符 (`?`) は1文字に一致します。アスタリスク (`*`) は0文字以上に一致します。

Profile Management 7.15以降、縦棒 (`|`) を使用して、ポリシーを現在のフォルダーのみに制限できます。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に機能しますが、フォルダー名内のワイルドカードは機能しません。ワイルドカードを使用する場合は、有効なパスを指定してください。
- ワイルドカードをサポートするポリシーは、環境変数やActive Directory属性の使用など、他の種類の変数をサポートしていません。レジストリエントリを参照するポリシーではワイルドカードを使用できません。

例

ワイルドカード `<path name>\h*.txt` は house.txt、h.txt、および house.txt.txt に一致しますが、ah.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c.txt` は abc.txt に一致しますが、ac.txt には一致しません。

ワイルドカード `<path name>\a?c*d.txt` は abcd.txt および abccd.txt に一致しますが、acd.txt には一致しません。

プロファイルルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内の拡張子 .txt を持つすべてのファイルを指定します。
- `*h.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

- `h*.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `a?c.txt` は、ルートフォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `*.txt|` は、ルートフォルダー内の .txt 拡張子を持つすべてのファイルを指定します。

プロファイル以外のルートフォルダーでのポリシーの構成:

- `AppData*.txt` は、AppData フォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。
- `AppData*h.txt` は、AppData フォルダーとそのサブフォルダー内でこのワイルドカードに一致するすべてのファイルを指定します。

ログオン除外チェックを有効にする

「**ログオン除外チェックを有効にする**」機能は、ユーザーがログオンしたときに、ユーザー ストア内のプロファイルに除外されたファイルとフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを制御します。デフォルトでは、この機能は無効になっています。

除外されたファイルとフォルダーとは、それぞれ「**除外リスト - ファイル**」および「**除外リスト - ディレクトリ**」ポリシーに追加するファイルとフォルダーを指します。ユーザーがログオフすると、Profile Management は除外されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期しません。ただし、除外されたファイルとフォルダーは、除外リストに追加する前にユーザー ストアに存在する場合があります。「**ログオン除外チェックを有効にする**」ポリシーを使用すると、ユーザーがログオンしたときに、Profile Management でそれらのファイルとフォルダーを無視するか、ユーザー ストアから削除させることができます。

この機能を使用するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **［コンピューターの構成］>［ポリシー］>［管理用テンプレート：ポリシー定義（ADMXファイル）］>［Citrix Components］>［Profile Management］>［ファイルシステム］** の順に移動し、**［ログオン除外チェック］** ポリシーをダブルクリックします。
3. **［有効］** を選択します。
4. ドロップダウンメニューからオプションを選択します。デフォルトでは、**［除外されたファイルまたはフォルダーを削除する］** が選択されています。
5. **［OK］** をクリックします。

この機能には、次の3つのオプションがあります。

- **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを削除します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアから除外されたファイルとフォルダーを無視します。
- **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**。ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストアからローカルプロファイルに除外されたファイルとフォルダーを同期します。

> **警告：**
>
> **［除外されたファイルまたはフォルダーを削除する］** を選択すると、Profile Management はユーザー ストアから除外されたファイルとフォルダーを完全に削除します。除外されたファイルとフォルダーを再度含めても、ログオン時に Profile Management はキャッシュされたローカルプロファイルからそれらを削除します。

> 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。ログオフして再度ログオンしてください。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

.iniファイルを使用してログオン除外チェックを有効にするには、次の手順を実行します。

1. Profile Management .iniファイルを開きます。
2. セクションにEnableLogonExclusionCheck項目を追加します。
3. EnableLogonExclusionCheck項目の値を次のように設定します。
   - 除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーをユーザー ストアから無視するには、値を1に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=1。
   - 除外リストで指定された除外ファイルとフォルダーをユーザー ストアから削除するには、値を2に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=2。
   - チェックを無効にするには、値を0に設定します。例: EnableLogonExclusionCheck=0。
4. Profile Management .iniファイルを保存して閉じます。
5. 変更を有効にするには、`gpupdate /force`コマンドを実行します。

構成の優先順位:

1. この設定がグループポリシーオブジェクト (GPO) で構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がGPOにも.iniファイルにも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

トランザクションフォルダーの管理

トランザクションフォルダーとは、相互依存するファイル（あるファイルが他のファイルを参照する）を含むフォルダーを指します。**ミラーするフォルダー**ポリシーは、プロファイルの同期中にトランザクションフォルダーの整合性を確保します。このポリシーにより、Profile Management はユーザー ストアとローカル ユーザー プロファイルの間でトランザクションフォルダー全体をミラーします。

フォルダーミラーリングの高速化ポリシーは、Profile Management 2106以降で利用できます。

この記事では、**ミラーするフォルダー**ポリシーを使用してトランザクションフォルダーを管理するプロセスについて説明します。また、このポリシーを使用してInternet ExplorerのCookieフォルダーを管理する方法の例も示します。

フォルダーミラーリングの仕組み

通常、Profile Managementがユーザー ストアとローカル プロファイル間でユーザー プロファイルを同期する場合、タイムスタンプを比較して更新されたファイルのみを同期します。ただし、トランザクションフォルダー内のファイルは関連付けられているため、整合性の問題を回避するためにProfile Managementはフォルダー全体を同期する必要があります。トランザクションフォルダーの例としては、トランザクションログファイルとそれに対応するデータベースファイルを含むフォルダーがあります。異なるセッションからのトランザクションログファイルとデータベースファイルを混在させると、トランザクションの整合性の問題が発生する可能性があります。

トランザクションフォルダーを正しく同期するために、Profile Managementは**ミラーするフォルダー**ポリシーを提供します。トランザクションフォルダーをターゲットに同期する場合、Profile Managementは次の手順を使用してフォルダーをターゲットにミラーします。

1. フォルダー内のすべてのコンテンツを、タイムスタンプを無視してターゲットにコピーします。
2. ターゲット内の追加コンテンツをすべて削除します。

> **注意：**

> トランザクションフォルダーをミラーリングするということは、「最後の書き込みが優先される」ことを意味します。複数のセッションで変更されたファイルは、最新の更新によって上書きされ、プロファイルの変更が失われる可能性があります。

考慮事項

Windows環境では、プロファイル内の多くのアプリケーションフォルダーがトランザクションフォルダーです。プロファイルの同期を最適化するには、**ミラーするフォルダー**ポリシーと包含および除外ポリシーを組み合わせます。

ミラーするフォルダーポリシーと除外ポリシーの優先順位は、Citrix Profile Managementのバージョンによって異なります。これらのポリシーを適切に構成することで、トランザクションフォルダーの正確な同期が保証され、不要なデータ転送が防止されます。

ミラーするフォルダーを指定する

「**ミラーリングするフォルダー**」ポリシーを有効にし、ミラーリングするフォルダーを指定します。

Google Chromeを例にとってみましょう。`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default` 内のブックマーク関連ファイルとサブフォルダーは相互に依存しており、プロファイル同期中に全体として処理する必要があります。この目的を達成するには、このフォルダーを「**ミラーリングするフォルダー**」ポリシーに追加する必要があります。

ミラーリングするフォルダーからファイルとサブフォルダーを除外することもできます。前の例では、`AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default` フォルダーにはブックマークとは無関係のファイルとサブフォルダーも含まれています。それらを除外するには、「**除外リスト – ディレクトリ**」および「**除外リスト – ファイル**」ポリシーを使用できます。

詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management \> File system \> Synchronization** に移動し、**ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **ミラーリングするフォルダーのリスト**フィールドで、ユーザー ストアへの相対パスの形式で、ミラーリングするフォルダーのリストを入力します。フォルダーを区切るには `Enter` を入力します。

> **注：**

> このポリシーは再帰的に機能します。サブフォルダーをリストに追加しないでください。

> たとえば、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies` を追加した場合、`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies\Low` を追加しないでください。

4. **OK**をクリックします。
5. ミラーリングされたフォルダー内の特定のファイルとサブフォルダーをミラーリングプロセスから除外するには、次の手順に従います。

   a. **Profile Management \> File system** に移動し、**除外リスト – ディレクトリ**ポリシーまたは**除外リスト – ファイル**ポリシーをダブルクリックします。

   b. 除外するファイルとサブフォルダーを指定します。

構成の優先順位：

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダーミラーリングの高速化

Profile Management 2106以降、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にすることで、フォルダーミラーリングを高速化できます。

このポリシーを有効にすると、Profile Managementはミラーリングされたフォルダーを VHDXベースの仮想ディスクに保存します。Profile Managementはログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチするため、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなります。

> **注：**
>
> - この機能は、ミラーリングされたフォルダーにVHDXベースのディスクコンテナを使用します。そのため、ユーザーストアのストレージ消費量は、従来のフォルダーミラーリングよりも高くなる可能性があります。
> - Profile Management 2507から2511では、**フォルダーミラーリングの高速化**はデフォルトで**有効**です。

> - Profile Management 2507 CU2および2603以降、**フォルダーミラーリングの高速化**はデフォルトで**無効**です。
> - この機能が無効になっている場合、フォルダーの内容全体がマウントされるのではなくコピーされる必要があるため、ログオンとログオフに時間がかかる場合があります。

> このポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**で、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **OK**をクリックします。

構成の優先順位：

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーは有効になります。

例: Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する

Internet ExplorerのCookieフォルダーを管理する場合、プロファイルの肥大化を減らしつつ、トランザクションの整合性を確保する必要があります。この目標を達成するには、**Folders to mirror**および**Process Internet cookie files on logoff**ポリシーを使用します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. ミラーリングするCookieフォルダーを指定する。
2. プロファイルの肥大化の問題が発生した場合は、ユーザーログオフ時に古いCookieの削除を有効にする。

変更を有効にするには、このMicrosoftの記事に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

概要

このセクションでは、2つのポリシーがCookieフォルダーの管理にどのように役立つかを説明します。

Internet Explorer 8のCookieフォルダーを例にとってみましょう。このフォルダーには、index.datとCookieファイルが含まれています。index.datは、ユーザーがインターネットを閲覧する際にCookieファイルを参照します。たとえば、ユーザーがそれぞれ異なるデバイスから2つのInternet

Explorerセッションを持ち、各セッションで異なるサイトにアクセスするとします。各サイトからのCookieは、対応するデバイスに追加されます。

トランザクションの整合性を確保する方法

前述の例で、ユーザーが両方のセッションからログオフした場合に何が起こるかを見てみましょう。セッションからのCookieはマージされ、index.datファイルは最後にログオフしたセッションのものと同期されます。その結果、Cookieファイルとindex.dat内のそれらのCookieファイルへの参照が一致しなくなります。

Folders to mirrorポリシーはこの問題を解決します。このポリシーが設定されている場合、Profile Managementはプロファイル同期中にフォルダー全体を宛先にコピーします。このポリシーの動作の詳細については、トランザクションフォルダーの管理を参照してください。

プロファイルの肥大化を回避する方法

新しいセッションでのブラウジングは、肥大化したCookieフォルダーを引き起こします。また、ウェブサイトを再訪問すると、古いCookieが蓄積されます。**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーは、ユーザーがログオフしたときにプロファイルから古いCookieを削除することで、この問題を解決します。

> **注：**
>
> Internet Explorer 9以前のCookieおよび閲覧履歴情報は、Internet Explorer 10以降のCookieおよび閲覧履歴情報と互換性がありません。ユーザーは、異なるバージョンのInternet Explorerがインストールされている複数のシステム間で移動しないことをお勧めします。\[#474200\]

ミラーリングするCookieフォルダーを指定する

ミラーリングするフォルダーポリシーを有効にします。このポリシーで、展開でサポートされているOSバージョンに基づいて、ミラーリングするCookieフォルダーを指定します。

1. **Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **ミラーリングするフォルダーの一覧**フィールドに、次のCookieフォルダーを追加します。フォルダーを区切るには`Enter`を使用します。
    - バージョン2プロファイルの場合の`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`（Windows 8.1以降のCookieフォルダー）
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`（Windows 7およびWindows 8のCookieフォルダー）
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`（Cookieデータベースファイル`Webcache01.dat`が保存されているInternet Explorer 10以降で利用可能なフォルダー）

5. **OK**をクリックします。
6. Profile Management 2106以降を使用している場合は、**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックし、**有効**を選択します。

(オプション) ログオフ時に古いCookieを削除する

ユーザーのログオフ時にProfile Managementで古いCookieを削除するには、「**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**」ポリシーを有効にします。

このポリシーはログオフ時間を増加させるため、プロファイルの肥大化の問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

1. **Profile Management** \> **詳細設定** に移動します。
2. 「**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**有効**」を選択します。
4. 「**OK**」をクリックします。

ユーザープロファイルのストリーミング

デフォルトでは、Citrix Profile Management は、ユーザーがログオンすると、ユーザープロファイル全体をユーザー ストアからローカル コンピューターにフェッチします。ユーザープロファイル内の大きなファイルは、ログオンの遅延を引き起こす可能性があります。ユーザーのログオンエクスペリエンスを向上させるために、プロファイルストリーミング機能を有効にできます。

この機能を有効にすると、Profile Management は、ログオン後にアクセスされた場合にのみ、プロファイルファイルとフォルダーをフェッチします。

> **注:**

- ユーザープロファイルには、ファイル、フォルダー、およびレジストリエントリが含まれます。この機能はファイルとフォルダーに適用されますが、レジストリエントリには適用されません。レジストリエントリは、ユーザーログオン時に常にフェッチされます。
- バージョン2402以降、ファイルベースのプロファイルソリューションでは、以下のプロファイルストリーミング機能がデフォルトで有効になっています。プロファイルストリーミングとフォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。
- **ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーが有効になっている場合、アクティブなユーザー ストアが利用できなくなると、Profile Management は後続のストリーミング要求のために自動的に利用可能なストアに切り替わります。この機能強化により、フェイルオーバー後もファイルとフォルダーが継続的にストリーミングされ、データの中断が最小限に抑えられます。

プロファイルストリーミング機能を有効にする

以下のポリシーを使用して、プロファイルストリーミング機能を有効にします。

- **プロファイルストリーミング。**このポリシーを有効にすると、ユーザーがアクセスしたときにプロファイル*ファイル*がローカルコンピューターにフェッチされます。
- **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。**このポリシーを有効にすると、ユーザーがアクセスしたときにプロファイル*フォルダー*がローカルコンピューターにフェッチされます。

ポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ストリーミングされたユーザープロファイル**にアクセスします。
3. **プロファイルストリーミング**をダブルクリックします。**有効**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**をダブルクリックします。**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

プロファイルストリーミングの機能強化を有効にする

プロファイルストリーミング機能を有効にした後、必要に応じてさまざまな機能強化を適用できます。

例1：ユーザーから、サイズの大きいプロファイルファイルの読み込みが遅いという報告がありました。この場合、**Always cache**ポリシーを有効にし、サイズの大きいファイルの最小サイズを指定します。Profile Managementは、ユーザーログオン*中*に、そのサイズより大きいファイルをローカルプロファイルにキャッシュします。

例2：組織内で、ユーザーが特定のプロファイルフォルダーに頻繁にアクセスします。そのため、プロファイルストリーミングが有効になっている場合でも、ユーザーログオン時にそれらのフォルダーをローカルプロファイルにフェッチしたいと考えています。この目標を達成するには、**Profile Streaming Exclusion list - directories**ポリシーを有効にし、プロファイルストリーミングからフォルダーを除外します。

必要に応じて機能強化を有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

1. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理 > ストリーミングユーザープロファイル**にアクセスします。
2. サイズの大きいファイルの読み込み時間を短縮するには、ログオン*中*にProfile Managementがサイズの大きいファイルをローカルプロファイルにキャッシュするように有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

    a. **Always cache**をダブルクリックします。

    b. 「**Enabled**」を選択します。

    c. キャッシュするプロファイルファイルのサイズの下限（MB）を設定します。プロファイル全体をキャッシュするには、制限をゼロに設定します。

    注:

    - 制限を超えるファイルは、ユーザーログオン*中*にProfile Managementがバックエンド処理スレッドを開始するとすぐにローカルプロファイルにキャッシュされます。
    - 制限を下回るファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルプロファイルにフェッチされます。

    d. **OK**をクリックします。

3. ドメイン内の特定のユーザーグループにのみプロファイルストリーミングを適用するには、次の手順に従います。

    a. **Streamed user profile groups**をダブルクリックします。

    b. 「**Enabled**」を選択します。

    c. ユーザーグループのリストを入力します。エントリを区切るには`Enter`を押します。

d. **OK**をクリックします。

注：デフォルトでは、このポリシーは無効になっており、プロファイルストリーミングはドメイン内のすべてのユーザーグループに適用されます。

4. プロファイルストリーミングから特定のプロファイルフォルダーとファイルを除外するには、次の手順に従います。

   a. **プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ** ポリシーをダブルクリックします。

   b. 「**Enabled**」を選択します。

   c. **表示** をクリックします。

   d. Profile Management でストリーミングしたくないフォルダーを追加します。詳細については、この記事の後半にある「プロファイルストリーミング除外を有効にする」を参照してください。

5. 同じユーザーの同時セッションで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、次の手順に従います。

   a. **保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする** をダブルクリックします。

   b. 「**Enabled**」を選択します。

   c. **OK** をクリックします。 詳細については、この記事の後半にある「保留領域のプロファイルストリーミング」を参照してください。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。詳細については、`<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/bb490983.aspx>` を参照してください。

構成の優先順位

ストリーミングされたユーザープロファイル の各ポリシーの構成の優先順位は次のとおりです。

- GPOまたは.iniファイルで **プロファイルストリーミング** が構成されていない場合、**プロファイルストリーミング** は無効になります。
- GPOで **常にキャッシュ** が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、無効になります。
- **ストリーミングされたユーザープロファイルグループ** が無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。この設定がGPOで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

- GPOまたは.iniファイルで **フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする** が構成されていない場合、フォルダーのプロファイルストリーミングは無効になります。
- GPOまたは.iniファイルで **プロファイルストリーミング除外を有効にする** が構成されていない場合、すべてのフォルダーがストリーミングされます。
- 「**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**」がGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、保留領域のプロファイルストリーミングは無効になります。

プロファイルストリーミング除外を有効にする

プロファイルストリーミング除外が有効になっている場合、Profile Managementは除外リスト内のフォルダーをストリーミングしません。除外リスト内のすべてのフォルダーとファイルは、ユーザーがログオンしたときにユーザーストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

プロファイルストリーミング除外を有効にするには、次の手順に従います。

1. Profile Managementの下で、「**ストリーミングされたユーザープロファイル**」をダブルクリックします。
2. 「**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. 「**表示**」をクリックします。
5. Profile Managementでストリーミングしたくないフォルダーを追加します。フォルダー名は、絶対パスまたはユーザープロファイルからの相対パス (`%USERPROFILE%`) として指定できます。その変数を使用してプロファイルの場所を特定しますが、このポリシーに変数自体を入力しないでください。パスの先頭のバックスラッシュは省略してください。

例:

- デスクトップ。デスクトップフォルダーは、ユーザーログオン時にフェッチされます。
- `MyApp\tmp` 。 `%USERPROFILE%\MyApp\tmp` フォルダーは、ユーザーログオン時にフェッチされます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの次のフォルダーはデフォルトで除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`

- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

注:

- このポリシーは、プロファイルストリーミングが有効になっている場合にのみ有効になります。
- このポリシーは、ワイルドカード`*`および`?`をサポートしていません。
- エントリを区切るには、`Enter`と入力します。
- プロファイルストリーミング除外リストを手動で編集する場合は、ログオンがハングするのを避けるために、前述のデフォルトで除外されているフォルダーを追加する必要があります。

保留領域のプロファイルストリーミング

プロファイル管理は、同じユーザーの同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存するために、ペンディングエリアを使用します。デフォルトでは、その領域はプロファイルストリーミング機能の例外です。この機能が有効になっている場合でも、ユーザーがログオンするときに、その領域のファイルとフォルダーはローカルプロファイルにフェッチされます。

同じユーザーの同時セッションで最適なログオンエクスペリエンスを確保するには、プロファイルストリーミング機能の拡張として、**ペンディングエリアのプロファイルストリーミングを有効にする**機能を有効にします。このポリシーが有効になっている場合、プロファイル管理は、ユーザーがログオンするときではなく、アクセスするときにペンディングエリアのファイルとフォルダーをローカルプロファイルにフェッチします。その領域に大きなファイルがある場合、ユーザーのログオン時間が大幅に短縮されます。

> **注:**
>
> このポリシーが有効になっている場合、ユーザーがセッションを開始すると、各ユーザーのユーザーストアに`PendingArea.vhdx`という名前のディスクが作成されます。ユーザーが複数の同時セッションを開始すると、各セッションに対して`Diff-V<version number>.vhdx`（例: Diff-V1.vhdx）という名前の追加ディスクが作成されます。

ユーザーストアのレプリケート

ユーザーストアのレプリケートポリシーを使用すると、ユーザーのログオンおよびログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートできます。これにより、プロファイルの冗長性が提供され、ユーザープロファイルの可用性が高まります。

注：

- この機能は、ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイルソリューションに適用されます。
- デフォルトでは、レプリケートされたプロファイルコンテナは、セッション全体ではなく、ユーザーログオンに対してのみ冗長性を提供します。セッション全体でのプロファイルの冗長性を確保する方法とその前提条件について詳しくは、「プロファイルコンテナのセッション内フェールオーバーを有効にする」を参照してください。
- このポリシーを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

動作のしくみ

ユーザーストアへのパスポリシーを使用して構成されたユーザーストアに加えて、**ユーザーストアのレプリケート**ポリシーを使用してさらにユーザーストアを構成できます。複数のユーザーストアが環境に展開および構成されている場合、Profile Managementは次のように動作します。

- ユーザーの*ログオン*中に、Profile Managementはユーザーの最新プロファイルを持つユーザーストアを選択します。複数のユーザーストアが最新プロファイルを持っている場合、デフォルトでは、Profile Managementは最初に構成されたストア（構成順序で最も早いもの）を選択します。Profile Managementが最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように有効にすることもできます。詳しくは、「ユーザーストアの選択方法を変更する」を参照してください。
- ユーザーの*ログオフ*中に、Profile Managementはローカルプロファイルをすべてのユーザーストアに書き戻します。

レプリケートされたユーザーストアを構成する

プロファイルの冗長性を提供するには、**ユーザーストアへのパス**ポリシーを使用して構成されたユーザーストアに加えて、追加のユーザーストアを設定します。グループポリシーを使用してレプリケートされたユーザーストアを構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、**ユーザーストアのレプリケート**ポリシーをダブルクリックします。
3. ポリシーを**有効**に設定します。
4. 「**ユーザー ストアを複製するパス**」の横にある「**表示**」をクリックします。
5. 「**値**」フィールドに、複製されたユーザー ストアのパスを入力します。他の複製されたユーザー ストアについても、この手順を繰り返します。

   ユーザープロファイルの一部でプロファイルコンテナが有効になっている場合、コンテナベースのプロファイルとファイルベースのプロファイルを異なる場所に複製できます。そのためには、パスをこの形式で入力します: `<path to the replicated file-based profiles>|<path to the replicated container-based profiles>`。例: `\\path_a|\\path_b` は、Profile Management がファイルベースのプロファイルを `\\path_a` に、コンテナベースのプロファイルを `\\path_b` に複製することを示します。
6. 「**OK**」をクリックし、もう一度「**OK**」をクリックします。

> 「**注:**」:

> セッション中に変更されたファイルとフォルダーをユーザー ストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にする ポリシーを有効にします。

ユーザー ストアの選択方法を変更する

デフォルトでは、複数のユーザー ストアが利用可能な場合、Profile Management は最新のプロファイルを持つストアを選択します。複数のオプションがある場合は、最も早く構成されたものを選択します。必要に応じて、Profile Management が最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように有効にできます。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**」にアクセスし、「**ユーザー ストアの選択方法**」ポリシーをダブルクリックします。
3. ポリシーを「**有効**」に設定します。
4. 「**選択方法**」フィールドで、「**アクセスパフォーマンス**」を選択します。構成順序に基づく選択に戻すには、「**構成順序**」を選択します。

- 「**構成順序。** Profile Management は、最初に構成されたストア（構成順序で最も早いもの）を選択します。」.
- 「**アクセスパフォーマンス。** Profile Management は、最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択します。」.

5. 「**OK**」をクリックします。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、**構成順序**が使用されます。

> **ヒント:**
>
> ユーザーログオン時のストア選択イベントをトレースするには、マシンで**Windows イベントビューアー**を開き、**Windows ログ > アプリケーション**に移動して、ID **5**の**Citrix Profile Management イベント**のフィルターを適用します。

ログオフ時のプロファイル同期を制限する

「**ログオフ時に同期されるユーザー ストアの数を制限する**」ポリシーは、複数のユーザー ストアがある環境でのログオフ パフォーマンスの向上に役立ちます。このポリシーを使用すると、ログオフ中に同期するユーザー ストアの数を制御でき、ログオフ時間の短縮とパフォーマンスの最適化に貢献します。

> **注：**
>
> このポリシーは、Citrix Profile Management バージョン 2503 以降でサポートされています。

仕組み

デフォルトでは、Profile Management はログオフ中にプロファイル データを構成されているすべてのユーザー ストアに同期します。複数のストアまたは大規模なプロファイルがある環境では、この動作により遅延が発生する可能性があります。

「**ログオフ時に同期されるユーザー ストアの数を制限する**」ポリシーを使用すると、ログオフ中に同期するストアの数（メイン ストアを含む1～8個）を指定できます。動作は、環境が**永続的**か**非永続的**かによって異なります。

永続的な環境

永続的な環境（オペレーティング システムの変更が再起動後も保持される環境）では、次のようになります。

- **ログオフ中：** メインのユーザー ストアと、構成された数の追加ストア（合計1～8個）がログオフ中に同期されます。
- **ログオフ後：** 残りのストアは、ログオフ完了後にバックグラウンドで*非同期に*同期されます。

結果： すべてのストアが最終的に同期される間、ログオフはより速く完了します。データ損失は発生しません。

例： 5つのユーザー ストアが構成されており、制限を**2**に設定した場合：

- メイン ストアと1つの追加ストアがログオフ中に同期されます。
- 残りの3つのストアは、ログオフ後にバックグラウンドで同期されます。

非永続環境

非永続環境（ログオフ後にリセットされるプールされた仮想デスクトップなど、オペレーティングシステムの変更が永続しない環境）では、次のようになります。

- **ログオフ中:** メインのユーザー ストアと、構成された数の追加ストア（合計1～8個）のみが同期されます。
- **ログオフ後:** その制限を超えるストアは、このログオフ中には*同期されません*。
- **次回のログオン時:** すべての古いストアがメインストアから同期され、整合性が確保されます。

結果: ユーザーはログオフ時間が短縮されますが、一部のユーザー ストアには一時的に古いデータが含まれる可能性があります。

例: 5つのユーザー ストアが構成されており、制限を**2**に設定した場合：

- メインストアと1つの追加ストアがログオフ中に同期されます。
- 残りの3つのストアは、次回のログオンまで古い状態のままになります。

ポリシーを構成する

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**に移動します。
3. **ログオフ時に同期されるユーザー ストアの数を制限する**を見つけてダブルクリックします。
4. **有効**を選択し、ログオフ中に同期するストアの数（メインストアを含む1〜8個）を指定します。
5. **OK**をクリックして構成を保存します。
6. 変更を適用するには、影響を受けるマシンで `gpupdate /force` を実行します。
7. ポリシーが有効になるように、ログオフしてから再度ログオンします。

> **注:**
>
> このポリシーは、**ユーザーストアのレプリケート**ポリシーが有効になっている場合にのみ適用されます。

ベストプラクティス

一般的な推奨事項:

- **要件の評価:** 重要なデータ可用性を維持するために、ログオフ中に同期する必要があるストアの最小数を決定します。
- **他の最適化との組み合わせ:** このポリシーを、**プロファイルストリーミング**、**フォルダーのストリーミング**、または**フォルダーミラーリングの高速化**などの機能と組み合わせて使用し、パフォーマンスをさらに向上させます。
- **結果の監視:** `C:\Windows\System32\LogFiles\UserProfileManager` でプロファイル管理ログを確認するか、プロファイル管理ヘルスチェック を使用して、このポリシーがログオフおよびその後のログオンパフォーマンスに与える影響を監視および評価します。
- **最初にテスト:** 展開する前に、非本番環境で構成を検証します。

永続環境

- ログオフをブロックせずにバックグラウンド同期を許可するために、より高い制限（*例*：3〜5ストア）を構成します。
- バックグラウンド同期のために十分なネットワーク帯域幅を確保します。

- バックグラウンド同期スレッドがシステムに与えるパフォーマンスへの影響を監視します。

非永続環境

- ログオフ速度を優先するために、下限（*例えば*、1〜2ストア）を設定します。
- 同期制限内に、重要または頻繁にアクセスされるストアを含めます。
- すべてのストアがメインストアから再同期されるため、次回のログオンには時間がかかる場合があります。
- 高可用性構成では、非同期ストアにおける一時的なデータの陳腐化を考慮してください。

トラブルシューティング

ログオフのパフォーマンスが改善しない場合、または同期の問題が発生した場合は、:

- ポリシーが適用されていること（`gpupdate /force`）を確認し、Citrix Profile Managementログでその効果を検証します。
- すべてのユーザーストアにアクセス可能であり、適切に許可されていることを確認します。
- 同期を遅延させたり妨げたりする可能性のあるネットワークの中断がないか確認します。
- 永続環境では、バックグラウンド同期スレッドが期待どおりに開始されることを確認します。
- 非永続環境でユーザーが古いデータを報告する場合は、ログオフ時に同期されるストアの数を増やします。

プロファイルコンテナを設定する

> **重要:**
>
> この機能はWindows 7では動作しません。

> ユーザープロファイル内の大きなフォルダーは、ユーザーログオンの遅延を引き起こす可能性があります。ログオンエクスペリエンスを向上させるために、Profile ManagementはVHDXベースのプロファイルソリューションであるプロファイルコンテナを提供します。このソリューションにより、選択したプロファイルフォルダーをVHDXプロファイルディスクに保存できます。ユーザーがログオンすると、VHDXプロファイルディスクがマウントされ、プロファイルフォルダーがすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナを使用すると、次のいずれかの目標を達成できます。

- コンテナベースのプロファイルソリューションを設定する: ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに保存します。
- ファイルベースのプロファイルソリューションのユーザーエクスペリエンスを最適化する: ユーザープロファイルの一部をプロファイルコンテナに保存します。

ワークフロー

プロファイルコンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. (オプション) プロファイルコンテナのストレージ容量とパスをカスタマイズする。
2. ニーズに合わせてプロファイルコンテナを有効にします。
   - ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする（ファイルベースのプロファイル最適化ソリューション）
   - ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にする（コンテナベースのプロファイルソリューション）

   > **注:**
   >
   > コンテナベースのプロファイルソリューションが有効になっている場合、以下のユーザープロファイル（存在する場合）は、初回使用時に自動的にコンテナに移行されます。
   >
   > - ローカルWindowsユーザープロファイル
   > - Citrix®ファイルベースプロファイルソリューションのユーザープロファイル

3. プロファイルコンテナの肥大化を防ぐには、フォルダーとファイルを除外する。
4. 展開でマルチセッションシナリオが一般的な場合は、必要に応じてプロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。
5. プロファイルデータが拡張するにつれてプロファイルコンテナが動的にサイズを拡大できるようにするには、プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にして構成する。
6. ユーザープロファイル内の同一ファイルによって生じるストレージコストを削減するには、ファイル重複排除ポリシーを有効にして構成できます。
   a. プロファイルコンテナから重複排除するファイルを指定する。
   b. (オプション) 重複排除から除外するファイルを指定する。

c. (オプション) プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定する。

7. 複数のユーザーストアが展開されており、プロファイルコンテナが展開で有効になっている唯一のコンテナタイプである場合、セッション全体のプロファイル冗長性を提供するために、ユーザーストア間のセッション内プロファイルコンテナフェイルオーバーを有効にすることができます。
8. (オプション) ADユーザーにプロファイルコンテナへの読み取りアクセスを許可する。
9. ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にしている場合（コンテナベースのプロファイルソリューション）、必要に応じて以下のいずれかのポリシーを有効にできます。

   - 高レベルのプロファイル可用性を保証するためにプロファイル冗長性を提供するには、ユーザーストアを複製するを有効にします。
   - ローカルコンピューターにユーザープロファイルをキャッシュするには、プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。
   - プロファイルコンテナへのアクセスを一度に1つだけに制限するには、プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。
   - HKCU hive内のレジストリキーをユーザーログオフ時のプロファイル同期から除外するには、Profile Management > Registryのポリシーを使用して除外するキーを構成します。

     > **注：**
     >
     > プロファイルコンテナで**プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする**設定が有効になっている場合、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**設定は自動的に無効になります。

   - ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフするかどうかを指定します。

考慮事項

コンテナベースのプロファイルソリューションが有効になっている場合、以下の考慮事項に注意してください。

- ファイルベースのプロファイルソリューションは自動的に無効になり、以下のポリシーは適用されなくなります。
  - プロファイルストリーミング

例外：プロファイルストリーミングは、*プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする*ポリシーが有効になっている場合にのみプロファイルコンテナに適用されます。詳細については、プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にするを参照してください。

- ファイルシステム
- アクティブライトバック
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

コンテナベースのプロファイルソリューションに適用されるポリシーを表示するには、ファイルベースおよびコンテナベースのソリューションのポリシーを参照してください。

- Outlookの検索インデックスローミング機能との下位互換性を維持するため、Profile Managementは、以下のファイルをそれぞれ保存するために使用される2つのVHDXディスクを保持します。
  - Outlook検索インデックスデータベース
  - オフライン Outlook データファイル (`.ost`)

(オプション) プロファイルコンテナのストレージ容量とパスをカスタマイズする

デフォルトでは、プロファイルコンテナはユーザー ストアに保存され、デフォルトのストレージ容量は 50 GB です。

たとえば、ユーザー ストアのパスを次のように構成します。`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`。

プロファイルコンテナは次の場所に保存されます。`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\ProfileContainer\!ctx_osname!`。

プロファイルコンテナの別のネットワークの場所を指定し、そのデフォルトのストレージ容量を変更できます。詳細については、「VHD ファイルのストレージ容量とパスを指定する」を参照してください。

ユーザープロファイルの一部に対してプロファイルコンテナを有効にする

ユーザー ストアでのログオン時間を短縮するために、プロファイルコンテナ機能を有効にし、それらの大きなプロファイルフォルダをプロファイルコンテナに追加できます。

注:

プロファイルコンテナに追加したフォルダは、ユーザー ストアにも存在します。プロファイルコンテナ機能を有効にすると、Profile Management はプロファイルコンテナとユーザー ストアの間でフォルダを同期させます。

プロファイルコンテナ機能を有効にしてから無効にしたとします。一貫性のあるユーザープロファイルを確保するために、Profile Management はユーザー ストアプロファイルをプロファイルコンテナと同期させます。この同期はユーザーログオン時に行われます。除外リスト内のフォルダはユーザー ストアにコピーされません。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**」で、「**プロファイルコンテナ**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**有効**」を選択します。
4. 「**表示**」をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式でフォルダを追加します。サイズの大きいキャッシュファイルを含むフォルダを追加することをお勧めします。たとえば、Citrix Files コンテンツキャッシュフォルダをリストに追加します: `AppData\Local\Citrix\Citrix Files\PartCache`。

コンテナベースのプロファイルソリューションを有効にする

コンテナベースのプロファイルソリューションを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナ**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックし、プロファイルコンテナリストにアスタリスク (`*`) を追加します。
5. **OK**をクリックします。

(オプション) フォルダーとファイルを含める/除外する

プロファイルコンテナが肥大化するのを防ぐため、フォルダーやファイルをそこから除外できます。必要に応じて、親フォルダーが除外されている場合でも、フォルダーやファイルを含めることができます。

プロファイルコンテナからフォルダーを除外する

> **重要:**
>
> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にした場合でも、フォルダーリダイレクト設定は有効です。リダイレクトするフォルダーを「**プロファイルコンテナから除外するフォルダー**」リストに入れないでください。そうしないと、フォルダーリダイレクトが機能しません。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナから除外するフォルダー**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するフォルダーを入力します。

   フォルダ名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。例:

   - `Desktop` は `Desktop` フォルダを示します。
   - `Downloads*` は `Downloads` フォルダのすべての直下サブフォルダを示します。

> **注:**
>
> ユーザープロファイル全体に対してプロファイルコンテナを有効にすると（*コンテナベースのプロファイルソリューション*）、`appdata\local\temp` フォルダはプロファイルコンテナから自動的に除外されます。

構成の優先順位:

1. 設定が無効になっている場合、フォルダは除外されません。
2. ここで設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。

3. ここでも .ini ファイルでも設定が構成されていない場合、フォルダは除外されません。

プロファイルコンテナにフォルダを含める

除外されたフォルダのサブフォルダをプロファイルコンテナに含めるには、次の手順に従います。

1. **プロファイル管理 > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナに含めるフォルダ**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるフォルダを入力します。

次の点に注意してください:

- このリスト上のフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。
- ポリシーを有効にして空のリストを設定することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでも設定が構成されていない場合、除外リストにないフォルダーはプロファイルコンテナーに含まれます。

プロファイルコンテナーにファイルを含める

プロファイルコンテナーからフォルダーを除外した後、そのフォルダー内のファイルをプロファイルコンテナーに含めることができます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management > Profile container settings**で、**Files to include in profile container**ポリシーをダブルクリックします。
2. **Enabled**を選択します。
3. **Show**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で含めるファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- このリスト上のファイルは、除外されたフォルダー内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。
- ファイル名でのワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名でのワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop\Desktop.ini` ファイルを示します。
- `AppData*.tmp` は、`AppData` フォルダーとそのサブフォルダー内の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `AppData*.tmp|` は、`AppData` フォルダー内のみの `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを示します。
- `Downloads*\a.txt` は、`Downloads` フォルダーの直下のサブフォルダー内の `a.txt` を示します。

ポリシーを有効にして空のリストを構成することは、設定を無効にすることと同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでも設定が構成されていない場合、除外リストにないファイルはプロファイルコンテナに含まれます。

プロファイルコンテナからファイルを除外する

Profile Management 2112以降、プロファイルコンテナからファイルを除外できます。詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナから除外するファイル**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **表示**をクリックし、ユーザープロファイルへの相対パスの形式で除外するファイルを入力します。

次の点に注意してください。

- ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。ポリシーを現在のフォルダーのみに制限するには、縦棒 (`|`) を使用します。
- Profile Management 2112以降、フォルダー名内のワイルドカードはサポートされていますが、再帰的には適用されません。

構成の優先順位:

1. 設定が無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. ここで設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここで、または.iniファイルのいずれでも設定が構成されていない場合、ファイルは除外されません。

(オプション) ユーザー ストア間のセッション内プロファイル コンテナー フェールオーバーを有効にする

既定では、複数のユーザー ストアが展開されている場合、プロファイル コンテナーのフェールオーバーは*ユーザー ログオン時*にのみ発生します。その結果、プロファイルの冗長性は*ユーザー ログオン時*にのみ利用できます。「**ユーザー ストア間のセッション内プロファイル コンテナー フェールオーバーを有効にする**」ポリシーを使用すると、フェールオーバーの範囲をセッション全体に拡大し、セッション全体でプロファイルの冗長性を確保できます。このポリシーを有効にすると、Profile Management がアクティブなプロファイル コンテナー、OneDrive コンテナー、または Outlook コンテナーへの接続を*セッション中に*失った場合、自動的に別の利用可能なコンテナーに切り替わります。

> **注：**
>
> - このポリシーを有効にすると、プロファイル コンテナー、OneDrive コンテナー、および Outlook コンテナーにのみ適用されます。**UWP**、**フォルダー ミラーリング**、または**保留領域のプロファイル ストリーミング**などの他のコンテナーが有効になっている場合、このポリシーは適用されません。
> - このポリシーは、既定で有効になっている「**セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする**」機能に基づいて実装されます。この機能が手動で無効になっている場合、ポリシーは正常に機能しません。
> - このポリシーを有効にすると、差分ディスクはローカル ディスクに保存され、ローカル ディスクに追加のストレージ要件が発生します。

> GPOを使用してこのポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. 「**Profile Management > 詳細設定**」で、「**ユーザー ストア間のセッション内プロファイル コンテナー フェールオーバーを有効にする**」ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**有効**」を選択します。
3. 「**OK**」をクリックします。

構成の優先順位：

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここで、または.iniファイルのいずれでもこのポリシーが構成されていない場合、設定は無効になります。

(オプション) VHDの自動拡張を有効にして構成する

ユーザープロファイルは通常、時間の経過とともに増加します。ストレージ管理を簡素化するために、プロファイルコンテナのVHD自動拡張機能を有効にします。この機能を有効にすると、コンテナの使用率が90%に達したときに、自動的に10 GB拡張され、最大容量は80 GBになります。必要に応じて、これらのデフォルト設定を特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。

> **ヒント:**

> VHD自動拡張設定をより詳細に制御するには、ユーザーレベルのポリシー設定を使用できます。組織は標準の自動拡張設定を持つことができますが、特定のユーザーに対しては、より大きな最大容量などの固有の設定を提供できます。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 次の手順でVHD自動拡張を有効にします。
    a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**に移動します。
    b. **プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    c. **有効**を選択します。
    d. **OK**をクリックします。
3. プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするデフォルトのストレージ使用率を変更するには、次の手順に従います。
    a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**に移動します。

b. **プロファイルコンテナの自動拡張しきい値**ポリシーをダブルクリックします。
c. **有効**を選択します。
d. **自動拡張しきい値 (%)** フィールドに、必要に応じてパーセンテージを入力します。
e. **OK**をクリックします。

4. プロファイルコンテナーが自動的に拡張するストレージ容量を変更するには、次の手順に従います。

a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**に移動します。
b. **プロファイルコンテナーの自動拡張増分**ポリシーをダブルクリックします。
c. **有効**を選択します。
d. **自動拡張増分 (GB)** フィールドに、必要に応じて数値を入力します。デフォルトは10 (GB) です。
e. **OK**をクリックします。

5. プロファイルコンテナーが自動的に拡張できる最大ストレージ容量を変更するには、次の手順に従います。

a. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**に移動します。
b. **プロファイルコンテナーの自動拡張制限**ポリシーをダブルクリックします。
c. **有効**を選択します。
d. **自動拡張制限 (GB)** フィールドに、必要に応じて数値を入力します。デフォルトは80 (GB) です。
e. **OK**をクリックします。

(オプション) プロファイルコンテナーのマルチセッションライトバックを有効にする

プロファイル管理は、デフォルトでプロファイルコンテナーへの同時アクセスをサポートします。ただし、すべての同時セッションの中で、1つのセッションのみが読み取り/書き込み権限を持ち、プロファイルの変更をコンテナーにマージできます。

Profile Management が同時アクセスを処理する方法は次のとおりです。

- セッションログオン時:

読み取り/書き込みセッションが存在するかどうかを確認します。存在する場合、現在のセッションは読み取り専用になります。それ以外の場合は、読み取り/書き込みセッションになります。

- セッションログオフ時:

  a. プロファイルコンテナをマウント解除します。

  b. 現在のセッションが読み取り専用の場合、プロファイルの変更を破棄します。

  c. 他の同時セッションがない場合、読み取り/書き込みセッションのプロファイル変更をプロファイルコンテナにマージします。

マルチセッションライトバックを有効にするには、プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にするポリシーを使用します。

(オプション) プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする

デフォルトでは、プロファイルコンテナは同時アクセスを許可します。必要に応じて、**プロファイルコンテナ設定 > VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする** を介して、プロファイルコンテナへの同時アクセスを無効にできます。その結果、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスのみを許可します。

> **注:**
>
> - この設定は、ユーザープロファイル全体に対して有効になっているプロファイルコンテナにのみ適用されます。
> - プロファイルコンテナでこの設定が有効になっている場合、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする** 設定は自動的に無効になります。

> 詳細については、VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にするを参照してください。

(オプション) プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

「**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**」機能は、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ有効になります。「**プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**」ポリシーを有効にすると、ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナ内のユーザープロファイルがユーザーのローカルユーザープロファイルにキャッシュされます。

重要:

OneDriveなど、コンテナベースのプロファイルソリューションでのみ動作するアプリケーションは、このポリシーが有効になっていると正しく機能しない場合があります。OneDriveが正しく機能するようにするには、このポリシーを無効にするか、OneDriveコンテナポリシーを有効にしてください。

デフォルトでは、ユーザーログオン時にユーザープロファイル全体がキャッシュされます。ユーザーログオン時間を短縮するには、**プロファイルストリーミング**ポリシーを有効にできます。その結果、ユーザープロファイル内のプロファイルフォルダーは、ログオン後にオンデマンドでキャッシュされます。

注:

ローカルキャッシュからファイルまたはフォルダーを除外するには、**プロファイルコンテナ設定**のポリシーではなく、**ファイルシステム**の除外および包含ポリシーを使用してください。

(オプション) ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフするかどうかを指定する

デフォルトでは、ユーザーログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合、ユーザーは一時プロファイルを使用してログオンします。しかし、この動作はセッション中に加えられた変更のデータ損失につながります。代わりに、このような場合にユーザーを強制的にログオフさせるには、**ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする**ポリシーを有効にできます。このポリシーが有効になっている場合、ユーザーには「**プロファイルを設定できません: プロファイルコンテナが利用できません。OKをクリックするとログオフされ、このセッション中に行われた変更はすべて失われます。**」というエラーメッセージが表示されます。このメッセージで**OK**をクリックすると、すぐにログオフされます。必要に応じて、このポリシーを有効にする際にエラーメッセージをカスタマイズすることもできます。

GPOを使用してこのポリシーを有効にするには、次の手順に従います。

1. **プロファイル管理 > プロファイルコンテナ設定**で、**ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。

3. **エラーメッセージ**フィールドに、ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーに表示されるメッセージを入力します。空のままにすると、デフォルトのメッセージが表示されます。
4. **OK**をクリックします。

> **注:**
>
> Studioを使用してプロファイル管理ポリシーを構成する場合、**無効にする**アクションを実行してもこのポリシーを無効にすることはできません。代わりに、無効にするには、ポリシーを編集してその値を**無効**に変更し、ポリシーのチェックボックスをオフにします。

> 構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、設定は無効になります。

(オプション) ADユーザーにプロファイルコンテナへの読み取りアクセスを許可する

適用対象: ファイルベースおよびコンテナベースの両方のプロファイルソリューション。

デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。ADドメイン内の他のユーザーにアクセスを拡張するには、**プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**ポリシーを有効にできます。Profile Managementは、このポリシーで指定されたユーザーおよびユーザーグループに**読み取りと実行**のアクセス許可を付与します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**で、**プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**ポリシーをダブルクリックします。
2. **有効**を選択します。
3. **プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ**フィールドで、**表示**をクリックし、コンテナへの`Read and Execute`アクセス許可を付与するADユーザーとグループを追加します。ADユーザーまたはグループを識別するには、`domain name\user or group name`形式またはセキュリティ識別子 (SID) を使用します。
4. **OK**をクリックし、もう一度**OK**をクリックします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの設定が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

> **ヒント:**
>
> FSLogix Profile Containerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/configure-profile-container-tutorial>`を参照してください。Citrix Profile Managementプロファイルコンテナの詳細については、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナを参照してください。

概要

「FSLogix Profile Container」や「Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ」といったVHDベースのプロファイルソリューションは、複数セッション環境での変更の保存に対応していません。これらのソリューションでは、1つのセッション（読み書きモード）のみが変更を書き込めます。他のセッション（読み取り専用モード）での変更は破棄されます。

しかし、マルチセッションシナリオはCitrix仮想アプリのユースケースで一般的です。これらのユースケースを容易にするために、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**ポリシーを提供しています。このポリシーにより、FSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方でマルチセッションライトバックを有効にできます。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、Profile Managementは各セッションで行われた変更をユーザーのプロファイルコンテナに同期して保存します。

ユーザーログオン中に、ユーザーのプロファイルコンテナディスクがマウントされ、I/O要求はマウントされたディスクにリダイレクトされます。その後、Profile Managementはユーザーストアからローカルプロファイルに変更を同期します。

ユーザーログオフプロセス中、Profile Managementはセッションで使用されているFSLogix Profile Containerのモードによって動作が異なります。

- 読み取り専用モードが使用されている場合、Profile Managementは変更をユーザーストアにライトバックします。

- 読み取り/書き込みモードが使用されている場合、Profile Managementはユーザーストアからの変更をローカルプロファイルに適用します。その後、変更はユーザーのプロファイルコンテナにマージされます。

> **注:**
>
> FSLogix Profile Containerが使用されている場合、マルチセッションライトバック機能はプロファイルストリーミングと互換性がありません。

> 以下のイベントが変更と見なされます。

- 作成
- 変更
- 削除
- 名前変更

ライトバック戦略

Profile Management は、「最後の書き込みが優先される」戦略を使用して変更を適用します。

- ファイル/フォルダーの作成と変更の場合、ファイル/フォルダーの最終書き込み時刻を比較して変更をライトバックします。
- ファイル/フォルダーの削除と名前変更の場合、変更に関連付けられたタイムスタンプを比較して変更をライトバックします。Profile Management は、変更が発生したときにタイムスタンプをログに記録します。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にするポリシーを**有効**に設定することで、マルチセッションライトバック機能を使用できます。このポリシーは、デフォルトで**無効**に設定されています。

- FSLogix Profile Container でこの機能を使用するには、次の手順を完了します。
    - FSLogix プロファイルコンテナ
        - FSLogix Profile Container がインストールされ、有効になっていることを確認します。
        - プロファイルタイプが**読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする**に設定されていることを確認します。

    - Citrix プロファイル管理
        - **Profile Management を有効にする**ポリシーを有効に設定します。
        - **ユーザーストアへのパス**ポリシーを有効なパスで設定します。
        - (オプション)「**処理されたグループ**」および「**除外されたグループ**」ポリシーを設定します。処理するユーザーグループがFSLogixプロファイルコンテナ内のグループと一致していることを確認します。
        - 「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーを「**有効**」に設定します。このポリシーはGPOまたはCitrix Studioで設定できます。詳細については、この記事の後半の手順を参照してください。

- Citrix Profile Managementプロファイルコンテナのマルチセッションライトバック機能を使用するには、次の手順を実行します。
    - 「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーを「**有効**」に設定します。
    - Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ機能を有効にする(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/citrix-profile-management-profile-container.html)。

「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. 「**コンピューターの構成**」>「**管理用テンプレート**」>「**Citrixコンポーネント**」>「**Profile Management**」>「**詳細設定**」で、「**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**有効**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、Profile Managementがインストールされているマシンで、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

アプリケーションへのアクセスを制御する

アプリケーションアクセス制御機能を使用すると、ルールを使用してアプリケーションへのアクセスを制御できます。この機能により、アプリケーションとイメージの管理を効率化できます。たと

えば、異なる部門に同一のマシンを提供しながら、それぞれの固有のアプリケーション要件を満たすことができ、イメージの数を削減できます。

この記事では、アプリケーションアクセス制御を有効にし、制御ルールを構成するプロセスについて説明します。また、この機能を使用して仮想環境でのイメージ管理を簡素化する例も示します。

> **注:**
>
> この機能は、Active Directory (AD) 環境と非ドメイン参加 (NDJ) 環境の両方に適用されます。

概要

アプリケーションアクセス制御機能を使用すると、非表示ルールを構成することで、ユーザー、マシン、プロセスからアプリケーションを非表示にできます。

非表示ルールは次の2つの部分で構成されます。

- **非表示にするオブジェクト。** アプリケーションに対して非表示にするファイル、フォルダー、およびレジストリエントリ。

  たとえば、アプリケーションを非表示にするには、ファイル、フォルダー、レジストリエントリなど、そのアプリケーションに関連付けられているすべてのオブジェクトを指定する必要があります。
- **割り当て。** アプリケーションを非表示にする対象のユーザー、マシン、およびプロセス。

割り当ての種類

非表示ルールにおける割り当ては、プロセス、ユーザー、マシンの3つのカテゴリに分類されます。具体的な割り当ての種類は次のとおりです。

カテゴリ	タイプ
プロセス	任意のプロセス
ユーザー	• AD および Azure Active Directory (AAD) ユーザー

カテゴリ	タイプ	
	• AD および AAD ユーザーグループ	
マシン	• AD、AAD、およびNDJマシン • ADマシンのグループ（組織単位（OU）にグループ化） • NDJマシンのグループ（マシンカタログにグループ化）	

注:

- **アプリアクセス制御**ポリシーのコンテキストでは、OUはマシンのコンテナとしてのみ使用され、ユーザーのコンテナとしては使用されません。その結果、OUの割り当ては、OU内のマシンからのみアプリを非表示にし、OU内のユーザーからは非表示にしません。
- NDJマシンは、Citrix®が作成し、電源管理するマシンに限定されます。

非表示ルールに複数の割り当てが構成されている場合、以下の考慮事項に注意してください。

- それらの割り当てが同じカテゴリである場合（例：*ユーザー*Aと*ユーザーグループ*B）、アプリケーションは、それらの割り当てで指定されたすべてのオブジェクト（ユーザーAとユーザーグループBのすべてのユーザー）から非表示になります。
- それらの割り当てが異なるカテゴリである場合（例：*ユーザー*Aと マシンX）、アプリケーションは、それらのすべての割り当てで指定された条件が満たされたときに非表示になります（ユーザーAがマシンXにサインインしたとき）。
- それらの割り当てが*プロセス*カテゴリである場合、アプリケーションは、それらの割り当てで指定されたすべてのプロセスから非表示になります。

> **注:**
>
> ルールに割り当てが構成されていない場合、ルールで指定されたアプリケーションは非表示になります。

ワークフロー

アプリアクセス制御機能を使用すると、プロファイル管理は、提供されたルールに基づいて、ユーザー、マシン、およびプロセスからアプリケーションを非表示にできます。大まかに言えば、アプリアクセス制御を実装するワークフローは次のとおりです。

1. 非表示ルールを作成および生成します。使用できるツールは2つあります。
    - GUIベースのツール – WEM Tool Hub > アプリアクセス制御用ルールジェネレーター
    - PowerShellツール – プロファイル管理インストールパッケージで利用可能です。詳細については、ルールジェネレーターを使用してルールを作成、管理、および展開するを参照してください。
2. GPOを使用して、環境内のマシンに非表示ルールを適用します。詳細については、GPOを使用してアプリアクセス制御を有効にするを参照してください。

Rule Generator を使用してルールを作成、管理、展開する

このセクションでは、PowerShell ベースの Rule Generator を使用してルールを作成、管理、展開する方法について説明します。

開始する前に、ツールを実行するマシンが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Windows 10 または 11、あるいは Windows Server 2016、2019、または 2022 で動作します。
- (AD 環境のみ) ユーザーおよびマシンと同じドメインに属していること。

一般的な手順は次のとおりです。

1. **Windows PowerShell** を管理者として実行します。
2. Profile Management インストールパッケージ内の **\tool** フォルダーにアクセスし、**CPM_App_Access_Control_Config.ps1** を実行します。

> **注:**

> デフォルトでは、`\tool` フォルダーに 2 つのファイルがあります:
> CPM_App_Access_Control_Config.ps1 と CPM_App_Access_Control_Impl.ps1。
> CPM_App_Access_Control_Config.ps1 は、正しく動作するために
> CPM_App_Access_Control_Impl.ps1 に依存しています。
> CPM_App_Access_Control_Impl.ps1 をフォルダーから移動しないでください。

3. 画面の指示に従って、非表示ルールを作成、管理、生成します。

   a. マシンにインストールされている各アプリケーションとその状態を表示します。

      - **未構成**。アプリケーションのルールは構成されていません。
      - **構成済み**。アプリケーションに対して 1 つ以上のルールが構成されていますが、それらのいずれもマシンには適用されていません。
      - **構成済みで適用済み**。アプリケーションに対して 1 つ以上のルールが構成されており、少なくとも 1 つのルールがマシンに適用されています。

```
List of apps to manage:
Index Status           Name
----- ------           ----
    1 Not configured   Adobe Acrobat (64-bit)
    2 Not configured   AppUp.IntelGraphicsExperience
    3 Not configured   AppUp.ThunderboltControlCenter
    4 Not configured   Citrix Secure Access
    5 Not configured   Citrix Workspace 2303
    6 Not configured   DolbyLaboratories.DolbyAccess
    7 Not configured   ELANMicroelectronicsCorpo.ELANTrackPointforThinkpa
    8 Not configured   Git
    9 Not configured   Google Chrome
```

   b. アプリケーションリストから、非表示にしたいアプリケーションをインデックスを入力して選択します。そのアプリケーションに関連付けられているすべてのファイル、フォルダー、およびレジストリエントリが表示されます。

      追加を選択(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/app-access-control-tool-add-extra.png)

   c. 選択したアプリケーションの追加のファイル、フォルダー、またはレジストリエントリを非表示にするには、対応するアクションタイプを選択し、その名前とパスを入力してオブジェクトを追加します。さらに追加するには、この手順を繰り返します。

      考慮事項:

      - パス内のシステム環境変数（%windir%など）はサポートされていますが、ユーザー環境変数（%appdata%など）はサポートされていません。
      - ファイルとフォルダーには、ワイルドカード`*`と`?`がサポートされています。文字列に複数のアスタリスク（'*'）がある場合、2つのアスタリスク間の文字は無視されま

す。たとえば、文字列`c:\users\Finance*Manangement*`では、文字`*Management*`は単一のアスタリスク（*）として扱われます。

> **注:**
>
> 特定のファイル、フォルダー、およびレジストリエントリに関連付けることで、アプリケーションを手動で定義することもできます。

d. ルールの割り当てを構成します。詳細には、割り当てタイプを指定し、アプリケーションを非表示にする特定のオブジェクトを入力します。詳細については、次の表を参照してください。

割り当てを選択(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/app-access-control-tool-add-assignment.png)

> **注:**
>
> ルールに割り当てを構成しない場合、ルールで指定されたアプリは非表示になります。

割り当ての種類	説明
ADユーザー、ユーザーグループ、またはOU	それらのADドメイン名を、縦棒（|）で区切って入力します。
ADマシン	それらのDNSホスト名を、縦棒（|）で区切って入力します。
NDJマシンカタログ	カタログ名を、縦棒（|）で区切って入力します。例: `Machine_catalog_name1|Machine_catalog_name2`

割り当ての種類	説明
NDJ マシン	WEM Web コンソールで AAD/NDJ オブジェクトセレクター を使用してマシン名を収集し、それらの名前を縦棒 (|) で区切って入力します。例: `Machine_name1|Machine_name2`。すべてのドメインに参加していないマシンを追加するには、「**NDJ***」と入力します。
	NDJ マシン名では、ワイルドカード `*` と `?` がサポートされています。
	注: 文字列に複数のアスタリスク (`*`) がある場合、2つのアスタリスク間の文字は無視されます。たとえば、文字列 `ResearchDep*Virtual*TeamMachine*` では、文字 `*Virtual*` は単一のアスタリスク (`*`) として扱われます。
Azure AD ユーザー	WEM Web コンソールで AAD/NDJ オブジェクトセレクター を使用してユーザーの SID と名前を収集し、次の形式で入力します: `sid1\name1|sid2\name2`。例: `/azuread/989c2938-6527-4133-bab1-f3860dd15098\Tester1|/azuread/82bdde32-d5d9-4d64-b0ff-9876d4488d05\Tester2`
Azure AD グループ	WEM Web コンソールで AAD/NDJ オブジェクトセレクター を使用してグループの SID と名前を収集し、次の形式で入力します: `sid1\name1|sid2\name2`。例: `/azuread/989c2938-6527-4133-bab1-f3860dd15098\TestGroup1|/azuread/82bdde32-d5d9-4d64-b0ff-9876d4488d05\TestGroup2`

割り当ての種類	説明
注: 特定のユーザーまたはマシンを除外するには、識別子の前に `EX>` を追加します。特定のプロセスを除外するには、識別子の前に `?` を追加します。除外を割り当てられたグループから縦棒 (|) で区切ります。	

4. 手順 3 を繰り返して、他のアプリケーションの非表示ルールを作成します。
5. 画面の指示に従って、構成したルールの生データを生成し、後で使用するために .txt ファイルに保存します。
6. ルールが期待どおりに機能するかどうかをテストするには、画面の指示に従って、このマシンまたはマシンのグループに展開します。

GPO を使用してアプリケーションアクセス制御を有効にする

非表示ルールを作成して生成したら、GPO を使用して、環境内のマシンに適用できます。

GPO を使用してマシンに制御ルールを適用するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > App access control** にアクセスします。
3. **App access control** をダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**Enabled** を選択します。
5. 生成されたルールを保存した .txt ファイルを開き、内容をコピーして、**App access control rules** フィールドに貼り付けます。
6. ルールが `\r\n` ではなく `\n` で区切られていることを確認するために、ルールコンテンツを再確認してください。Windows では、コンテンツを貼り付けると `\n` が自動的に `\r\n` に変換されることがあり、エラーの原因となる可能性があります。
7. **OK**をクリックします。

この機能の構成の優先順位は次のとおりです。

1. この設定が GPO、Studio、または WEM を使用していない場合、.ini ファイルの値が使用されます。

2. この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

例

このセクションでは、イメージのアプリアクセス制御を実装するための例を説明します。

要件

この例の要件は次のとおりです。

- 営業、人事、およびエンジニアリング部門の仮想マシンを作成するために、単一のイメージを使用します。
- 次のアプリケーションへのアクセスを制御します。
  - Microsoft Excel: 人事部門のユーザーには表示されません。
  - Visual Studio Code: 営業部門または人事部門のユーザーには表示されません。

解決策

インストールされているアプリケーションへのアクセスを制御するために、Profile Management をインストールします。

テンプレートマシンをインストールする

イメージをキャプチャするためのテンプレートマシンをインストールします。手順は次のとおりです。

1. 新しいマシンを、ユーザーおよびマシンと同じADドメインに参加させます。
2. マシンに以下のソフトウェアをインストールします。
   - 必要に応じて、Windows 10または11、あるいはWindows Server 2016、2019、または 2022
   - Profile Management バージョン2303以降
   - 必要なすべてのアプリケーション

非表示ルールを作成および生成する

1. テンプレートマシンで、Rule Generatorツールを使用して非表示ルールを作成および生成します。
   - ルール1：人事部のユーザーからMicrosoft Excelを非表示にする（アプリケーション：Microsoft Excel；割り当て：HRユーザーグループ）

- ルール2：営業部または人事部のユーザーからVisual Studio Codeを非表示にする（アプリケーション：Visual Studio Code；割り当て：SalesユーザーグループおよびHRユーザーグループ）

2. 2つのルールの生データを生成し、.txtファイルに保存します。

ツールの使用方法の詳細については、「Rule Generatorを使用してルールを作成、生成、および展開する」を参照してください。

これで、テンプレートマシンからイメージをキャプチャできます。

GPO を使用してアプリのアクセス制御を有効にする

仮想マシンが作成されたら、GPO を使用してアプリのアクセス制御を一元的に有効にし、生成されたルールをマシンに適用します。詳細については、「GPO を使用してアプリのアクセス制御を有効にする」を参照してください。

FSLogix からルールセットを移行する

Rule Generator ツールを使用すると、FSLogix で構成されたルールセットを Profile Management のアプリアクセス制御に移行できます。

> **注:**
>
> FSLogixで使用される一部のルールタイプと割り当てタイプは、アプリアクセス制御でサポートされていません。環境を確認し、必要に応じて代替構成を検討してください。

> FSLogix ルールセットを移行するには：

1. WEM ツールハブ > アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター を開きます。
2. **Import > FSLogix Apps Rule Set** をクリックして移行を開始します。
3. 「**参照**」をクリックし、FSLogix Rule Editorを使用して保存されたFSLogixルール定義ファイルを見つけて、「**開く**」をクリックします。

   > **注:**
   >
   > ルール定義ファイルとそれに関連付けられた割り当てファイルが同じフォルダーに保存されていることを確認してください。このツールは、サポートされているルールセットとその割り当てを移行します。

4. 移行が完了したら、詳細を確認します。

   サポートされていないルールやデータがないか確認し、結果を検証します。移行後にルールを編集または追加できます。

5. 「**インポート**」をクリックしてプロセスを完了します。

   移行されたルールはテスト可能になり、既存のルールとともに保存できます。

マシンレベルのリダイレクトを実装する

「**アプリアクセス制御**」ポリシーを使用すると、ルールを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリキー、およびレジストリ値に対してマシンレベルのリダイレクトを実装できます。この機能の一般的なユースケースは次のとおりです。

- データローミングを実装します。ユーザープロファイル以外のデータをファイル共有にリダイレクトし、ユーザーがどのマシンにサインインしても同じデータにアクセスできるようにします。
- データ保護を強化します。重要なデータを代替の場所または値にリダイレクトし、不正アクセスから保護します。
- ユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。特定の要件に基づいてアプリのエクスペリエンスを調整します。

> 「**注：**」:

> この機能は、Active Directory (AD) および非ドメイン参加 (NDJ) 環境に適用されます。

概要

リダイレクトルールは、次の情報を指定します。

- 「**データ型**」。リダイレクトするデータの種類（ファイル、フォルダー、レジストリキー、またはレジストリ値など）。
- 「**ソースパスと宛先パス**」。指定されたデータ型のソースパスと宛先パス。
- 「**割り当て**」。このリダイレクトを適用するユーザー、マシン、およびプロセス。詳細については、「割り当ての種類」を参照してください。

割り当ての種類

リダイレクトルールにおける割り当ては、プロセス、ユーザー、およびマシンの3つのカテゴリに分類されます。特定の割り当ての種類は次のとおりです。

カテゴリ	種類
プロセス	任意のプロセス
ユーザー	• ADユーザー • ADユーザーグループ
マシン	• ADおよびNDJマシン • ADマシンのグループ（組織単位（OU）でグループ化） • NDJマシンのグループ（マシンカタログでグループ化）

注:

- **App access control**ポリシーのコンテキストでは、OUはマシンのみのコンテナとして使用され、ユーザー用ではありません。
- NDJ マシンは、Citrix® が作成および電源管理するマシンに限定されます。

ルールに複数の割り当てが構成されている場合は、次の考慮事項に注意してください。

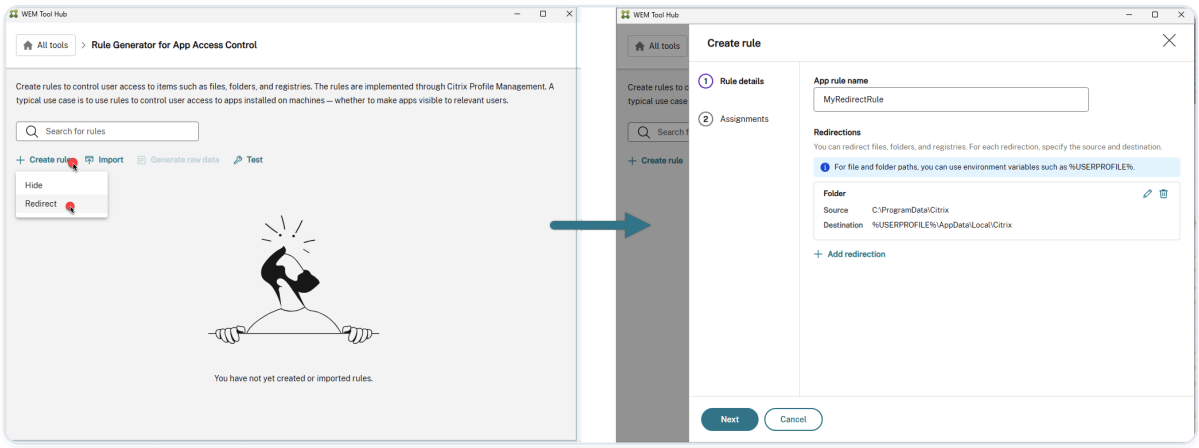
- これらの割り当てが同じカテゴリ（たとえば、*ユーザー* A と *ユーザー グループ* B）である場合、ルールはそれらの割り当てで指定されたすべてのオブジェクト（ユーザー A とユーザーグループ B のすべてのユーザー）に適用されます。
- これらの割り当てが異なるカテゴリ（たとえば、*ユーザー* A と *マシン* X）である場合、ルールはそれらのすべての割り当てで指定された条件が満たされたときに適用されます（ユーザー A がマシン X にサインインしたとき）。

> **注：**
>
> ルールに割り当てが構成されていない場合、このルールで構成されたリダイレクトは、どのような条件でも有効になります。

ワークフロー

大まかに言うと、マシンレベルのリダイレクトを実装するワークフローは次のとおりです。

1. 次のいずれかのツールを使用して、リダイレクトルールを作成および生成します。
   - GUI ベースのツール – WEM ツールハブ > アプリアクセス制御用ルールジェネレーター



   - PowerShell ツール – Profile Management インストールパッケージに含まれています。詳細については、「ルールジェネレーターを使用してルールを作成、管理、展開する」を参照してください。

> **注：**
>
> ユーザーエクスペリエンスを向上させるため、GUI ベースのツールを使用してアプリアクセス制御ルールを作成、管理、生成することをお勧めします。このツールは、**Citrix Cloud™ > WEM service > Utilities** からダウンロードできる WEM Tool Hub で入手できます。

2. **アプリアクセス制御**ポリシーを使用して、リダイレクトルールをマシンに展開します。詳細については、「リダイレクトルールをマシンに展開する」を参照してください。

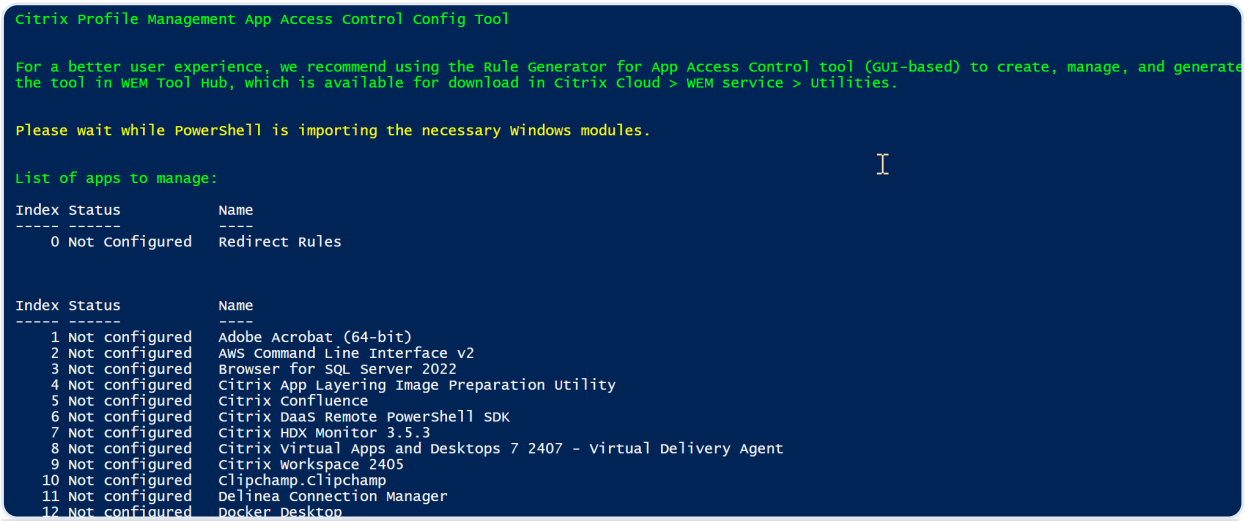
Rule Generator を使用してルールを作成、管理、展開する

このセクションでは、PowerShell ベースの Rule Generator を使用してルールを作成、管理、展開する方法について説明します。 開始する前に、ツールを実行するマシンが次の要件を満たしていることを確認してください。

- Windows 10 または 11、あるいは Windows Server 2016、2019、または 2022 で実行されること。
- (AD 環境のみ) ユーザーおよびマシンと同じドメイン内にあること。

一般的な手順は次のとおりです。

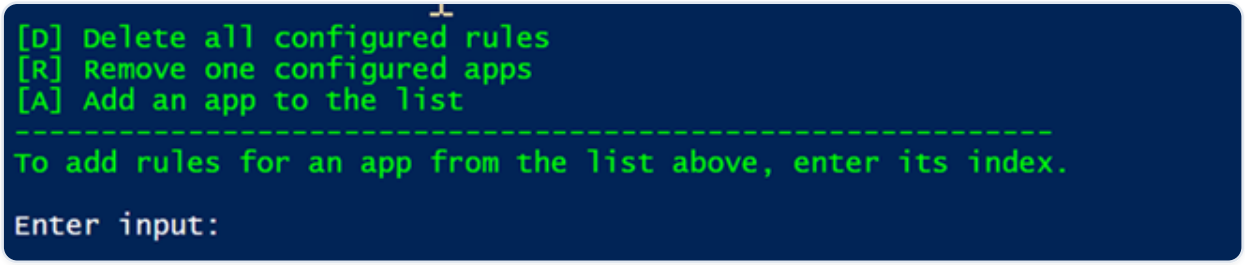
1. 管理者として **Windows PowerShell** を実行します。
2. Profile Management インストールパッケージ内の **\tool** フォルダーにアクセスし、**CPM_App_Access_Control_Config.ps1** を実行します。ルールのステータス情報が表示されます。



フィールド	説明
インデックス	- リダイレクトルールには 0 を表示します。
	- アプリ非表示ルールのインデックスを表示します。
ステータス	ルールのステータスを表示します。**構成済み**、**未構成**、**構成済み & 適用済み**が含まれます。
名前	- リダイレクトルールの場合、**リダイレクトルール**を表示します。

フィールド	説明
	- アプリケーション非表示ルールの場合、マシンにインストールされているアプリケーションの名前を表示します。

3. リダイレクトルールを管理するには、**0**を入力します。構成済みのリダイレクトルールがすべて表示されます。



4. リダイレクトルールを追加するには、**1**を入力します。
5. 画面の指示に従ってルールを構成します。

- **リダイレクトオブジェクトの種類。** ファイル、フォルダー、レジストリキー、またはレジストリ値から種類を選択します。
- **リダイレクト元とリダイレクト先。** 指定したリダイレクトオブジェクトのソースパスと宛先パスを指定します。
- **割り当て。** このリダイレクトを適用するユーザー、マシン、およびプロセスをコンマで区切って指定します。詳細については、次の表を参照してください。

割り当ての種類	説明
ADユーザー、ユーザーグループ、またはOU	ADドメイン名をコンマで区切って入力します。
ADマシン	DNSホスト名をコンマで区切って入力します。
NDJマシンカタログ	カタログ名をコンマで区切って入力します。例: `Machine_catalog_name1,Machine_catalog_name2`
NDJマシン	WEM WebコンソールでAAD/NDJオブジェクトセレクターを使用してマシン名を収集し、それらの名前をコンマで区切って入力

割り当ての種類	説明
	します。例: `Machine_name1,Machine_name2`。すべてのドメイン非参加マシンを追加するには、「**NDJ***」と入力します。NDJマシン名ではワイルドカード`*`と`?`がサポートされています。
注: 特定のユーザーまたはマシンを除外するには、識別子の前に`EX>`を追加します。特定のプロセスを除外するには、識別子の前に`?`を追加します。除外を割り当てられたグループから垂直バー (|) を使用して区切ります。	

6. 手順4と5を繰り返して、リダイレクトルールを追加します。
7. 画面の指示に従って、構成したルールの生データを生成し、将来の使用のために.txtファイルに保存します。
8. ルールが期待どおりに機能するかどうかをテストするには、画面の指示に従って、このマシンまたはマシンのグループに展開します。

マシンにリダイレクトルールを展開する

リダイレクトルールを作成および生成したら、GPO、Studio、またはWEMを使用して、アプリアクセスコントロールポリシーを使用してマシンに展開します。詳細については、GPOを使用したアプリアクセスコントロールの有効化を参照してください。

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にして構成する

既定では、ほとんどのProfile Managementポリシーはマシンレベルで機能します。これらのポリシー設定をコンテナ（サイト、ドメイン、またはOU）に適用すると、誰がログオンしたかに関係なく、そのコンテナ内のマシンに適用されます。

「*ユーザーレベルのポリシー設定*」機能が有効になっている場合、これらのマシンレベルのポリシーはユーザーレベルで機能し、ユーザーまたはグループ固有の設定を構成できます。これらの設定をコンテナに適用すると、指定されたユーザーまたは指定されたグループのユーザーがそのコンテナ内のマシンにログオンした場合にのみ適用されます。

設定の競合が発生した場合、Profile Managementは次の優先順位で処理します。

1. ユーザー固有の設定
2. ユーザーグループ固有の設定
3. マシンレベルの設定

構成手順

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にして構成するには、次の手順に従います。

1. ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする
2. ユーザーまたはグループのポリシー設定を構成する
3. （オプション）ユーザーグループの優先順位を指定する。

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする

To apply user-level Profile Management settings, you must first enable the *user-level policy settings* feature. You can accomplish this goal using various tools such as Group Policy Object (GPO), Workspace Environment Management™ (WEM), or Web Studio.

GPOを使用してこの機能を有効にするには、次の手順に従います。

1. GPOを作成し、サイト、ドメイン、またはOUなどのターゲットマシンを保持するコンテナにリンクします。
2. GPO のグループポリシー管理エディターを開きます。
3. **ポリシー \> 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) \> Citrix コンポーネント \> Profile Management \> 詳細設定** にアクセスします。
4. **ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする** ポリシーをダブルクリックします。
5. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効** を選択し、**OK** をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、無効になります。

ユーザーとグループのポリシー設定を構成する

このセクションでは、ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成する方法について説明します。

たとえば、組織には経理、営業、マーケティングなどのグループがあります。経理グループは独自のユーザーストアを使用し、他のグループはユーザーストアを共有します。この要件を満たすには、経理グループにユーザーレベルの **ユーザーストアへのパス** ポリシーを構成し、組織にマシンレベルの **ユーザーストアへのパス** 設定を構成します。

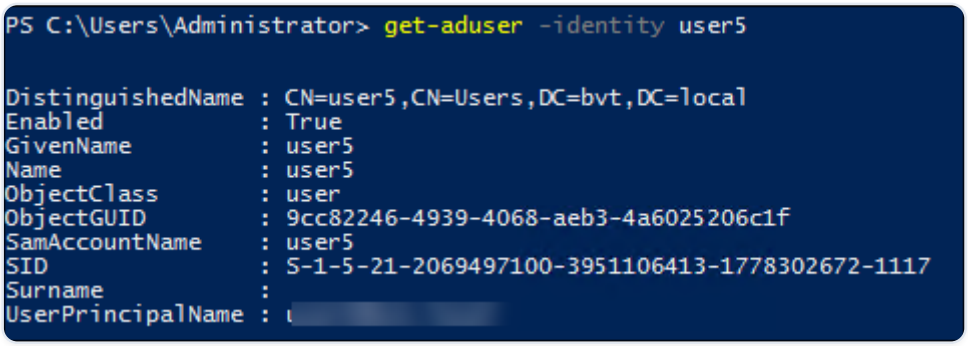
ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成するには、次の手順に従います。

1. ユーザーとグループのセキュリティ識別子 (SID) を取得する
2. ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成する

ユーザーとグループのセキュリティ識別子 (SID) を取得する

ユーザーまたはグループのユーザー固有の Profile Management 設定を構成する前に、まずドメイン名に基づいてその SID を取得します。詳細な手順は次のとおりです。

1. ドメインコントローラーにログオンします。
2. **Windows PowerShell** を管理者として実行します。
3. PowerShell コマンドラインから、必要に応じて次のいずれかのコマンドを実行します。
   - ユーザーの SID を取得するには、`Get-ADUser -Identity <ADUser>` と入力します。例: `Get-ADUser -Identity user5`
   - グループの SID を取得するには、`Get-ADGroup -Identity <ADGroup>` と入力します。例: `Get-ADGroup -Identity HR_Group`
4. 返された結果から SID をコピーします (たとえば、次の結果の `S-1-5-21-2069497100-3951106413-1778302672-1117`)。



ユーザーまたはグループ固有のポリシー設定を構成する

ユーザーレベルのポリシー設定は、以下を使用して構成できます。

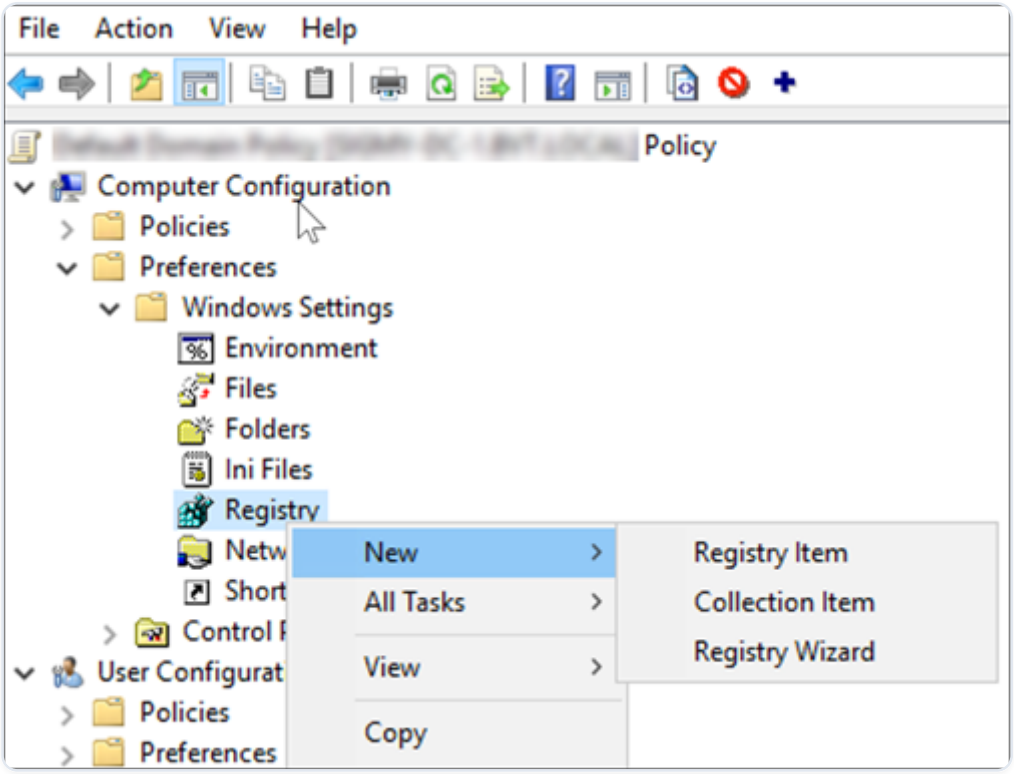
- グループポリシー設定 (GPP)
- WEM Web コンソール

GPP を使用して設定を構成する

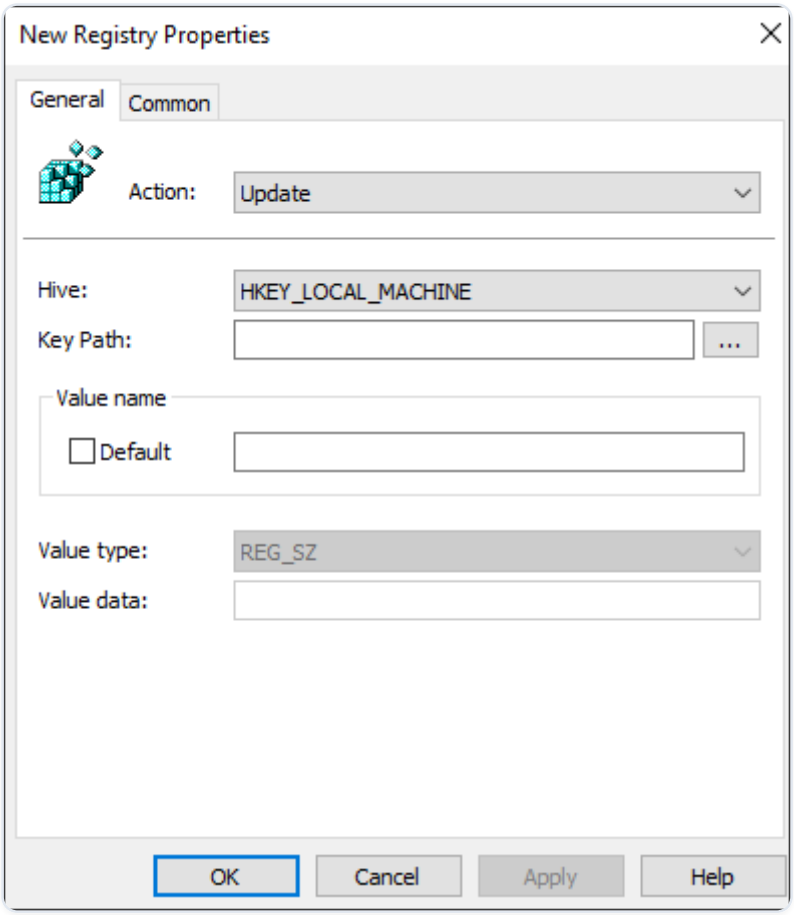
GPP を使用してユーザーレベルのポリシー設定を構成できます。グループポリシーの一部として、GPP 設定は GPO を介してドメイン参加済みコンピューターに自動的に配布されます。

ユーザーまたはグループのポリシー設定を構成するには、次の手順に従います。

1. ターゲット GPO のグループポリシー管理エディターを開きます。



2. 「**コンピューターの構成 \> 基本設定 \> Windows の設定 \> レジストリ**」に移動し、「**新規 \> レジストリ項目**」を右クリックします。「**新規レジストリのプロパティ**」ウィンドウが表示されます。

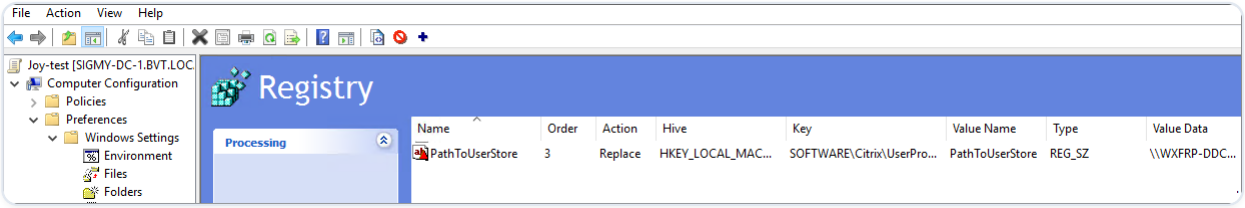


3. 「**全般**」タブで、以下の表で説明されているように、ユーザーまたはグループ固有のポリシーを構成します。この表には、ユーザー（SID: `S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108`）の *Path to user store* ポリシーを設定する構成例も示されています。

フィールド	説明	例
アクション	既定値のままにします。	更新
ハイブ	既定値のままにします。	HKEY_LOCAL_MACHINE
キーパス	ユーザーまたはグループ固有のポリシーのレジストリキーパスを入力します。まず、GPPプロパティ設定表でポリシー名を検索してキーパスを取得します。次に、キーパス内の `<SID>` を実際のSIDに置き換えます。	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108`
値の名前	ポリシーのレジストリ値の名前を入力します。ポリ	ユーザーストアへのパス

フィールド	説明	例
	シーの値の名前を見つけるには、GPPプロパティ設定表でポリシー名を検索します。	
値のタイプ	ポリシーのレジストリ値の型（REG_SZまたはREG_DWORD）を選択します。ポリシーの値の型を見つけるには、GPPプロパティ設定表でポリシー名を検索します。	REG_SZ
値のデータ	ポリシーのレジストリ値のデータ（設定値）を入力します。値のデータはポリシーによって異なります。詳細については、GPPプロパティ設定表を参照してください。	`\\WXFRP-DDC-1\UPM1\#sAMAccountName#\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`!

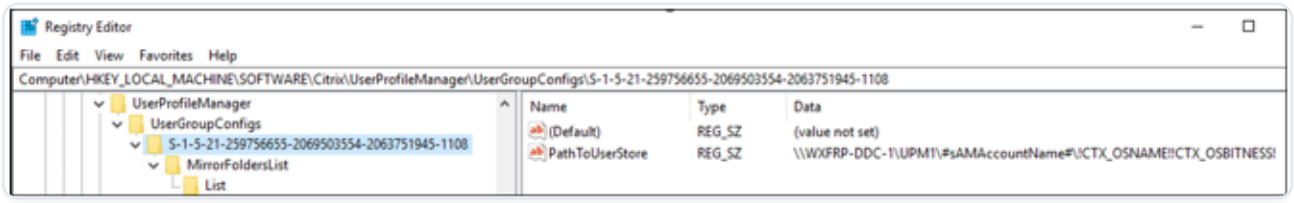
4. 「**共通**」タブをクリックし、「**適用されなくなったときにこの項目を削除する**」を選択します。メッセージボックスが表示されます。
5. 「**OK**」をクリックして確認します。「**全般**」タブの「**アクション**」オプションが「**置換**」に変わります。
6. 「**OK**」または「**適用**」をクリックします。変更はドメインコントローラーに保存されます。構成結果（例: *ユーザー ストアへのパス* ポリシー）が表示されます。



7. このGPOに対してユーザーまたはグループ固有のポリシー設定をさらに構成するには、それぞれについて手順2〜6を繰り返します。「例」セクションの構成例を参照してください。

これらのポリシー設定をコンピューターに手動で同期するには、コンピューターで `groupupdate/force` コマンドを実行します。ユーザーレベルのポリシー設定を有効にするには、コンピューターからログオフして再度ログオンします。

次のスクリーンショットに示すように、ユーザーレベルのポリシー設定は次のレジストリキー `HKLM\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>` に表示されます。



WEM Web Console を使用して設定を構成する

WEM Web Console を使用して、ユーザーレベルのポリシー設定を構成できます。詳しくは、Workspace Environment Management Service ドキュメントの「GPOを作成する」を参照してください。

例

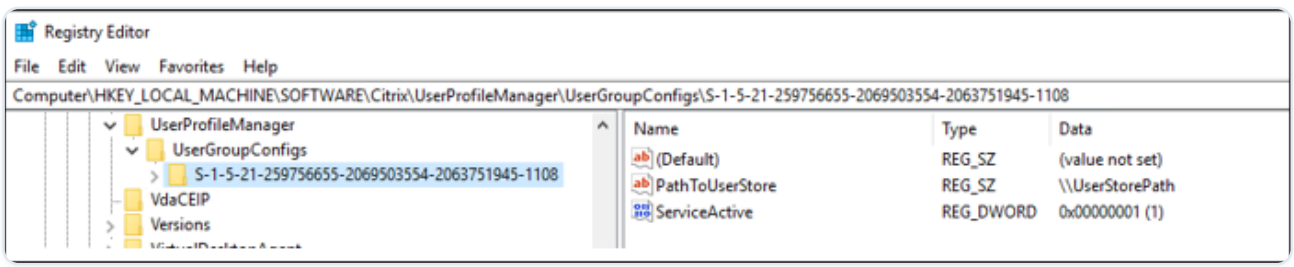
このセクションでは、ユーザーレベルのポリシー設定を構成するためのいくつかの例を示します。

Profile Management を有効にする

GPP設定を使用して、ユーザーまたはグループの「**プロファイル管理を有効にする**」ポリシーを構成します。

フィールド	値
キーパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108
値の名前	ServiceActive
値のタイプ	REG_DWORD
値のデータ	1

レジストリ内の場所:



ミラーリングするフォルダー

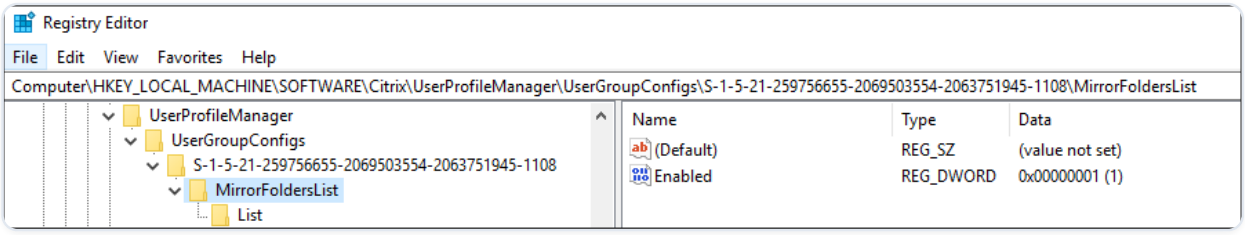
> **注:**
>
> ファイルとフォルダーのリストを含むユーザー固有のポリシーを構成するには、複数のGPPレジストリアイテムを構成する必要があります。

ユーザーまたはグループの**ミラーリングするフォルダー**ポリシーを構成するには、次の手順に従います。

1. これらのGPP設定を使用してポリシーを有効にします。

フィールド	値
キーパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108\MirrorFoldersList
値の名前	有効
値のタイプ	REG_DWORD
値のデータ	00000001

レジストリ内の場所:



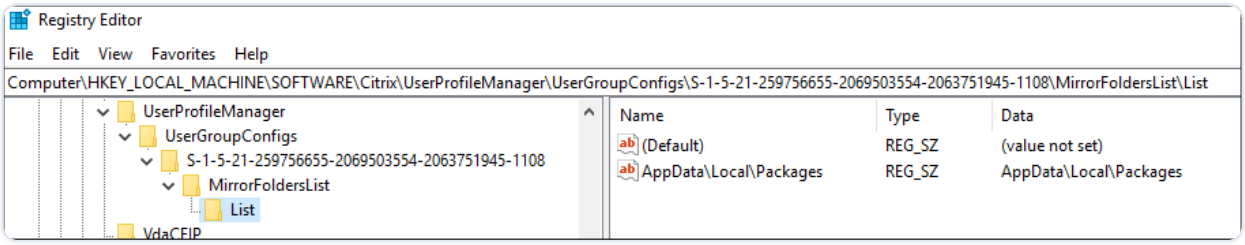
2. これらのGPP設定を使用して、ミラーリングするフォルダー（例: AppData\Local\Packages）を追加します。

フィールド	値
キーパス	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\S-1-5-21-259756655-2069503554-2063751945-1108\MirrorFoldersList\List

フィールド	値
値の名前	AppData\Local\Packages
値のタイプ	REG_SZ
値のデータ	AppData\Local\Packages

> **注:**
>
> **値の名前**フィールドと**値のデータ**フィールドの両方に、ミラーリングするフォルダーを入力します。

レジストリ内の場所：



3. このポリシーにフォルダーを追加するには、手順2を繰り返します。

(オプション) ユーザーグループの優先順位を指定する

ユーザーが競合するポリシー設定を持つ複数のグループに属している場合は、それらのグループの優先順位を指定します。

設定の競合が発生した場合、最も優先順位の高いグループのポリシー設定が優先されます。優先順位が指定されていない場合、アルファベット順で最も早いSIDを持つグループが優先されます。

GPOを使用して優先順位を構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー \> 管理用テンプレート：ポリシー定義（ADMXファイル） \> Citrix Components \> Profile Management \> 詳細設定**にアクセスします。
3. 「**ユーザーグループの優先順位を設定**」ポリシーをダブルクリックします。ポリシーウィンドウが表示されます。
4. 「**Enabled**」を選択します。

5. 「**ユーザーグループの優先順位**」フィールドで、グループのセキュリティ識別子 (SID) またはドメイン名を優先順位の降順で入力し、セミコロン (`;`) で区切ります。

   例:

   `ctxxa.local\groupb;S-1-5-21-674278408-26188528-2146851469-1174;ctxxa.local\groupc;`

6. **OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、優先順位は指定されません。

GPPプロパティ設定

この表は、ユーザーレベルのプロファイル管理ポリシーのGPPプロパティ設定を一覧表示します。

注:

この表には6つの列が含まれています。その一部はビューポートを超えて表示される場合があります。非表示の列を表示するには、下にスクロールして水平スクロールバーを使用してください。

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
Profile Management を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ServiceActive	0:無効; 1:有効;	
処理されるグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroup`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`Configs\<SID>\ProcessedGroups`				
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProcessedGroups\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
除外されるグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExcludedGroups`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExcludedGroups\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ローカル管理者によるログオンの処理	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ProcessAdmins	0:無効; 1:有効;	
ユーザーストアへのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	PathToUserStore	絶対パス、またはホームディレクトリに対する相対パス。	
ユーザーストアの移行	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	MigrateUserStore	以前使用していたユーザー ストア パス。	
アクティブライトバック	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSMidSessionWriteBack	0:無効; 1:有効;	
アクティブライトバックレジストリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSMidSessionWriteBackReg	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSMidSessionWriteBackSessionLock	0:無効; 1:有効;	
オフラインプロファイルのサポート	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OfflineSupport	0:無効; 1:有効;	
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	DeleteCachedProfilesOnLogoff	0:無効; 1:有効;	
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	ProfileDeleteDelay	遅延 (秒単位)。	
既存プロファイルの移行	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	MigrateWindowsProfilesToUserStoreEnabled	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	MigrateWindowsProfilesToUserStore	1:ローカルおよびローミング; 2:ローカル; 3:ローミング; 4:なし;	
既存のアプリケーションプロファイルの自動移行	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ApplicationProfilesAutoMigrationEnabled	0:無効; 1:有効;	
ローカルプロファイルの競合処理	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LocalProfileConflictHandling	1:ローカルプロファイルを使用; 2:ローカルプロファイルを削除; 3:ローカルプロファイルの名前を変更;	
テンプレートプロファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	TemplateProfilePath	テンプレートプロファイルへのパス。	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	TemplateProfileOverridesLocalProfile	0:無効; 1:有効;	テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	TemplateProfileOverridesRoamingProfile	0:無効; 1:有効;	テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	TemplateProfileIsMandatory	0:無効; 1:有効;	すべてのログオンでCitrix必須プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LoadRetries	再試行回数。	
自動構成を無効にする	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	DisableDynamicConfig	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	Software\Policies\Citrix\UserProfileManager<SID>	REG_DWORD	LogoffRatherThanTempProfile	0:無効; 1:有効;	
カスタマーエクスペリエンス向上プログラム	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CEIP有効	0:無効; 1:有効;	
Outlook の検索インデックスローミングを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookSearchRoamingEnabled	0:無効; 1:有効;	
Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookEdbBackupEnabled	0:無効; 1:有効;	
Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	OutlookOstVhdxMaxNum	Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数。	
プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	FSLogixProfileContainerSupport	0:無効; 1:有効;	
ユーザーストアをレプリケートする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MultipleRemoteStoreReplication`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MultipleRemoteStoreReplication\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CredBasedAccessEnabled	0:無効; 1:有効;	
VHDX ファイルのストレージ パスをカスタマイズする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	PathToVhdStore	VHDXファイルを保存するパス。	
セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	EnableVolumeReattach	0:無効; 1:有効;	
ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	SyncGpoStateEnabled	0:無効; 1:有効;	
OneDrive コンテナを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\OneD`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	riveContainer				
	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\OneDriveContainer\List	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>	REG_DWORD	CompactVHDFreePortion	空き容量比率 (%)。	
VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>	REG_DWORD	CompactVHDIterations	ログオフ回数。	
VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする	SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>	REG_DWORD	CompactVHDnDefrag	0:無効; 1:有効;	
プロファイルコンテナ	SOFTWARE\Citrix\UserProfil	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`eManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainer`				
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainer\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ProfileContainerLocalCache	0:無効; 1:有効;	
プロファイルコンテナから除外するフォルダー	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListDir`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListDir\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルコンテナに含めるフォルダー	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListDir`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListDir\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルコンテナ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfil`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
から除外するファイル	`eManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListFile`				
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerExclusionListFile\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルコンテナに含めるファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListFile`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ProfileContainerInclusionListFile\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
VHDディスクの圧縮を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	EnableVHDCompact	0:無効; 1:有効;	
除外リスト	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExclusionListRegistry`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\ExclusionList`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`Registry\List`				
包含リスト	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\InclusionListRegistry`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\InclusionListRegistry\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
NTUSER.DATのバックアップ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LastKnownGoodRegistry	0:無効; 1:有効;	
除外リスト - ファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\Sync`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`ExclusionListFiles`				
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusionListFiles\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
除外リスト - ディレクトリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusionListDir`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncExclusionListDir\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ログオン除外チェック	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	LogonExclusionCheck	0:除外されたファイルまたはフォルダーを同期する; 1:除外されたファイルまたはフォルダーを無視する; 2:除外されたファイルまたはフォルダーを削除する;	
大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\LargeFileHandlingList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\LargeFileHandlingList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
同期するディレクトリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncDirList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncDirList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
同期するファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncFileList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SyncFileList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ミラーリングするフォルダー	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MirrorFoldersList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\MirrorFoldersList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
フォルダーのミラーリングを高速化する	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	AccelerateFolderMirroring	0:無効; 1:有効;	
プロファイルストリーミング	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	ピーエス有効	0:無効; 1:有効;	
ペンディングエリアのプロファイ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfil`	REG_DWORD	PSForPendingAreaEnabled	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
ルストリーミングを有効にする	`eManager\UserGroupConfigs\<SID>`				
常にキャッシュ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSAlwaysCache	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSAlwaysCacheSize	このサイズ以上のファイルをキャッシュします (MB単位)。	
保留中のエリアロックファイルのタイムアウト (日数)	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	PSPendingLockTimeout	保留中のエリアロックファイルのタイムアウト (日数)。	
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\PSUserGroupsList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\PSUserGroupsList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\StreamingExclusionList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\StreamingExclusionList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	CP有効	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\CPUserGroupList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\CPUserGroupList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
クロスプラットフォーム定義へのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム定義へのパス。	
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	シーピーパス	クロスプラットフォーム設定ストアへのパス。	
クロスプラット	Software\Policies\Citrix\UserProfil	REG_DWORD	CPMigrationFromBase	0:無効; 1:有効;	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
フォーム設定の作成元	eManager<SID>		ProfileToCPStore		
Citrix Virtual Apps最適化を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	XenAppOptimizationEnabled	0:無効; 1:有効;	
Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_SZ	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps最適化定義へのパス。	
重複排除のために共有ストアに含めるファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileInclusionList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileInclusi`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`onList\List`				
共有ストアから除外するファイル	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileExclusionList`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>\SharedStoreFileExclusionList\List`	REG_SZ	リスト項目	リスト項目	
プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	有効	0:無効; 1:有効;	
プロファイルコンテナの自動拡張しきい値	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroup`	REG_DWORD	AutoExtendThreshold	自動拡張しきい値(パーセント)	

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`Configs\<SID>`				
プロファイルコンテナの自動拡張増分	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	AutoExtendSize	自動拡張増分 (GB単位)	
プロファイルコンテナの自動拡張制限	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	AutoExtendLimit	自動拡張制限 (GB単位)	
VHD コンテナーのデフォルト容量	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	VhdCapacity	デフォルト容量 (GB単位)	
VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	DisableConcurrentAccessToProfileContainer	0:無効; 1:有効;	プロファイルコンテナ
	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroup`	REG_DWORD	DisableConcurrentAccessToOne	0:無効; 1:有効;	OneDriveコンテナ

ポリシー名	キーパス	値の型	値の名前	値のデータ	値の説明
	`Configs\<SID>`		DriveContainer		
UWPアプリのローミング	`SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager\UserGroupConfigs\<SID>`	REG_DWORD	EnableUwpAppsRoaming	0:無効; 1:有効;	

Azure AD参加済みおよび非ドメイン参加済みVDAマシンに対するサポートを有効にする

Citrix Profile Managementは、顧客が管理するAzureサブスクリプション内のAzure AD参加済みおよび非ドメイン参加済みVDAマシンに対して、プロファイル管理を提供できるようになりました。

前提条件

- プロファイル管理 2203以降
- VDAバージョン2203以降
- プロファイルストレージサーバーの資格情報を保存するためにWorkspace Environment Management (WEM)を使用している場合、WEMエージェントバージョン2109.2.0.1以降

Profile Managementを有効にする

Azure AD参加済みまたは非ドメイン参加済みVDAマシンでProfile Managementを有効にするには、以下の設定を完了します。

1. **Profile Management**で、**Enable Profile management**ポリシーを**enabled**に設定します。
2. **Path to user store**ポリシーを、VDAからアクセス可能な有効なパスに設定します。たとえば、ファイルサーバーまたはAzure Files共有に存在するユーザーストアはアクセス可能です。
3. **Profile container**ポリシーを**Enable**に設定し、プロファイルコンテナリストにアスタリスク（*）を追加します。詳細については、「ユーザープロファイル全体のプロファイルコンテナを有効にする」を参照してください。

4. **Enable credential-based access to user stores**ポリシーを**Enabled**に設定します。次に、Profile Managementがユーザーストアにアクセスできるように、プロファイルストレージサーバーの資格情報をWEMまたはWindows資格情報マネージャーに保存します。詳細については、「ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする」を参照してください。

ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

デフォルトでは、Citrix Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザー ストアにアクセスします。この動作では、現在のユーザーがユーザー ストアに直接アクセスする権限を持っている必要があります。対照的に、**ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを使用すると、Profile Management はストア自身の資格情報を使用してユーザー ストアにアクセスできます。

このポリシーにより、ユーザー ストアの展開とアクセスにおいて、より柔軟性が得られます。たとえば、このポリシーを使用すると、現在のユーザーがアクセス権を持たないファイル共有（Azure Filesなど）にユーザー ストアを展開できます。または、Profile Management がユーザー ストアにアクセスする際に現在のユーザーを偽装しないようにしたい場合に、このポリシーを有効にできます。

注：

Profile Management は2種類のプロファイル ソリューションを提供しており、ユーザー ストアは両方のストレージの場所として機能します。

- ファイルベースのソリューション。ユーザー プロファイルは、ログオン時にリモート ユーザー ストアからローカル コンピューターにフェッチされ、ログオフ時に書き戻されます。
- コンテナーベースのソリューション。ユーザー プロファイルはVHDXファイル（プロファイル コンテナーとして知られています）に保存されます。これらのVHDXファイルは、ログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

このポリシーは、ファイルベースとコンテナーベースの両方のソリューションで利用できます。Profile Management のバージョン2212より前では、このポリシーはコンテナーベースのソリューションでのみ利用できます。

> セキュアなユーザー ストアの作成について詳しくは、Microsoft TechNet Webサイトの「ローミング ユーザー プロファイル用のファイル共有を作成する」を参照してください。

> Profile Management がストア自身の資格情報を使用してユーザー ストアにアクセスできるようにするには、次の両方のアクションを実行する必要があります。

- Profile Management が実行されている各マシンで、**ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**ポリシーを有効にする。
- ストアの資格情報をそれらのマシンに追加する。

この目標を達成するには、次のいずれかの方法を使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM) サービス(#enable-credential-based-access-using-the-wem-service)とGPO(#enable-credential-based-access-using-gpos)。

> **注：**
>
> コンテナーベースのソリューションが有効になっている場合、NTFS権限はユーザー ストアに対して保持されます。

WEMサービスを使用して資格情報ベースのアクセスを有効にする

WEMを使用すると、Profile Managementが実行されている各マシンで同じ資格情報を入力する必要がなくなります。WEMサービスコンソールでポリシーを有効にし、ユーザー ストアの資格情報を一度だけ入力します。その後、WEMサービスはこれらの設定を各マシンに適用します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 管理コンソールで、 **> >** の順に移動します。
2. タブで、 チェックボックスをオンにします。

   WEMで チェックボックスを選択する(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/selecting-the-enable-credential-based-access-to-user-store-check-box-in-wem.png)
3. をクリックします。 ダイアログボックスが表示されます。

   WEMの ダイアログボックス(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/the-new-credential-dialog-box-in-wem.png)
4. プロファイルストレージサーバーのFQDNまたはIPアドレスと、その資格情報を入力します。
5. をクリックします。

GPOを使用して資格情報ベースのアクセスを有効にする

GPOを使用してポリシーを有効にすることを選択した場合、Profile Managementが実行されている各マシンで資格情報を手動で追加する必要があります。

ポリシーを有効にする

詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、**ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする**をダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **OK**をクリックします。

Windows 資格情報マネージャーに資格情報を追加する

Profile Management は、ユーザー ストアにアクセスするためにマシンに保存されている資格情報を使用します。Profile Management が実行されている各マシンで、ユーザー ストアの資格情報を**Windows 資格情報マネージャー**に追加します。詳細な手順は次のとおりです。

1. Sysinternals Web サイトから**PsExec**をダウンロードし、ファイルを`C:\PSTools`に解凍します。
2. **スタート**メニューから**コマンド プロンプト**を右クリックし、**管理者として実行**を選択します。コマンド シェルが起動します。
3. `C:\PSTools\PsExec -s -i cmd`コマンドを実行します。別のコマンド シェルが起動します。

   > **注：**
   >
   > `-s`パラメーターは、Local System アカウントを使用してツールを実行していることを示します。その結果、資格情報を安全に保存できます。

4. 新しいコマンド シェルで、`rundll32.exe keymgr.dll, KRShowKeyMgr`コマンドを実行します。**保存されているユーザー名とパスワード**ダイアログ ボックスが表示されます。
5. **保存されているユーザー名とパスワード**ダイアログ ボックスで、**追加**をクリックします。

6. プロファイル ストレージ サーバーの FQDN または IP アドレスとその資格情報を入力し、デフォルトの資格情報タイプをそのままにして、**OK**をクリックします。

大容量ファイル処理を有効にする

プロファイル内に存在する大容量ファイルは、ログオンまたはログオフが遅くなる一般的な原因です。Citrix®は、大容量ファイルをユーザー ストアにリダイレクトするオプションを提供します。このオプションにより、それらのファイルをネットワーク経由で同期する必要がなくなります。

グループポリシーで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management**の下で、**File system**フォルダーを開きます。
2. **Large File Handling - Files to be created as symbolic links**ポリシーをダブルクリックします。
3. 処理するファイルを指定します。

UPMPolicyDefaults_all.iniファイルで大容量ファイル処理を有効にするには、次の手順を実行します。

1. .iniファイルに**\[LargeFileHandlingList\]**セクションを追加します。
2. そのセクションで処理するファイルを指定します。

ファイルを参照するポリシーでは、ワイルドカードを使用できます。例：`\\!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.ost`

これらのファイルがCitrix Profile Managementの除外リストに追加されていないことを確認してください。

> **注**

> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrixは、大容量ファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮に入れることを推奨します。

> Citrixは、Microsoftセキュリティ更新プログラムMS15-090を適用することを推奨します。一般的なセキュリティ対策として、Microsoft Windowsシステムを常に最新の状態に保つようにしてください。

ファイルの重複排除を有効にする

ユーザー ストア内のさまざまなユーザー プロファイルに同一のファイルが存在する可能性があります。ユーザー ストアにファイルの重複インスタンスが保存されていると、ストレージ コストが増加します。

ファイル重複排除ポリシーを使用すると、Profile Management はユーザー ストアから重複ファイルを削除し、それらの単一インスタンスを中央の場所（*共有ストア* と呼ばれる）に保存できます。これにより、ユーザー ストアでのファイルの重複が回避され、ストレージ コストが削減されます。重複排除は、ユーザー ストアと各レプリケートされたユーザー ストアに適用されます。

ファイルの重複排除を有効にし、共有ストアに含めるファイルを指定するには、次のポリシーを構成します。

1. **ファイル重複排除 > 重複排除のために共有ストアに含めるファイル**
2. (オプション) **ファイル重複排除 > 共有ストアから除外するファイル**
3. (オプション) **ファイル重複排除 > プロファイル コンテナから重複排除するファイルの最小サイズ**

> **注:**
>
> 2311 以降、ファイル重複排除ポリシーはプロファイル コンテナにも適用されます。最適なユーザー ログオン エクスペリエンスを確保するために、Profile Management はプロファイル コンテナから最大 10 個のファイルを重複排除します（ただし、**重複排除のために共有ストアに含めるファイル** ポリシーで 10 個を超えるファイルを定義できます）。重複排除は、リストされたファイルが更新または作成され、指定されたサイズを超え、かつ重複排除されたファイルが 10 個未満である場合に発生します。

ファイル重複排除ポリシーを構成すると、Profile Management はユーザー ストアと同じパスに共有ストアを作成します。例：

- ユーザー ストアへのパス: `\\server\profiles$\%USERDOMAIN%\%USERNAME%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!`!
- 共有ストアへのパス: `\\server\profiles$\%USERDOMAIN%\SharedFilesStore`

重複排除のために共有ストアにファイルを含める

ユーザー ストアに重複ファイルが存在する場合は、ファイルの重複排除を有効にし、重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定します。

重要:

共有ストアに重複排除されたすべてのファイルは、すべてのドメインユーザーが読み取ることができるため、個人データや機密データの重複排除は推奨しません。

詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > プロファイル管理 > ファイルの重複排除**にアクセスします。
3. **共有ストアに含める重複排除ファイル**をダブルクリックします。
4. **有効**を選択します。
5. **共有ストアに含めるファイルのリスト**フィールドで、**表示**をクリックします。
6. ユーザープロファイルに対する相対パスでファイル名を入力します。

   ワイルドカードは、次の考慮事項とともにサポートされています。

   - ファイル名のワイルドカードは再帰的に適用されます。それらを現在のフォルダーのみに制限するには、垂直バー (`|`) を使用します。
   - フォルダー名のワイルドカードは再帰的に適用されません。

   例:

   - `Downloads\profilemgt_x64.msi` — ダウンロードフォルダー内の profilemgt_x64.msi ファイル
   - `*.cfg` — ユーザープロファイルフォルダーとそのサブフォルダー内の .cfg 拡張子を持つファイル
   - `Music*` — Music フォルダーとそのサブフォルダー内のファイル
   - `Downloads*.iso` — ダウンロードフォルダーとそのサブフォルダーにある.iso拡張子のファイル
   - `Downloads*.iso|` — ダウンロードフォルダーのみにある.iso拡張子のファイル
   - `AppData\Local\Microsoft\OneDrive**.dll` — AppData\Local\Microsoft\OneDriveフォルダーの直下のサブフォルダーにある.dll拡張子のファイル
7. **OK** をクリックし、もう一度 **OK** をクリックします。

構成の優先順位

1. この設定が無効になっている場合、共有ストアは無効になります。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、共有ストアは無効になります。

共有ストアからファイルを除外する

ワイルドカード文字を使用すると、ファイルのグループを一度にすべて共有ストアに含めることができます。グループから一部のファイルを除外するには、**共有ストアから除外するファイル** ポリシーを次のように有効にして構成します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルの重複排除** にアクセスします。
3. **共有ストアから除外するファイル** をダブルクリックします。
4. **有効** を選択します。
5. **共有ストアから除外するファイルのリスト** フィールドで、**表示** をクリックします。
6. ユーザープロファイルからの相対パスでファイル名を入力します。

   ワイルドカードは、以下の考慮事項とともにサポートされます。

   - ファイル名内のワイルドカードは再帰的に適用されます。現在のフォルダーのみに制限するには、垂直バー (`|`) を使用します。
   - フォルダー名内のワイルドカードは再帰的に適用されません。

   例:

   - `Downloads\profilemgt_x64.msi` — Downloadsフォルダー内のprofilemgt_x64.msiファイル
   - `*.tmp` — ユーザープロファイルフォルダーとそのサブフォルダー内の.tmp拡張子を持つファイル
   - `AppData*.tmp` — AppDataフォルダーとそのサブフォルダー内の.tmp拡張子を持つファイル
   - `AppData*.tmp|` — AppDataフォルダー内のみの.tmp拡張子を持つファイル
   - `Downloads*\a.txt` — Downloadsフォルダーの直下のサブフォルダーにあるa.txtファイル

7. **OK** をクリックし、もう一度 **OK** をクリックします。

構成の優先順位

1. この設定が無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ファイルは除外されません。

プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定します

プロファイルコンテナが有効になっている場合、プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定できます。デフォルトでは、Profile Managementは、ファイルが256 MBを超える場合にのみプロファイルコンテナからファイルを重複排除します。必要に応じて、次の手順でこのしきい値サイズを増やすことができます。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルの重複排除**にアクセスします。
3. **プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ**をダブルクリックします。
4. **有効**を選択します。
5. **最小サイズ (メガバイト)** フィールドに、必要に応じて256より大きい値を入力します。
6. **OK**をクリックします。

構成の優先順位

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、値は256になります。

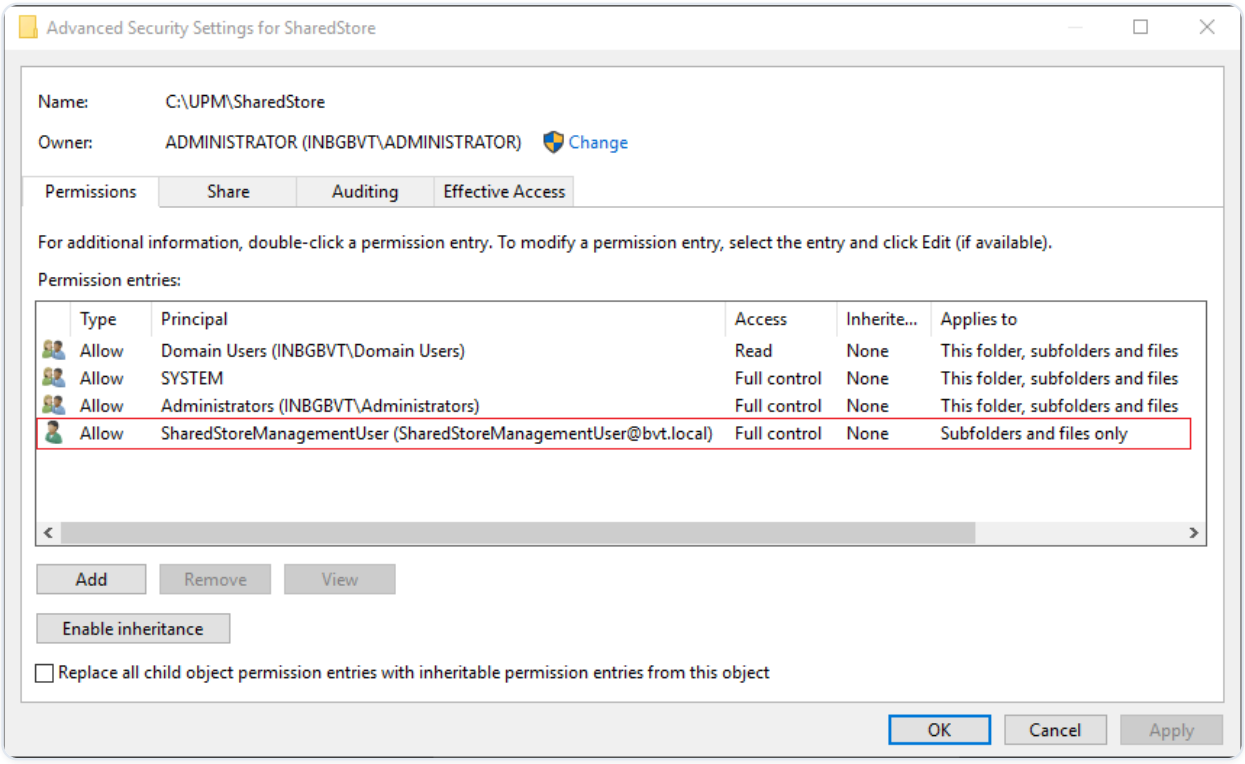
共有ストアのセキュリティ設定を構成する

共有ストアが存在しない場合、Profile Managementは次のアクセス許可設定で自動的に共有ストアを作成します。

- ドメインコンピューター: フルコントロールアクセス
- ドメインユーザー: 読み取りアクセス

デフォルト設定ではドメインコンピューターにフルコントロールアクセスが許可されるため、セキュリティを向上させるために、共有ストアを手動で作成し、資格情報ベースのアクセスを実装することをお勧めします。これを行うには、次の手順に従います。

1. **ユーザー ストアへのパス**設定の `%USERNAME%` パラメーターと同じディレクトリレベルに共有ストアフォルダーを作成します。たとえば、**ユーザー ストアへのパス**設定が `\\SERVER\UPM_USER_STORE\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` の場合、共有ストアフォルダーは `\\SERVER\UPM_USER_STORE\SharedStore` である必要があります。
2. 共有ストアに次のアクセス許可を付与します。この図に示すように、ユーザー `SharedStoreManagementUser` は共有ストアへのアクセスに使用される資格情報です。



3. 各VDAで、共有ストアにアクセスするために `SharedStoreManagementUser` ユーザーアカウントのWindows資格情報を追加します。この目的のために、Windows資格情報マネージャーまたはWorkspace Environment Managementを使用できます。詳細については、ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする に記載されている手順を参照してください。

ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする

Outlookの検索インデックスローミングを有効にする機能は、ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。この機能により、オフラインOutlookデータファイル（.ost）とユーザー固有の検索データベースが、ユーザープロファイルとともにローミングされます。

前提条件

この機能は、次の要件を満たすマシンで利用できます。

- オペレーティングシステム:

    - Microsoft Windows 10 バージョン 1709 以降
    - Windows Server 2016 およびそれ以降
- Microsoft Outlook 2019、2016、または2103、またはMicrosoft Office 365

この機能を有効にするには、マシンでMicrosoft Windows Search Serviceが有効になっていることを確認してください。デフォルトでは、Windowsデスクトップでは有効になっており、Windowsサーバーでは無効になっています。Windowsサーバーでサービスを有効にする方法の詳細については、このMicrosoftの記事を参照してください。以下のバージョンがテストされており、サポートされています。

- 7.0.20348.380、7.0.20348.138、7.0.20344.1
- 7.0.21286.1000、7.0.21343.1000
- 7.0.17134.376、7.0.17134.285、7.0.17134.228、7.0.17134.1
- 7.0.16299.402、7.0.16299.248、7.0.16299.15
- 7.0.15063.413
- 7.0.14393.2457, 7.0.14393.2430, 7.0.14393.2368, 7.0.14393.2312, 7.0.14393.2273, 7.0.14393.2248, 7.0.14393.1884, 7.0.1493.1593
- 7.0.1393.2125, 7.0.1393.1884, 7.0.1393.1770
- 7.0.10240.17443
- 7.0.9600.18722

> **注記:**
>
> この機能は、Microsoft Windows Search Service の将来のバージョンをサポートすると予想されます。この機能が特定の将来のバージョンの Microsoft Windows Search Service をサポートしないことが判明した場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。

仕組み

VHDX (Virtual Hard Disk) は、仮想マシンの仮想および論理ディスクストレージ領域を表すために使用されるディスクファイル形式です。Outlook の検索インデックスローミングを有効にする機能は、VHDX ファイルに依存して動作します。

VHDX ファイルは、この機能を使用する各ユーザーに対して作成されます。VHDX ファイルは、ユーザー固有のプロファイルを、そのユーザーのプロファイル専用の個別の仮想ディスクに保存

します。Profile Management は、ログオン時に VHDX ファイルをマウントし、ログオフ時にアンマウントします。2 種類の VHDX ファイルがあります。

- OutlookOST.vhdx ファイル。オフライン Outlook データファイル (`.ost`) を保存します
- OutlookSearchIndex.vhdx ファイル。OutlookOST.vhdx ファイルに保存されているオフラインフォルダーファイル用の検索インデックスデータベースを保存します

注記:

デフォルトでは、Profile Management はセッション中にデタッチされた VHDX ファイルを自動的に再アタッチします。詳しくは、「セッションでデタッチされた VHDX ディスクを自動的に再アタッチする」を参照してください。

Profile Management は、デフォルトで 30 GB の VHDX 容量を提供します。それに応じてストレージクォータを計画してください。VHDX の実際の使用量が以前に構成したクォータを超えると、VHDX ファイルはアンマウントされます。

キャッシュ Exchange モードとオンラインモード間の自動切り替え

Profile Management は、Outlook コンテナーが有効なマシンで中断のない Outlook サービスを提供します。

- ユーザーログオン時にOutlookコンテナが機能するためのすべての条件が満たされていることを検出すると、Profile ManagementはOutlookのキャッシュExchangeモードを自動的に有効にします。キャッシュExchangeモードが有効になっている場合、ユーザーはメールボックスデータのためにOutlookコンテナにリンクされます。これらの条件には以下が含まれます。
  - Outlookの検索インデックスローミングを有効にするポリシーが有効になっています。
  - Outlookコンテナがアタッチされています。
  - カスタマイズされたOSTパスが設定されていないか、Outlookコンテナのマウントパスである `appdata\local\microsoft\outlook` に設定されています。
- セッション中にコンテナがデタッチされたことを検出すると、Profile ManagementはOutlookをキャッシュExchangeモードからオンラインモードに切り替えます。ユーザーはメールボックスデータのためにExchange Serverにリンクされます。
- セッション中にコンテナが再アタッチされたことを検出すると、Profile ManagementはOutlookをキャッシュExchangeモードに戻します。

同時セッションのサポート

Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする機能により、Profile Managementは同じユーザーの同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。

この機能は、ユーザーの各同時セッションにOutlook OSTファイルのコピーを割り当てます。デフォルトでは、Profile ManagementはOutlook OSTファイルを保存するために2つのVHDXディスク（ディスクごとに1つのファイル）を提供します。ユーザーがさらにセッションを開始した場合、追加のOutlook OSTファイルはローカルプロファイルに保存されます。

ストレージ容量に余裕がある場合、VHDXディスクのデフォルト数を増やすことができます。たとえば、数を3に設定します。その結果、Profile Managementは最初の3つのセッションのOSTファイルをVHDXディスクに保存し、それ以降のセッションのOSTファイルはローカルプロファイルに保存します。

Outlook検索インデックスデータベースの自動バックアップと復元

Profile Managementは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存し、破損が発生した場合はそのコピーに復元できます。

この機能が有効になっている場合、Profile Managementはログオン時にデータベースが正常にマウントされるたびに検索インデックスデータベースのバックアップを保存します。新しいバックアップが正常に保存された後、Profile Managementは以前に保存されたバックアップを削除します。Profile Managementはバックアップを検索インデックスデータベースの正常なコピーとして扱います。検索インデックスデータベースのマウント試行が失敗した場合、Profile Managementは検索インデックスデータベースを最後に確認された正常なコピーに自動的に復元します。

> **重要:**
>
> - ポリシーが有効になった後、検索インデックスデータベースが最初に作成された時点では、Profile Managementは検索インデックスデータベースのバックアップを保存しません。
> - Profile Management は、新しいバックアップが正常に保存された後、以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは、VHDX ファイルの利用可能なストレージ領域をより多く消費します。

機能の有効化

ネイティブの Outlook 検索エクスペリエンスを提供するには、**Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**機能を有効にし、必要に応じてその拡張機能を有効にします。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. 次の手順で機能を有効にします。
    a. **Outlook の検索インデックスローミングを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. **有効**を選択します。
    c. **OK**をクリックします。
4. 同じユーザーの同時セッションでこの機能をサポートするには、次の手順に従います。
    a. **Outlook 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
    b. **有効**を選択します。
    c. 利用可能なストレージ容量がある場合は、**Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数**フィールドで、デフォルトの VHDX ディスクの数を増やします。このフィールドの詳細については、「同時セッションのサポート」を参照してください。
    d. **OK**をクリックします。
5. この機能の高い安定性を提供するには、次の手順に従います。
    a. 「**Outlook 検索インデックス データベースのバックアップと復元**」ポリシーをダブルクリックします。
    b. 「**有効**」を選択します。
    c. 「**OK**」をクリックします。
6. この機能の高い可用性を提供するには、次の手順に従います。
    a. 「**セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする**」ポリシーをダブルクリックします。
    b. 「**有効**」を選択します。
    c. 「**OK**」をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行し、すべてのセッションからログオフしてから、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Windows Search のユーザーごとのカタログを使用して Outlook 検索インデックスをローミングする

Windows 11 および Windows Server 2025 では、Microsoft が Windows Search Service (`searchindexer.exe`) を更新しました。この問題は、`searchindexer.exe` バージョン 7.0.26100 以降 (Windows 11 バージョン 24H2 および Windows Server 2025 に付属するビルド) に影響します。以前の `searchindexer.exe` バージョンは影響を受けません。この変更により、Profile Management 検索サービスフック (`upmsearchsvchook`) が実行時に `searchindexer.exe` をクラッシュさせる可能性があります。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. Profile Management を 2507 CU2、2607 LTSR、またはそれ以降のバージョンに更新します。
2. VDA で、次のレジストリ値を追加して Windows Search のユーザーごとのカタログを有効にします。
    - キー: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Search`
    - 値の名前: `EnablePerUserCatalog`
    - 種類: `REG_DWORD`
    - 値のデータ: `1`
3. 設定を有効にするには、マシンを再起動します。

ユーザーごとのカタログを有効にすると、次の変更が発生します:

1. Windows検索インデックスデータストレージの場所は `AppData\Roaming\Microsoft\Search` に移動します。ソースの場所は、Outlookの検索インデックスローミングを有効にする機能が有効になっているかどうかによって異なります。有効になっている場合、データは `AppData\Roaming\Citrix\Search` から `AppData\Roaming\Microsoft\Search` に移動します。無効になっている場合、データは `C:\ProgramData\Microsoft\Search` から `AppData\Roaming\Microsoft\Search` に移動します。

2. Profile Managementは、検索インデックスデータを保存するために `OutlookSearchIndex.vhdx` を使用しなくなります。インデックスは、ユーザーごとのカタログを通じてユーザープロファイルとともにネイティブにローミングされます。

他のオペレーティングシステムでユーザーごとのカタログを有効にする

Windows 10、Windows Server 2019、およびWindows Server 2022では、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows Search` の下で `EnablePerUserCatalog` を1に設定すると、Windows検索インデックスデータストレージの場所が変更され、既存のデータが移行されるという同じ効果が得られます。

ユーザーごとのカタログのProfile Managementバージョン要件

Windows Searchのユーザーごとのカタログのサポートは、Profile Management 2507 CU2で導入されました（2607 LTSR以降にも含まれています）。Profile Management 2507 CU1以前のバージョンでは、`EnablePerUserCatalog` の値を認識しません。常にレガシーフックと `OutlookSearchIndex.vhdx` メカニズムを使用します。これらのバージョンで `EnablePerUserCatalog` を1に設定すると、Windows Searchはインデックスをユーザーごとの場所に再配置しますが、Profile Managementは古い場所をローミングし続け、Outlookの検索インデックスローミングを有効にする機能が動作しなくなり、空のOutlookSearchIndex.vhdxディスクが発生します。ユーザーごとのカタログは、Profile Managementを2507 CU2、2607 LTSR、またはそれ以降のバージョンに更新した後にのみ有効にしてください。

動作の概要

次の表は、異なるWindowsバージョンと構成での結果をまとめたものです。影響を受けるビルドでは、フックがインストールされている限りクラッシュが発生し、Outlookの検索インデックスローミングを有効にするポリシーとは無関係です。

WINDOWSバージョン	UPMバージョンとENABLEPERUSERCATALOG	SEARCHINDEXER.EXEがクラッシュする可能性があります	OUTLOOK 検索インデックスのローミング
Windows 11、Windows Server 2025 以降 (影響あり)	**2507 CU2、2607 LTSR、またはそれ以降でEnablePerUserCatalog = 1**	**いいえ**	**動作する (推奨 - Windows Search サービスのネイティブ動作)**
Windows 11、Windows Server 2025 以降 (影響あり)	その他の組み合わせ	はい	動作しない

WINDOWSバージョン	UPMバージョンとENABLEPERUSERCATALOG	SEARCHINDEXER.EXEがクラッシュする可能性があります	OUTLOOK 検索インデックスのローミング
Windows 10、Windows Server 2022 またはそれ以前	2507 CU2、2607 LTSR、またはそれ以降で EnablePerUserCatalog = 1	いいえ	動作する (非推奨 - Windows Search データロケーションが変更され、インデックスデータの移行が発生します)
Windows 10、Windows Server 2022 またはそれ以前	2507 CU1 / 2603 またはそれ以前で EnablePerUserCatalog = 1	いいえ	動作しません
Windows 10、Windows Server 2022 またはそれ以前	**EnablePerUserCatalog = 0 の任意のバージョン**	**いいえ**	**動作します (推奨 - デフォルトの動作、データ移行は不要です)**

OneDrive コンテナを有効にする

OneDrive コンテナを使用すると、OneDrive フォルダーはユーザーとともにローミングできます。その結果、ユーザーはどのコンピューターからでも同じ OneDrive フォルダーにアクセスできます。

OneDrive コンテナは、VHDXベースのフォルダーローミングソリューションです。Profile Management は、ファイル共有上にユーザーごとに VHDX ファイルを作成し、ユーザーの OneDrive フォルダーを VHDX ファイルに保存します。VHDX ファイルは、ユーザーがログオンするときにアタッチされ、ログオフするときにデタッチされます。

Profile Management は、次の2つのプロファイルソリューションを提供し、OneDrive コンテナは両方に適用されます。

- **ファイルベース**。ユーザープロファイルは、ログオン時にリモートユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされ、ログオフ時に書き戻されます。
- **コンテナベース**。ユーザープロファイルは VHDX ファイル（プロファイルコンテナとして知られています）に保存されます。これらの VHDX ファイルは、ログオン時に自動的にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

OneDrive コンテナを展開するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. (オプション）VHDX ファイルの保存パスを指定する
2. OneDrive コンテナを有効にして構成する

> **注:**
>
> - Citrix Profile Management 2206 以降、コンテナベースのソリューションを使用する場合、OneDrive フォルダーはデフォルトでユーザーとともにローミングします。ただし、個別のコンテナを使用して OneDrive フォルダーをローミングしたい場合は、OneDrive コンテナを有効にすることもできます。
> - Citrix Profile Management 2311 以降、OneDrive コンテナは次の同期機能をサポートします。
>   - マルチセッションランタイム同期。ユーザーが1つのセッションで OneDrive ファイルに行った変更は、すべての同時セッションで即座に表示されるようになりました。
>   - シングルサインオン (SSO) 同期。ユーザーは、その後のログオン時に OneDrive の資格情報を再入力する必要がありません。

（オプション）VHDX ファイルの保存パスを指定する

既定では、OneDriveコンテナのVHDXファイルは、ユーザー ストアと同じストレージサーバーに保存されます。

たとえば、ユーザー ストアのパスを次のように構成します。

`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!`!

OneDriveコンテナのVHDXファイルは、次にここに保存されます。

`\\myprofileserver\profiles$\%username%.%domain%\!ctx_osname!.!ctx_osbitness!\OneDrive`

必要に応じて、OneDriveフォルダーのVHDXディスクを保存する別のファイル共有を指定できます。詳細については、「VHDXファイルのストレージパスを指定する」を参照してください。

OneDriveコンテナを有効にして構成する

OneDriveコンテナポリシーを有効にし、VHDXファイルに保存するOneDriveフォルダーを指定します。詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrixコンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスし、**OneDriveコンテナを有効にする**をダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **OneDriveフォルダーのリスト**フィールドで、**表示**をクリックします。
5. ユーザープロファイルに対する相対パスの形式でOneDriveフォルダーを入力し、**OK**をクリックします。

   たとえば、OneDriveフォルダーの絶対パスが`%userprofile%\OneDrive - Citrix`の場合、`OneDrive - Citrix`をリストに追加します。

   > **注：**
   >
   > 相対パスには、`!CTX_OSNAME!`や`!CTX_OSBITNESS!`などの変数を指定できません。

6. **OK** をクリックします。

プロファイル読み込みタイムアウトを有効にする

プロファイル読み込みタイムアウトを有効にするポリシーを使用すると、Citrix Profile Management がユーザープロファイルの読み込みを待機する最大秒数を設定し、その時間を超えた場合に一時プロファイルに切り替えることができます。特定のタイムアウトを設定することで、プロファイルの読み込みにおける柔軟性が向上し、セッションの回復性が強化されます。

一般的なユースケースは次のとおりです。

- **Citrix Apps を実行している非永続的なマルチセッション VDA。**このような環境では、ユーザー固有のデータを読み込む必要がない場合があります。タイムアウトを 0 秒に設定することで、プロファイルの読み込みをバイパスし、一時プロファイルを使用できます。
- **エラー処理。**このポリシーは、プロファイルの読み込みがタイムアウト設定を超過した場合に、自動的に一時プロファイルに切り替えることで、ネットワークの中断を軽減します。

注:

- このポリシーは、*ファイル*ベースと*コンテナ*ベースの両方のプロファイルソリューションに適用されます。
- このポリシーは、プロファイルの*移行*およびプロファイルの*リセット*プロセスには適用されません。

GPO を使用してこのポリシーを有効にして構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. **プロファイル読み込みタイムアウトを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択します。
5. **プロファイル読み込みタイムアウト**設定に、0 から 1800 の範囲の数値（秒単位）を入力します。

   注:

   - 強い必要がない限り、タイムアウトを10秒より長く設定することをお勧めします。短いタイムアウトは、通常の状態でもユーザーが予期せず一時プロファイルにログオンする原因となる可能性があります。
   - 0を入力すると、Profile Managementはユーザーのログオン処理時に一時プロファイルをすぐに使用します。

6. **OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーはデフォルトで無効になります。

UWPアプリのローミングを有効にする

エンドユーザーは、個々のニーズに合わせてMicrosoft UWP (Universal Windows Platform) アプリをインストールすることがよくあります。特にデスクトップが非永続的な場合、これらのアプリが異なる仮想環境間でアクセス可能であることを確認する方法が必要です。

UWPアプリは、ユーザーごとまたはマシンごとの2つの方法でインストールできます。マシンごとのインストールの場合、マスターイメージにアプリを事前に展開することをお勧めします。ユーザーごとのインストールの場合、**UWPアプリのローミングを有効にする**を有効にします。このポリシーにより、ユーザーごとにインストールされたUWPアプリが、ユーザーの仮想デスクトップ間でローミングされるようになります。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じUWPアプリにアクセスできます。

注:

- このポリシーはWindows 10のみに対応しています。他のWindowsまたはWindows Serverバージョンではサポートされていません。
- バージョン2503以降、このポリシーはAppXパッケージロードアクセラレーションポリシーとシームレスに連携します。この機能強化により、**AppXパッケージロードアクセラレーション**が有効になっている場合でも、UWPアプリがユーザーとともにローミングできるようになります。

仕組み

UWPアプリのローミングを有効にするポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは次のように動作します。

1. ユーザーがUWPアプリのインストールを開始すると、Profile Managementはインストールプロセスを監視します。
2. 環境内でアプリが最初にインストールされる場合、Profile Managementは`{User_Store_File_Share_Path}\AppStore\`フォルダーにVHDXディスク（*UWPアプリコンテナ*と呼ばれる）を作成し、アプリ（個人設定を除く）をそのディスクに保存します。同じアプリのその後のインストールでは、Profile Managementは追加のVHDXディスクを作成しません。したがって、各UWPアプリはUWPアプリコンテナ内に単一のVHDXディスクを持ちます。
3. ユーザーがマシンにログオンすると、ユーザーがインストールしたUWPアプリのVHDXディスクがアタッチされます。ユーザーがログオフすると、それらのディスクはデタッチされます。

重要:

- UWPアプリのローミングは、ポリシーが有効になった後にユーザーごとのパッケージを使用してインストールされたUWPアプリにのみ適用されます。つまり、アプリがインストールされた後にポリシーが有効になった場合、ユーザーごとのパッケージを使用して再インストールされるまで、そのアプリはローミングの恩恵を受けません。
- すべてのユーザーがUWP VHDXディスクを共有します。

GPOを使用してUWPアプリのローミングポリシーを有効にする

詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. **UWP アプリのローミング**ポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。
5. UWP ローミングのログオンおよびログオフエクスペリエンスを向上させるには、次のように**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にします。
    a. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ファイルシステム > 同期**にアクセスします。
    b. **フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーをダブルクリックします。
    c. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

- この設定がGPO、Studio、またはWorkspace Experience Management (WEM) を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

UWPアプリの読み込み高速化を有効にする

Citrix®環境でMicrosoft UWPアプリを展開すると、Windowsのログオン時間が増加する可能性があります。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録データを各マシンにローカルに保存します。非永続環境では、そのデータは再起動後に失われる可能性があります。

AppXパッケージの読み込み高速化を有効にするポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは各マシン用に仮想ディスクコンテナを作成し、UWPアプリの登録データを保存します。この機能により、UWPアプリの読み込みが高速化され、マシンの再起動時のデータ損失が防止されます。

バージョン2603以降、AppXパッケージの読み込み高速化機能が有効になっている場合、Profile ManagementはAppRepositoryデータベースの破損に対する自動検出と回復を提供します。詳細については、「Automatic StateRepository recovery」を参照してください。

GPOを使用してポリシーを有効にする

詳細な手順は次のとおりです。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMXファイル) > Citrixコンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. **AppXパッケージの読み込み高速化を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択します。
5. UWP登録データを保存するためのUNCパスを入力します。そのパスがドメインコンピューターからアクセス可能であることを確認してください。
6. **OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. この設定がGPO、Studio、またはWorkspace Experience Management (WEM)を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

アプリの読み込み高速化を確認する

ポリシーを有効にした後、アプリの読み込み高速化が機能していることを確認するには、次の手順に従います。

1. 機能を確認する:
    a. UWPアプリの登録データを格納するコンテナがアタッチされているかどうかを確認するには、**ディスクの管理** (`diskmgmt.msc`) を開きます。
    b. 一時フォルダを作成し、それがアタッチされたディスクに表示されるかどうかを確認することで、`C:\ProgramData\Microsoft\Windows\AppRepository`がアタッチされたディスクにリダイレクトされていることを確認します。
2. パフォーマンス高速化を確認する:

    WEM Admin Tool Hub の **ログオン分析** ツールまたは **ControlUp のログオン期間スクリプト** を使用して、**Appx パッケージの読み込み** フェーズ中に要した時間を測定します。

自動StateRepositoryリカバリ

AppXパッケージの読み込み高速化機能がアクティブで、AppRepositoryコンテナストアパスが構成されている場合、自動StateRepositoryリカバリは自動的に有効になります。

AppXパッケージの読み込み高速化がAppRepositoryデータベースをコンテナにリダイレクトすると、OSのアップグレード、予期せぬシャットダウン、またはストレージの問題により、AppRepositoryデータベースが破損することがあります。

以前は、この問題を解決するには手動での介入が必要でした。Profile Managementは現在、自動的に次のことを行います。

- Windowsイベントログエントリ (イベントID 100、270、272) を監視することで、AppRepositoryデータベースの破損をリアルタイムで検出します。
- ユーザーまたは管理者の操作を必要とせずに、段階的な3段階戦略を使用してリカバリします。
- サービスライフサイクル全体で破損を継続的に監視します。

ログメッセージを表示

回復の進行状況は、Profile Managementログに記録されます。次のメッセージを探してください。

- `Starting background monitoring for AppRepository database integrity...`.
- `AppRepository database corruption detected. Recovery stage: N`

- `Recovery Stage N completed.`.
- `All automatic recovery attempts exhausted. Corruption persists. Manual intervention required.`.

破損イベントを確認する

イベントビューアーで破損イベントを確認できます。

1. **イベントビューアー**を開きます。
2. **アプリケーションとサービスログ > Microsoft > Windows > StateRepository > Operational** に移動します。
3. イベントID 100 (エラー)、イベントID 270 (重大)、およびイベントID 272 (重大) を探します。

自動回復が失敗した場合の対処法

すべての自動回復試行が使い果たされた場合は、次の操作を行います。

1. 回復試行履歴についてProfile Managementログを確認します。
2. AppRepositoryコンテナーパスにアクセスできることを確認します。
3. Windows イベントログで、イベントID 100、270、272の発生頻度を確認してください。
4. システムイベントログで、基になるストレージまたはディスクのエラーを確認してください。
5. Profile Management サービスを停止し、破損したコンテナファイルを削除して、サービスを再起動します。新しいコンテナは自動的に作成されます。
6. 破損が繰り返し発生する場合は、潜在的なハードウェアまたはストレージの問題を調査してください。

マシンの休止状態に対する同時セッションサポートを有効にする

ユーザーが仮想マシン (VM) を休止状態にしてから再開する場合、セッションがデータ損失なしで続行できるように、VHDXベースのプロファイルディスクは一貫性を保つ必要があります。このポリシーは、休止状態が適用される同時セッション環境でのディスク競合を防ぎます。

このポリシーを有効にするタイミング

デフォルトでは、VHDXベースのProfile Management機能は、セッションが休止状態になった場合の同時セッションシナリオをサポートしておらず、VHDXディスクの競合を引き起こす可能性があります。以下の*両方*の条件が当てはまる場合に、このポリシーを有効にしてください。

- 同じユーザーが同時に複数のセッションを実行できる（同時セッション）。
- 以下のCitrix Profile Managementポリシーのいずれかまたは複数が有効になっている場合：
  - プロファイルコンテナ
  - Outlookの検索インデックスローミング
  - フォルダーミラーリングの高速化
  - OneDriveコンテナ

仕組み

このポリシーがない場合、セッションが休止状態になると、そのアタッチされたVHDXディスクはデタッチされます。新しい同時セッションがそれらのディスクを検出し、アタッチする可能性があります。休止状態のセッションが再開するとき、それらのディスクはすでに使用されているため再アタッチできず、プロファイルの破損やセッションの利用不能につながる可能性があります。

このポリシーが有効になっている場合、Citrix Profile Managementはこのような競合を防ぐための追跡メカニズムを導入します。

1. ログオン時に、Profile ManagementはユーザーストアのPendingフォルダーにレコードファイルを作成し、アタッチされている各VHDXディスクをリストします。
2. セッションが休止状態になった場合、レコードは残るため、Profile Managementはどのディスクがまだ使用中であるかを認識します。
3. 別のセッションが開始されると、休止状態のセッションに属するディスクがアタッチされないように、レコードファイルがチェックされます。
4. 休止状態のセッションが再開されると、システムは自動的に予約済みのディスクを再アタッチし、シームレスな回復を可能にします。
5. ログオフ時に、ディスクがデタッチされたことを示すようにレコードファイルが更新されます。

このポリシーを有効にする

1. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > プロファイル管理 > 詳細設定 > マシン休止状態のマルチセッションサポートを有効にする** に移動します。
2. ポリシーを **有効** に設定します。
3. **OK** をクリックして設定を保存します。
4. 変更を適用するには、影響を受けるマシンで `gpupdate /force` を実行します。

5. ポリシーが有効になっていることを確認するために、ログオフしてから再度ログオンします。

VHD設定の構成

この記事では、VHDXベースの機能をカスタマイズおよび最適化する方法について説明します。

- VHDコンテナのストレージ容量とパスを指定する(#specify-the-storage-capacity-and-path-for-vhd-containers)

  適用対象: プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、フォルダミラーリングコンテナ、およびOutlook検索インデックスコンテナ。
- VHDディスク圧縮設定を有効にして構成する(#enable-and-configure-vhd-disk-compaction-settings)

  適用対象: プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびフォルダミラーリングコンテナ
- VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする(#enable-exclusive-access-to-vhd-containers)

  適用対象: プロファイルコンテナおよびOneDriveコンテナ
- セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチを有効にする(#enable-automatic-reattachment-of-vhdx-disks-in-sessions)

  適用対象: プロファイルコンテナ、Outlook検索インデックスコンテナ、フォルダミラーリングコンテナ、およびOneDriveコンテナ。

これらのコンテナの詳細については、以下を参照してください。

- プロファイルコンテナ(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/citrix-profile-management-profile-container.html)
- Outlook検索インデックスローミング(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/enable-native-outlook-search-experience.html) (*Outlook検索インデックスコンテナ* と呼ばれます)
- フォルダミラーリングソリューションの高速化(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/policies/descriptions-and-defaults.html#accelerate-folder-mirroring) (*フォルダミラーリングコンテナ* と呼ばれます)
- OneDriveコンテナ(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/enable-the-onedrive-container.html)

VHDコンテナのストレージ容量とパスを指定する

デフォルトでは、各VHDXコンテナはユーザー ストアに50 GBのディスク容量で保存されます。必要に応じて、別のストレージパスを選択し、デフォルトの容量を変更できます。

以下に、VHDXファイルのデフォルトおよびカスタムのストレージパスを示します。

- プロファイルコンテナー設定
  - デフォルト: `{USER_STORE_PATH}\ProfileContainer\{OS_NAME_SHORT}\`
  - カスタム: `{VHDX_STORE_PATH}\ProfileContainer\{OS_NAME_SHORT}\`
- Outlook検索インデックスのローミング
  - デフォルト: `{USER_STORE_PATH}\VHD\{OS_NAME_SHORT}\`
  - カスタム: `{VHDX_STORE_PATH}\VHD\{OS_NAME_SHORT}\`
- フォルダーのミラーリングを高速化する
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\MirrorFolders\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\MirrorFolders\
- OneDriveコンテナを有効にする
  - デフォルト: {USER_STORE_PATH}\OneDrive\
  - カスタム: {VHDX_STORE_PATH}\OneDrive\

Profile Managementは、現在のユーザーを偽装してVHDXファイルにアクセスするようになり、Domain ComputersにVHDXファイルのストレージパスへの`full control`権限を付与しなくなりました。

ストレージパスを指定する

VHDXコンテナ用のネットワークストレージの場所を準備します。ストレージの場所にユーザーに`Modify`権限以上を付与していることを確認してください。

VHDXコンテナのストレージパスを指定するには、以下の手順に従います。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**で、**VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. **VHDXファイルを保存するパス**フィールドに、ストレージの場所のフルパスを入力します。例: `\\myservername\vhdx_store`。
5. **適用**をクリックし、次に**OK**をクリックします。

設定を有効にするには、以下を実行します。

1. ユーザープロファイルを使用しているすべてのセッションからログオフします。
2. コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

   ポリシーが有効になるタイミングは、使用状況によって異なります。

   - VHDXファイルのストレージパスを初めて指定する場合、ポリシーはユーザーがログオンした後に有効になります。
   - VHDXファイルのストレージパスを変更する場合、ポリシーはユーザーが初めてログオフした後に有効になります。

`gpupdate`コマンドの詳細については、Microsoftドキュメントを参照してください。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Profile ManagementはVHDXファイルをユーザーストアに保存します。

VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量を指定する

各VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量は50 GBです。容量を変更するには、以下の手順に従います。

1. 「**グループポリシー管理エディター**」を開きます。
2. 「**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**」で、「**VHDコンテナのデフォルト容量 (GB)**」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. 「**デフォルト容量 (GB)**」フィールドに、必要に応じて新しい数値を入力します。
5. **OK**をクリックします。

VHDディスク圧縮設定を有効にして構成する

VHDディスク圧縮は、空き領域を削除し、ファイル内のデータを結合することで、VHDファイルのサイズを削減するプロセスです。「**VHDディスク圧縮を有効にする**」ポリシーを使用すると、Profile ManagementでVHDディスク圧縮を有効にできます。Profile Managementによって作成されたVHDファイルは、特定の条件が満たされた場合、ユーザーのログオフ時に自動的に圧縮され、中央ストレージまたはクラウドストレージのスペースを節約します。

このセクションでは、VHDディスク圧縮を有効にし、デフォルトの圧縮設定と動作を調整する方法について説明します。

概要

VHDXディスク圧縮は、Profile Managementの以下のVHDXファイルに適用されます。

- プロファイルコンテナ
- OneDriveコンテナ
- フォルダーミラーリングコンテナ

「**VHDディスク圧縮を有効にする**」ポリシーが有効になっている場合、以下のいずれかの条件が満たされると、VHDXファイルはユーザーのログオフ時に自動的に圧縮されます。

- VHDファイルの空き領域比率が指定された値（デフォルトでは20%）を超えている

  空き領域の比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

  * Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスのGetSupportedSizeメソッドを使用して取得されます。詳細については、VHDファイルの必要な最小サイズを取得するを参照してください。
- 最後の圧縮以降のログオフ回数が指定された値（デフォルトでは5）に達している

> **注:**
>
> ユーザーがログオフすると、VHDディスクの圧縮プロセスはログオフプロセスと並行して実行されます。したがって、ディスク圧縮によってログオフ時間が長くなることはありません。ユーザーが再度ログオンしようとしたときにVHDディスク圧縮プロセスが完了していない場合、Profile Managementはログオン試行を阻止します。

ニーズと利用可能なリソースに応じて、**詳細設定**で以下のポリシーを使用してこれらのデフォルト設定を調整できます。

- VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率
- VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数

VHDディスクの圧縮が有効になっている場合、VHDディスクファイルはまずWindowsに組み込まれている`defrag`ツールを使用してデフラグされ、その後圧縮されます。VHDディスクのデフラグはより良い圧縮結果をもたらしますが、無効にするとシステムリソースを節約できます。必要に応じて、**詳細設定**で以下のポリシーを使用してデフラグを無効にできます。

- VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

VHDディスクの圧縮を有効にする

VHDディスクの圧縮を有効にすると、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびフォルダミラーリングコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。

GPOを使用してVHDディスクの圧縮を有効にするには、以下の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**にアクセスします。
3. **VHDディスクの圧縮**ポリシーをダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. この設定がGPO、Studio、またはWorkspace Environment Management™ (WEM) を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

圧縮設定と動作を変更する

VHDディスクの圧縮を有効にするとストレージスペースを節約できますが、システムI/Oとネットワーク帯域幅も消費します。圧縮プロセス中のシステムおよびネットワークリソースの使用状況を監視して、以下の設定を調整するかどうかを判断できます。

- VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率
- VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数
- VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

GPOを使用してデフォルトの圧縮設定と動作を変更するには、以下の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. 圧縮をトリガーする空き領域の比率を変更するには、次の手順に従います。
    a. **VHD ディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率**ポリシーをダブルクリックします。
    b. 表示されたポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、必要に応じてパーセンテージを入力して、**OK**をクリックします。
4. 圧縮をトリガーするログオフ回数（最後の圧縮以降）を変更するには、次の手順に従います。

a. **VHD ディスク圧縮をトリガーするログオフ回数**ポリシーをダブルクリックします。
b. 表示されたポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、必要に応じて値を入力して、**OK**をクリックします。

5. VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にするには、次の手順に従います。

a. **VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にする**ポリシーをダブルクリックします。
b. 表示されたポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

構成の優先順位は次のとおりです。

- VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率
  a. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
  b. この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルト値の20 (%)が使用されます。
- VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数
  a. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
  b. この設定がどこにも構成されていない場合、デフォルト値の5が使用されます。
- VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする
  a. この設定がGPO、Studio、またはWEMを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
  b. この設定がどこにも構成されていない場合、デフラグはデフォルトで有効になります。

VHDファイルの必要な最小サイズを取得する

詳細な手順は次のとおりです。

1. VHDファイルがオペレーティングシステムにアタッチされていることを確認します。
2. このPowerShellコマンドを管理者として実行します。

   ```
   Get-WmiObject -Class MSFT_Partition -Namespace ROOT\Microsoft\Windows\Storage
   ```

   現在のデスクトップのすべてのパーティションが表示されます。
3. VHDファイルに対応するパーティションを見つけ、GetSupportedSizeメソッドを使用して必要な最小サイズ (`SizeMin`) を取得します。

VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする

> **注:**
>
> - この設定は、OneDriveコンテナと、ユーザープロファイル全体に対して有効になっているプロファイルコンテナに適用されます。
> - この設定がプロファイルコンテナに対して有効になっている場合、**プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする**設定は自動的に無効になります。

> デフォルトでは、VHDコンテナは同時アクセスを許可します。必要に応じて、プロファイルコンテナとOneDriveコンテナの同時アクセスを無効にできます。

詳細な手順は次のとおりです。

1. **グループポリシー管理エディター**を開きます。
2. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Citrix Components > Profile Management > プロファイルコンテナ設定**の下で、**VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
3. 「**Enabled**」を選択します。
4. 排他的アクセスを有効にするコンテナを選択します。オプションには、**プロファイルコンテナ**と**OneDriveコンテナ**が含まれます。
5. **OK**をクリックします。

設定を有効にするには、次の手順を実行します。

1. ユーザープロファイルを使用しているすべてのセッションからログオフします。
2. コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、設定は無効になります。

セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチを有効にする

セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチ機能により、Profile ManagementはVHDXベースのポリシーの高い安定性を確保します。

各VHDX関連ポリシーは、適切に機能するために該当するVHDXディスクに依存しています。Profile Managementは、ログオン中にこれらのディスクをアタッチし、ログオフ中にデタッチします。しかし、これらのVHDXディスクはセッション中に誤ってデタッチされ、ポリシーが適切に機能しなくなる可能性があります。VHDXディスクがデタッチされる可能性のある原因には、次のものがあります。

- ファイルサーバーで一時的なエラーが発生する
- ネットワーク接続が遅い

セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチポリシーが有効になっている場合、Profile Managementは、先行するVHDXベースのポリシーで使用されているVHDXディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Managementはディスクを自動的に再アタッチします。

ポリシーを有効にする

デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。VHDXベースのポリシーの高い安定性を確保するために、デフォルト設定を維持することをお勧めします。

VHDXベースのポリシーでパフォーマンスの問題が発生した場合は、以下の手順に従ってポリシー設定を確認してください。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **Citrix Components > Profile Management > Advanced settings**の下で、**セッションでのVHDXディスクの自動再アタッチ**ポリシーをダブルクリックします。
3. 設定が**無効**になっている場合は、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、Microsoftの記事に記載されているように、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用され、デフォルトで**有効**になります。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーはデフォルトで有効になります。

競合するプロファイルを解決する

既存の展開にProfile Managementを追加すると、ローカルのWindowsユーザープロファイルとCitrixユーザープロファイル（ユーザーストア内）の間で競合が発生する可能性があります。このシナリオでは、ローカルのWindowsプロファイルのデータがどのように管理されるかを決定する必要があります。

1. Profile Managementで、フォルダーを開きます。
2. **ローカルプロファイルの競合処理**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

   - **ローカルプロファイルを使用する**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを処理しますが、変更は加えません。
   - **ローカルプロファイルを削除する**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルを削除し、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。
   - **ローカルプロファイルの名前を変更する**。Profile ManagementはローカルのWindowsユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的）、ユーザーストアからCitrixユーザープロファイルをインポートします。

ここでローカルプロファイルの競合処理が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

テンプレートまたは必須プロファイルを指定する

既定では、新しいCitrix®ユーザープロファイルは、ユーザーが最初にログオンするコンピューター上のデフォルトのユーザープロファイルから作成されます。Profile Managementは、プロファイルを作成する際に、代わりに中央に保存されたテンプレートを使用することもできます。このテンプレートは、任意のネットワークファイル共有に存在する標準の移動プロファイル、ローカルプロファイル、または必須プロファイルにすることができます。

異なるデバイスのデフォルトユーザープロファイルに差異があると、ユーザー用に作成されるベースプロファイルにも違いが生じます。テンプレートプロファイルの選択は、グローバルデフォルトユーザープロファイルと見なすことができます。

前提条件：

- テンプレートプロファイルにユーザー固有のデータが含まれていないことを確認します
- ユーザーがテンプレートプロファイルへの読み取りアクセス権を持っていることを確認します
- ファイルNTUSER.MANをNTUSER.DATに名前変更して、必須プロファイルをテンプレートプロファイルに変換します
- テンプレートプロファイル内のNTUSER.DATからSACLを削除します

既存のMicrosoftプロファイルをカスタマイズしてテンプレートプロファイルを作成する方法については、`<https://support.microsoft.com/kb/959753>`および`<https://support.microsoft.com/kb/973289>`を参照してください。

1. Profile Managementで、Profile handlingフォルダーを開きます。
2. **テンプレートプロファイル**ポリシーをダブルクリックします。
3. 有効を選択します。
4. **テンプレートプロファイルへのパス**で、テンプレートまたは必須プロファイルとして使用するプロファイルの場所を入力します。このパスは、NTUSER.DATレジストリファイルと、テンプレートに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーへの完全なパスです。

   重要：パスがNTUSER.DATのみで構成されている場合は、パスにファイル名を含めないようにしてください。たとえば、ファイル`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat`の場合、場所を`\\myservername\myprofiles\template`として設定します。

   絶対パスを使用します。これはUNCパスまたはローカルマシン上のパスのいずれかです。後者を使用すると、たとえば、Citrix Provisioning™ Servicesイメージにテンプレートプロファイルを永続的に指定できます。相対パスはサポートされていません。

   このポリシーは、Active Directory属性、システム環境変数、または`%USERNAME%`および`%USERDOMAIN%`変数の展開をサポートしていません。
5. 必要に応じて、既存のWindowsユーザープロファイルを上書きするチェックボックスを選択します。ユーザーにCitrixユーザープロファイルがないが、ローカルまたは移動Windowsユーザープロファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。無効になっていない場合、このファイルはユーザーストアに移行されます。**テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする** または **テンプレートプロファイルが移動プロファイ**

ルを上書きする チェックボックスを有効にすることで、設定を変更できます。また、テンプレートをCitrix強制プロファイルとして識別します。Windows強制プロファイルと同様に、Citrix強制プロファイルには変更を保存できません。

ここで**テンプレートプロファイル**が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートまたは強制プロファイルは使用されません。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

移行ポリシーの選択

Profile Managementが有効になった後、ユーザーが初めてログオンするとき、そのユーザーのCitrix®ユーザープロファイルは存在しません。しかし、ログオン中に既存のWindowsユーザープロファイルを「オンザフライ」で移行できます。どの既存のプロファイル（ローミング、ローカル、またはその両方）をコピーして、それ以降のすべての処理で使用するかを決定します。

移行戦略の計画について詳しくは、「プロファイルの移行または作成」を参照してください。さらに、既存のプロファイルを移行するためのシステム要件については、「システム要件」を確認してください。

1. Profile Managementで、Profile handlingフォルダーを開きます。
2. 「Migration of existing profiles」ポリシーをダブルクリックします。
3. 「Enabled」を選択します。
4. ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

    - ローカル。ローカルプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローカルおよびローミング。ローカルプロファイルとローミングプロファイル（以前はターミナルサービスプロファイルとして知られていたリモートデスクトップサービスプロファイルを含む）を移行する場合は、この設定を使用します。
    - ローミング。ローミングプロファイルまたはリモートデスクトップサービスプロファイルを移行する場合は、この設定を使用します。

既存のプロファイルの移行がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルが移行されます。この設定が無効になっている場合、プロファイルは移行されません。この設定が無効になっており、ユーザーストアにCitrixユーザープロファイルが存在しな

い場合、Profile Managementを使用しないセットアップと同様に、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

処理するグループプロファイルを定義する

プロファイルを処理するユーザーと、処理しないプロファイルを定義できます。コンピューターローカルグループとドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）の両方を使用できます。ドメイングループは`<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>`の形式で指定します。ローカルグループは「GROUP NAME」の形式で指定します。

注：コンピューターローカルグループは新しく作成されたローカルグループである必要があり、メンバーはドメインユーザーである必要があります。

1. Profile Managementで、**［処理済みグループ］**ポリシーをダブルクリックします。
2. 「**Enabled**」を選択します。
3. 「**表示**」をクリックします。
4. Profile Managementでプロファイルを処理するユーザーを含むグループを追加します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、［除外されたグループ］ポリシーを使用して除外しない限り、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。
5. Profile Managementで、Excluded groupsポリシーをダブルクリックします。
6. 「**Enabled**」を選択します。
7. 「**表示**」をクリックします。
8. Profile Managementでプロファイルを処理しないユーザーを含むグループを追加します。複数のエントリを区切るにはEnterキーを使用します。

   この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。
9. ローカル管理者のプロファイルを管理するには、Profile Managementで**［ローカル管理者のログオンを処理する］**ポリシーをダブルクリックし、**［有効］**をクリックします。

重要：デフォルトでは、Profile Managementは使用中のオペレーティングシステムを認識し、サーバーオペレーティングシステムではなくデスクトップ上のローカル管理者のアカウントを処理します。これは、ユーザーが通常、デスクトップでのみローカル管理者グループのメンバーであり、サーバー環境でローカル管理者を処理から除外するとトラブルシューティングに役立つためです。したがって、デフォルトの動作を変更する場合にのみ、このポリシーを有効にしてください。

「**除外されたグループ**」ポリシーは、「**ローカル管理者のログオンを処理する**」ポリシーよりも優先されます。アカウントが両方のポリシーに表示される場合、Profile Managementはそれを処理しません。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ローカル管理者のプロファイルは処理されません。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに実行します。

プロファイルがクォータを超過した場合にユーザーに警告する

> **注:**

> この機能は、ファイルベースのプロファイルソリューションにのみ適用されます。

> 大容量のプロファイルは、ユーザーのログオンとログオフを遅くし、ユーザー ストアでのストレージ使用量を増やし、ストレージ制限を超過した場合にはデータ損失につながる可能性があります。**プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する**機能を使用すると、プロファイルサイズのクォータを設定し、プロファイルサイズがそれを超えた場合にユーザーに通知できます。ユーザーがログオフする前にデータを管理するように促すことで、この機能はストレージの過負荷を防ぎ、データ損失のリスクを軽減するのに役立ちます。

この機能を有効にするには、次のポリシーを使用します。

- **プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する:** プロファイルサイズが指定された制限を超過した場合に、ユーザーへの通知を有効にします。

- **プロファイルサイズがクォータを超過した場合の通知メッセージ:** ユーザーが受け取る通知メッセージをカスタマイズできます。

グループポリシーを使用してこの機能を有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > 詳細設定**にアクセスします。
3. この機能を有効にしてクォータを設定するには、次の手順を完了します。
    a. **プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する**をダブルクリックします。**有効**を選択します。
    b. **クォータ**の値を入力します (MB単位)。サポートされるクォータ範囲は0～100,000 MBです。
    c. **OK**をクリックします。
4. ユーザーが受け取る通知メッセージをカスタマイズするには、次の手順を完了します。
    a. 「**プロファイルサイズがクォータを超過した場合の通知メッセージ**」をダブルクリックします。「**有効**」を選択します。
    b. 「**通知メッセージ**」フィールドに、プロファイルサイズが設定されたクォータを超過したときにユーザーが受け取るメッセージを入力します。(*例:* `Your profile size has exceeded the quota set by your administrator. Please delete unnecessary data before logging off to prevent potential data loss.`) **注:** プロファイルがクォータを超過した場合、ユーザーは30分ごとにこの通知を受け取ります。
    c. 「**OK**」をクリックします。

両方のポリシーの構成の優先順位:

1. ここでポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもポリシーが構成されていない場合、設定は無効になります。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ユーザー ストアの移行

Profile Managementは、データを失うことなくユーザー ストアを移行するソリューションを提供します。この機能は、ユーザー ストアをよりスケーラブルなファイルサーバーに移行したい場合に役立ちます。

ユーザー ストアを移行するには、「ユーザー ストアの移行」ポリシーを「ユーザー ストアへのパス」ポリシーと組み合わせて使用します。「ユーザー ストアの移行」ポリシーでは、ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が以前に保存されていたフォルダーへのパス（以前使用していたユーザー ストアのパス）を指定できます。

パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリに対する相対パスのいずれかです。どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- システム環境変数（パーセント記号で囲む）
- Active Directoryユーザーオブジェクトの属性（ハッシュ記号で囲む）

例：

- フォルダー `Windows\%ProfileVer%` は、ユーザー設定をユーザー ストアの `Windows\W2K3` というサブフォルダーに保存します（%ProfileVer%がW2K3に解決されるシステム環境変数である場合）。
- `\\server\share#SAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\<JohnSmith>` に保存します（`#SAMAccountName#` が現在のユーザーに対してJohnSmithに解決される場合）。

パスでは、`%username%` および `%userdomain%` を除くユーザー環境変数を使用できません。

この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルからの対応する設定が使用されます。

この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザー ストアに保存されます。

ポリシー設定の変更が有効になると、以前のユーザー ストアに保存されていたユーザー設定は、**ユーザー ストアへのパス**ポリシーで指定された現在のユーザー ストアに移行されます。

グループポリシーでユーザー ストアの移行を構成するには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。

2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management**の下で、**ユーザー ストアの移行**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **オプション**ペインで、以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンしてください。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「ユーザー ストアの移行」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**ユーザー ストアの移行**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。
5. **OK**をクリックします。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

Profile Management は、既存のアプリケーションプロファイルを自動的に移行できるソリューションを提供します。アプリケーションプロファイルには、**AppData** フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE` の下のレジストリエントリの両方が含まれます。

この機能は、異なるオペレーティングシステム (OS) 間でアプリケーションプロファイルを移行したい場合に役立ちます。たとえば、OS を Windows 10 バージョン 1803 から Windows 10 バージョン 1809 にアップグレードするとします。この機能が有効になっている場合、各ユーザーが最初にログオンしたときに、Profile Management は既存のアプリケーション設定を Windows 10 バージョン 1809 に自動的に移行します。その結果、**AppData** フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE` の下のレジストリエントリが移行されます。ユーザーはアプリケーションを再度構成する必要がなくなります。

> **注:**

> この機能を使用するには、ユーザー ストア パスに `!CTX_OSNAME!` 変数を含めることで、OS の短い名前を指定する必要があります。

> この機能は現在、Windows 10 1909 以前、Windows Server 2019、Windows Server 2016、および Windows Server 2012 R2 をサポートしています。

> この機能はデフォルトで無効になっています。Group Policy で有効にするには、次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > プロファイル処理** の下で、**既存のアプリケーションプロファイルの自動移行**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` を参照してください。

Citrix Studio で Profile Management ポリシーを構成することもできます。そのためには、次の手順を実行します。

1. Citrix Studio の左ペインで、**ポリシー**をクリックします。
2. **ポリシーの作成**ウィンドウで、検索ボックスにポリシーを入力します。たとえば、「既存のアプリケーションプロファイルの自動移行」と入力します。
3. **選択**をクリックして、**既存のアプリケーションプロファイルの自動移行**ポリシーを開きます。
4. **有効**を選択し、**OK**をクリックします。

仕組み

Profile Management は、ユーザーがログオンし、ユーザー ストアにユーザープロファイルがない場合に移行を実行します。移行が開始される前に、Profile Management は移行するアプリケーションプロファイルを特定します。これは自動検出によって行われます。次のものを自動的に特定して移行します。

- %userprofile%\Appdata\Local\ および %userprofile%\Appdata\Roaming\. の下のアプリケーション設定。現在の OS プラットフォーム情報を含む以下の Microsoft フォルダーは無視されます。

```
- %userprofile%\AppData\Local\Temp
- %userprofile%\AppData\Local\Packages
- %userprofile%\AppData\Local\TileDataLayer
- %userprofile%\AppData\Local\Microsoft\Temp
- %userprofile%\AppData\Local\Microsoft\Credentials
- %userprofile%\AppData\Local\Microsoft\Windows
- %userprofile%\AppData\Local\Microsoft\Windows\InputPersonalization
- %userprofile%\AppData\Local\Microsoft\Windows\Side bars
- %userprofile%\AppData\Local\Microsoft\WindowsApps
- %userprofile%\Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials
- %userprofile%\Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates
- %userprofile%\Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto
- %userprofile%\Appdata\Roaming\Microsoft\Vault
- %userprofile%\Appdata\Roaming\Microsoft\Windows
```

- `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE` および `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Wow6432Node` の下のレジストリキー (`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft` および `HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Classes` を除く)

複数の既存のアプリケーションプロファイルがある場合、Profile Managementは次の優先順位で移行を実行します。

1. 同じOSタイプのプロファイル（シングルセッションOSからシングルセッションOS、マルチセッションOSからマルチセッションOS）。

2. 同じWindows OSファミリーのプロファイル（例：Windows 10からWindows 10、またはWindows Server 2016からWindows Server 2016）。
3. 以前のバージョンのOSのプロファイル（例：Windows 7からWindows 10、またはWindows Server 2012からWindows 2016）。
4. 最も近いOSのプロファイル。

> **注:**
>
> ユーザー ストア パスに `!CTX_OSNAME!` 変数を含めることで、OS の短い名前を指定する必要があります。これにより、Profile Management は既存のアプリケーション プロファイルを特定できます。

> ユーザー ストア パスを `\\fileserver\userstore\%username%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` として構成し、OS が Windows 10 バージョン 1803 64 ビット (Win10RS4x64) であるとします。Profile Management は、まず以前のプロファイル フォルダーを特定し、次の順序でユーザー ストア内のアプリケーション プロファイル フォルダーに移行します。

1. `\\fileserver\userstore\user1\Win10RS3x64`
2. `\\fileserver\userstore\user1\Win10RS2x64`
3. `\\fileserver\userstore\user1\Win10RS1x64`
4. `\\fileserver\userstore\user1\Win10x64`
5. `\\fileserver\userstore\user1\Win10RS5x64`
6. `\\fileserver\userstore\user1\Win10RS6x64`
7. `\\fileserver\userstore\user1\Win8x64`
8. `\\fileserver\userstore\user1\Win7x64`
9. `\\fileserver\userstore\user1\Win2016`
10. `\\fileserver\userstore\user1\Win2012R2`
11. `\\fileserver\userstore\user1\Win2012`
12. `\\fileserver\userstore\user1\Win2008`
13. `\\fileserver\userstore\user1\Win2019`

それらのいずれも利用できない場合、Profile Management は移行プロセスを終了し、エラーを返します。

証明書を保存する

セッション中に証明書ストアにインポートされた個人証明書を保存するには、この手順に従ってください。デフォルトでは、証明書は自動的に同期されます。

「同期するディレクトリ」設定にパス `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` を追加します。オペレーティングシステムの言語によって、この場所のアプリケーションデータフォルダーが決まります。ポリシーを使用して多言語システムを構成する場合は、各言語の場所をリストに追加します。

例

英語システムでは、パスは `Application Data\Microsoft\SystemCertificates\My` です。ドイツ語システムでは、`Anwendungsdaten\Microsoft\SystemCertificates\My` です。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>` に記載されているとおりに、コマンドプロンプトから `gpupdate /force` コマンドを実行します。

オフラインプロファイルを構成する

Citrix®オフラインプロファイルは、ネットワークへのアクセスが断続的であるローミング中のラップトップユーザーまたはモバイルデバイスユーザーを対象としています。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザー ストアと同期できます。ネットワーク接続が切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーが作業するにつれて、プロファイルはローカルで更新され、ネットワーク接続が再確立されると最終的にユーザー ストアと同期されます。

この機能は、ドメイン参加済みコンピューター（Citrix XenClient®を実行しているコンピューターを含む）でのみ機能します。ネットワーク接続が永続的である傾向があるサーバーまたはデスクトップコンピューターでの使用は意図されていません。

通常、オフラインプロファイルとストリーム配信ユーザープロファイルの両方を有効にすることはありません。このため、オフラインプロファイルが優先され、ストリーム配信ユーザープロファイルと「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」設定が無効になります。ユーザーが最初にログオンするときは、常にラップトップまたはモバイルデバイスに完全なプロファイルがあることを確認してください。

オフラインプロファイルは、次の方法で構成できます。

- **グループポリシーを使用する**。このポリシーにより、機能の一元的な管理制御が可能になりますが、オフラインプロファイルを使用するラップトップまたはデバイスを含む個別のOUを作成する必要があります。
- **.iniファイルを使用する**。ラップトップやモバイルデバイス専用の特別なOUを作成したくない場合は、より簡単なオプションです。ただし、この機能の制御は実質的に個々のデバイス所有者に委ねられます。このオプションでは、各ラップトップまたはモバイルデバイスの1回限りの構成が必要です。

オフラインプロファイルサポートがグループポリシーを使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。この設定がグループポリシーまたは.iniファイルで構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

グループポリシーの使用

1. Profile Managementによって管理されるすべてのコンピューターを含むOUを作成します。オフラインプロファイルを使用するラップトップとモバイルデバイス、Citrix Virtual Apps™サーバー、および仮想デスクトップを含めます。
2. ラップトップとモバイルデバイスのみを含む子OUを作成します。
3. グループポリシー管理で、サイト全体のポリシーを適用するベースライングループポリシーオブジェクト（GPO）を作成し、両方のOUにリンクします。
4. すべてのコンピューターに共通のProfile Management設定でベースラインGPOを構成します。
5. 2番目のオフラインGPOを作成し、子OUにリンクします。
6. オフラインGPOを次のように構成します。
    a. プロファイル管理で、オフラインプロファイルサポートをダブルクリックします。
    b. 有効を選択し、OKをクリックします。
    c. ラップトップおよびモバイルデバイスにのみ適用したい他の設定を構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

.iniファイルを使用する

前提条件として、ベースラインGPOとオフラインGPOの両方で、オフラインプロファイルサポートが未構成（デフォルト）であることを確認してください。これらの設定が構成されている場合、.iniファイルの設定は上書きされます。

1. 各ラップトップまたはモバイルデバイスで、プロファイル管理インストーラーによって作成された.iniファイルを見つけます。.iniファイルを見つけるには、ダウンロードに含まれるファイルを参照してください。
2. この行のコメントを解除します（セミコロンを削除して）：

   ```
   ;OfflineSupport=
   ```

3. .iniファイルを保存します。

   変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているとおり、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を構成する

CEIP を構成するには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management > 詳細設定**で、**Customer Experience Improvement Program**をダブルクリックします。
3. **有効**または**無効**を選択し、**OK**をクリックします。
4. 変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

> **注：**

- ヨーロッパ以外の地域のマシンでは、このポリシーがGPOで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがGPOまたは.iniファイルで構成されていない場合、CEIPは有効になります。
- ヨーロッパ地域のマシンでは、このポリシーがGPOで構成されていない場合、.iniファイルの値に関係なくCEIPは無効になります。

CEIPの詳細については、Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) についてを参照してください。

アクティブライトバックの構成

既定では、Profile Management は、ローカルユーザープロファイルに加えられた変更を、ユーザーがログオフするときにユーザーストアに書き戻します。ユーザーが最初のセッションからログオフする前に2番目のセッションを開始した場合、最初のセッションで行われたローカルプロファイルの変更は2番目のセッションでは利用できません。

同時セッション間でのプロファイルの一貫性を向上させるには、アクティブライトバック機能を有効にできます。この機能により、Profile Management は、ユーザーがログオフするまで待つのではなく、*セッション中に*ローカルプロファイルの変更をユーザーストアに書き戻します。

概要

Profile Management は、**アクティブライトバック**ポリシーと、次の2つの拡張ポリシーを提供します。

- **アクティブライトバック**。Profile Management は、ローカルの*プロファイルファイルとフォルダー*に加えられた変更をユーザーストアに書き戻します。既定では、Profile Management は5分ごとにアクティブライトバックを実行します。
- **アクティブライトバックレジストリ**。**アクティブライトバック**ポリシーと組み合わせて使用します。Profile Management は、ローカルの*レジストリエントリ*に加えられた変更をユーザープロファイルに書き戻します。
- **セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック**。**アクティブライトバック**ポリシーと組み合わせて使用します。Profile Management は、5分ごとではなく、セッションがロックまたは切断された場合にのみアクティブライトバックを実行します。

アクティブライトバックを有効にする

GPO を使用してアクティブライトバックを有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開きます。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management** にアクセスします。
3. **アクティブライトバック**をダブルクリックします。
4. 表示されるポリシーウィンドウで、**有効**を選択し、**OK**をクリックします。 既定では、アクティブライトバックは5分ごとに実行されます。
5. レジストリエントリのアクティブライトバックを有効にするには、次の手順に従います。
    a. **Active write back registry**をダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、**Enabled**を選択し、**OK**をクリックします。
6. Profile Managementで、セッションがロックまたは切断されている場合にのみアクティブライトバックを実行するには、次の手順に従います。
    a. **Active write back on session lock and disconnection**をダブルクリックします。
    b. 表示されるポリシーウィンドウで、**Enabled**を選択し、**OK**をクリックします。

> **注：**
>
> ベストプラクティスとして、**Active write back on session lock and disconnection**ポリシーを有効にすることをお勧めします。

アクティブライトバックポリシーの構成の優先順位は次のとおりです。

- 設定がGPO、Studio、またはWorkspace Environment Management™ (WEM)を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- 設定がどこにも構成されていない場合、Profile Managementが動的に構成します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

クロスプラットフォーム設定を構成する

重要: この機能に関する以下の重要な情報に注意してください。

- Profile Management のクロスプラットフォーム設定は、サポートされている一連のオペレーティングシステム (OS) およびアプリケーションをサポートします。この機能は、実稼働環境でのみ構成してください。
- Microsoft Office の設定は、そのアプリケーションのバージョン間でローミングされません。詳細については、「クロスプラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション」を参照してください。
- この機能は、レジストリ設定およびアプリケーション設定に適しています。ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト (たとえば、ブラウザのお気に入り、デスクトップおよびスタートメニューの設定) には適していません。
- この機能を使用して、異なるプロファイルバージョンのシステム間でユーザープロファイルを移行する場合、すべてのユーザーの移行が完了した後で無効にしてください。この機能を使用すると、主にログオフ時にパフォーマンスへの影響があります。そのため、プロファイルバージョン間のローミングをサポートしない限り、無効のままにしておくのが最善です。

このトピックには、クロスプラットフォーム設定を構成するために実行できる手順の例が含まれています。詳細なケーススタディについては、「クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ」を参照してください。

ヒント: この機能を実稼働環境に導入する前に、少数のテストユーザーに制限することをお勧めします。これには、 **Cross-platform settings user groups** オプションを使用します。この設定が構成されている場合、Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。この設定が無効になっている場合、この機能は Processed groups 設定で指定されたすべてのユーザーを処理します。 **Cross-platform settings user groups** がグループポリシーまたは .ini ファイルで構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

1. すべてのプラットフォームに共通する設定については、共通のグループポリシーオブジェクト (共通 GPO) を作成し、それを Profile Management の .adm または .admx ファイルにリンクし、必要に応じて設定を構成します。この設定は、その後のトラブルシューティングを困難にする可能性のある重複する設定を最小限に抑えるため、ベストプラクティスです。要件に応じて、**Path to user store** を除くすべての Profile Management 設定は複数のプラットフォームで機能します。バージョン 1 およびバージョン 2 プロファイルの異なるユーザー格納構造のため、各プラットフォームで Path to user store を個別に構成してください。共通 GPO では、この設定を未構成のままにします。
2. 異なるプラットフォーム用に個別の OU を作成します。たとえば、Windows 7 から Windows 8 に移行する場合、これらのオペレーティングシステム用に個別の OU を作成し、各 OU で Path to user store を適切に設定します。

3. プラットフォーム間でパーソナライズを機能させたいサポート対象アプリケーションの定義 (.xml) ファイルを見つけます。これらのファイルは、ダウンロードパッケージの CrossPlatform フォルダーにあります。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。詳細については、「定義ファイルを作成する」を参照してください。
4. .xml ファイルをネットワーク上の適切な場所にコピーします。
5. グループポリシー管理エディターで共通 GPO を編集します。Profile Management の下にある Cross-platform settings フォルダーを開き、これらの設定を構成します。

    - Cross-platform settings user groups。クロスプラットフォーム設定を体験するユーザーを制限します。この設定はオプションです。この機能をテストする場合や、段階的に展開する場合に役立ちます。
    - Path to cross-platform definitions。ダウンロードパッケージからコピーした定義ファイルのネットワーク上の場所を識別します。このパスは UNC パスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持っている必要があり、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) または Common Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。
    - クロスプラットフォーム設定ストアへのパス。これは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納されるユーザー ストアの共通領域です。ユーザーはこの領域への書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは、絶対UNCパスまたはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。**ユーザー ストアへのパス**と同じ変数を使用できます。

6. そのプラットフォームのOUで「クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース」が「有効」に設定されていることを確認して、ベースプラットフォームを指定します。この設定により、ベースプラットフォームのプロファイルからクロスプラットフォーム設定ストアにデータが移行されます。他のプラットフォームのOUでは、このポリシーを「無効」または「未構成」に設定します。各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、個別のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードに使用するプラットフォームのプロファイルデータを決定する必要があります。これをベースプラットフォームと呼びます。クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている場合、または単一プラットフォームプロファイルのキャッシュデータがストア内の定義データよりも新しい場合、Profile Managementは、この設定を無効にしない限り、単一プラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。 重要: 複数のOUで「クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース」が有効になっている場合、 最初にユーザーがログオンしたプラットフォームがベースプロファイルになります。

7. 「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を「有効」に設定します。デフォルトでは、展開を容易にするため、この設定をオンにするまでクロスプラットフォーム設定は無効になっています。
8. グループポリシーの更新を実行します。
9. プロファイルをプラットフォーム間で移行するが、それらのローミングをサポートしない場合、移行が完了したら、「クロスプラットフォーム設定を有効にする」を**無効**に設定します。

ここで「クロスプラットフォーム定義へのパス」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

「クロスプラットフォーム設定ストアへのパス」が無効になっている場合、デフォルトパス `Windows\PM_CP` が使用されます。ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、デフォルトパスが使用されます。

ここで「クロスプラットフォーム設定を有効にする」が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。ここでも.iniファイルでもこの設定が構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

例: Windows Server 2008とWindows 7間でのMicrosoft Office設定のローミング

この例では、バージョン2プロファイルを作成する2つのオペレーティングシステム間でユーザーのアプリケーション設定をローミングできるようにするための主要な手順について説明します。Microsoft Office 2010が例のアプリケーションであり、ローミングはWindows Server 2008上のCitrix XenApp 6.5とWindows 7の間で行われます。両方のOSは64ビットです。

1. ユーザーは、Citrix Virtual Apps™サーバー上の公開アプリケーションとしてOffice 2010およびInternet Explorer 9にアクセスすることに慣れており、これらのアプリケーションでいくつかの設定を変更します。たとえば、Officeでメール署名を変更したり、Internet Explorerで新しいホームページを選択したりします。
2. 将来、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™で作成）が作成されますが、まだユーザーにはリリースされていません。デスクトップはWindows 7を実行し、Office 2010およびInternet Explorer 9が事前に構成されています。
3. ユーザーは、新しいデスクトップでも設定が同じであることを期待しています。このトピックの手順に従って、クロスプラットフォーム設定機能を構成します。これには、Windows Server 2008のOUで「クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース」を有効にすることが含まれます。

4. ユーザーが次にアプリケーションの公開バージョン（新しい仮想デスクトップではない）を実行すると、その設定はクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされます。
5. その後、新しいデスクトップがユーザーにリリースされます。ユーザーがログオンしてOfficeおよびInternet Explorerのローカルバージョンを実行すると、以前のWindows Server 2008セッションからの設定が使用されます。ユーザーが変更したメール署名とホームページは、Windows 7マシンで利用できます。
6. ユーザーは仮想デスクトップからInternet Explorerで閲覧し、ホームページを再度変更することにしました。
7. ユーザーはログオフして退社します。彼らは自宅では仮想デスクトップにアクセスできませんが、リモートで公開版のInternet Explorer 9を実行できます。彼らは、前の手順でWindows 7上に作成した最新のホームページが保持されていることを確認します。

相互プラットフォーム設定でサポートされるオペレーティングシステムとアプリケーション

この記事では、このリリースのProfile Managementにおける相互プラットフォーム設定機能でサポートされるアプリケーションとオペレーティングシステム（OS）について説明します。

定義ファイルについて

定義ファイルには、選択されたWindowsアプリケーションの共通のパーソナライズ設定が含まれています。各ファイルとその中の定義により、ユーザーは複数のOSで同じアプリケーションに接続でき、各プラットフォームで実質的に同一のプロファイルが提示されます。たとえば、ユーザーはMicrosoft Officeの2つのインスタンスにアクセスする場合があります。1つはWindows 7仮想デスクトップにインストールされ、もう1つはWindows Server 2003上のCitrix Virtual Apps™で公開されています。どちらのインスタンスにアクセスしても、ユーザーのOfficeの使用感は一貫しています。

事前構成された定義ファイルは、相互プラットフォーム設定機能の重要な側面です。サポートされている各アプリケーションには定義ファイルがあります。定義ファイルはXML形式です。

重要: アプリケーションのすべてのOSでの動作を徹底的に分析し、この機能の操作を完全に理解せずに定義ファイルを編集すると、ユーザープロファイルに予期しない変更が生じ、トラブルシューティングが困難になる可能性があります。このため、Citrix®は提供されている定義ファイルの編集や新しい定義ファイルの作成をサポートしていません。さらに、Windowsユーザープロファイルの性質上、一部のアプリケーション設定はOS間で複製できません。

さらに、この機能はレジストリおよびアプリケーション設定には適していますが、ファイルやフォルダー、またはフォルダーリダイレクトで通常使用されるオブジェクト（たとえば、ブラウザーのお気に入り、デスクトップ、スタートメニューの設定など）には適していません。

サポートされるオペレーティングシステム

サポートされているシングルセッションOS間、およびサポートされているマルチセッションOS間でプロファイルをローミングできます。

以下がサポートされています（該当する場合はx86およびx64バージョン）。

- **シングルセッションOS**。Windows XP、Windows 7、Windows Vista。
- **マルチセッションOS**。Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2。

サポートされるCitrix製品

相互プラットフォーム設定機能は、以下のCitrix製品をサポートしています。

- XenApp® 5 フィーチャーパック for Windows Server 2003以降
- XenDesktop® 4 以降

サポートされるアプリケーション

このリリースでは、以下の定義ファイルが利用可能です。XMLファイル名により、サポートされるアプリケーションとバージョンが示されます。

- **Internet Explorer 7 Plus.xml**。このファイルは、Internet Explorerのバージョン7、8、9（お気に入りを除く）のクロスプラットフォームでのローミングをサポートします。お気に入りおよびフィードのローミングはサポートされていません。
- **Office 2007.xml** ファイル。
- **Office 2010.xml** ファイル。
- **Wallpaper.xml**。このファイルは、デスクトップの壁紙のクロスプラットフォームでのローミングをサポートします。テーマのクロスプラットフォームでのローミングはサポートされていません。

重要: 各アプリケーションの定義ファイルは、上記のサポートされているシナリオでのみ使用してください。たとえば、Internet Explorer 7 Plus.xmlは、そのブラウザーの複数のバージョン間で設定をローミングします。しかし、Office 2007.xmlまたはOffice 2010.xmlを使用して、Officeのバージョン間で設定をローミングすることはできません。

定義ファイルを作成する

定義ファイルは、同期するフォルダー、ファイル、またはレジストリを定義します。独自のアプリケーション定義ファイルを作成できます。

Microsoft UE-V テンプレートジェネレーターを使用して、UE-V テンプレートファイルを作成します。

1. Microsoft の Web サイト から、Windows 10 用の **Windows Assessment and Deployment Kit** (Windows ADK) をダウンロードします。
2. Windows ADK をインストールします。**Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) Template Generator** を選択します。**Install** をクリックします。インストールが完了したら、**Finish** をクリックしてウィザードを閉じます。
3. **Start** をクリックし、**Microsoft User Experience Virtualization** をクリックしてから、**Microsoft User Experience Virtualization Generator** をクリックします。
4. **Create a settings location template** をクリックします。
5. ウィザードに従って、アプリケーション関連のパラメーターを指定します。**Next** をクリックして続行します。

   メモ帳を例にとります。ファイルパスを `C:\Windows\System32\notepad.exe` として指定します。
6. 指定したアプリケーションが起動したら、閉じます。
7. プロセスが完了したら、**Next** をクリックして続行します。
8. 左ペインで **Review Locations** を選択します。標準および非標準のレジストリ/ファイルのリストにあるすべてのチェックボックスをオンにします。
9. **Create** をクリックしてテンプレート XML ファイルを保存します。

   メモ帳を例にとります。テンプレート XML ファイルを **Notepad.xml** として保存します。

> **注**
>
> 1 つの UE-V テンプレートファイルに複数のアプリケーションが定義されている場合があります。

UE-V テンプレートファイルをクロスプラットフォーム定義ファイルに変換するには、次の手順を実行します。

1. 変換ツールをこちらからダウンロードします。
2. コマンドプロンプトから、定義ファイル内のすべてのアプリケーション名を表示するには、コマンド **convert show filename** を実行します。

3. UE-V テンプレートファイルを定義ファイルに変換するには、次のコマンドを実行します。

   convert source destination \[/Index\] \[/V\]

   \[/Index\]: インデックス番号で指定されたアプリケーションのみを変換します。

   既定では、このツールは UE-V テンプレート内のすべてのアプリケーションを変換します。

   \[/V\]: 変換の詳細情報を表示します。

クロスプラットフォーム設定の場合、他のオペレーティングシステムに対して前述の手順を繰り返し、定義ファイルを1つにマージする必要があります。ファイルをマージするには、**OSVersionNumber** 属性を持つ **Platform** 要素を使用できます。Windows 7 では、設定フォルダーは `AppData\Application\Win7\folder` にあります。Windows 10 では、`AppData\Application\Win10\folder` にあります。

Windows 7 で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <Platform>



                <Folder>
```

```
                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

        </Object>

    </Group>

</GroupDefinitions>
```

Windows 10 で作成した定義ファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">

    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">
```

```
        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">

            <Platform>

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

        </Object>

    </Group>

</GroupDefinitions>
```

マージ後、定義ファイルの内容は次のようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



<GroupDefinitions Version="4.0.0.0"
GUID="93E41C6E-2091-1B9B-36BC-7CE94EDC677E">



    <Group Name="Common Settings" GUID="32D83BB6-F3AD-985F-
D4BC-655B3D9ACBE2">



        <Object Name="!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder"
GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6">



            <!-- Assuming that the folder locates differently when in
different platforms -->



            <Platform OSVersionNumber="6.1"> <!-- Win7 -->



                <Folder>



                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder</
Path>



                    <Recurse/>



                </Folder>
```

```
            </Platform>

            <Platform OSVersionNumber="10.0"> <!-- Win10 -->

                <Folder>

                    <Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder</
Path>

                    <Recurse/>

                </Folder>

            </Platform>

        </Object>

    </Group>

</GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定の構成については、「クロスプラットフォーム設定の構成」を参照してください。

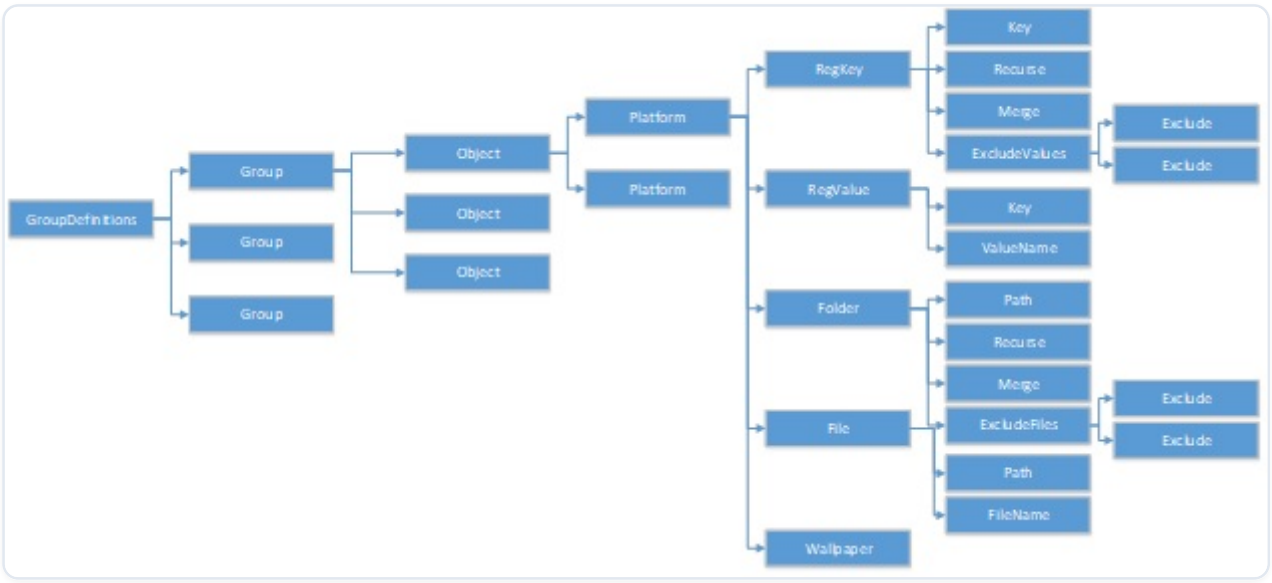
定義ファイルのアーキテクチャについては、「アプリケーション定義ファイルの構造」を参照してください。

アプリケーションプロファイラーの有効化については、「アプリケーションプロファイラーの有効化」を参照してください。

アプリケーション定義ファイルの構造

この記事では、Profile Management アプリケーション定義ファイルの XML 構造について説明します。この構造は、アプリケーションプロファイラーとクロスプラットフォーム設定の両方に適用されます。

アーキテクチャ図



- XML 宣言とエンコーディング属性

  XML 宣言では、属性 \<?xml version="1.0"\> を指定する必要があります。

  Encoding="UTF-8" は推奨される属性です。

- GroupDefinitions

  グループのコレクションのコンテナ。XML ドキュメントのルート要素として機能します。その属性には、version と GUID が含まれます。これらは必須属性です。

- グループ

  サブアプリケーションの設定を定義します。その属性は name と GUID です。これらは必須属性です。

- オブジェクト

サブアプリケーションの1つの設定を定義します。その属性は name と GUID です。これらは必須属性です。

- プラットフォーム

  Platform は、異なるオペレーティングシステムで異なる定義を提供します。オプションの属性 OSVersionNumber を使用して、オペレーティングシステムを指定できます。属性がない場合、すべてのプラットフォームが設定の内部定義を受け入れます。Platform には、RegKey、RegValue、File、Folder、Wallpaper のいずれかの要素が含まれている必要があります。

- RegKey

  設定をレジストリ内のキーとして定義します。Key要素を含める必要があります。オプションのサブ要素として、RecurseとMergeの2つが含まれます。RecurseとMergeは、Profile Managementがキーをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素はExcludeValuesです。ExcludeValuesは、除外できるレジストリ値を定義します。

- RegValue

  設定をレジストリ内の値として定義します。親キーのパスを指定するためにKeyを含める必要があります。

- フォルダー

  設定をフォルダとして定義します。フォルダのパスを指定するためにPathを含める必要があります。オプションのサブ要素として、`Recurse`と`Merge`があります。RecurseとMergeは、Profile Managementがフォルダをローミングする際のパフォーマンスを定義します。もう1つのオプションのサブ要素は`ExcludeFiles`で、これは除外できるファイルを定義します。

- ファイル

  設定をファイルとして定義します。親フォルダのパスを指定するためにPathを、ファイル名を指定するために`FileName`を含める必要があります。

- 壁紙

  すべての壁紙設定を定義します。属性やサブ要素は必要ありません。Profile Managementはこれらの設定を自動的にローミングします。

- Key

  レジストリキーのパス、または親レジストリキーのパスを指定します。KeyはRegKeyとRegValueのサブ要素です。

- ValueName

レジストリ値の名前を指定します。RegValueのサブ要素です。

- パス

  Specifies the path of the folder or the path of the parent folder. It is a subelement of Folder and File. Profile Management variables can be adopted.

- FileName

  ファイルの名前を指定します。これはFileのサブ要素です。

- 再帰

  Optional subelement of RegKey and Folder. If this element exists, Profile Management roams the key and the folder recursively.

- マージ

  RegKeyとFolderのオプションのサブ要素です。この要素が存在する場合、Profile Management はキーとフォルダーをマージします（ただし、置換はしません）。

- ExcludeValues

  RegKeyのオプションのサブ要素です。キーをローミングする際に除外できる値を指定します。

- ExcludeFiles

  Folderのオプションのサブ要素です。フォルダーをローミングする際に除外できるファイルを指定します。

- 除外

  ExcludeValuesとExcludeFilesのサブ要素です。ファイルまたはレジストリ値の除外項目を指定します。

> **注**
>
> ドキュメントに正しい構文形式が含まれていることを確認してください。Profile Management は、これらのファイルがロードされるときにCPSValidationSchema.xsd検証ファイルを使用してこれらのファイルをチェックします。検証ファイルは、Profile Management のインストールパスの下にあります。Profile Management は、不正なファイルを無視し、エラーメッセージをログに記録します。

サンプル

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



<!-- Copyright 2011 Citrix Systems, Inc. All Rights Reserved. -->



&lt;GroupDefinitions GUID="748E63D3-426E-4796-9C32-420B25DB2D9F"
Version="4.0.0.0">



<!-- Application Settings -->



&lt;Group GUID="0FCCCF29-0A0E-482d-A77E-3F39A8A854A6" Name="Application
Settings">



<!-- Registry Key Setting Example -->



&lt;Object GUID="637EC13C-2D47-4142-A8EB-3CEA6D53522A"
Name="Software\Application\certain key">



&lt;Platform>



&lt;RegKey>



&lt;Key>Software\Microsoft\Office\certain key&lt;/Key>
```

```
&lt;Merge/>

&lt;Recurse/>

&lt;ExcludeValues>

&lt;Exclude>excluded value 1&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded value 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeValues>

&lt;/RegKey>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Registry Value Setting Example -->
```

```
&lt;Object GUID="3C896310-10C4-4e5f-90C7-A79F4E653F81"
Name="Software\Application\certain value">


<!-- Folder Setting Example -->


&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder">


&lt;Platform>


&lt;Folder>


<!-- We can use Citrix variable if necessary -->


&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\setting folder&lt;/Path>


&lt;Merge/>


&lt;Recurse/>


&lt;ExcludeFiles>
```

```
&lt;Exclude>excluded file 1&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded file 2&lt;/Exclude>

&lt;Exclude>excluded file 3&lt;/Exclude>

&lt;/ExcludeFiles>

&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- File Setting Example -->

&lt;Object GUID="7F8615D0-5E63-4bd0-982D-B7740559C6F9" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\file.txt">

&lt;Platform>

&lt;File>
```

```
<!-- We can use Citrix variable if necessary -->

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application&lt;/Path>

&lt;FileName>file.txt&lt;/FileName>

&lt;/File>

&lt;/Platform>

&lt;/Object>

<!-- Setting based on different OS -->

&lt;Object GUID="1B43DE3F-EC9C-463c-AC19-CD01D00219B6" Name="!
CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\%osname%\folder">

<!-- Assuming that the folder locates differently when in different
platforms -->

&lt;Platform OSVersionNumber="6.1">
```

```
<!-- Win7 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win7\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>

&lt;/Folder>

&lt;/Platform>

&lt;Platform OSVersionNumber="10.0">

<!-- Win10 -->

&lt;Folder>

&lt;Path>!CTX_ROAMINGAPPDATA!\Application\Win10\folder&lt;/Path>

&lt;Recurse/>
```

```
&lt;/Folder>


&lt;/Platform>


&lt;/Object>


&lt;/Group>


&lt;/GroupDefinitions>
```

クロスプラットフォーム設定 - ケーススタディ

クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行には、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。Windows 2003システムへの一般的な投資を考慮すると、かなりの共存期間が予想されます。この機能は、移行と継続的な共存の両方をサポートすることが期待されます。

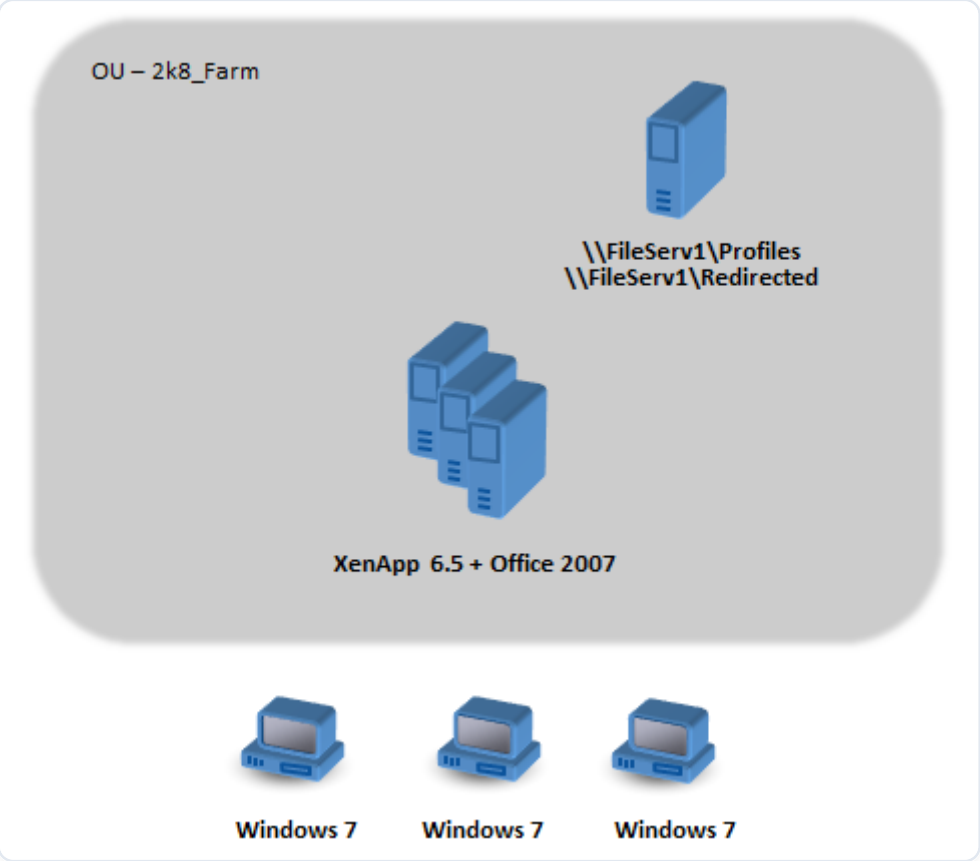
このケーススタディは、既存のOffice 2007が動作するWindows 7およびWindows 2008環境から始まり、Windows 8の共有プロビジョニング済み仮想デスクトップを追加します。

このケーススタディは以下で構成されます。

- 初期構成(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/cross-platform-settings/cross-platform-settings-case-study/initial-configuration.html)
- 新しいサイトの計画(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/cross-platform-settings/cross-platform-settings-case-study/plan-new-site.html)
- 計画の実行(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/cross-platform-settings/cross-platform-settings-case-study/execute-the-plan.html)
- その他の考慮事項(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/configure/cross-platform-settings/cross-platform-settings-case-study/other-considerations.html)

初期構成

次の図は、このケーススタディにおける環境構成を示しています。



Windows 7 マシンは、Citrix XenApp 6.5 で公開されている Office 2007 を使用するように構成されています。

ドメインには、Windows 2008 レベルで Active Directory を実行している Windows 2008 ドメインコントローラーが含まれています。すべてのマシンは 2k8_Farm という OU に属しており、Profile Management 5.0 の .adm ファイルは 2k8_Farm_PO という GPO に追加されています。以下のポリシーが構成されています。

ポリシー	値
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`
プロファイルストリーミング	有効
アクティブライトバック	有効

システム環境変数 `%ProfVer%` を設定するマシンログオンスクリプトが、OU 内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%
Windows 2008 上の XenApp® サーバー	Win2008
Windows 7 デスクトップ	Win7

したがって、たとえばユーザー john.smith は、Windows 7 デスクトップ用に `\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win7` に、Citrix 仮想アプリサーバー用に `\\FileServ1\Profiles\john.smith\Win2008` にプロファイルを持っています。デスクトップとサーバーで個別のプロファイルが維持されます。管理者は、ワークステーションとマルチセッションオペレーティングシステム間でプロファイルがローミングする際に問題が発生することを認識しており、慎重に対応しています。

フォルダーリダイレクトは、**ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windows の設定** \> **フォルダーリダイレクト** のグループポリシーを使用して設定されます。

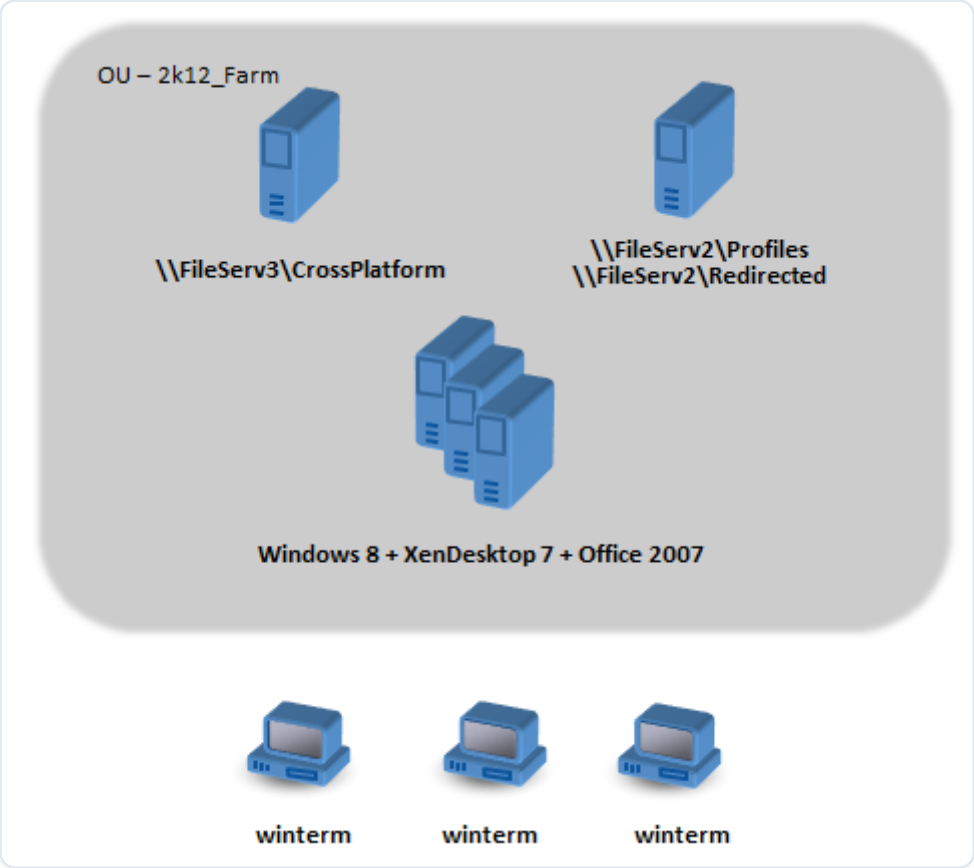
新しいサイトを計画する

ネットワーク管理者は、Windows Server 2012 ドメインコントローラーと Active Directory 2012 に基づく新しい環境のために新しいドメインをセットアップすることを決定しました。最終的には、Windows Server 2012 で仮想アプリを実行する新しい仮想アプリサイトが計画されています。しかし、今のところ、新しいドメインは Windows 7 仮想デスクトップサイトのみに使用されます。

このサイトは、XenServer (旧 Citrix Hypervisor™) 環境でホストされ、Windows ターミナルからアクセスされる共有の Windows 7 ベースイメージに基づいています。Office 2007 はベースイメージに含まれています。

両方のドメインのユーザーが新しいドメインを使用することが想定されているため、OldDomain と NewDomain の間に双方向の信頼関係が設定されます。両方のドメインは同じ AD フォレストに属している必要があります。

次の図は、新しい仮想デスクトップサイトの構成を示しています。



計画を実行する

フェーズ1：新しいファイルサーバーを構成する

NewDomainに、クロスプラットフォーム設定を管理するため（`\\FileServ3`）と、`2k12_Farm`のプロファイルを保存するため（`\\FileServ2`）のファイルサーバーをセットアップします。

このケースでは、プロファイル用とクロスプラットフォーム設定用に別々のファイルサーバーをセットアップすることを選択します。この方法は厳密には必要ありませんが、クロスプラットフォーム設定サーバーを利用可能にする簡単な方法です。プロファイルサーバーは、たとえばDFS名前空間を使用するなど、異なる設計になっている可能性があり、実装に時間がかかる場合があります。

どちらの場合も、共有フォルダー上の移動ユーザープロファイルに関するセキュリティ推奨事項に従って、サーバー共有をセットアップします。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/storage/folder-redirection/deploy-roaming-user-profiles>`を参照してください。

フェーズ2：2k8_Farmのコンピューターを Profile Management 5.0にアップグレードする

手順については、「」(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/upgrade-and-migrate/upgrade.html)を参照してください。

フェーズ3：展開する定義ファイルを選択する

Microsoft Office、Internet Explorer、およびWindowsの壁紙用に、いくつかの構成ファイル（定義ファイルと呼ばれます）が提供されています。

重要：Citrix®の担当者から指示がない限り、これらのファイルを更新しないでください。

展開に関連する構成ファイルを選択し、これらのファイルのみを`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`にコピーします。この例では、Office 2007.xmlのみをコピーします。

フェーズ4：2k8_Farmのコンピューターを Profile Management 5.0用に構成する

アップグレードが完了したら、クロスプラットフォーム設定機能を（部分的に）有効にするために、以下の構成変更を行います。この段階では、`\\FileServ3\CrossPlatform`のみが利用可能である必要があります。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ1\Profiles#sAMAccountName#\%ProfVer%`	変更なし。このパスはOldDomainユーザーのみが使用するため、NewDomainユーザーをサポートするために変更する必要はありません。
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	クロスプラットフォーム設定ストアは両方のドメインのユーザーによって共有されるため、パスには`%USERNAME%`と`%USERDOMAIN%`の両方を指定する必要があります。

ポリシー	値	注
クロスプラットフォーム設定の作成元	有効	ユーザーがNewDomainリソースにアクセスする前に、OldDomainのクロスプラットフォーム設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアが初期化されるようにします。

マシンのログオンスクリプトに変更は必要ありません。

フォルダーリダイレクトポリシーに変更は必要ありません。

OU `2k8_Farm` はこれで実行状態のままにできます。ユーザーがログオンすると、Profile Management は定義ファイル Office 2007.xml で識別された設定をクロスプラットフォーム設定ストアにコピーします。

フェーズ5：2k12_Farm のマシンを準備する

ファイルサーバーが `2k8_Farm` にセットアップされたので、Citrix仮想デスクトップサイトを構築する時が来ました。Windows 7仮想デスクトップが実行されているときにProfile Management 5.0をインストールします。以下に適切な構成を示します。

ポリシー	値	注
ユーザーストアへのパス	`\\FileServ2\Profiles\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\%ProfVer%`	このファイル共有は両方のドメインのユーザーによって使用されるため、ドメイン情報を含めることも重要です。
アクティブライトバック	無効	
クロスプラットフォーム設定を有効にする	有効	
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	無効	すべてのユーザーグループが処理されます。
クロスプラットフォーム定義へのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Definitions`	このパスは定義ファイルが置かれている場所です。この設定は `2k8_Farm` の設定と一致する必要があります。

ポリシー	値	注
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	`\\FileServ3\CrossPlatform\Store\%USERNAME%.%USERDOMAIN%`	両方のドメインのユーザーがクロスプラットフォーム設定ストアを共有するため、パスには `%USERNAME%` と `%USERDOMAIN%` の両方を指定する必要があります。この設定は `2k8_Farm` の設定と一致する必要があります。
クロスプラットフォーム設定の作成元	無効	クロスプラットフォーム設定ストアのプロファイルデータの初期設定にNewDomainからの設定が使用されるのを防ぎます。これにより、OldDomainからの設定が優先されるようになります。

システム環境変数 %ProfVer% を設定するマシンのログオンスクリプトが、OU内のすべてのマシンで実行されます。

マシンタイプ	%PROFVER%	注
Windows 2012上のXenAppサーバー	ウィン2012x64	計画されている64ビットサーバーが利用可能になったときに必要です。詳細については、その他の考慮事項を参照してください。
Windows 7デスクトップ	Win7	Windows 7の32ビット版と64ビット版の両方が展開されている場合、それぞれに個別のプロファイルを持つことをお勧めします。そのため、%ProfVer%は各プラットフォームで異なるように構成する必要があります。

そのため、OldDomainユーザーのjohn.smithは、Windows 7デスクトップ用には`\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win7`に、Citrix仮想アプリサーバー用には`\\FileServ2\Profiles\john.smith.OldDomain\Win2012x64`にプロファイルを持っています。

そして、NewDomainユーザーのwilliam.brownは、Windows 7デスクトップ用には`\\FileServ2\Profiles\william.brown .NewDomain\Win7`に、XenAppサーバー用には`\\FileServ2\Profiles\william.brown.NewDomain\Win2012x64`にプロファイルを持っています。

ここでも、グループポリシーを使用してフォルダーリダイレクトを設定します。ドメインはWindows Server 2012に基づいているため、**<Group Policy Object Name\>** \> **ユーザーの構成** \> **ポリシー** \> **Windows の設定** \> **フォルダーリダイレクト**からフォルダーリダイレクトを設定します。

ポリシー	値
お気に入り	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Favorites`
マイドキュメント	`\\FileServ2\Redirected\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\Documents`

%USERDOMAIN%がフォルダーリダイレクトパスに追加されました。このポリシーはNewDomainユーザーにのみ適用されるため、この設定は必須ではありません。しかし、将来的にOldDomainユーザーを同じサーバーに移行することを決定した場合に役立つ可能性があります。今のところ、OldDomainユーザーは、フォルダーを`\\FileServ1`にリダイレクトするOldDomainからのフォルダーリダイレクトポリシーを引き続き使用します。

フェーズ6：ライブテスト

テストは2つの段階で実行します。

1. NewDomainのユーザーのプロファイルデータが正しく動作することを確認します。これらのユーザーは、クロスプラットフォーム設定ストアにデータが設定されていません。クロスプラットフォーム設定を作成するためのポリシーソースが無効に設定されているため、プロファイルの変更はOldDomainに伝播しません。
2. OldDomainの数人のユーザーでテストします。最初にログオンすると、クロスプラットフォーム設定データがプロファイルにコピーされます。その後のログオンでは、いずれかのドメインからの変更がもう一方にコピーされます。OldDomainのユーザーがNewDomainにログオンし、プロファイルデータが存在しない場合（OldDomainがProfile Management 5.0にアップグ

レードされて以来、ユーザーがOldDomainでプロファイルを使用していないため）、クロスプラットフォーム設定ストアは更新されません。このトピックで説明されている構成では、ユーザーは設定がドメイン間でローミングする前にOldDomainにログオンする必要があります。これにより、ユーザー設定（おそらく長年にわたって作成されたもの）がNewDomainのデフォルト設定によって上書きされないようにします。

その他の考慮事項

このケーススタディで構成されているように、Profile ManagementはNewDomainの設定を使用してクロスプラットフォーム設定ストアを初期化しません。OldDomainの設定のみがストアの初期化に使用できます。NewDomainに複数の種類のプロファイル（Windows 7 32ビットやWindows 7 64ビットなど）が含まれるまでは許容されます。あるいは、NewDomainのユーザーがOldDomainのリソースにアクセスする必要があるかもしれません。これらの場合、さらに多くの種類のマシンで「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを適切に有効にする必要があります。

注意：

もし クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースが誤って設定されている場合、新しいプロファイルが、蓄積された多くの貴重な設定を持つ既存のプロファイルを上書きしてしまう可能性があります。そのため、このポリシーは一度に1つのプラットフォームタイプにのみ設定することをお勧めします。このプラットフォームは通常、ユーザーが保持したいと考える設定が蓄積されている、より古い（成熟した）プラットフォームです。

このケーススタディでは、いくつかの点を説明するために別々のドメインを使用しています。また、クロスプラットフォーム設定機能は、2つのOU間、あるいは単一のOU内の異なる種類のマシン間で設定のローミングを管理できます。この場合、異なるマシンタイプに対して「Source for creating cross-platform settings」ポリシーを異なる方法で設定する必要があるかもしれません。この設定はいくつかの方法で実現できます。

- .iniファイル内の設定「CPMigrationsFromBaseProfileToCPStore」を使用して、各マシンタイプでポリシーを異なる方法で設定します。「Source for creating cross-platform settings」ポリシーは設定しないでください。
- Windows Management Instrumentation (WMI) フィルタリングを使用して、同じOU上の異なるGPOを管理します。OU内のすべてのマシンに適用されるGPOで共通設定を構成できます。しかし、「Source for creating cross-platform settings」ポリシーのみを追加のGPOに追加し、WMIクエリを使用してフィルタリングします。

アプリケーションプロファイラーを有効にする

この機能は、アプリケーションベースのプロファイル処理を定義します。この機能を有効にすると、定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Profile Management** で、**Citrix Virtual Apps™ Optimization settings** フォルダーを開きます。
2. **Enable Citrix Virtual Apps Optimization** ポリシーを有効にします。
3. **Path to Citrix Virtual Apps optimization definitions** ポリシーを有効にします。
4. Citrix Virtual Apps最適化の定義ファイルが格納されているフォルダーを指定します。
5. ポリシーの展開を適用するには、`gpupdate /force` コマンドを実行します。

> **注：**
>
> 定義ファイルの作成については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

> ログオフ時には、定義ファイル内の設定のみが同期され、その他のすべての設定は破棄されます。セッションでユーザー ドキュメントを表示または更新する場合は、フォルダーリダイレクトを使用します。フォルダーリダイレクトの構成については、「フォルダーリダイレクトの構成」を参照してください。

ユーザーのログオフを強制する

既定では、問題が発生した場合（たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合）に、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。ただし、代わりにProfile Managementを構成して、エラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることができます。エラーメッセージはトラブルシューティングに役立ちます。

1. **Profile Management**の下で、**詳細設定**フォルダーを開きます。
2. **問題が発生した場合にユーザーをログオフする**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。

ファイルセキュリティ属性を同期する

Profile Management が、プロファイルがインストールされているシステムとユーザー ストアの間でユーザープロファイル内のファイルとフォルダーをコピーするときに、セキュリティ属性を同期できます。この機能は、セキュリティ属性間の不整合を防ぐことを目的としています。Windows 10 以降、および Windows Server 2016 で必要です。

この機能はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の手順を実行します。

1. **UPMPolicyDefaults_all.ini** ファイルで、**General Settings** セクションに **SecurityPreserveEnabled=0** を追加します。
2. コマンドラインから、`gpupdate /force` コマンドを実行します。

Profile Management は、プロファイルの最終変更時刻に基づいてプロファイルの変更を同期します。変更がファイルのセキュリティ属性のみに行われた場合、Profile Management はファイルを同期しません。

ユーザーグループポリシーのログオン時の非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに同期と非同期の2つの処理モードを提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用します。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。

レジストリ値はマシンレベルの設定であり、ユーザーとともにローミングされません。したがって、ユーザーが以下の場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている同じマシンにログオンする。

Citrix Profile Managementは、この問題を解決するために**ユーザーグループポリシーのログオン時の非同期処理を有効にする**ポリシーを提供します。このポリシーを有効にすると、Profile Managementはレジストリ値をユーザーとともにローミングします。その結果、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。

この機能は、WindowsおよびWindows Server OSの両方に適用されます。

前提条件

Windowsマシンで非同期モードを有効にするために、追加のアクションは必要ありません。ただし、Windows Serverマシンでこのモードを有効にするには、以下の要件を満たしていることを確認してください。

- リモートデスクトップセッションホストの役割がインストールされていること。
- グループポリシーが次のように設定されていること。
  - **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > システム > ログオン > コンピューターの起動とログオン時に常にネットワークを待つ**: 無効
  - **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > システム > グループポリシー > リモートデスクトップサービス経由でログオンする際に非同期ユーザーグループポリシー処理を許可する**: 有効

ポリシーを有効にする

ポリシーを有効にするには、以下の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、次に**ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix Components > Profile Management**にアクセスします。
2. Profile Managementで、**詳細設定**をクリックします。
3. **ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする**ポリシーをダブルクリックします。
4. **有効**を選択します。
5. **OK**をクリックします。

変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。すべてのセッションからログオフし、再度ログオンします。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルからの対応する設定が使用されます。
2. この設定がここで構成されておらず、.iniファイルでも構成されていない場合、ポリシーは無効になります。

フォルダーリダイレクトの構成

フォルダーリダイレクトはMicrosoft Windowsの機能であり、Profile Managementと併用できます。これにより、ローカルフォルダーのパスをユーザーの新しい場所にリダイレクトできます。次のフォルダーをリダイレクトできます。

- AppData(ローミング)
- デスクトップ
- スタートメニュー
- ドキュメント
- ピクチャ
- ミュージック
- ビデオ
- お気に入り
- 連絡先
- ダウンロード
- リンク
- 検索
- 保存されたゲーム

> **重要:**
>
> フォルダーリダイレクトは、Microsoft Active Directory (AD) GPOまたはCitrix®ポリシーのいずれか1つの方法のみを使用して構成してください。複数の方法を使用してフォルダーリダイレクトを構成すると、予期しない結果を引き起こす可能性があります。

フォルダーリダイレクトを構成するには、次の手順に従います。

1. 該当するユーザーを、Profile Managementが管理するOUに移動します。
2. GPOを作成し、編集のために開きます。
3. **ユーザーの構成 > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > Profile Management > フォルダーリダイレクト**に移動し、リダイレクトするフォルダーを選択します。
4. `Redirect the <folder name> folder`ポリシー (たとえば、`Redirect the Desktop folder`ポリシー) を開き、**有効**を選択して、リダイレクトターゲットパスを入力します。

- リダイレクトターゲットパスを除外として追加しないでください。
- パスにユーザー名やフォルダー名を追加しないでください。たとえば、**デスクトップ**フォルダーへのパスを`\\server\share\`として設定した場合、ユーザー環境内のフォルダーは`\\server\share\<user name>\Desktop`としてリダイレクトされます。

5. 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`を参照してください。

注:

- **ドキュメント**フォルダー。ユーザーのホームディレクトリにリダイレクトできます。
- **ミュージック**、**ピクチャ**、および**ビデオ**フォルダー。それらを**ドキュメント**フォルダーに対する相対パスのフォルダーにリダイレクトできます。
- フォルダーのリダイレクトターゲットパスを変更するには、上記と同様の手順に従います。デフォルトでは、ポリシーが有効になると、Profile Managementはコンテンツを以前の場所から新しい場所に転送します。この転送を防ぐには、**コンテンツを新しい場所に移動しない**を選択します。
- フォルダーリダイレクトを無効にするには、対応するポリシーを**無効**に設定します。または、ポリシーを**有効**のままにして、**ローカルユーザープロファイル場所にリダイレクト**を選択することもできます。

リダイレクトされたフォルダーへのユーザーアクセスを許可する

ユーザーに対してフォルダーリダイレクトポリシーが有効になっている場合、リダイレクトターゲットフォルダーには、そのユーザーとSYSTEMユーザーのみがアクセスできます。データ監査などの管理目的で、管理者にリダイレクトターゲットフォルダーへの**読み取り**アクセスを許可する必要がある場合があります。そのためには、**リダイレクトターゲットパスにアクセスするユーザーとグループ**ポリシーを使用して、特定ユーザーまたはグループにリダイレクトターゲットフォルダーに対する**読み取りと実行**権限を付与できます。

注：

リダイレクトターゲットフォルダーへのユーザーアクセスを許可するには、**管理者権限の付与**ポリシーではなく、**リダイレクトターゲットパスにアクセスするユーザーとグループ**ポリ

> シーを使用することをお勧めします。**管理者権限の付与**ポリシーは、ローカル管理者グループのメンバーにリダイレクトターゲットフォルダーへのアクセスを許可します。ただし、ローカル管理者グループにユーザーを追加すると、この役割に関連する広範な権限のためにセキュリティ上の懸念が生じる可能性があります。

> このタスクを完了するには、次の手順に従います。

1. **ユーザーの構成 > 管理用テンプレート > Citrixコンポーネント > Profile Management > フォルダーリダイレクト**に移動します。
2. **リダイレクトターゲットパスにアクセスするユーザーとグループ**ポリシーをダブルクリックします。
3. **有効**を選択します。
4. **表示**をクリックします。ユーザーを指定するためのダイアログボックスが表示されます。
5. **値**フィールドに、必要なドメインユーザーとグループを`<Domain name>\<User name or group name>`の形式で入力するか、`Security Identifier (SID)`を使用します。
6. 「OK」をクリックし、もう一度「OK」をクリックして変更を保存します。
7. 変更を有効にするには、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

構成の優先順位は次のとおりです。

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、リダイレクトターゲットパスにはプロファイル所有者とSYSTEMユーザーのみがアクセスできます。

フォルダーリダイレクトが機能することを確認する

フォルダーリダイレクトが機能することを確認するには、次の手順を実行します。

1. セッションで、リダイレクトしたフォルダーに移動し、フォルダーを右クリックして、**プロパティ**を選択します。
2. プロパティウィンドウで、**ショートカット**タブに移動し、**ターゲット**フィールドを確認します。フィールドにリダイレクトされたパスが表示されている場合、フォルダーリダイレクトは機能しています。そうでない場合、フォルダーリダイレクトは機能していません。

フォルダーリダイレクトのログ

> **注:**

Profile Managementは、フォルダーリダイレクトが失敗した場合にのみ、Windowsイベントログに情報を書き込みます。

Profile ManagementはWindowsイベントログに情報を書き込みます。Windowsイベントビューアーの**アプリケーション**ペインでイベントを表示できます。この情報は、フォルダーリダイレクト機能の使用時に発生する問題のトラブルシューティングに役立ちます。

プロファイル管理ポリシー

この記事では、.adm および .admx ファイル内のポリシーの重要な側面について説明します。

プロファイル管理変数

このバージョンのプロファイル管理では、グループポリシーと .ini ファイルの両方で使用できる次の変数が利用可能です。

ファイルとレジストリエントリを定義するポリシーの場合、次の変数は次のように展開されます。

変数	バージョン 1 プロファイルの展開	バージョン 2 プロファイルの展開
`!ctx_localsettings!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`
`!ctx_roamingappdata!`	`Application Data`	`AppData\Roaming`
`!ctx_startmenu!`	`Start Menu`	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start menu`
`!ctx_internetcache!`	`Local Settings\Temporary Internet Files`	`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
`!ctx_localappdata!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`

パスを構築するために使用されるポリシーの場合、`!ctx_osbitness!` 変数はオペレーティングシステムに応じて x86 または x64 に展開されます。次の変数も展開されます。

- `!ctx_osname!` は、オペレーティングシステムに応じて次のように短い名前に展開されます。

- `!ctx_profilever!` は、オペレーティングシステムに応じて次のようにプロファイルバージョンに展開されます。

プロファイル管理サービスが開始されると、長い名前がログファイルに書き込まれます。

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows 11`	Win11	v6
`Windows 10 Redstone 6`	ウィンテンアールエスシックス	v6
`Windows 10 Redstone 5`	ウィンテンアールエスファイブ	v6
`Windows 10 Redstone 4`	ウィンテンアールエスフォー	v6
`Windows 10 Redstone 3`	ウィンテンアールエススリー	v6
`Windows 10 Redstone 2`	ウィンテンアールエスツー	v6
`Windows 10 Redstone 1`	ウィンテンアールエスワン	v6
`Windows 10`	Win10	v5
`Windows 8.1`	Win8.1	v4 または v2
`Windows 8`	Win8	v3 または v2
`Windows 7`	Win7	v2
`Windows Server 2025`	Win2025	v6
`Windows Server 2022`	Win2022	v6
`Windows Server 2019`	Win2019	v6
`Windows Server 2016`	Win2016	v6
`Windows Server 2012 R2`	ウィン2012R2	v4 または v2
`Windows Server 2012`	Win2012	v3 または v2
`Windows Server 2008 R2`	Win2008	v2

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows Server 2008`	Win2008	v2

注:

20H1以降のWindows 10の場合、長い名前はWindows10 \<postfix\>で、対応する短い名前はWin10_\<postfix\>です。\<postfix\>の値は、次の2つの特定のレジストリエントリから取得されます。

- エントリ: `HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion` > 値の名前: DisplayVersion
- エントリ: `HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion` > 値の名前: ReleaseId

最初のレジストリエントリに値が含まれている場合、それが\<postfix\>として使用されます。それ以外の場合は、2番目のレジストリエントリの値が使用されます。

Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012、およびWindows Server 2012R2の場合、`HLKM\System\CurrentControlset\Services\ProfSvc\Parameters`の下にある`UseProfilePathExtensionVersion`レジストリキーの設定によって、実際のプロファイルバージョンが変更される場合があります。

- 1に設定されている場合、プロファイルバージョンはオペレーティングシステムに応じてv3またはv4になります。
- 設定されていないか0に設定されている場合、プロファイルバージョンはv2です。

バージョン別のポリシー

移行を支援するため、以下の表に、Profile Management の異なるバージョンで利用可能なポリシー、.adm (または .admx) ファイルおよび .ini ファイル内の各ポリシーの場所、各ポリシーが設計されている機能 (またはすべての展開の基本構成の一部であるかどうか) を示します。

.adm または .admx ファイル内の場所は `Citrix > Profile Management` を基準としています。

バージョン 2603 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
BindLinkRedirection	\プロファイルコンテナ設定	注: 該当なし	BindLinkリダイレクトを有効にする

バージョン 2511 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
HibernationSupport	\AdvancedSettings	注: 該当なし	マシン休止状態のマルチセッションサポートを有効にする

バージョン 2503 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ConfigurableProfileTimeoutEnabled	\AdvancedSettings	注: 該当なし	プロファイル読み込みタイムアウトを有効にする
NumOfStoresToSyncOnLogoff	\AdvancedSettings	注: 該当なし	ログオフ時のプロファイル同期を制限する

バージョン 2411 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
QuotaMaxSize	\AdvancedSettings	注: 該当なし	プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
QuotaAlertMessage	\AdvancedSettings	注: 該当なし	プロファイルサイズがクォータを超過した場合の通知メッセージ
PathToAppRepositoryContainerStore	\AdvancedSettings	PathToAppRepositoryContainerStore	AppX パッケージの読み込み高速化を有効にする
GroupsToAccessRedirectedFolders	\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成内)	注: 該当なし	リダイレクトターゲットパスにアクセスするユーザーとグループ

バージョン 2407 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerFailOver	\AdvancedSettings	ProfileContainerFailOver	ユーザー ストア間のセッション内プロファイル コンテナー フェールオーバーを有効にする

バージョン 2311 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SelectBestPerfUS	\AdvancedSettings	SelectBestPerfUS	ユーザーストアの選択方法
SharedStoreProfileContainerFileSizeLimit	\FileDeduplication	SharedStoreProfileContainerFileSizeLimit	ファイル重複排除
PreventLoginWhenProfileContainerMountFailed	\ProfileContainerSettings	PreventLoginWhenProfileContainerMountFailed	ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合に

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
			ユーザーをログオフする
GroupsToAccessProfileContainer	\ProfileContainerSettings	GroupsToAccessProfileContainer	プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ

バージョン 2308 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
AutoExtend	\ProfileContainerSettings	自動拡張	プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする
自動拡張しきい値	\詳細設定	自動拡張しきい値	プロファイルコンテナの自動拡張しきい値
自動拡張サイズ	\詳細設定	自動拡張サイズ	プロファイルコンテナの自動拡張増分
自動拡張制限	\詳細設定	自動拡張制限	プロファイルコンテナの自動拡張制限
VHD容量	\詳細設定	VHD容量	VHD コンテナーのデフォルト容量
プロファイルコンテナへの同時アクセスを無効にする	\プロファイルコンテナ設定	DisableConcurrentAccessToProfileContainer	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする
DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	\ProfileContainerSettings	DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする
EnableUwpAppsRoaming	\AdvancedSettings	EnableUwpAppsRoaming	UWPアプリのローミング

バージョン2305から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
UserGroupLevelConfigEnabled	\AdvancedSettings	UserGroupLevelConfigEnabled	ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする
OrderedGroups	\AdvancedSettings	OrderedGroups	ユーザーグループの優先順位を設定する

バージョン 2303 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
PSMidSessionWriteBackSessionLock	\BasicSettings	PSMidSessionWriteBackSessionLock	セッションロックおよび切断時のアクティブなライトバックを有効にする
AppAccessControl	\AppAccessControl	AppAccessControl	アプリのアクセス制御を有効にする
EnableVHDDiskCompaction	\ProfileContainerSettings	EnableVHDDiskCompaction	VHDディスクの圧縮を有効にする
FreeRatio4Compaction	\AdvancedSettings	FreeRatio4Compaction	VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率
Nログオフス4コンパクション	\AdvancedSettings	Nログオフ4コンパクション	VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数
Nデフラグ4コンパクション	\AdvancedSettings	Nデフラグ4コンパクション	VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

バージョン 2209 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SharedStoreFileInclusionList	\ファイル重複排除	SharedStoreFileInclusionList	重複排除のために共有ストアに含めるファイル
SharedStoreFileExclusionList	\ファイル重複排除	SharedStoreFileExclusionList	共有ストアから除外するファイル

バージョン2206以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
SyncGpoStateEnabled	\詳細設定	SyncGpoStateEnabled	ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする
OneDriveContainer	\詳細設定	OneDriveContainer	ローミング OneDrive フォルダーを有効にする
OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	同時セッションで Outlook 検索データのローミングを有効にする
PSForPendingAreaEnabled	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSForPendingAreaEnabled	ペンディングエリアのプロファイルストリーミングを有効にする

バージョン 2203 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
EnableVolumeReattach	\AdvancedSettings	EnableVolumeReattach	セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする

バージョン2112以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナー設定	ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナーからファイルを除外する
ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナー設定	ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナーにファイルを含める
VhdStorePath	AdvancedSettings	PathToVhdStore	VHDXファイルのネットワークストレージの場所を指定する

バージョン2109以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

バージョン2106以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
AccelerateFolderMirroring	\FileSystemSettings\FSSynchronization	AccelerateFolderMirroring	フォルダーのミラーリングを高速化する
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする
MultiSiteReplication	AdvancedSettings	MultiSiteReplication	ユーザーストアをレプリケートする

バージョン 2103 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
PSForFoldersEnabled	\PsSettings	PSForFoldersEnabled	フォルダーのプロファイル ストリーミング
ProfileContainerLocalCache	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerLocalCache	プロファイルコンテナのローカルキャッシュ

バージョン2009から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerExclusionListDir	プロファイルコンテナ
ProfileContainerInclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerInclusionListDir	プロファイルコンテナ

バージョン2003から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
FSLogixProfileContainerSupport	\AdvancedSettings	FSLogixProfileContainerSupport	**バージョン2103より前:** FSLogixプロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする **バージョン2103以降:** プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

バージョン1909以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
MigrateUserStore		MigrateUserStore	ユーザー ストアの移行
OutlookEdbBackupEnabled	\AdvancedSettings	OutlookEdbBackupEnabled	Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元
ApplicationProfilesAutoMigration	\AdvancedSettings	ApplicationProfilesAutoMigration	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

バージョン 1903 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainer	**バージョン 2009 より前:** \FileSystemSettings\FSSynchronization	ProfileContainer	プロファイルコンテナ

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
	バージョン 2009 以降: \ProfileContainer		

バージョン 7.18 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
OutlookSearchRoamingEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingEnabled	Outlook 検索ローミング

バージョン 7.16 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
XenAppOptimizationSettings	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationSettings	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
XenAppOptimizationDefinitionPath	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
LargeFileHandlingList	\FileSystemSettings	LargeFileHandlingList	大容量ファイルの処理

バージョン 7.15 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
LogonExclusionCheck	\FileSystemSettings	LogonExclusionCheck	ログオン除外チェック

バージョン 5.8 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
StreamingExclusionList	\PsSettings	StreamingExclusionList	プロファイルストリーミング除外リスト

バージョン 5.6 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
`CEIPEnabled`	\AdvancedSettings	`CEIPEnabled`	CEIP
PSMidSessionWriteBackReg		PSMidSessionWriteBackReg	アクティブライトバックレジストリ

バージョン5.5以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
デフォルトの除外リスト	\レジストリ	DefaultExclusionListRegistry	ベース
NTUSER.DAT	\レジストリ	LastKnownGoodRegistry	NTUSER.DATのバックアップ
デフォルトの除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	DefaultSyncExclusionListDir	基本

バージョン5.0〜5.4で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
除外されるグループ		ExcludedGroups	除外グループ
自動構成を無効にする	\詳細設定	DisableDynamicConfig	自動構成

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
AppData (Roaming) フォルダーをリダイレクトする、`Desktop` フォルダーをリダイレクトする、...	\フォルダーリダイレクト（ユーザーの構成内）	注: 該当なし	XenDesktopとの統合
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	\プロファイルの処理	ProfileDeleteDelay	ベース

バージョン4.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイルのポリシー	.ADMまたは.ADMXファイルの場所	.INIファイルのポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	\クロスプラットフォーム設定	CPUserGroupList	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を有効にする	\クロスプラットフォーム設定	`CPEnabled`	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定の作成元	\クロスプラットフォーム設定	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム定義へのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	\クロスプラットフォーム設定	`CPPath`	クロスプラットフォーム設定
オフラインプロファイルのサポート	\クロスプラットフォーム設定	OfflineSupport	オフラインプロファイル

.ADMまたは.ADMXファイルのポリシー	.ADMまたは.ADMXファイルの場所	.INIファイルのポリシー	機能
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	\詳細設定	LogoffRatherThanTempProfile	トラブルシューティングの改善

バージョン3.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
アクティブライトバック		PSMidSessionWriteBack	アクティブプロファイルのライトバック (バージョン4.0では「アクティブライトバック」に名称変更)
ミラーリングするフォルダー (バージョン 3.1 以降で利用可能)	\ファイルシステム\同期	MirrorFoldersList	フォルダーのミラーリング
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する (バージョン 3.1 以降で利用可能)	\詳細設定	ProcessCookieFiles	フォルダーのミラーリング
リダイレクトされたフォルダーを削除する (バージョン 3.2、3.2.2、および 4.0 で利用可能)	\詳細設定	DeleteRedirectedFolders	フォルダーリダイレクトのサポート
常にキャッシュ	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	PSAlwaysCache	ストリーミングユーザープロファイル
プロファイルストリーミング	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	`PSEnabled`	ストリーミングユーザープロファイル

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト	\ストリーミングユーザープロファイル	PSPendingLockTimeout	ストリーミングユーザープロファイル
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	\ストリーミングユーザープロファイル	PSUserGroupsList	ストリーミングユーザープロファイル

バージョン 2.x から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ユーザーストアへのパス		PathToUserStore	ベース
処理されるグループ		ProcessedGroups	ベース
ローカルプロファイルの競合処理	\プロファイル処理	ローカルプロファイル競合処理	基本
既存プロファイルの移行	\プロファイル処理	Windowsプロファイルをユーザーストアに移行	基本
テンプレートプロファイル	\プロファイル処理	テンプレートプロファイルパス、テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書き、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書き	基本
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	\プロファイル処理	ログオフ時にキャッシュされたプロファイルを削除	基本

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
MFTキャッシュファイルのディレクトリ (バージョン5.0で削除)	\詳細設定	`USNDBPath`	基本
同期するディレクトリ	ファイルシステム\同期	SyncDirList	ベース
除外リスト	レジストリ	ExclusionListRegistry	ベース
同期するファイル	ファイルシステム\同期	SyncFileList	ベース
包含リスト	レジストリ	InclusionListRegistry	ベース
除外リスト - ディレクトリ	ファイルシステム	SyncExclusionListDir	ベース
除外リスト - ファイル	\ファイルシステム	SyncExclusionListFiles	基本
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	\詳細設定	LoadRetries	基本
ローカル管理者によるログオンの処理		ProcessAdmin	基本
Profile Management を有効にする		ServiceActive	基本
ログの有効化	\ログ設定	LoggingEnabled	ログ
ログ設定	\ログ設定	ログレベル	ログ
ログファイルの最大サイズ	\ログ設定	最大ログサイズ	ログ

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ログファイルへのパス (バージョン 2.1 以降で利用可能)	\ログ設定	ログファイルパス	ログ

プロファイル管理ポリシー

この記事では、.adm および .admx ファイル内のポリシーの重要な側面について説明します。

プロファイル管理変数

このバージョンのプロファイル管理では、グループポリシーと .ini ファイルの両方で使用できる次の変数が利用可能です。

ファイルとレジストリエントリを定義するポリシーの場合、次の変数は次のように展開されます。

変数	バージョン 1 プロファイルの展開	バージョン 2 プロファイルの展開
`!ctx_localsettings!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`
`!ctx_roamingappdata!`	`Application Data`	`AppData\Roaming`
`!ctx_startmenu!`	`Start Menu`	`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start menu`
`!ctx_internetcache!`	`Local Settings\Temporary Internet Files`	`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`
`!ctx_localappdata!`	`Local Settings\Application Data`	`AppData\Local`

パスを構築するために使用されるポリシーの場合、`!ctx_osbitness!` 変数はオペレーティングシステムに応じて x86 または x64 に展開されます。次の変数も展開されます。

- `!ctx_osname!` は、オペレーティングシステムに応じて次のように短い名前に展開されます。
- `!ctx_profilever!` は、オペレーティングシステムに応じて次のようにプロファイルバージョンに展開されます。

プロファイル管理サービスが開始されると、長い名前がログファイルに書き込まれます。

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows 11`	Win11	v6
`Windows 10 Redstone 6`	ウィンテンアールエスシックス	v6
`Windows 10 Redstone 5`	ウィンテンアールエスファイブ	v6
`Windows 10 Redstone 4`	ウィンテンアールエスフォー	v6
`Windows 10 Redstone 3`	ウィンテンアールエススリー	v6
`Windows 10 Redstone 2`	ウィンテンアールエスツー	v6
`Windows 10 Redstone 1`	ウィンテンアールエスワン	v6
`Windows 10`	Win10	v5
`Windows 8.1`	Win8.1	v4 または v2
`Windows 8`	Win8	v3 または v2
`Windows 7`	Win7	v2
`Windows Server 2025`	Win2025	v6
`Windows Server 2022`	Win2022	v6
`Windows Server 2019`	Win2019	v6
`Windows Server 2016`	Win2016	v6
`Windows Server 2012 R2`	ウィン2012R2	v4 または v2

長い名前	短い名前	プロファイルバージョン
`Windows Server 2012`	Win2012	v3 または v2
`Windows Server 2008 R2`	Win2008	v2
`Windows Server 2008`	Win2008	v2

注:

20H1以降のWindows 10の場合、長い名前はWindows10 \<postfix\>で、対応する短い名前はWin10_\<postfix\>です。\<postfix\>の値は、次の2つの特定のレジストリエントリから取得されます。

- エントリ: `HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion` > 値の名前: DisplayVersion
- エントリ: `HKLM\Software\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion` > 値の名前: ReleaseId

最初のレジストリエントリに値が含まれている場合、それが\<postfix\>として使用されます。それ以外の場合は、2番目のレジストリエントリの値が使用されます。

Windows 8、Windows 8.1、Windows Server 2012、およびWindows Server 2012R2の場合、`HLKM\System\CurrentControlset\Services\ProfSvc\Parameters`の下にある`UseProfilePathExtensionVersion`レジストリキーの設定によって、実際のプロファイルバージョンが変更される場合があります。

- 1に設定されている場合、プロファイルバージョンはオペレーティングシステムに応じてv3またはv4になります。
- 設定されていないか0に設定されている場合、プロファイルバージョンはv2です。

バージョン別のポリシー

移行を支援するため、以下の表に、Profile Management の異なるバージョンで利用可能なポリシー、.adm (または .admx) ファイルおよび .ini ファイル内の各ポリシーの場所、各ポリシーが設計されている機能 (またはすべての展開の基本構成の一部であるかどうか) を示します。

.adm または .admx ファイル内の場所は `Citrix > Profile Management` を基準としています。

バージョン 2603 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
BindLinkRedirection	\プロファイルコンテナ設定	注: 該当なし	BindLinkリダイレクトを有効にする

バージョン 2511 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
HibernationSupport	\AdvancedSettings	注: 該当なし	マシン休止状態のマルチセッションサポートを有効にする

バージョン 2503 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ConfigurableProfileTimeoutEnabled	\AdvancedSettings	注: 該当なし	プロファイル読み込みタイムアウトを有効にする
NumOfStoresToSyncOnLogoff	\AdvancedSettings	注: 該当なし	ログオフ時のプロファイル同期を制限する

バージョン 2411 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
QuotaMaxSize	\AdvancedSettings	注: 該当なし	プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する
QuotaAlertMessage	\AdvancedSettings	注: 該当なし	プロファイルサイズがクォータを超過した場合の通知メッセージ
PathToAppRepositoryContainerStore	\AdvancedSettings	PathToAppRepositoryContainerStore	AppX パッケージの読み込み高速化を有効にする
GroupsToAccessRedirectedFolders	\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成内)	注: 該当なし	リダイレクトターゲットパスにアクセスするユーザーとグループ

バージョン 2407 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerFailOver	\AdvancedSettings	ProfileContainerFailOver	ユーザー ストア間のセッション内プロファイル コンテナー フェールオーバーを有効にする

バージョン 2311 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SelectBestPerfUS	\AdvancedSettings	SelectBestPerfUS	ユーザーストアの選択方法

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SharedStoreProfileContainerFileSizeLimit	\FileDeduplication	SharedStoreProfileContainerFileSizeLimit	ファイル重複排除
PreventLoginWhenProfileContainerMountFailed	\ProfileContainerSettings	PreventLoginWhenProfileContainerMountFailed	ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする
GroupsToAccessProfileContainer	\ProfileContainerSettings	GroupsToAccessProfileContainer	プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ

バージョン 2308 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
AutoExtend	\ProfileContainerSettings	自動拡張	プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする
自動拡張しきい値	\詳細設定	自動拡張しきい値	プロファイルコンテナの自動拡張しきい値
自動拡張サイズ	\詳細設定	自動拡張サイズ	プロファイルコンテナの自動拡張増分
自動拡張制限	\詳細設定	自動拡張制限	プロファイルコンテナの自動拡張制限
VHD容量	\詳細設定	VHD容量	VHD コンテナーのデフォルト容量
プロファイルコンテナへの同時アクセスを無効にする	\プロファイルコンテナ設定	DisableConcurrentAccessToProfileContainer	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	\ProfileContainerSettings	DisableConcurrentAccessToOneDriveContainer	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする
EnableUwpAppsRoaming	\AdvancedSettings	EnableUwpAppsRoaming	UWPアプリのローミング

バージョン2305から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
UserGroupLevelConfigEnabled	\AdvancedSettings	UserGroupLevelConfigEnabled	ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする
OrderedGroups	\AdvancedSettings	OrderedGroups	ユーザーグループの優先順位を設定する

バージョン 2303 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
PSMidSessionWriteBackSessionLock	\BasicSettings	PSMidSessionWriteBackSessionLock	セッションロックおよび切断時のアクティブなライトバックを有効にする
AppAccessControl	\AppAccessControl	AppAccessControl	アプリのアクセス制御を有効にする
EnableVHDDiskCompaction	\ProfileContainerSettings	EnableVHDDiskCompaction	VHDディスクの圧縮を有効にする
FreeRatio4Compaction	\AdvancedSettings	FreeRatio4Compaction	VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
Nログオフス4コンパクション	\AdvancedSettings	Nログオフ4コンパクション	VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数
Nデフラグ4コンパクション	\AdvancedSettings	Nデフラグ4コンパクション	VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

バージョン 2209 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
SharedStoreFileInclusionList	\ファイル重複排除	SharedStoreFileInclusionList	重複排除のために共有ストアに含めるファイル
SharedStoreFileExclusionList	\ファイル重複排除	SharedStoreFileExclusionList	共有ストアから除外するファイル

バージョン2206以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
SyncGpoStateEnabled	\詳細設定	SyncGpoStateEnabled	ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする
OneDriveContainer	\詳細設定	OneDriveContainer	ローミング OneDrive フォルダーを有効にする
OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingConcurrentSessionEnabled	同時セッションで Outlook 検索データのローミングを有効にする

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
PSForPendingAreaEnabled	\ストリーム配信ユーザープロファイル	PSForPendingAreaEnabled	ペンディングエリアのプロファイルストリーミングを有効にする

バージョン 2203 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
EnableVolumeReattach	\AdvancedSettings	EnableVolumeReattach	セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする

バージョン2112以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナー設定	ProfileContainerExclusionListFile	プロファイルコンテナーからファイルを除外する
ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナー設定	ProfileContainerInclusionListFile	プロファイルコンテナーにファイルを含める
VhdStorePath	AdvancedSettings	PathToVhdStore	VHDXファイルのネットワークストレージの場所を指定する

バージョン2109以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

バージョン2106以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
AccelerateFolderMirroring	\FileSystemSettings\FSSynchronization	AccelerateFolderMirroring	フォルダーのミラーリングを高速化する
CredBasedAccessEnabled	AdvancedSettings	CredBasedAccessEnabled	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする
MultiSiteReplication	AdvancedSettings	MultiSiteReplication	ユーザーストアをレプリケートする

バージョン 2103 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
PSForFoldersEnabled	\PsSettings	PSForFoldersEnabled	フォルダーのプロファイル ストリーミング
ProfileContainerLocalCache	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerLocalCache	プロファイルコンテナのローカルキャッシュ

バージョン2009から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ProfileContainerExclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerExclusionListDir	プロファイルコンテナ
ProfileContainerInclusionListDir	\ProfileContainerSettings	ProfileContainerInclusionListDir	プロファイルコンテナ

バージョン2003から利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADM または .ADMXファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
FSLogixProfileContainerSupport	\AdvancedSettings	FSLogixProfileContainerSupport	**バージョン2103より前:** FSLogixプロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする **バージョン2103以降:** プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

バージョン1909以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMXファイル内のポリシー	.ADM または .ADMXファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
MigrateUserStore		MigrateUserStore	ユーザー ストアの移行
OutlookEdbBackupEnabled	\AdvancedSettings	OutlookEdbBackupEnabled	Outlook 検索インデックスデータベース - バックアップと復元
ApplicationProfilesAutoMigration	\AdvancedSettings	ApplicationProfilesAutoMigration	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

バージョン 1903 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
ProfileContainer	**バージョン 2009 より前:** \FileSystemSettings\FSSynchronization **バージョン 2009 以降:** \ProfileContainer	ProfileContainer	プロファイルコンテナ

バージョン 7.18 から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
OutlookSearchRoamingEnabled	\AdvancedSettings	OutlookSearchRoamingEnabled	Outlook 検索ローミング

バージョン 7.16 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイルの場所	.INI ファイルのポリシー	機能
XenAppOptimizationSettings	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationSettings	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
XenAppOptimizationDefinitionPath	\XenAppOptimizationSettings	XenAppOptimizationDefinitionPath	Citrix Virtual Apps and Desktops アプリケーションの最適化
LargeFileHandlingList	\FileSystemSettings	LargeFileHandlingList	大容量ファイルの処理

バージョン 7.15 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
LogonExclusionCheck	\FileSystemSettings	LogonExclusionCheck	ログオン除外チェック

バージョン 5.8 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
StreamingExclusionList	\PsSettings	StreamingExclusionList	プロファイルストリーミング除外リスト

バージョン 5.6 以降で利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイル内のポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイル内のポリシー	機能
`CEIPEnabled`	\AdvancedSettings	`CEIPEnabled`	CEIP
PSMidSessionWriteBackReg		PSMidSessionWriteBackReg	アクティブライトバックレジストリ

バージョン5.5以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
デフォルトの除外リスト	\レジストリ	DefaultExclusionListRegistry	ベース
NTUSER.DAT	\レジストリ	LastKnownGoodRegistry	NTUSER.DATのバックアップ
デフォルトの除外リスト - ディレクトリ	\ファイルシステム	DefaultSyncExclusionListDir	基本

バージョン5.0～5.4で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMX ファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMX ファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
除外されるグループ		ExcludedGroups	除外グループ
自動構成を無効にする	\詳細設定	DisableDynamicConfig	自動構成

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
AppData (Roaming) フォルダーをリダイレクトする、`Desktop` フォルダーをリダイレクトする、...	\フォルダーリダイレクト（ユーザーの構成内）	注: 該当なし	XenDesktopとの統合
キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	\プロファイルの処理	ProfileDeleteDelay	ベース

バージョン4.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイルのポリシー	.ADMまたは.ADMXファイルの場所	.INIファイルのポリシー	機能
クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	\クロスプラットフォーム設定	CPUserGroupList	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定を有効にする	\クロスプラットフォーム設定	`CPEnabled`	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定の作成元	\クロスプラットフォーム設定	CPMigrationFromBaseProfileToCPStore	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム定義へのパス	\クロスプラットフォーム設定	CPSchemaPath	クロスプラットフォーム設定
クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	\クロスプラットフォーム設定	`CPPath`	クロスプラットフォーム設定
オフラインプロファイルのサポート	\クロスプラットフォーム設定	OfflineSupport	オフラインプロファイル

.ADMまたは.ADMXファイルのポリシー	.ADMまたは.ADMXファイルの場所	.INIファイルのポリシー	機能
問題が発生した場合にユーザーをログオフする	\詳細設定	LogoffRatherThanTempProfile	トラブルシューティングの改善

バージョン3.x以降で利用可能なポリシー

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
アクティブライトバック		PSMidSessionWriteBack	アクティブプロファイルのライトバック (バージョン4.0では「アクティブライトバック」に名称変更)
ミラーリングするフォルダー (バージョン 3.1 以降で利用可能)	\ファイルシステム\同期	MirrorFoldersList	フォルダーのミラーリング
ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する (バージョン 3.1 以降で利用可能)	\詳細設定	ProcessCookieFiles	フォルダーのミラーリング
リダイレクトされたフォルダーを削除する (バージョン 3.2、3.2.2、および 4.0 で利用可能)	\詳細設定	DeleteRedirectedFolders	フォルダーリダイレクトのサポート
常にキャッシュ	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	PSAlwaysCache	ストリーミングユーザープロファイル
プロファイルストリーミング	\ストリーム配信されるユーザープロファイル	`PSEnabled`	ストリーミングユーザープロファイル

.ADMまたは.ADMXファイル内のポリシー	.ADMまたは.ADMXファイル内の場所	.INIファイル内のポリシー	機能
ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト	\ストリーミングユーザープロファイル	PSPendingLockTimeout	ストリーミングユーザープロファイル
ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	\ストリーミングユーザープロファイル	PSUserGroupsList	ストリーミングユーザープロファイル

バージョン 2.x から利用可能なポリシー

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ユーザーストアへのパス		PathToUserStore	ベース
処理されるグループ		ProcessedGroups	ベース
ローカルプロファイルの競合処理	\プロファイル処理	ローカルプロファイル競合処理	基本
既存プロファイルの移行	\プロファイル処理	Windowsプロファイルをユーザーストアに移行	基本
テンプレートプロファイル	\プロファイル処理	テンプレートプロファイルパス、テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書き、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書き	基本
ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	\プロファイル処理	ログオフ時にキャッシュされたプロファイルを削除	基本

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
MFTキャッシュファイルのディレクトリ (バージョン5.0で削除)	\詳細設定	`USNDBPath`	基本
同期するディレクトリ	ファイルシステム\同期	SyncDirList	ベース
除外リスト	レジストリ	ExclusionListRegistry	ベース
同期するファイル	ファイルシステム\同期	SyncFileList	ベース
包含リスト	レジストリ	InclusionListRegistry	ベース
除外リスト - ディレクトリ	ファイルシステム	SyncExclusionListDir	ベース
除外リスト - ファイル	\ファイルシステム	SyncExclusionListFiles	基本
ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	\詳細設定	LoadRetries	基本
ローカル管理者によるログオンの処理		ProcessAdmin	基本
Profile Management を有効にする		ServiceActive	基本
ログの有効化	\ログ設定	LoggingEnabled	ログ
ログ設定	\ログ設定	ログレベル	ログ
ログファイルの最大サイズ	\ログ設定	最大ログサイズ	ログ

.ADM または .ADMX ファイルのポリシー	.ADM または .ADMX ファイル内の場所	.INI ファイルのポリシー	機能
ログファイルへのパス (バージョン 2.1 以降で利用可能)	\ログ設定	ログファイルパス	ログ

Profile Management ポリシーの説明と既定値

このトピックでは、Profile Management の .adm および .admx ファイルに含まれるポリシーについて説明します。

ポリシーの詳細については、「Profile Management ポリシー」を参照してください。

.adm および .admx ファイルのセクション

Profile Management ポリシーは、次のセクションにあります。

プロファイル管理

Profile Management\\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成)

プロファイル管理\\プロファイル処理

プロファイル管理\\詳細設定

プロファイル管理\\ログ設定

プロファイル管理\\レジストリ

プロファイル管理\ファイルシステム

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

プロファイル管理\\ファイルの重複排除

プロファイル管理\\ストリーミングユーザープロファイル

プロファイル管理\\クロスプラットフォーム設定

グループポリシーオブジェクトエディターでは、ほとんどのポリシーが **コンピューターの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート \> Citrix** の下に表示されます。リダイレクトされたフォルダーポリシーは **ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート \> Citrix** の下に表示されます。

グループポリシーエディターでは、ポリシーが **ユーザーの構成** というラベルのセクションの下にない限り、ポリシーは **コンピューターの構成** の下に表示されます。

プロファイル管理

Profile Management を有効にする

Profile Management を有効にします。デフォルトでは、展開を容易にするため、Profile Management はログオンまたはログオフを処理しません。Profile Management は、他のすべてのセットアップタスクを実行し、Citrix® ユーザープロファイルが環境でどのように動作するかをテストした後にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Profile Management は Windows ユーザープロファイルを一切処理しません。

処理されるグループ

プロファイルが処理されるユーザーを指定します。次のユーザーグループを使用してユーザーを指定します。

- `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>` の形式のドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）
- `GROUP NAME` の形式のローカルグループ

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されている場合、Profile Management はこれらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はすべてのユーザーを処理します。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループのメンバーが処理されます。

除外されるグループ

プロファイルが処理されないユーザーを指定します。次のユーザーグループを使用してユーザーを指定できます。

- `<DOMAIN NAME>\<GROUP NAME>` の形式のドメイングループ（ローカル、グローバル、ユニバーサル）
- `GROUP NAME` の形式のローカルグループ

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されている場合、Profile Management はそれらのユーザーグループのメンバーを除外します。
2. この設定が無効になっている場合、Profile Management はどのユーザーも除外しません。
3. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、どのグループのメンバーも除外されません。

ローカル管理者によるログオンの処理

Profile Management が `BUILTIN\Administrators` グループのメンバーのログオンを処理するかどうかを指定します。このポリシーを有効にすることは、ほとんどのユーザーがローカル管理者である Citrix Virtual Desktops の展開で推奨されます。

Citrix Virtual Apps 環境は、マルチセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。マルチセッションオペレーティングシステムでこのポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、Profile Management はドメインユーザーのログオンを処理しますが、ローカル管理者のログオンは処理しません。Citrix Virtual Desktops™ 環境は、シングルセッションオペレーティングシステムの典型的なユースケースです。シングルセッションオペレーティングシステムでは、Profile Management はローカル管理者のログオンを処理します。

ローカル管理者権限を持つドメインユーザーは、通常、仮想デスクトップが割り当てられた Citrix Virtual Desktops ユーザーです。デスクトップで Profile Management に問題が発生した場合、このポリシーにより、ユーザーはログオン処理をバイパスしてログオンし、問題をトラブルシューティングできます。

> **注:**
>
> ドメインユーザーのログオンは、通常、製品ライセンスへの準拠を確実にするために、グループメンバーシップによって課される制限の対象となる場合があります。

> 構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、Profile Management はローカル管理者によるログオンを処理しません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、管理者は処理されません。

ユーザーストアへのパス

ユーザーストアのストレージパスを指定できます。ユーザーストアは、ユーザープロファイル（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存される中央のネットワークロケーションです。

パスは次のいずれかです。

- ホームディレクトリに対する相対パス。ホームディレクトリは通常、Active Directory のユーザーの `#homeDirectory#` 属性として構成されます。
- UNCパス。通常、サーバー共有またはDFS名前空間を指定します。
- 無効または未構成。この場合、パスは `#homeDirectory#\Windows` です。

パス設定では、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数（例: `%ProfVer%`）。システム環境変数は通常、追加のセットアップが必要です。
- ハッシュで囲まれた Active Directory ユーザーオブジェクトの属性（例: `#sAMAccountName#`）。
- Profile Management変数。詳しくは、Profile Management変数の製品ドキュメントを参照してください。

`%username%` と `%userdomain%` を除き、ユーザー環境変数は使用できません。場所やユーザーなどを完全に定義するために、カスタム属性を作成することもできます。属性では大文字と小文字が区別されます。

例:

- `\\server\share#sAMAccountName#` は、ユーザー設定をUNCパス `\\server\share\JohnSmith` に保存します（現在のユーザーの#sAMAccountName#がJohnSmithに解決される場合）。
- `\\server\profiles$\%USERNAME%.%USERDOMAIN%\!CTX_OSNAME!!CTX_OSBITNESS!` は `\\server\profiles$\JohnSmith.DOMAINCONTROLLER1\Win8x64` に展開される場合があります。

重要: どの属性または変数を使用する場合でも、このポリシーが NTUSER.DAT を含むフォルダーの 1 レベル上のフォルダーに展開されることを確認してください。たとえば、このファイルが `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64\UPM_Profile` に存在する場合、ユーザーストアへのパスを `\\server\profiles$\JohnSmith.Finance\Win8x64` に設定します（\UPM_Profile サブフォルダーではありません）。

ユーザー ストアへのパスを指定する際に変数を使用する方法について詳しくは、次のトピックを参照してください。

- 複数のファイルサーバーで Citrix ユーザープロファイルを共有する
- OU内およびOU間でプロファイルを管理する
- Profile Managementによる高可用性と災害復旧

構成の優先順位:

1. ユーザーストアへのパスが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリの Windows サブディレクトリに保存されます。このポリシーが無効になっている場合、ユーザー設定はホームディレクトリの Windows サブディレクトリに保存されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ホームドライブ上のWindowsディレクトリが使用されます。

ユーザーストアの移行

Profile Managementが以前使用していたユーザーストアのストレージパス（以前指定した`path to user store`設定）を指定できます。

この設定が構成されている場合、以前のユーザーストアに保存されていたユーザー設定は、現在のユーザーストアに移行されます。

パスは、絶対UNCパスまたはホームディレクトリに対する相対パスにすることができます。

どちらの場合も、次の種類の変数を使用できます。

- パーセント記号で囲まれたシステム環境変数
- ハッシュ記号で囲まれたActive Directoryユーザーオブジェクトの属性

例:

- %ProfileVer%がW2K3に解決されるシステム環境変数である場合、`Windows\%ProfileVer%`フォルダーはユーザー設定をユーザーストアの`Windows\W2K3`というサブフォルダーに保存します。
- 現在のユーザーに対して`#SAMAccountName#`がJohnSmithに解決される場合、`\\server\share#SAMAccountName#`はユーザー設定をUNCパス`\\server\share\<JohnSmith>`に保存します。

構成の優先順位:

1. パスでは、`%username%`と`%userdomain%`を除くユーザー環境変数を使用できます。この設定が無効になっている場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルからの対応する設定が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザー設定は現在のユーザーストアに保存されます。

アクティブライトバック

アクティブライトバック機能を有効にできます。この機能を有効にすると、Profile Managementはセッション中にローカルコンピューターで変更されたファイルとフォルダーをユーザーストアに同期します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

アクティブライトバックレジストリ

Profile Managementがセッション中にローカルコンピューターで変更されたレジストリエントリをユーザーストアに同期できるようにします。このポリシーは**アクティブライトバック**ポリシーと併用してください。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定を構成しない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定をここでも.iniファイルでも構成しない場合、アクティブライトバックレジストリは無効になります。

セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック

このポリシーと**アクティブライトバック**ポリシーの両方が有効になっている場合、プロファイルファイルとフォルダーは、セッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。

このポリシーと**アクティブライトバック**および**アクティブライトバックレジストリ**ポリシーの両方が有効になっている場合、レジストリエントリは、セッションがロックまたは切断されたときにのみ書き戻されます。

構成の優先順位:

- この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、このポリシーは無効になります。

オフラインプロファイルのサポート

オフラインプロファイル機能を有効にできます。この機能により、プロファイルは可能な限り早くユーザーストアと同期できます。

この機能は、頻繁にローミングするラップトップまたはモバイルデバイスのユーザーを対象としています。ネットワークが切断されても、再起動または休止状態の後でも、プロファイルはラップトップまたはデバイス上でそのまま維持されます。モバイルユーザーがセッションを開始すると、プロファイルはローカルで更新されます。Profile Managementは、ネットワーク接続が復元された後にのみ、プロファイルをユーザーストアと同期します。

構成の優先順位:

- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、オフラインプロファイルは無効になります。

プロファイル管理\詳細設定

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数

ロックされたファイルにアクセスする際のリトライ回数を指定できます。

このポリシーを有効にする必要はほとんどありません。

ログオフ時に、ロックされたファイルがある場合、Profile Management は指定された回数だけファイルへのアクセスを試行し、ユーザー ストアにコピーし直します。しかし通常、Profile Management はコピー操作を成功させるためにファイルを読み取るだけで（書き込みはせず）、

ロックされたファイルが存在する場合、Profile Management はローカル プロファイルを削除せず、「古い」状態のままにします（適切なポリシーが有効になっている限り）。

このポリシーを有効にしないことをお勧めします。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の5回のリトライが使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

一部の展開では、`Index.dat` が参照しない余分なインターネットCookieが残されます。継続的なブラウジングの後、ファイルシステムに残された余分なCookieは、プロファイルの肥大化につながる可能性があります。このポリシーを使用すると、Profile Managementを有効にしてIndex.datの処理を強制し、余分なCookieを削除できます。このポリシーはログオフ時間を増加させるため、この問題が発生した場合にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Index.dat の処理は行われません。

自動構成を無効にする

Profile Management は、実行時に Citrix 環境を評価し、推奨されるグループ ポリシー設定を自動的に構成します。

自動構成は、展開を高速化し、最適化を簡素化するのに役立ちます。自動構成はデフォルトで*有効*になっています。通常、このポリシーを構成する必要はありません。ただし、次の場合には自動構成を無効にできます。

- すべてのカスタマイズされたポリシー設定を、構成されたとおりに正確に保持する必要があります。
- Profile Management の以前のバージョンからアップグレードしており、同じ有効な設定を維持したい場合。
- Profile Management に関連する問題のトラブルシューティングを行っている場合。

> **注:**
>
> 通常、自動構成を無効にする場合は、期待される動作を保証するために、関連するポリシーを手動で構成する必要がある場合があります。

> 自動構成は、動的な構成チェッカーとして機能します。実行時の環境に基づいて、デフォルトのポリシー設定を調整します。実行時要因には以下が含まれます。

- Windows OS と OS のバージョン
- Citrix 仮想デスクトップの有無
- パーソナル vDisk の有無
- インストールされているアプリケーション（例: Office 365）
- 既存のProfile Managementポリシー設定

詳細については、「自動構成の使用」を参照してください。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、自動構成がオンになります。この場合、環境が変更されるとProfile Managementの設定が変更される可能性があります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする

問題が発生した場合に Profile Management がユーザーをログオフさせるかどうかを指定できます。

このポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、問題が発生すると Profile Management はユーザーに一時プロファイルを提供します。たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合などです。

構成の優先順位:

1. この設定が有効な場合、エラーメッセージが表示され、ユーザーはログオフされます。この設定により、問題のトラブルシューティングが簡素化されます。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、一時プロファイルが提供されます。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする

問題が発生した場合に Profile Management がユーザーをログオフさせるかどうかを指定できます。

このポリシーが無効になっているか、構成されていない場合、問題が発生すると Profile Management はユーザーに一時プロファイルを提供します。たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合などです。

構成の優先順位:

1. この設定が有効な場合、エラーメッセージが表示され、ユーザーはログオフされます。この設定により、問題のトラブルシューティングが簡素化されます。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここで、または.iniファイルで構成されていない場合、一時プロファイルが提供されます。

カスタマー エクスペリエンス向上プログラム

デフォルトでは、カスタマーエクスペリエンス向上プログラムが有効になっており、匿名の統計情報と使用状況データを送信することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てられています。

この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

Outlook の検索インデックス ローミングを有効にする

このポリシーを有効にすると、Profile Managementは、Outlook検索データをユーザープロファイルとともに自動的にローミングすることで、ユーザーにネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。このポリシーでは、Outlookの検索インデックスを保存するために追加のストレージが必要です。

このポリシーを有効にするには、ログオフしてから再度ログオンしてください。

Outlook 検索インデックス データベース – バックアップと復元

Outlook の検索インデックス ローミングを有効にするポリシーが有効になっている場合に、ログオン中に Profile Management が何を行うかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、Profile Management は、ログオン時に検索インデックス データベースが正常にマウントされるたびに、そのデータベースをバックアップします。Profile Management は、そのバックアップを検索インデックス データベースの良好なコピーとして扱います。データベースの破損により検索インデックス データベースのマウントが失敗した場合、

Profile Management は検索インデックス データベースを最後に確認された良好なコピーに戻します。

> **注:**
>
> 新しいバックアップが正常に保存されると、Profile Managementは以前に保存されたバックアップを削除します。バックアップは利用可能なVHDXストレージを消費します。

Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする

Profile Managementにより、同じユーザーの同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスが提供されます。このポリシーは、Outlookの検索インデックスローミングポリシーと併用してください。

このポリシーが有効な場合、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイルを使用します。

デフォルトでは、Outlook OSTファイルを保存するために使用できるVHDXディスクは2つだけです（ディスクごとに1ファイル）。ユーザーがさらにセッションを開始した場合、そのOutlook OSTファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数を指定できます。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする

マルチセッションシナリオでプロファイルコンテナのライトバックを有効にできます。

> **注:**
>
> Citrix Profile Managementプロファイルコンテナは、Citrix Profile Management 2103以降で利用可能です。FSLogixプロファイルコンテナは、Citrix Profile Management 2003以降で利用可能です。

> このポリシーが有効な場合、すべてのセッションでの変更がプロファイルコンテナにライトバックされます。そうでない場合、最初のセッションのみがプロファイルコンテナで読み取り/書き込みモードであるため、最初のセッションでの変更のみが保存されます。

FSLogix Profile Containerでこのポリシーを使用するには、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- FSLogix Profile Container機能がインストールされ、有効になっていること。

- FSLogixでプロファイルタイプが **読み取り/書き込みプロファイルを試行し、読み取り専用にフォールバックする** に設定されていること。

ユーザーストアをレプリケートする

リモートユーザープロファイルストアを、ログオンおよびログオフごとに複数のパスにレプリケートできます。これにより、Profile Managementはユーザーログオンのプロファイル冗長性を提供できます。

このポリシーを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

> **注:**
>
> この機能は、ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイルソリューションで利用できます。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする

資格情報ベースのユーザーストアへのアクセスを有効にできます。

デフォルトでは、Citrix Profile Managementは現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。そのため、現在のユーザーがユーザーストアにアクセスする権限を持っている必要があります。状況によっては、現在のユーザーがアクセス権を持たないストレージリポジトリ（例: Azure Files）にユーザーストアを配置したい場合があります。そのような場合は、このポリシーを有効にして、Profile Managementがストレージリポジトリの資格情報を使用してユーザーストアにアクセスできるようにします。

Profile Managementが資格情報を使用してユーザーストアにアクセスできるようにするには、資格情報をWorkspace Environment Management™ (WEM) またはWindows資格情報マネージャーに保存します。Profile Managementを実行している各マシンで同じ資格情報を構成する必要をなくすために、Workspace Environment Managementを使用することをお勧めします。Windows資格情報マネージャーを使用する場合は、ローカルシステムアカウントを使用して資格情報を安全に保存してください。

> **注:**
>
> このポリシーは、ファイルベースと VHDX ベースの両方のユーザー ストアで利用できます。Profile Management のバージョン 2212 より前では、このポリシーは VHDX ベースのユーザー ストアでのみ利用できます。

> 構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

VHDXファイルのストレージパスを指定する

Profile Managementで使用されるVHDXファイルを保存するためのストレージパスを指定できます。

Citrix Profile Managementは、以下のVHDXベースのポリシーを提供します: ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナ、およびフォルダーミラーリングの高速化。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

VHD コンテナーのデフォルト容量

VHD コンテナーのデフォルトのストレージ容量 (GB 単位) を指定できます。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトは50 (GB) です。

セッションで VHDX ディスクを自動的に再アタッチする

このポリシーを有効にすると、Profile Management は VHDX ベースのポリシーの高い安定性を確保します。デフォルトでは、このポリシーは有効になっています。

このポリシーが有効になっている場合、Profile Management は VHDX ベースのポリシーで使用されている VHDX ディスクを監視します。いずれかのディスクがデタッチされた場合、Profile Management はそのディスクを自動的に再アタッチします。

ログオン時のユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする

Windowsは、ユーザーグループポリシーに同期モードと非同期モードの2つの処理モードを提供します。Windowsは、次のユーザーログオンの処理モードを決定するためにレジストリ値を使用し

ます。レジストリ値が存在しない場合、同期モードが適用されます。レジストリ値はマシンレベルの設定であり、ユーザーとともにローミングされません。したがって、ユーザーが次の場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するポリシーが有効になっている同じマシンにログオンする。

このポリシーを有効にすると、レジストリ値はユーザーとともにローミングされます。その結果、ユーザーがログオンするたびに処理モードが適用されます。

VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率

VHDディスクの圧縮を有効にするが有効になっている場合に適用されます。VHDディスクの圧縮をトリガーする圧縮可能な空き領域の比率を指定できます。ユーザーがログオフしたときに、圧縮可能な空き領域の比率が指定された値を超えると、ディスクの圧縮がトリガーされます。

圧縮可能な空き領域の比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

* Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスのGetSupportedSizeメソッドを使用して取得されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の20 (%) が使用されます。

VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数

VHDディスクの圧縮を有効にする が有効な場合に適用されます。VHDディスクの圧縮をトリガーするユーザーログオフ回数を指定できます。

最後の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルト値の5が使用されます。

VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする

VHDディスク圧縮を有効にする が有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。

VHDディスク圧縮が有効な場合、VHDディスクファイルはまずWindowsに組み込まれている `defrag` ツールを使用して自動的にデフラグされ、その後圧縮されます。VHDディスクのデフラグはより良い圧縮結果をもたらしますが、無効にするとシステムリソースを節約できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフラグはデフォルトで有効になります。

プロファイルコンテナの自動拡張しきい値

プロファイルコンテナが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率を指定できます。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトはストレージ容量の90 (%) です。

プロファイルコンテナの自動拡張増分

自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張するストレージ容量（GB単位）を指定できます。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトは10 (GB) です。

プロファイルコンテナの自動拡張制限

自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量（GB単位）を指定できます。

構成の優先順位:

- ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、デフォルトは80 (GB) です。

OneDriveコンテナを有効にする

OneDriveフォルダーをユーザーとともにローミングできるようにします。

OneDriveコンテナは、VHDXベースのフォルダーローミングソリューションです。Profile Managementは、ファイル共有上にユーザーごとにVHDXファイルを作成し、ユーザーのOneDriveフォルダーをVHDXファイルに保存します。VHDXファイルは、ユーザーがログオンするときにアタッチされ、ログオフするときにデタッチされます。

UWPアプリのローミング

UWP (Universal Windows Platform) アプリをユーザーとともにローミングできるようにします。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じUWPアプリにアクセスできます。

このポリシーが有効な場合、Profile ManagementはUWPアプリを個別のVHDXディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングできるようにします。これらのディスクは、ユーザーのログオン中にアタッチされ、ログオフ中にデタッチされます。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、この機能は無効になります。

AppXパッケージの読み込み高速化を有効にする

UWPアプリの読み込みを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させます。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録情報を各マシンにローカルに保存しますが、これは非永続環境での再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは各マシン用にVHDXコンテナを作成してUWPアプリの登録データを保存し、ユーザーログオンを高速化し、再起動時のデータ損失を防ぎます。

構成の優先順位:

1. この設定がGPO、Studio、またはWorkspace Experience Management (WEM) を使用して構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がどこにも構成されていない場合、この機能は無効になります。

ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする

このポリシーを有効にすると、マシンレベルのポリシー設定がユーザーレベルで機能し、ユーザーレベルの設定がマシンレベルの設定を上書きします。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

ユーザーグループの優先順位を設定する

ユーザーグループの優先順位を指定します。この順序は、ユーザーが異なるポリシー設定を持つ複数のグループに属している場合に、どのグループが優先されるかを決定します。

ユーザーが競合するポリシー設定を持つ複数のグループに属している場合、以下を考慮してください:

- ユーザーがこのポリシーで定義されている1つ以上のグループに属している場合、最も優先順位の高いグループが優先されます。
- ユーザーがこのポリシーで定義されているどのグループにも属していない場合、アルファベット順で最も早くリストされているSIDを持つグループが優先されます。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここまたは.iniファイルで構成されていない場合、優先順位は指定されません。

ユーザーストアの選択方法

複数のユーザーストアが利用可能な場合に、ユーザーストアの選択方法を指定できます。オプションは次のとおりです:

- **構成順序。** Profile Management は、最初に構成されたストア (構成順序で最も早いもの) を選択します。
- **アクセスパフォーマンス。** Profile Managementは、最高のアクセスパフォーマンスを持つストアを選択します。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。
2. ここでも .ini ファイルでもこの設定が構成されていない場合、**構成順序**が使用されます。

ユーザー ストア間のセッション内プロファイル コンテナー フェールオーバーを有効にする

デフォルトでは、複数のユーザー ストアが展開されている場合、プロファイル コンテナのフェールオーバーは *ユーザー ログオン時*にのみ発生します。その結果、プロファイルの冗長性はユーザー ログオン時にのみ利用可能です。このポリシーを使用すると、フェールオーバーの範囲を

*セッション全体*に拡大し、セッション全体でプロファイルの冗長性を確保できます。このポリシーを有効にすると、セッション中に Profile Management がアクティブなプロファイル コンテナへの接続を失った場合、自動的に別の利用可能なコンテナに切り替わります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここで、または.iniファイルで構成されていない場合、この設定は無効になります。

プロファイル読み込みタイムアウト

プロファイル読み込みタイムアウト機能を有効にし、タイムアウト期間を構成できます。Citrix Profile Management は、一時プロファイルに切り替える前に、ユーザー プロファイルが読み込まれるまで指定されたタイムアウト時間待機します。 デフォルトでは、**プロファイル読み込みタイムアウト**設定は 45 秒で、有効な範囲は 0 ～ 1800 秒です。プロファイルの読み込みをバイパスして一時プロファイルを使用するには、タイムアウトを 0 秒に設定します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも .ini ファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、このポリシーはデフォルトで無効になります。

プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する

ユーザープロファイルのクォータを設定し、プロファイルサイズがそれを超過した場合にユーザーに通知できます。

プロファイルサイズがクォータを超過した場合の通知メッセージ

プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知するポリシーが有効な場合に適用されます。ユーザーが受け取る通知メッセージを設定できます。

Profile Management\Citrix Virtual Apps 最適化設定

Citrix Virtual Apps™ 最適化を有効にする

この機能を有効にすると、ユーザーが起動または終了する公開アプリケーションに固有の設定のみが同期されます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Citrix Virtual Apps の最適化設定は適用されません。

Citrix Virtual Apps 最適化定義へのパス

Citrix Virtual Apps 最適化の定義ファイルを保存するフォルダーを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、Citrix Virtual Apps の最適化設定は適用されません。

> **注:**

> フォルダーはローカル ストレージまたは SMB ファイル共有に配置できます。

ログオフ時のプロファイル同期を制限する

ユーザー ログオフ時に同期されるユーザー ストアの数を指定できます。

デフォルトでは、Citrix Profile Management はログオフ時にすべてのユーザー ストアを同期し、すべてのストアで同期が完了するまでログオフ プロセスは完了しません。同期されるストアの数を制限すると、ログオフ時間が短縮されます。

*非永続的*なマシンでは、同期されていないストアは次回のユーザー セッション中に更新されます。*永続的*なマシンでは、同期されていないストアはログオフ後にバックグラウンドで同期されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、`.ini` ファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも `.ini` ファイルでも構成されていない場合、ポリシーはデフォルトで無効になります。

> **注:**

> このポリシーは、**ユーザー ストアのレプリケート**ポリシーが有効な場合にのみ適用されます。

マシン休止状態のマルチセッションサポートを有効にする

休止状態中にディスクの状態を維持することで、システム休止状態のサポートを有効にできます。これにより、休止状態のセッションで使用されているVHDXディスクが他のセッションに再割り当てされないようにします。その結果、マシンが休止状態から回復した後もユーザープロファイルを再開でき、一貫したセッションの継続性が保証されます。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、設定は無効になります。

プロファイル管理\クロスプラットフォーム設定

クロスプラットフォーム設定を有効にする

クロスプラットフォーム設定を有効にできます。クロスプラットフォーム設定機能は、主にWindows 7およびWindows Server 2008からWindows 8およびWindows Server 2012への移行に使用されます。この移行では、Microsoft Office 2003またはOffice 2007からOffice 2010への移行も含まれる場合があります。

デフォルトでは、展開を容易にするために、クロスプラットフォーム設定は無効になっています。このポリシーは、この機能の十分な計画とテストを行った後にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ

クロスプラットフォーム設定機能が適用されるWindowsユーザーグループを指定できます。たとえば、このポリシーを使用して、テストユーザーグループのプロファイルのみを処理できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが構成されている場合、Profile Managementのクロスプラットフォーム設定機能は、これらのユーザーグループのメンバーのみを処理します。このポリシーが無効になってい

る場合、この機能は「処理されるグループ」ポリシーで指定されたすべてのユーザーを処理します。

2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーグループが処理されます。

クロスプラットフォーム定義へのパス

定義ファイルが格納されているネットワークの場所を指定できます。

このパスはUNCパスである必要があります。ユーザーはこの場所への読み取りアクセス権を持ち、管理者は書き込みアクセス権を持っている必要があります。この場所は、Server Message Block (SMB) またはCommon Internet File System (CIFS) ファイル共有である必要があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、クロスプラットフォーム設定は適用されません。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパス

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。ストアとは、ユーザーのクロスプラットフォーム設定が保存されるフォルダーを指します。

このストアは、複数のプラットフォームで共有されるプロファイルデータが格納されているユーザーストア内にあります。ユーザーはストアへの書き込みアクセス権を持っている必要があります。パスは絶対UNCパス、またはホームディレクトリからの相対パスにすることができます。**ユーザー ストアへのパス**で使用される変数を使用できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、`Windows\PM_CP`パスが使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここまたは.iniファイルで構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

クロスプラットフォーム設定の作成元

このポリシーがそのプラットフォームのOUで有効になっている場合、プラットフォームをベースプラットフォームとして指定できます。このポリシーは、ベースプラットフォームのプロファイル

からクロスプラットフォーム設定ストアにデータを移行します。デフォルトでは、このポリシーは無効になっています。

各プラットフォーム独自のプロファイルセットは、別々のOUに保存されます。クロスプラットフォーム設定ストアのシードとして使用するベースプラットフォームとして、どのプラットフォームのプロファイルデータを使用するかを決定します。

このポリシーが有効になっている場合、次のいずれかの状況が発生すると、Profile Management はシングルプラットフォームプロファイルからストアにデータを移行します。

- クロスプラットフォーム設定ストアにデータのない定義ファイルが含まれている。
- シングルプラットフォームプロファイルのキャッシュデータが、ストア内の定義データよりも新しい。

> **重要:**
>
> このポリシーが複数のOU、ユーザーオブジェクト、またはマシンオブジェクトで有効になっている場合、最初のユーザーがログオンするプラットフォームがベースプロファイルになります。

プロファイル管理\ファイルシステム

除外リスト - ファイル

Profile Managementが同期中に無視するファイルを指定できます。ファイル名はユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスである必要があります。ワイルドカードが許可され、再帰的に適用されます。

例:

- `Desktop\Desktop.ini` は `Desktop` フォルダー内の `Desktop.ini` ファイルを無視します。
- `%USERPROFILE%*.tmp` はプロファイル全体の `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。
- `AppData\Roaming\MyApp*.tmp` はプロファイルの一部にある `.tmp` 拡張子を持つすべてのファイルを無視します。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、ファイルは除外されません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここまたは.iniファイルで構成されていない場合、ファイルは除外されません。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ

Profile Managementが同期中に無視するディレクトリのデフォルトリストを指定できます。このポリシーを使用して、GPO除外ディレクトリを手動で入力することなく指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Management はデフォルトでどのディレクトリも除外しません。
2. ここでこのポリシーを構成しない場合、Profile Management は .ini ファイルの値を使用します。
3. ここでも .ini ファイルでもこのポリシーを構成しない場合、Profile Management はデフォルトでどのディレクトリも除外しません。

除外リスト - ディレクトリ

Profile Management が同期中に無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイル (%USERPROFILE%) に対する相対パスとして指定する必要があります。

例:

- デスクトップは、ユーザープロファイル内のデスクトップフォルダーを無視します。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. ここでも .ini ファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

ログオン除外チェック

ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が何を行うかを指定できます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっているか、デフォルト値の **除外されたファイルまたはフォルダーを同期する** に設定されている場合、ユーザーがログオンすると、Profile Management はそれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。
2. この設定が **除外されたファイルまたはフォルダーを無視する** に設定されている場合、Profile Management はユーザーログオン時にユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。この設定が **除外されたファイルまたはフォルダーを削除する** に設定されている場合、Profile Management はユーザーログオン時にユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。
3. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. ここでも .ini ファイルでもこの設定が構成されていない場合、Profile Management は除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル

シンボリックリンクとして作成されるファイルを指定できます。この設定は、ログオンパフォーマンスを向上させ、サイズの大きいファイルを処理するために使用されます。

ファイルを参照するポリシーでワイルドカードを使用できます。例: `!ctx_localappdata!\Microsoft\Outlook*.OST`。

オフライン Outlook データファイル (`*.ost`) を処理するには、**Outlook** フォルダーが Profile Management の対象から除外されていないことを確認してください。

これらのファイルは、複数のセッションで同時にアクセスすることはできません。

プロファイル管理\ファイルシステム\同期

同期するディレクトリ

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Managementで同期するフォルダーを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。

Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。ユーザープロファイルのサブフォルダーをこのリストに追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないフォルダーのみが同期されます。

同期するファイル

親フォルダーが除外されている場合に、Profile Managementで同期するファイルを指定できます。

このリストのパスは、ユーザープロファイルに対する相対パスである必要があります。ワイルドカードはファイル名とフォルダー名で使用できます。ただし、ワイルドカードはファイル名でのみ再帰的に適用されます。

例:

- AppData\Local\Microsoft\Office\Access.qat は、デフォルト構成で除外されているフォルダー内のファイルを指定します。
- AppData\Local\MyApp*.cfg は、プロファイルフォルダー AppData\Local\MyApp およびそのサブフォルダー内の拡張子 .cfg を持つすべてのファイルを指定します。

Profile Managementは、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で、各ユーザーのプロファイル全体を同期します。ユーザープロファイル内のファイルをこのリストに追加して含める必要はありません。

このポリシーを無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、ユーザープロファイル内の除外されていないファイルのみが同期されます。

ミラーリングするフォルダー

このポリシーは、トランザクションフォルダー（参照フォルダーとも呼ばれます）に関連する問題を解決するのに役立ちます。この種のフォルダーには、相互に依存するファイルが含まれており、1つのファイルが他のファイルを参照します。

このポリシーを使用すると、Profile Managementは、ユーザープロファイルを同期する際に、トランザクションフォルダーとその内容を単一のエンティティとして処理します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーはミラーリングされません。

フォルダーのミラーリングを高速化する

このポリシーと**ミラーリングするフォルダー**ポリシーの両方を有効にすると、Profile Managementはミラーリングされたフォルダーを VHDX ベースの仮想ディスクに保存します。ログオン時に仮想ディスクをアタッチし、ログオフ時にデタッチします。このポリシーを有効にすると、ユーザーストアとローカルプロファイルの間でフォルダーをコピーする必要がなくなり、フォルダーのミラーリングが高速化されます。

> **注:**
>
> Profile Management 2603 および 2507 CU2 以降、このポリシーはデフォルトで**無効**になっています。バージョン 2507 から 2511 では、デフォルトで有効でした。

構成の優先順位:

1. このポリシーが明示的に構成されている（有効または無効）場合、Profile Managementは構成された選択に従います。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合:
   - Profile Management 2507、2507 CU1、または2511からのアップグレードの場合、ポリシーは**有効**のままです。
   - その他のすべてのシナリオ（新規インストール、2507より前のリリースからのアップグレード、または2603以降からのアップグレード）の場合、この機能は**無効**になります。

プロファイル管理\ファイル重複排除

ユーザーストア内のさまざまなユーザープロファイルに同一のファイルが存在する場合があります。ユーザーストアにファイルの重複インスタンスが保存されていると、ストレージコストが増加します。

ファイル重複排除ポリシーにより、Profile Management はユーザーストアから重複ファイルを削除し、それらの単一インスタンスを中央の場所 (*共有ストア* と呼ばれる) に保存できます。これにより、ユーザーストアでのファイルの重複が回避され、ストレージコストが節約されます。

重複排除のために共有ストアに含めるファイル

ファイル重複排除を有効にし、重複排除のために共有ストアに含めるファイルを指定できます。

共有ストアから除外するファイル

共有ストアから除外するファイルを指定できます。このポリシーは、*重複排除のために共有ストアに含めるファイル* ポリシーと併用してください。

プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ

プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズを指定できます。このサイズは256 MB以上である必要があります。

構成の優先順位:

1. ここでこの設定が構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここまたは .ini ファイルのいずれかで構成されていない場合、値は 256 です。

プロファイル管理\ログ設定

ログの有効化

Profile Managementのログ記録を有効にするかどうかを指定できます。このポリシーは、Profile Managementのトラブルシューティングを行う場合にのみ有効にしてください。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、エラーのみがログに記録されます。このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、エラーのみがログに記録されます。

ログ設定

Profile Managementがログに記録するイベントまたはアクションを選択できます。Citrixの担当者から要求された場合にのみ、すべてを選択してください。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、エラーと一般情報がログに記録されます。

このポリシーのチェックボックスは、.iniファイルの次の設定に対応しています: LogLevelWarnings, LogLevelInformation, LogLevelFileSystemNotification, LogLevelFileSystemActions, LogLevelRegistryActions, LogLevelRegistryDifference, LogLevelActiveDirectoryActions, LogLevelPolicyUserLogon, LogLevelLogon, LogLevelLogoff, and LogLevelUserName.

ログファイルの最大サイズ

Profile Managementログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

Profile Managementログファイルの最大サイズの既定値は10 MBです。十分なディスク容量がある場合は、この値を増やしてください。ログファイルが最大サイズを超えて大きくなった場合、次のようになります:

1. 既存のファイルのバックアップ (.bak) が削除されます。
2. ログファイルの名前が .bak に変更されます。
3. 新しいログファイルが作成されます。

ログファイルは `%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager` または **ログファイルへのパス** ポリシーで指定された場所に作成されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、デフォルト値の 10 MB が使用されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、デフォルト値が使用されます。

ログファイルへのパス

ログファイルを保存するための代替パスを構成できます。

パスはローカルドライブまたはネットワークベースのドライブ (UNC パス) を指すことができます。

- 大規模な分散環境ではリモートドライブが推奨されます。ただし、リモートドライブは大量のネットワークトラフィックを生成する可能性があり、ログファイルには適さない場合があります。
- ローカルドライブは、永続的なハードドライブを持つプロビジョニングされた仮想マシンでよく使用されます。

この設定により、マシンの再起動時にログファイルが保持されます。永続的なハードドライブを持たない仮想マシンの場合、UNC パスを設定することでログファイルを保持できます。ただし、マシンのシステムアカウントは UNC 共有への書き込みアクセス権を持っている必要があります。オフラインプロファイル機能によって管理されるラップトップには、ローカルパスを使用してください。

ログファイルに UNC パスを使用する場合、Citrix はログファイルフォルダーに適切なアクセス制御リストを適用することを推奨します。アクセス制御により、承認されたユーザーまたはコンピューターアカウントのみが保存されたファイルにアクセスできるようになります。

例:

- D:\LogFiles\ProfileManagement。
- `\\server\LogFiles\ProfileManagement`

このポリシーがここで構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、デフォルトの場所 %SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager が使用されます。

プロファイル管理\プロファイルコンテナー設定

プロファイルコンテナ

VHDXベースのネットワークディスク（プロファイルコンテナ）を使用してユーザープロファイルを保存できます。ユーザープロファイルを全体または一部保存するために使用できます。ユーザーログオン時に、プロファイルコンテナはユーザー環境にマウントされ、プロファイルフォルダはすぐに利用可能になります。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にできます。このポリシーは、プロファイルコンテナがユーザープロファイル全体に対して有効になっている場合にのみ適用されます。

ポリシーが**有効**に設定されている場合、各ローカルプロファイルは、そのCitrix Profile Managementプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。

プロファイルコンテナから除外するフォルダー

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナから除外するフォルダを指定できます。

プロファイルコンテナに含めるフォルダー

親フォルダが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに保持するフォルダを指定できます。

このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

この設定を無効にすると、有効にして空のリストを構成した場合と同じ効果があります。

プロファイルコンテナに含めるファイル

親フォルダが除外されている場合に、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナに含めるファイルを指定できます。

このリストのファイルは、除外されたフォルダー内にある必要があります。そうでない場合、この設定は機能しません。

プロファイルコンテナから除外するファイル

Citrix Profile Managementプロファイルコンテナから除外するファイルを指定できます。

VHDディスクの圧縮を有効にする

Profile ManagementのVHDディスク圧縮を有効にできます。有効にすると、特定の条件が満たされたときに、ユーザーのログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。

必要性と利用可能なリソースに応じて、詳細設定にある「**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率**」、「**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数**」、「**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**」の各ポリシーを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます。

構成の優先順位:

1. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、この機能は無効になります。

プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする

プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にするかどうかを指定できます。有効にすると、すべてのVHD自動拡張設定がプロファイルコンテナに適用されます。

構成の優先順位:

- ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする

デフォルトでは、VHDコンテナは同時アクセスを許可します。この設定を有効にすると、一度に1つのアクセスのみが許可されます。この機能は、プロファイルコンテナとOneDriveコンテナに適用されます。

> **注:**

> コンテナベースのプロファイルソリューションでは、プロファイルコンテナに対してこの設定を有効にすると、*プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする*設定が自動的に無効になります。

> 構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、設定は無効になります。

ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーをログオフする

ユーザーログオン中にプロファイルコンテナが利用できない場合にユーザーを強制的にログオフさせるかどうかを指定し、ユーザーに表示されるエラーメッセージをカスタマイズできます。

構成の優先順位:

1. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、設定は無効になります。

プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ

プロファイルコンテナに対する読み取りおよび実行権限を持つADドメインユーザーとグループを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの設定が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

BindLinkリダイレクトを有効にする

プロファイルコンテナ内のファイルシステムリダイレクトを処理するためにMicrosoft BindLink APIを使用するかどうかを指定します。この機能はデフォルトで無効になっており、Windows 11 24H2、Windows Server 2025、またはそれ以降（バージョン10.0.25314.0以降）でのみサポートされています。

プロファイル管理\プロファイル処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

ログオフ後にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するかどうかを指定できます。

このポリシーが有効になっている場合、ユーザーのローカルプロファイルキャッシュはユーザーログオフ後に削除されます。この設定はターミナルサーバーに推奨されます。このポリシーが無効になっている場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

> **注:**
>
> ログオフ時にプロファイルキャッシュが削除されるタイミングは、「キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延」ポリシーを使用して制御できます。

> 構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、キャッシュされたプロファイルは削除されません。

キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルが削除されるまでの遅延に、オプションの延長を指定できます。プロセスがログオフ中にファイルまたはユーザーレジストリハイブを開いたままにしていることがわかっている場合、遅延を延長すると便利です。大規模なプロファイルの場合、この設定はログオフを高速化することもできます。

値が0の場合、ログオフプロセスの終了時にプロファイルがすぐに削除されます。

Profile Managementは1分ごとにログオフをチェックします。値が60の場合、最後のチェックが行われたタイミングに応じて、ユーザーのログオフ後1分から2分の間にプロファイルが削除されます。

重要: このポリシーは、「ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する」が有効になっている場合にのみ機能します。

このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、プロファイルはすぐに削除されます。

既存プロファイルの移行

ユーザープロファイルストアが空の場合に、Profile Managementがどの種類のユーザープロファイルをユーザープロファイルストアに移行するかを指定できます。

ユーザープロファイルストアにプロファイルがない場合、Profile Managementはログオン中に既存のプロファイルを「オンザフライ」で移行できます。ローミングプロファイルまたはRemote Desktop Servicesプロファイルを移行する場合は、**ローミング**を選択します。

ログオン中に次のイベントが発生します。ユーザーがユーザープロファイルストアにCitrixユーザープロファイルではなくWindowsプロファイルを持っている場合、Profile ManagementはWindowsプロファイルをユーザープロファイルストアに移行します。このプロセス後、Profile Managementは、同じユーザープロファイルストアへのパスで構成された現在のセッションおよび他のセッションでユーザープロファイルストアプロファイルを使用します。

構成の優先順位:

1. この設定が有効になっている場合、プロファイルの移行は、ローミングプロファイルとローカルプロファイル（デフォルト）、ローミングプロファイルのみ、ローカルプロファイルのみに対してアクティブ化できます。または、プロファイルの移行を無効にすることもできます。
2. このポリシーが無効になっており、ユーザープロファイルストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
3. プロファイルの移行が無効になっており、ユーザープロファイルストアにCitrixユーザープロファイルが存在しない場合、プロファイルを作成するための既存のWindowsメカニズムが使用されます。
4. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
5. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、Profile Managementは既存のローカルプロファイルとローミングプロファイルをユーザープロファイルストアに移行します。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行

この設定は、異なるオペレーティングシステム間での既存のアプリケーションプロファイルの自動移行を有効または無効にします。アプリケーションプロファイルには、**AppData**フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE`の下のレジストリエントリの両方が含まれます。この設定は、異なるオペレーティングシステム間でアプリケーションプロファイルを移行したい場合に役立ちます。

例えば、オペレーティングシステム (OS) を Windows 10 バージョン 1803 から Windows 10 バージョン 1809 にアップグレードする必要があるとします。この設定が有効になっている場合、各ユーザーが初めてログオンするときに、Profile Management は既存のアプリケーション設定を Windows 10 バージョン 1809 に自動的に移行します。**AppData** フォルダー内のアプリケーションデータと、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE` の下のレジストリエントリが移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルが複数ある場合、Profile Management は次の優先順位で移行を実行します。

1. 同じOSタイプのプロファイル（シングルセッションOSからシングルセッションOS、マルチセッションOSからマルチセッションOS）。
2. 同じWindows OSファミリーのプロファイル（例：Windows 10からWindows 10、またはWindows Server 2016からWindows Server 2016）。
3. 以前のバージョンのOSのプロファイル（例：Windows 7からWindows 10、またはWindows Server 2012からWindows 2016）。
4. 最も近いOSのプロファイル。

> **注:**
>
> ユーザーストアパスに `!CTX_OSNAME!` 変数を含めることで、OS の短い名前を指定する必要があります。これにより、Profile Management は既存のアプリケーションプロファイルを特定できます。

> ここでこの設定が構成されていない場合、.ini ファイルの設定が使用されます。

この設定がここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、デフォルトで無効になります。

ローカルプロファイルの競合処理

ユーザーストア内のプロファイルとローカルの Windows ユーザープロファイル（Citrix ユーザープロファイルではない）の両方が存在する場合に、Profile Management がどのように動作するかを指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっているか、デフォルト値の に設定されている場合、Profile Management はローカルプロファイルを使用しますが、一切変更しません。
2. このポリシーが に設定されている場合、Profile Management はローカルの Windows ユーザープロファイルを削除します。その後、ユーザーストアから Citrix ユーザープロファイルをインポートします。このポリシーが に設定されている場合、Profile Management はローカルの Windows ユーザープロファイルの名前を変更し（バックアップ目的）、その後、ユーザーストアから Citrix ユーザープロファイルをインポートします。
3. ここでこのポリシーが構成されていない場合、.ini ファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも .ini ファイルでも構成されていない場合、既存のローカルプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイル

テンプレートとして使用するプロファイルのストレージパスを指定できます。このパスは、NTUSER.DAT レジストリファイルと、テンプレートプロファイルに必要なその他のフォルダーおよびファイルを含むフォルダーのフルパスです。

重要： パス設定に `NTUSER.DAT` を含めないでください。たとえば、`\\myservername\myprofiles\template\ntuser.dat` ファイルの場合、場所を `\\myservername\myprofiles\template` と設定します。 UNC パスまたはローカルコンピューター上のパスである絶対パスを使用します。後者は、たとえば、Citrix Provisioning™ Services イメージ上にテンプレートプロファイルを永続的に指定するために使用できます。相対パスはサポートされていません。

このポリシーは、Active Directory 属性、システム環境変数、または `%USERNAME%` および `%USERDOMAIN%` 変数の展開をサポートしていません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、テンプレートは使用されません。
2. このポリシーが有効になっている場合、Profile Management はユーザープロファイルを作成するときに、ローカルのデフォルトプロファイルの代わりにテンプレートを使用します。ユーザーが Citrix ユーザープロファイルを持たず、ローカルまたは移動 Windows ユーザープロ

ファイルが存在する場合、デフォルトではローカルプロファイルが使用されます。このポリシーが無効になっていない場合、ローカルプロファイルはユーザーストアに移行されます。この設定は、 または チェックボックスを有効にすることで変更できます。また、テンプレートを Citrix 強制プロファイルとして識別することは、Windows 強制プロファイルと同様に、変更が保存されないことを意味します。

3. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
4. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、テンプレートは使用されません。

プロファイル管理\レジストリ

除外リスト

ログオフ時にProfile Managementが無視するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Policies

構成の優先順位:

- このポリシーが無効になっている場合、レジストリキーは除外されません。
- このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
- このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、レジストリキーは除外されません。

包含リスト

ログオフ時にProfile Managementが処理するHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。

例: Software\Adobe。

構成の優先順位:

1. このポリシーが有効になっている場合、このリストのキーのみが処理されます。このポリシーが無効になっている場合、HKCUハイブ全体が処理されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、HKCUのすべてが処理されます。

デフォルトの除外リストを有効にする - Profile Management 5.5

Profile Managementがユーザープロファイルに同期しないHKCUハイブ内のレジストリキーを指定できます。このポリシーを使用して、手動で入力することなくGPO除外ファイルを指定できます。

構成の優先順位:

1. このポリシーを無効にすると、Profile Managementはデフォルトでレジストリキーを除外しません。
2. このポリシーをここで構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。
3. このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile Managementはデフォルトでレジストリキーを除外しません。

NTUSER.DATのバックアップ

NTUSER.DATの最後に確認された正常なコピーのバックアップを有効にし、破損が発生した場合にロールバックできるようにします。

このポリシーをここで構成しない場合、Profile Managementは.iniファイルの値を使用します。このポリシーをここでも.iniファイルでも構成しない場合、Profile ManagementはNTUSER.DATをバックアップしません。

プロファイル管理\アプリのアクセス制御

ルールを使用して、ファイル、フォルダー、レジストリキー、および値へのユーザーアクセスを制御したり、ファイル、フォルダー、レジストリキー、および値に対するマシンレベルのリダイレクトを実装したりできます。

ルールを作成するには、次の方法を使用します。

- GUIベースのツール – **WEM Tool Hub > アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター**
- PowerShellツール – Profile Managementインストールパッケージで利用可能

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

プロファイル管理\ストリーム配信されるユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

プロファイルストリーミング機能を有効にします。この機能を有効にすると、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにのみユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。`NTUSER.DAT`ファイルと保留領域にあるファイルは例外です。これらはすぐにフェッチされます。NTUSER.DATにはレジストリエントリが格納されます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. ここでも.iniファイルでもこのポリシーが構成されていない場合、無効になります。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする

ユーザープロファイル内のフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にします。

このポリシーと**プロファイルストリーミング**ポリシーの両方が**有効**に設定されている場合、ユーザープロファイル内のフォルダーは、ユーザーがアクセスしたときにのみユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされます。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここまたは.iniファイルのいずれでも構成されていない場合、無効になります。

常にキャッシュ

ログオン直後にユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチされるファイルのサイズの下限を指定します。

プロファイルストリーミング機能が有効になっている場合、ユーザープロファイル内のファイルは、ユーザーがアクセスしたときにローカルコンピューターにフェッチされます。このオンデマンドファイルフェッチメカニズムは、ユーザーが要求するファイルが大きい場合に読み込みが遅くなる原因となります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは、指定されたサイズより大きいファイルをログオン直後にローカルコンピューターにフェッチします。

ログオン直後にプロファイル全体をローカルコンピューターにフェッチするには、この制限をゼロに設定します。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。

2. このポリシーがここまたは.iniファイルのいずれでも構成されていない場合、無効になります。

ペンディングエリアロックファイルのタイムアウト

Profile Managementがユーザーのファイルを解放するまでのタイムアウト期間（日数）を指定します。タイムアウトが発生すると、ストレージサーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままである場合、ユーザーのファイルは保留領域からユーザーストアに書き込まれます。このポリシーを使用して、保留領域の肥大化を防ぎ、ユーザーストアに常に最新のファイルが含まれるようにします。

構成の優先順位:

1. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
2. このポリシーがここまたは.iniファイルのいずれでも構成されていない場合、デフォルト値の1日が使用されます。

ストリーミングされたユーザープロファイルグループ

ユーザープロファイルがストリーム配信されるWindowsユーザーグループを指定します。

このポリシーは、OU内のWindowsユーザーグループのサブセットのプロファイルをストリーム配信します。他のすべてのグループのユーザーのプロファイルはストリーム配信されません。

構成の優先順位:

1. このポリシーが無効になっている場合、すべてのユーザーグループが処理されます。
2. このポリシーがここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。このポリシーがここでも.iniファイルでも構成されていない場合、すべてのユーザーが処理されます。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ

プロファイルストリーミングが無視するフォルダーを指定できます。フォルダー名は、ユーザープロファイルに対する相対パスとして指定する必要があります。

例: `Desktop` と入力すると、ユーザープロファイル内の `Desktop` ディレクトリが無視されます。

構成の優先順位:

1. この設定が無効になっている場合、フォルダーは除外されません。
2. この設定がここで構成されていない場合、.iniファイルの値が使用されます。
3. この設定がここでも.iniファイルでも構成されていない場合、フォルダーは除外されません。

注:

プロファイルストリーミングの除外は、構成されたフォルダーがプロファイル処理から除外されることを示すものではありません。Citrix Profile Managementは引き続きそれらを処理します。

ペンディングエリアのプロファイルストリーミングを有効にする

ペンディングエリア内のファイルとフォルダーに対してプロファイルストリーミング機能を有効にできます。

ペンディングエリアは、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの一貫性を確保するために使用されます。これは、同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。

既定では、このポリシーは無効になっており、ログオン時に保留領域内のすべてのファイルとフォルダーがローカルプロファイルにフェッチされます。このポリシーを有効にすると、保留領域内のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。このポリシーをプロファイルストリーミングポリシーと組み合わせて使用すると、同時セッションシナリオで最適なログオンエクスペリエンスを確保できます。

このポリシーは、フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にするポリシーが有効になっている場合に、保留領域内のフォルダーに適用されます。

Profile Management\フォルダーリダイレクト (ユーザー構成)

プロファイルに一般的に表示されるフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびリダイレクトターゲットを指定できます。ターゲットは、UNCパス (サーバー共有またはDFS名前空間の場合) またはユーザーのホームディレクトリに対する相対パスとして指定します。ホームディレクトリは通常、Active Directoryの`#homeDirectory#`属性で構成されます。

ここでポリシーが構成されていない場合、Profile Managementは指定されたフォルダーをリダイレクトしません。

注:

- フォルダーリダイレクトにUNCパスを使用する場合、#homedirectory#変数はサポートされません。「**ユーザーのホームディレクトリにリダイレクト**」ポリシーを選択した後、パスを指定する必要はありません。
- ユーザーにリダイレクトターゲットフォルダーへのアクセスを許可するには、「**管理者権限の付与**」ポリシーではなく、「**リダイレクトターゲットパスにアクセスするユーザーとグループ**」ポリシーを使用することをお勧めします。「管理者権限の付与」ポリシーは、ローカル管理者グループのメンバーにリダイレクトターゲットフォルダーへのアクセスを許可します。ただし、ユーザーをローカル管理者グループに追加すると、この役割に関連する広範な権限のためにセキュリティ上の懸念が生じる可能性があります。

`<folder-name>`フォルダーのリダイレクトポリシーを使用すると、`<folder-name>`フォルダーをリダイレクトする方法を指定できます。これを行うには、「**有効**」を選択し、リダイレクトされたパスを入力します。

注意:

データ損失が発生する可能性があります。

ポリシーが有効になった後でパスを変更したい場合があります。ただし、変更する前に潜在的なデータ損失を考慮してください。変更されたパスが以前のパスと同じ場所を指している場合、リダイレクトされたフォルダーに含まれるデータが削除される可能性があります。

たとえば、連絡先パスを`path1`として指定します。後で、`path1`を`path2`に変更します。`path1`と`path2`が同じ場所を指している場合、ポリシーが有効になった後、リダイレクトされたフォルダーに含まれるすべてのデータが削除されます。

潜在的なデータ損失を回避するには、次の手順を実行します。

1. Active Directoryグループポリシーオブジェクトを介して、Profile Managementが実行されているマシンにMicrosoftポリシーを適用します。詳細な手順は次のとおりです。
    a. グループポリシー管理コンソールを開きます。
    b. **コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー** に移動します。

c. **古いフォルダーリダイレクトターゲットと新しいフォルダーリダイレクトターゲットがリダイレクト前に同じ共有を指していることを確認する** を有効にします。

2. 該当する場合、Profile Managementが実行されているマシンにホットフィックスを適用します。詳細については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/977229>`および`<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/2799904>`を参照してください。

ファイルベースおよびコンテナベースのソリューションのポリシー

Profile Management は、ファイルベースおよびコンテナベースのプロファイルソリューションを提供します。次の表に、Profile Management のポリシーと、各ソリューションでの利用可能性を示します。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
NA	プロファイルのリセット	Y	Y	この設定は、ポリシー設定ではなく、Profile Management WMI プラグインによって提供される WMI コマンドです。コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、Profile Management はユーザープロファイルを作成し、`Downloads` や `Pictures` などのプロファイルフォルダ内のレガシーコンテンツを復元しません。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
プロファイル管理	プロファイル管理を有効にする	Y	Y	
	処理されたグループ	Y	Y	
	除外されたグループ	Y	Y	
	ローカル管理者ログオンの処理	Y	Y	
	ユーザーストアへのパス	Y	Y	
	ユーザーストアの移行	Y	N	
	アクティブライトバック	Y	N	
	アクティブライトバックレジストリ	Y	N	
	セッションロックおよび切断時のアクティブライトバック	Y	N	
	オフラインプロファイルサポート	Y	N	
プロファイル管理\詳細設定	ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する	Y	N	
	自動構成を無効にする	Y	N	
	問題が発生した場合にユーザーをログオフする	Y	Y	
	カスタマーエクスペリエンス向上プログラム	Y	Y	
	ユーザーレベルのポリシー設定を有効にする	Y	Y	
	ユーザーグループの優先順位を設定する	Y	Y	
	Outlook の検索インデックスローミングを有効にする	Y	Y	
	Outlook 検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする	Y	Y	
	プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	ユーザーストアをレプリケートする	Y	Y	
	ユーザー ストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする	Y	Y	
	VHDX ファイルのストレージ パスをカスタマイズする	Y	Y	
	プロファイル サイズがクォータを超過した場合にユーザーに通知する	Y	N	
	プロファイル サイズがクォータを超過した場合の通知メッセージ	Y	N	
	アプリのアクセス制御	Y	Y	
	セッションでVHDXディスクを自動的に再アタッチする	Y	Y	
	ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	OneDriveコンテナを有効にする	Y	Y	
	VHDディスクの圧縮をトリガーする空き領域の比率	Y	Y	
	VHDディスクの圧縮をトリガーするログオフ回数	Y	Y	
	VHDディスクの圧縮におけるデフラグを無効にする	Y	Y	
	プロファイルコンテナの自動拡張しきい値	Y	Y	
	プロファイルコンテナの自動拡張増分	Y	Y	
	プロファイルコンテナの自動拡張制限	Y	Y	
	UWPアプリのローミング	Y	Y	
	AppXパッケージのロード高速化を有効にする	Y	Y	
	VHDコンテナのデフォルト容量	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	ユーザーストアの選択方法	Y	Y	
	ユーザーストア間でのセッション内プロファイルコンテナフェイルオーバーを有効にする	N	Y	
	プロファイルロードのタイムアウト	Y	Y	
	ログオフ時のプロファイル同期を制限する	Y	Y	
	マシンの休止状態に対するマルチセッションサポートを有効にする	Y	Y	
プロファイル管理\アプリケーションアクセス制御	アプリアクセス制御	Y	Y	
Profile Management\Citrix Virtual Appsの最適化	Citrix Virtual Appsの最適化を有効にする	Y	N	
	Citrix Virtual Apps™ 最適化定義へのパス	Y	N	
プロファイル管理\クロスプ	クロスプラットフォーム設定を有効にする	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
ラットフォーム設定				
	クロスプラットフォーム設定ユーザーグループ	Y	N	
	クロスプラットフォーム定義へのパス	Y	N	
	クロスプラットフォーム設定ストアへのパス	はい	いいえ	
	クロスプラットフォーム設定を作成するためのソース	はい	いいえ	
プロファイル管理\ファイル重複排除	重複排除のために共有ストアに含めるファイル	はい	はい	
	共有ストアから除外するファイル	はい	はい	
	プロファイルコンテナから重複排除するファイルの最小サイズ	はい	はい	
プロファイル管理\ファイルシステム	除外リスト - ファイル	Y	N	
	デフォルトの除外リストを有効	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	にする - ディレクトリ			
	除外リスト - ディレクトリ	Y	N	
	ログオン除外チェック	Y	N	
	大容量ファイルの処理 - シンボリックリンクとして作成されるファイル	Y	N	
プロファイル管理\ファイルシステム\同期	同期するディレクトリ	Y	N	
	同期するファイル	Y	N	
	ミラーリングするフォルダー	Y	N	
	フォルダーミラーリングの高速化	Y	N	
プロファイル管理\ログ設定	ロギングを有効にする	Y	Y	
	ログ設定	Y	Y	
	ログファイルの最大サイズ	Y	Y	
	ログファイルへのパス	Y	Y	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
プロファイル管理\プロファイルコンテナ設定	プロファイルコンテナ	N	Y	
	プロファイルコンテナから除外するフォルダー	N	Y	
	プロファイルコンテナに含めるフォルダー	N	Y	
	プロファイルコンテナから除外するファイル	N	Y	
	プロファイルコンテナに含めるファイル	N	Y	
	プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする	N	Y	コンテナベースのソリューションでこのポリシーが有効になっている場合、ファイルベースのソリューションに適用されるすべてのポリシー設定は、プロファイルストリーミングやアクティブライトバックなど、コンテナベースのソリューションでも機能します。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	VHDディスクの圧縮を有効にする	Y	Y	
	プロファイルコンテナのVHD自動拡張を有効にする	Y	Y	
	VHDコンテナへの排他的アクセスを有効にする	Y	Y	
	ログオン時にプロファイルコンテナが利用できない場合、ユーザーをログオフする	N	Y	
	プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループ	Y	Y	
	BindLink リダイレクトを有効にする	Y	Y	
プロファイル管理\プロファイル処理	ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する	Y	N	コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、ポリシーが無効になっていても、ユーザーのログオフ時にローカルプロファイルは常に自動的に削除されます。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	キャッシュされたプロファイルを削除するまでの遅延	Y	Y	コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、ポリシーが無効になっていても、ユーザーのログオフ時にローカルプロファイルは常に自動的に削除されます。
	既存のプロファイルの移行	Y	N	コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、ユーザーのログオフ時にローカルプロファイルは自動的にコンテナに移行されます。
	既存のアプリケーションプロファイルの自動移行	Y	N	
	ローカルプロファイルの競合処理	Y	N	コンテナベースのソリューションが有効になっている場合、ユーザーのログオフ時にローカルプロファイルは自動的にコンテナに移行されます。

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	テンプレートプロファイル	Y	Y	
プロファイル管理\レジストリ	除外リスト	Y	Y	
	デフォルトの除外リストを有効にする	Y	Y	
	包含リスト	Y	Y	
	NTUSER.DAT のバックアップ	Y	N	
プロファイル管理\ストリーミングされたユーザープロファイル	プロファイルストリーミング	Y	N	
	フォルダのプロファイルストリーミングを有効にする	Y	N	
	ペンディングエリアのプロファイルストリーミングを有効にする	Y	N	
	常にキャッシュする	Y	N	
	ペンディングエリアのロックファイルのタイムアウト (日数)	Y	N	

カテゴリ	ポリシー名	ファイルベースに適用	コンテナベースに適用	コメント
	ストリーミングされたユーザープロファイルグループ	Y	N	
	プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ	はい	いいえ	

統合

このセクションには、他のCitrix製品またはコンポーネントと連携してProfile Managementを展開するCitrix管理者向けの情報が含まれています。この情報は、Profile Managementドキュメントの他のトピックに加えて使用してください。それらの代わりに使用するものではありません。例えば、このような展開におけるProfile Managementの一般的な問題の解決策については、トラブルシューティングを参照してください。

このセクションには、一部のサードパーティ製品がProfile Managementまたは一般的なプロファイルとどのように連携するかに関する情報も含まれています。

プロファイル管理とCitrix Virtual Apps™

このバージョンのProfile ManagementをCitrix Virtual Appsサーバーで使用するには、Profile Management EULAに従う必要があります。Profile Managementをローカルデスクトップにインストールして、ユーザーがローカルプロファイルを公開リソースと共有することもできます。

注： Profile ManagementはCitrix Virtual Desktops™では自動的に構成されますが、Citrix Virtual Apps環境では構成されません。Citrix Virtual Apps展開のProfile Management設定を調整するには、グループポリシーまたは.iniファイルを使用してください。

Profile Managementは、Remote Desktop Services（旧称Terminal Services）を使用するCitrix Virtual Apps環境で機能します。これらの環境では、サポートされているオペレーティングシステムごとにOUを設定する必要があります。詳しくは、Microsoftのドキュメントを参照してください。

異なるバージョンのCitrix Virtual Appsを含むファーム、または異なるオペレーティングシステムを実行するファームでは、Citrixは各バージョンまたはオペレーティングシステムを実行する各サーバーに個別のOUを使用することを推奨します。

重要：複数のユーザーで共有されるフォルダー（たとえば、Citrix Virtual Appsで公開された共有アプリケーションデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

ストリーミングアプリケーション

Profile Managementは、アプリケーションがユーザーデバイスに直接ストリーミングされる環境、またはCitrix Virtual Appsサーバーにストリーミングされ、そこからユーザーに公開される環境で使用できます。

Citrix Virtual Appsのクライアント側アプリケーション仮想化テクノロジーは、アプリケーションを自動的に分離するアプリケーションストリーミングに基づいています。アプリケーションストリーミング機能により、アプリケーションをCitrix Virtual Appsサーバーおよびクライアントデバイスに配信し、保護された仮想環境で実行できます。アプリケーションの競合を防ぐために、ユーザーデバイス上でアプリケーションがどのように相互作用するかを制御するなど、ユーザーにストリーミングされるアプリケーションを分離する理由はたくさんあります。たとえば、同じアプリケーションの異なるバージョンが存在する場合、ユーザー設定の分離が必要です。Microsoft Office 2003がローカルにインストールされ、Office 2007がユーザーのデバイスにストリーミングされる場合があります。ユーザー設定の分離に失敗すると競合が発生し、両方のアプリケーション（ローカルおよびストリーミング）の機能に深刻な影響を与える可能性があります。

ストリーミングアプリケーションでのProfile Managementの使用に関する要件については、「システム要件」を参照してください。

プロファイル管理と Citrix Virtual Desktops™

重要: Citrix Virtual Desktops に統合されている Profile Management の機能を使用することをお勧めします。詳細については、 Citrix Virtual Desktops のドキュメントを参照してください。このトピックの情報は、Citrix Virtual Desktops と、個別にインストールおよび構成された Profile Management コンポーネントを使用する、別の展開に適用されます。

Citrix Virtual Desktops 展開での Profile Management のインストールとアップグレード

このバージョンの Profile Management を Citrix Virtual Desktops で使用する場合は、Profile Management の EULA に従う必要があります。EULA の条項に従い、Citrix Virtual Desktops 環境で Citrix Virtual Apps™ とともに Profile Management を使用することもできます。

Citrix Virtual Desktops 展開で Profile Management をアップグレードする場合、Profile Management のアップグレードで説明されているように、ログファイルの場所への影響を考慮してください。

Quick Deploy セットアップの Citrix Virtual Desktops については、構成の決定の推奨事項を参照してください。

Citrix Virtual Desktops 展開での Profile Management の構成

イメージが展開される前に Profile Management が正しく構成されていない場合、Group Policy が適用される前に Profile Management Service が起動します。これを回避するには、イメージを本番環境に投入する前に、文書化された手順を使用して構成を実行してください。

重要: 複数のユーザーで共有されるフォルダー（たとえば、複数の仮想デスクトップで共有できるデータを含むフォルダー）の包含と除外はサポートされていません。

Personal vDisk 展開での Profile Management の構成

Citrix Virtual Desktops の Personal vDisk 機能を使用する場合、Citrix ユーザープロファイルは、デフォルトで仮想デスクトップの Personal vDisk (通常は P: ドライブ) に保存されます。プロファイルはユーザーの C: ドライブには保存されません。しかし、Profile Management はプロファイルをここに存在すると想定しています。そのため、Virtual Delivery Agent のインストールまたはアップグレード中に、マスターイメージのレジストリを変更する必要があります。さらに、Personal vDisk の空き容量を増やしたため、マスターイメージ上のアプリケーションのデフォルトのディスク領域割り当てを増やすことも良い方法です。これらの変更の手順については、「Citrix Virtual Desktops のドキュメントの管理」を参照してください。

Personal vDisk にコピーが残っている間に、ユーザーストア内のプロファイルのコピーを削除しないでください。そうすると、Profile Management エラーが発生し、仮想デスクトップへのログオンに一時プロファイルが使用されます。詳細については、一般的な問題のトラブルシューティングの「ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る」を参照してください。

Windows アプリケーション - Microsoft Store

Citrix Virtual Desktops 環境では、Microsoft Store のアプリケーション（UWP アプリとも呼ばれる）がサポートされています。プールされたマシン（プールランダム、静的、または RDS）で Microsoft Store アプリケーションを使用するには、グループポリシー管理エディターを開き、**\> \> \> \> \> \>** で次の設定を構成します。

- ミラーリングするフォルダーを有効にし、`appdata\local\packages` をミラーリングするフォルダーのリストに追加します
- 同期するファイルを有効にし、`!ctx_localappdata!\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*` を同期するファイルのリストに追加します

ユーザーのプロファイルが別のデスクトップで既に作成されている場合、Personal vDisk (推奨されるソリューション) を使用して専用デスクトップにアクセスすると、Microsoft Store アプリケーションが機能しない可能性があります。

Citrix Virtual Desktops の設定例

このトピックでは、一般的な Citrix Virtual Desktops 展開で使用される Profile Management ポリシー設定を一覧表示します。Windows 7 仮想デスクトップは Citrix Provisioning™ Services で作成され、複数のユーザーで共有されます。この例では、プールされたランダムカタログから作成され、ログオフ時に削除されるデスクトップは、静的ワークステーション (モバイルノートPCではない) での使用を目的としており、パーソナル vDisk は使用されません。

ポリシーがリストされていない場合、グループポリシーで選択または入力は行われず、デフォルト設定が適用されます。

次の点に注意してください。

- **ユーザーストアへのパス** - Profile Management 変数をユーザーストアへのパスに組み込むことができます。この例では、パスが解釈されるときにそれぞれ Win7 と x86 に展開される \!CTX_OSNAME\! と \!CTX_OSBITNESS\! を使用しています。AD 属性 #sAMAccountName# もユーザー名を指定するために使用されます。
- **ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する** - このポリシーを無効にしても安全です。デスクトップにはパーソナル vDisk が含まれておらず、ユーザーがログオフすると削除されるためです。したがって、ローカルにキャッシュされたプロファイルを保持する必要はありません。(ログオフ時にデスクトップが破棄されない場合は、このポリシーを有効にしてください。)
- **プロファイルストリーミング** - この設定を有効にすると、この展開でのログオン時間が改善されます。
- **アクティブライトバック** - このポリシーは、この展開のプールされたデスクトップがユーザーに一時的に割り当てられるため、有効になっています。そのため、ユーザーはプロファイルを変更する可能性がありますが、デスクトップセッションを閉じるのを忘れる (または気にしない) 可能性があります。この設定を有効にすると、プロファイル内のローカルファイルの変更は、ログオフ前にユーザーストアにミラーリングされます。

注: アクティブライトバックポリシーを有効にすると、セッション内で多数のファイル操作 (ファイルの作成、ファイルのコピー、ファイルの削除など) を実行すると、システム I/O アクティビティが高くなり、Profile Management がファイル変更をユーザーストアに同期している間、一時的なパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- **ローカル管理者のログオンを処理する** - ほとんどのユーザーがローカル管理者である Citrix Virtual Desktops 展開では、この設定を有効にすることをお勧めします。
- **処理されたグループ** - すべてのドメインユーザーのプロファイルは Profile Management によって管理されます。

- **除外リスト - ディレクトリ** (ファイルシステム) および **除外リスト** (レジストリ) - これらの設定は、リストされた一時ファイルまたはキャッシュファイル、およびリストされたレジストリエントリが処理されるのを防ぎます。これらのファイルとエントリは、通常、ユーザープロファイルに保存されます。
- **同期するディレクトリ** および **同期するファイル** - ユーザーのアプリケーションデータがどこに保存されているかを知ることで、これらの設定を定義するのに役立ちました。

重要: Citrix Virtual Desktops の展開はさまざまであるため、決定する Profile Management ポリシー設定は、この例のものとは異なる可能性があります。設定を計画するには、 構成を決定する のアドバイスに従ってください。

Citrix/プロファイル管理

Profile Management を有効にする

> 有効

処理されるグループ

> `MyDomainName\Domain Users`

ユーザーストアへのパス

> `\\MyServer.MyDomain\MyUserStore#sAMAccountName#\!CTX_OSNAME!_!CTX_OSBITNESS!`!

アクティブライトバック

> 有効

ローカル管理者によるログオンの処理

> 有効

Citrix/プロファイル管理/プロファイルの処理

ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除する

> 無効

Citrix/プロファイル管理/詳細設定

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する

> 有効

Citrix/プロファイル管理/ファイルシステム

除外リスト - ディレクトリ

```
$Recycle.Bin


`AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files`


`AppData\Local\Microsoft\Outlook`


`AppData\Local\Temp`


`AppData\LocalLow`


`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu`


`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\cache`


`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\log`
```

```
`AppData\Roaming\Sun\Java\Deployment\tmp`
```

Citrix/プロファイル管理/ファイルシステム/同期

同期するディレクトリ

```
`AppData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Dazzle Apps`
```

ミラーリングするフォルダー

```
`AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`
```

Citrix/プロファイル管理/ストリーム配信ユーザープロファイル

プロファイルストリーミング

```
有効
```

プロファイル管理と UE-V

Profile Management 5.x と Microsoft User Experience Virtualization (UE-V) 2.0 は、同じ環境で共存できます。UE-V は、複数のプロファイルバージョンが存在する場合 (たとえば、バージョン1とバージョン2のプロファイル) に役立ちます。このため、UE-V が存在する場合は、Citrix Profile Management のクロスプラットフォーム設定機能を使用しないでください。UE-V は、より多くのアプリケーション、ユーザーセッション中の同期、およびアプリケーションの XML 構成と生成をサポートするため、その機能よりも推奨される場合があります。

Profile Management が UE-V と共存する場合、クロスプラットフォーム設定機能が有効になっているかどうかにかかわらず、次の点に注意してください。

- `AppData\Local\Microsoft\UEV` フォルダーを除外します。UE-V によってキャプチャされたプロファイル設定は、Profile Management によってキャプチャされたプロファイル設定を上書きします。
- UE-V によって制御されるプロファイルを、Profile Management のみによって制御されるプロファイルと共有しないでください。共有すると、「最後の書き込みが優先されます」。つま

り、プロファイルを同期する最後のコンポーネント (UE-V または Profile Management) が、保存されるデータを決定し、データ損失につながる可能性があります。

注: UE-V には Microsoft Desktop Optimization Pack (MDOP) が必要です。

プロファイル管理と Citrix Content Collaboration™

この記事の情報は、Citrix Content Collaboration 展開環境での Profile Management の使用に適用されます。一部の情報は、他のインターネットベースのファイル共有システムにも役立つ場合があります。

Citrix Content Collaboration は、Profile Management 4.1.2 以降で使用できます。Citrix Content Collaboration は、オンデマンドモードでのみサポートされています。

インストール

ShareFile 2.7 を使用している場合は、互換性の問題を回避するために、Profile Management をインストールする前にこのバージョンをインストールしてください。ShareFile 2.6 では、このインストール依存関係は存在しません。

除外

Citrix Content Collaboration は、構成データを `\AppData\Roaming\ShareFile` フォルダーにローカルに保存します。Citrix ユーザープロファイルを使用するユーザーの場合、ユーザー固有の Citrix Content Collaboration 構成を保持するために、このデータはユーザープロファイルとともにローミングする必要があります。この `ShareFile` フォルダーはプロファイルの一部であるため、Profile Management の構成は不要です。構成データはデフォルトでローミングされます。

ただし、Citrix Content Collaboration によって管理されるユーザーデータは、プロファイルのルートにある `ShareFile` フォルダー (`%USERPROFILE%\ShareFile`) に含まれています。このデータは Citrix Content Collaboration サーバーによって管理され、同期されるため、プロファイルとともにローミングしてはなりません。したがって、このフォルダーを Profile Management の除外として追加する必要があります。除外の設定方法については、「項目の包含と除外」を参照してください。

パーソナル vDisk

Personal vDisk を使用して仮想デスクトップを作成する場合、vDisk 上のユーザーデータの場所で Citrix Content Collaboration を構成します。これにより、デスクトップと Citrix Content Collaboration サーバー間でファイル同期が行われるようになります。デフォルトでは、Personal vDisk はデスクトップ上で P: ドライブとしてマップされるため、データは `P:\Users\<user`

name\> に配置される可能性があります。この場合、Citrix Content Collaboration の LocalSyncFolder ポリシーを使用して場所を設定します。

重要: Profile Management と Personal vDisk のパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性のある不要な同期を防ぐため、仮想デスクトップで同期する必要がない限り、大きなファイルを含むフォルダーには **Folder-ID** 設定を使用することをお勧めします。これは ShareFile の設定です。

プロファイル管理とApp-V

Microsoft Application Virtualization 5.x (App-V 5.x) と同じ環境でProfile Managementを使用できます。

> **注:**
>
> Profile Managementは、グローバルに公開されたApp-Vのみをサポートします。
>
> Profile Managementの除外機能を使用して、以下の項目を除外します。

- プロファイル管理\\ファイルシステム\\除外リスト\\ディレクトリ:
  - `AppData\Local\Microsoft\AppV`
  - `AppData\Roaming\Microsoft\AppV\Client\Catalog`
- プロファイル管理\\レジストリ\\除外リスト:
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Integration`
  - `Software\Microsoft\AppV\Client\Publishing`

除外設定の手順については、「項目の包含と除外」を参照してください。

App-Vで**UserLogonRefresh**設定が有効になっている場合、Profile Managementのプロファイルストリーミングポリシーを無効にします。この制限は、**UserLogonRefresh**とプロファイルストリーミングの非互換性によるものです。

App-Vアプリケーションをシーケンスする方法の例については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/application-management/app-v/appv-sequence-a-new-application>`を参照してください。

App-Vが有効なサードパーティのProfile Managementソリューションの構成については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/microsoft-desktop-optimization-pack/appv-v5/`

`performance-guidance-for-application-virtualization-50>`を参照してください。
Microsoft Windows 10システムでは`Software\Classes`を含めないでください。

プロファイル管理とプロビジョニングサービス

この記事では、Citrix Provisioning Servicesで作成された仮想ディスク（vDisk）上のCitrixユーザープロファイルを維持するためのアドバイスを掲載しています。このアドバイスに従う前に、「永続的またはプロビジョニング済み、専用または共有」で説明されているように、vDisk構成がProfile Management構成にどのように影響するかを理解してください。

サポートされているモード

Profile Managementは、標準イメージモードおよびプライベートイメージモードで実行されているvDiskで使用できますが、差分ディスクイメージモードでは使用できません。

マスターターゲットデバイスから不要なローカルキャッシュプロファイルを削除するには

不要なローカルキャッシュプロファイルが保存されないようにするには、マスターターゲットデバイスイメージを作成する前に、標準イメージモードで実行されているvDiskからこれらのプロファイルを削除してください。ただし、現在ログオンしているローカル管理者のプロファイルは削除しないでください。これを実現する良い方法は次のとおりです。この手順中に、エラーメッセージが表示される場合があります。

1. コンピューターを右クリックします。
2. ［プロパティ］を選択します。
3. ［システムの詳細設定］をクリックします。
4. ［詳細設定］タブで、［ユーザープロファイル］の［設定］をクリックします。
5. 削除する各プロファイルを強調表示し、［削除］をクリックします。

vDiskイメージからログファイルを取得する

このトピックでは、Citrix Provisioning™ Servicesで作成された共有（vDisk）イメージに存在するログファイルの使用に関するガイダンスを提供します。Profile Managementはログオフ時にファイルを保存します。ただし、vDiskイメージを使用する場合、ベースイメージがリセットされる可能性があり、その結果ログファイルが削除されることに注意してください。したがって、ファイルを回復するために何らかの措置を講じる必要があります。講じる措置は、ログファイルがログオン時に削除されるかログオフ時に削除されるかによって異なります。

vDiskイメージの使用はCitrix Virtual Desktops™の展開で一般的であるため、このトピックのガイダンスではその製品を例として使用します。

ログオフ時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイル全体またはその一部がネットワーク上のユーザーストアに保存されない場合、ログファイルもそこに保存されません。

Provisioning Servicesのライトキャッシュがprovisioning Servicesを実行しているコンピューターに保存されている場合、この問題は発生しません。そして、ログファイルはユーザーストアに保存されます。

ライトキャッシュがローカルに保存されている場合、この手順ではユーザーと同じデバイスからログオンする必要があるかもしれません。ただし、ライトキャッシュがRAMにローカルに保存されている場合、これも失敗する可能性があります。

ライトキャッシュがProvisioning Servicesを実行しているコンピューター上にない場合、vDiskイメージのコピーを作成する必要があるかもしれません。それを新しい仮想マシンに割り当て、イメージ上のライトキャッシュを変更して、そのコンピューターに保存されるようにします。

1. Citrix仮想デスクトップで、デスクトップグループを作成し、1つの仮想マシンを追加して、vDiskイメージを指すようにします。
2. 仮想マシンへのアクセスを1人のテストユーザーと管理者に付与します。
3. デスクトップグループのアイドルプール数を終日1に変更します（電源管理によるマシンのシャットダウンを防ぐため）。ログオフ動作を「何もしない」に設定します（マシンの再起動とイメージのリセットを防ぐため）。
4. テストユーザーとして仮想デスクトップにログオンし、その後ログオフします。
5. XenCenter®またはVMwareコンソールから管理者としてログオンし、ログファイルを取得します。

デスクトップグループの作成とプロパティの変更に関する詳細については、Citrix Virtual Desktopsのドキュメントを参照してください。

ログオン時に削除されるログファイルを取得するには

プロファイルがネットワーク上のユーザーストアで最新であるにもかかわらず、ユーザーがログオンしたときに正しくロードされない場合、ログファイルのエントリは失われます。

1. `\\<vmhostname>\C$` にドライブをマップし、ユーザーがセッションからログオフする前にログファイルを特定します。ログファイルは完全ではありませんが（一部のエントリが欠落して

いる可能性があります）、トラブルシューティングしている問題がログオン時に発生している場合、問題の原因を特定するのに十分な情報を提供できます。

Provisioning Servicesログファイルを再配置するには

標準イメージモードを使用している場合、システムがシャットダウンするとProvisioning Servicesのイベントログファイルは失われます。これを防ぐためにファイルのデフォルトの場所を変更する方法については、Knowledge Centerの記事CTX115601を参照してください。

プロビジョニングされたイメージでのProfile Managementの事前構成

Citrix Provisioning Services、Citrix XenServer、VMware ESXなどのプロビジョニングソフトウェアを使用すると、Profile Managementがプレインストールされたイメージを構築できます。その際、イメージのセットアップ中にレジストリにグループポリシー設定の一部が取り込まれる可能性があります。たとえば、Provisioning Servicesでプライベートイメージモードの場合に発生します。イメージを展開しても、設定はそのまま残ります。たとえば、Provisioning Servicesで標準イメージモードに戻した場合などです。理想的には、仮想マシンが実行を開始したときの状態と、ユーザーがログオンしたときの要件に合ったデフォルトを選択してください。少なくとも、(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/plan/upm-plan-decide-4a.html)で説明されているポリシーに適したデフォルト設定があることを確認してください。

Citrix Profile Management Serviceが開始される前に`gpupdate`が実行されない場合、デフォルトが使用されます。したがって、ほとんどの場合に適切なデフォルト設定であることを確認するのが最善です。イメージに保持したいこれらの設定やその他の設定を事前構成するには、この手順を使用してください。

注: Provisioning Servicesを使用している場合は、まずProfile Managementの.iniファイルでイメージを事前構成することをお勧めします。そして、テストが成功したと確認された後にのみ、設定を.admまたは.admxファイルに転送してください。

1. .admまたは.admxファイルを使用する場合は、適切なGPO内のファイルを使用して目的の設定を変更します。.iniファイルを使用する場合は、この手順を省略します。変更は後の手順で行います。
2. ログレベルにも同じ変更を加えます。
3. 次のいずれかを実行します。
    - イメージをプライベートイメージモード (Citrix Provisioning™ Services) に切り替え、その上でオペレーティングシステムを起動します。

- オペレーティングシステムを起動します (Citrix XenServer®またはVMware ESX)。

4. 管理者アカウント (設定した可能性のあるテストユーザーアカウントではない) を使用してログオンし、`gpupdate /force`を実行します。この手順により、レジストリが正しく構成されます。
5. .iniファイルを使用する場合は、ファイル内の目的の設定を変更します。
6. Profile Managementサービスを停止します。
7. 新しく作成されるログファイルとの混同を避けるため、古いProfile Managementログファイルと構成ログファイルを削除します。これらは古いイメージの名前を使用するファイル名を持っています。更新されたイメージには新しいファイル (新しいイメージの名前を持つ) があるため、これらは冗長です。
8. 次のいずれかを実行します。
   - イメージを標準イメージモード (Citrix Provisioning Services) に戻します。
   - 更新されたイメージ (Citrix XenServer または VMware ESX) を保存します。
9. イメージ上でオペレーティングシステムを起動します。

プロファイル管理とセルフサービスプラグイン

デフォルトでは、プロファイル管理はWindowsの**スタートメニュー**フォルダーを除外します。Citrixセルフサービスプラグインのユーザーは、**スタートメニュー**でサブスクライブしたアプリケーションを表示できません。このデフォルトの動作を調整するには、**除外リスト - ディレクトリ**ポリシーからフォルダー`%APPDATA%\Microsoft\Windows\Start Menu`を削除します。さらに、GPOを使用して構成する場合、プロファイル管理の.iniファイルを削除することをお勧めします。これらの操作により、サブスクライブしたアプリケーション（およびユーザーが作成したサブフォルダー）を含む**スタートメニュー**フォルダーがプロファイル管理によって処理されるようになります。

注：グループポリシーではなくプロファイル管理の.iniファイルを使用している場合は、そのファイルのデフォルトの除外リストからこのエントリを削除してください。

プロファイル管理とOutlook

この記事では、Microsoft Outlookをローミングプロファイルと統合するためのベストプラクティスについて説明します。

ユーザーがOutlookデータをネットワーク共有やローカルではなく、サーバーに保存するようにすることは良い習慣です。

ローミングプロファイルでは、環境変数`%UserProfile%`で定義された場所（ローカルコンピューター上）にあるファイルとフォルダーは、`%UserProfile%\Local Settings`という1つのフォルダーを除いて、ユーザーと共にローミングします。この例外はOutlookユーザーに影響します。なぜなら、Microsoftの推奨により、デフォルトで一部のOutlookデータ（たとえば、`.ost`、`.pst`、および`.pab`ファイル）がこのローミングしないフォルダーに作成されるためです。

重要: この場所にあるファイルは通常サイズが大きく、ローミングプロファイルのパフォーマンスを妨げます。

以下のプラクティスは、Outlookでのローミングプロファイルのトラブルシューティングを減らし、ユーザーと管理者による適切なメール管理を促進します。

- 可能であれば、`.pst`ファイルの使用を禁止するMicrosoft Office用のADMテンプレートを使用します。
- ユーザーがより多くのスペースを必要とする場合は、ネットワーク共有ではなく、Microsoft Exchangeサーバーのストレージを増やします。
- 個々のユーザーに`.pst`ファイルの例外を許可したり、個人ストレージ容量を増やしたりするのではなく、会社全体（会社全体のメールストレージサーバーを含む）のメール保持ポリシーを定義し、適用します。このポリシーは、ユーザーが受信トレイへのメール復元を簡単に要求できるようにすることで、`.pst`ファイルへの依存を避けるように促すものでなければなりません。
- `.pst`ファイルの使用を禁止できない場合は、Profile Managementまたはローミングプロファイルを構成しないでください。**Outlookの検索インデックスローミングを有効にする**機能は、`.pst`ファイル向けに設計されていません。

Password Manager およびシングルサインオンでの Windows プロファイルの使用

この記事には、Profile Management に固有の情報は含まれていません。Citrix Single Sign-on がローカルプロファイル、移動プロファイル、強制プロファイル、またはハイブリッドプロファイルで最適に動作するように、特定の Windows オプションを構成する方法について説明します。このトピックは、Citrix Single Sign-on 4.8 または 5.0 に適用されます。

ローカルプロファイル

ローカルプロファイルは、ユーザーがログオンしたローカルサーバーに保存されます。Password Manager とシングルサインオンは、ユーザーレジストリの

`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password Manager` ハイブにレジストリ情報を次の場所に保存します。

`%SystemDrive%\Documents` および `Settings\%username%\NTUSER.DAT`。

ファイルは次の場所にも保存されます。

`%SystemDrive%\Documents and Settings\%username%\Application Data\Citrix\MetaFrame Password Manager`。

Windows 7 では、シングルサインオンは以下を使用します。

`%APPDATA%\Roaming\Citrix\MetaFrame Password Manager`

重要: シングルサインオンが以下のファイルに対してフルコントロールアクセス権を持つことが重要です。

ファイル名	説明
ユーザー名.mmf	aelist.ini へのポインターを持つユーザーの資格情報ファイル。
entlist.ini	同期ポイントまたは Active Directory のエンタープライズレベルで作成されたアプリケーション定義ファイル。
aelist.ini	ユーザーのローカルアプリケーション定義ファイル (applist.ini) とエンタープライズアプリケーション定義 (entlist.ini) をマージして作成されたアプリケーション定義ファイル。

ローミングプロファイル

ローミングプロファイルはネットワーク共有に保存され、ユーザーがログオンするたびにローカルサーバーのコピーと同期されます。ローミングプロファイルの展開を成功させるには、SAN (System Area Network) や NAS (Network Area Storage) のような高速ネットワーク接続が必要です。その他の一般的な展開には、プロファイルが高可用性サーバーに保存されるクラスタリングソリューションが含まれます。

ローミングプロファイルと強制プロファイルの展開には、次の2つの問題があります。

- 単一のローミングプロファイルは、1つのファイル同期ポイントでのみ使用できます。複数の同期ポイントが使用されると、メモリマップファイル (MMF) 内のデータが破損する可能性があります。
- ローミングプロファイルが複数の同時セッションで使用される場合、バックエンドのMMFを共有します。すべてのアクティブなセッションは、再試行ロックカウンター、最終使用データカウンター、イベントログエントリなどの共通セッションデータを共有します。

強制プロファイルまたはハイブリッドプロファイル

強制プロファイルは、定義上、ユーザーの読み取り専用プロファイルです。シングルサインオンは、**Application Data** の下のプロファイルフォルダーへの書き込み権限を必要とします。強制プロファイルでは、ユーザーが変更を加えることはできますが、ログオフ時にその変更はプロファイルに保存されません。強制プロファイルでシングルサインオンが正しく機能するためには、Application Data フォルダーをリダイレクトする必要があります。

レジストリの変更は、ユーザーがログオンするたびに書き込まれます。資格情報が同期ポイントと同期されますが、変更はプロファイルに保存されません。

Windows 2000以降、Microsoft は **Application Data** フォルダーをリダイレクトするメカニズムを提供しています。ただし、Windows NT4 ドメインを使用する場合は、**Application Data** フォルダーの場所を変更できるログオンスクリプトが必要です。これを実現するには、`Kix` や `VBScript` などのツールを使用して、**Application Data** フォルダーの書き込み可能な場所を定義できます。

次の例では、ユーザーログオン時に `Kix` を使用して **Application Data** フォルダーをリダイレクトします。

重要: このサンプルスクリプトは情報提供のみを目的としています。まずテストせずに、ご自身の環境で使用しないでください。

```
$LogonServer = "%LOGONSERVER%"

$HKCU = "HKEY_CURRENT_USER"

$ShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Shell

Folders"
```

```
$UserShellFolders_Key =

"$HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\User

Shell Folders"

$UserProfFolder =

"$LogonServer\profiles\@userID"

$UserAppData =

"$LogonServer\profiles\@userID\Application Data"

$UserDesktop =

"$LogonServer\profiles\@userID\Desktop"

$UserFavorites =

"$LogonServer\profiles\@userID\Favorites"

$UserPersonal = "X:\My Documents"

$UserRecent =

"$LogonServer\profiles\@userID\Recent"

if (exist("$UserAppData") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserAppData"'

endif

if (exist("$UserDesktop") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserDesktop"'

endif

if (exist("$UserRecent") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserRecent"'
```

```
endif

if (exist("$UserFavorites") = 0)

shell '%ComSpec% /c md "$UserFavorites"'

endif
```

ハイブリッドプロファイルは、強制プロファイルの問題に対するもう1つの解決策です。ユーザーがログオンすると、強制プロファイルがロードされ、カスタムアプリケーションがユーザーに利用可能なアプリケーションに基づいてユーザーレジストリハイブをロードおよびアンロードします。強制プロファイルと同様に、ユーザーはセッション中にレジストリのそれらの部分を変更できます。強制プロファイルとの違いは、ユーザーがログオフするときに変更が保存され、再度ログオンするときに再ロードされることです。

ハイブリッドプロファイルを使用する場合、`HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Citrix\MetaFrame Password` レジストリキーはログオンおよびログオフプロセスの一部としてインポートおよびエクスポートする必要があります。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、グループポリシーオブジェクトとActive Directoryを使用して実装されます。ユーザープロファイルの一部であるフォルダーの場所を定義するためにグループポリシーを使用します。

リダイレクトできるフォルダーは4つあります。

- マイドキュメント
- アプリケーションデータ
- デスクトップ
- スタートメニュー

グループポリシーを使用して、2つのリダイレクトモードを設定できます。基本リダイレクトと高度なリダイレクトです。どちらもシングルサインオンでサポートされています。Windows 2000では、アプリケーションデータを保存する共有を`%username%`変数を使用して参照する必要があります（例：`\\servername\sharename\%username%`）。

フォルダーリダイレクトはユーザーに対してグローバルであり、そのユーザーのすべてのアプリケーションに影響します。**Application Data**フォルダーを使用するすべてのアプリケーションは、それをサポートする必要があります。

フォルダーリダイレクトの詳細については、以下のMicrosoftの記事を参照してください。

方法: フォルダーリダイレクトを使用して安全なリダイレクトフォルダーを動的に作成する

Windowsのフォルダーリダイレクト機能

管理者がリダイレクトされたフォルダーにアクセスできるようにする

ベストプラクティス

- 可能な場合は、Application Dataフォルダーをリダイレクトします。このアプローチにより、ネットワークパフォーマンスが向上し、ユーザーがログオンするたびにこれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなります。
- Password Manager Agentのトラブルシューティングを行う際は、ログオンしているユーザーが自身のApplication Dataフォルダーに対してフルコントロール権限を持っていることを常に確認してください。

Firefoxブラウザ

シームレスなユーザーエクスペリエンスのために、Profile Managementは、各ユーザーのプロファイル全体を、インストールされているシステムとユーザー ストアの間で同期します。その結果、Firefoxユーザーはログオンまたはログオフが遅くなる可能性があります。この問題は、Firefoxに関連付けられている一部のファイルが大きくなる可能性があるために発生します。

以下のファイルとフォルダーを削除し、同期から除外するようにログオフスクリプトをカスタマイズすることをお勧めします。

- `Appdata\Roaming\Mozilla\Firefox\profiles*\sessionstore.bak`
- `AppData\Roaming\Mozilla\Firefox\Profiles*\sessionstore-backups`

一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Windows PowerShellまたはユーザーコンピューターでサポートされているその他の言語を使用してログオフスクリプトを作成します。VBScriptやJscriptを含む、Windows Script Host (WSH) でサポートされている言語やコマンドファイルも使用できます。
2. スクリプトをドメインコントローラーの**Netlogon**共有フォルダーにコピーします。

3. **グループポリシー管理コンソール**で、スクリプトをユーザーログオフイベントに関連付けます。詳細については、Microsoftの記事を参照してください。

Google Chrome ブラウザ

To provide a seamless user experience, Profile Management synchronizes each user's entire profile between the system it is installed on and the user store. As a result, Google Chrome users might experience slow logons or logoffs. This issue occurs because some files associated with Google Chrome can grow large.

> **注:**
>
> 特に記載がない限り、この記事で説明されている設定は、ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイル管理ソリューションに適用されます。

Google Chromeでのユーザーエクスペリエンスを向上させるには、次の操作を行います。

1. 次のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。

   > **注:**
   >
   > この設定は、ファイルベースのプロファイル管理ソリューションにのみ適用されます。

   - AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default

2. 次のフォルダーを同期から除外します。

   - Appdata\Local\Google\Chrome\User Data\Default\Cache
   - Appdata\Local\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsMostVisited
   - Appdata\Local\Google\Chrome\User Data\Default\JumpListIconsRecentClosed
   - AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default\Media Cache

3. 次のファイルを同期から除外します。

   - AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default\Favicons
   - AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default\History

- `AppData\Local\Google\Chrome\User Data\Default` フォルダー内のブックマークに関連しないファイル

ログオンまたはログオフが遅い場合は、プロファイルストリーミング機能の使用をお勧めします。詳細については、ユーザープロファイルのストリーミングを参照してください。

セキュリティ

このトピックでは、Profile Management を保護するための推奨されるベストプラクティスについて説明します。一般に、Citrix® ユーザープロファイルデータへの不要なアクセスを防ぐため、ユーザー ストアが配置されているサーバーを保護してください。

安全なユーザー ストアを作成するための推奨事項は、Microsoft TechNet Web サイトの「Create a file share for roaming user profiles」という記事で提供されています。これらの最小限の推奨事項により、基本的な操作に対して高いレベルのセキュリティが確保されます。また、ユーザー ストアへのアクセスを構成する際は、Citrix ユーザープロファイルを変更または削除するために必要な Administrators グループを含めてください。

アクセス許可

Citrix は、ユーザー ストアおよびクロスプラットフォーム設定ストアに対して、次のアクセス許可をテストし、推奨しています。

- 共有アクセス許可: ユーザー ストアのルートフォルダーに対するフルコントロール
- Microsoft が現在推奨している次の NTFS アクセス許可:

グループまたはユーザー名	アクセス許可	適用先
作成者/所有者	フルコントロール	サブフォルダーとファイルのみ
Profile Management の制御下にあるアカウントのグループ	フォルダーの内容の一覧表示 / データ読み取り、およびフォルダーの作成 / データ追加	このフォルダーのみ
ローカルシステム	フルコントロール	このフォルダー、サブフォルダー、およびファイル

継承が無効になっていない場合、これらの権限により、アカウントはストアにアクセスできます。また、アカウントはユーザープロファイル用のサブフォルダーを作成し、必要な読み取りおよび書き込み操作を実行できます。

この最小限の権限に加えて、サブフォルダーとファイルのみを完全に制御できる管理者グループを作成することで、管理を簡素化することもできます。そうすれば、プロファイルの削除（一般的なトラブルシューティングタスク）がそのグループのメンバーにとって容易になります。

テンプレートプロファイルを使用する場合、ユーザーにはそのプロファイルへの読み取りアクセス権が必要です。

アクセス制御リスト (ACL)

クロスプラットフォーム設定機能を使用する場合は、定義ファイルを保存するフォルダーにACLを次のように設定します。認証済みユーザーには読み取りアクセス権、管理者には読み取り/書き込みアクセス権。

Windowsローミングプロファイルは、ネットワーク上のプロファイルデータを含むフォルダーから管理者権限を自動的に削除します。Profile Managementは、ユーザーストア内のフォルダーからこれらの権限を自動的に削除しません。組織のセキュリティポリシーに応じて、手動で削除できます。

注：アプリケーションがユーザープロファイル内のファイルのACLを変更しても、Profile Managementはそれらの変更をユーザーストアにレプリケートしません。これはWindowsローミングプロファイルの動作と一致しています。

プロファイルストリーミングとエンタープライズ向けウイルス対策製品

Citrix Profile Managementのストリーム配信ユーザープロファイル機能は、高度なNTFS機能を使用して、ユーザープロファイルから欠落しているファイルの存在をシミュレートします。この点において、この機能は階層型ストレージマネージャー (HSM) と呼ばれる製品群に似ています。HSMは通常、磁気テープや書き換え可能な光ストレージなどの低速な大容量ストレージデバイスに、あまり使用されないファイルをアーカイブするために使用されます。そのようなファイルが必要な場合、HSMドライバーは最初のファイル要求をインターセプトし、要求を行っているプロセスを中断し、アーカイブストレージからファイルをフェッチします。そして、ファイル要求の続行を許可します。この類似性から、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーであるupmjit.sysは、実際にはHSMドライバーとして定義されています。

このような環境では、ウイルス対策製品がHSMドライバーを認識するように構成する必要があり、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーも例外ではありません。最も高度な脅威から防御するために、ウイルス対策製品は一部の機能をデバイスドライバーレベルで実行する必要が

あります。そして、HSMドライバーと同様に、ファイル要求をインターセプトし、元のプロセスを中断し、ファイルをスキャンして再開するという方法で動作します。

ウイルス対策プログラムを誤って構成し、ストリーム配信ユーザープロファイルドライバーなどのHSMを中断させ、ユーザーストアからのファイルのフェッチを妨げ、ログオンがハングアップする原因となることは比較的容易です。

幸いなことに、エンタープライズ向けウイルス対策製品は、HSMなどの高度なストレージ製品の可能性を念頭に置いて作成されています。また、HSMがその作業を完了するまでスキャンを遅らせるように構成できます。家庭用ウイルス対策製品は、この点ではそれほど高度ではありません。そのため、家庭用およびSoHo（小規模オフィス/ホームオフィス）向けウイルス対策製品は、ストリーミングされたユーザープロファイルではサポートされていません。

ストリーミングされたユーザープロファイルで使用するためにウイルス対策製品を構成するには、次の製品機能のいずれかを探してください。機能名はあくまで目安です。

- **信頼済みプロセスリスト**。ウイルス対策製品にHSMを識別させ、HSMがファイル取得プロセスを完了できるようにします。ウイルス対策製品は、信頼されていないプロセスによってファイルが最初にアクセスされたときにファイルをスキャンします。
- **オープンまたはステータスチェック操作時にスキャンしない**。データがアクセスされたとき（たとえば、ファイルが実行または作成されたとき）にのみファイルをスキャンするようにウイルス対策製品を構成します。その他の種類のファイルアクセス（たとえば、ファイルが開かれたときやそのステータスがチェックされたとき）は、ウイルス対策製品によって無視されます。HSMは通常、ファイルオープンおよびファイルステータスチェック操作に応答してアクティブになるため、これらの操作でのウイルススキャンを無効にすると、潜在的な競合が解消されます。

Citrixは、主要なエンタープライズ向けウイルス対策製品のバージョンでストリーミングされたユーザープロファイルをテストし、それらがProfile Managementと互換性があることを確認しています。これらのバージョンには以下が含まれます。

- マカフィー ウイルススキャン エンタープライズ 8.7
- シマンテック エンドポイント プロテクション 11.0
- トレンドマイクロ オフィススキャン 10

これらの製品の以前のバージョンはテストされていません。

他のベンダーのエンタープライズ向けウイルス対策製品を使用している場合は、それがHSM対応であることを確認してください。スキャンを実行する前にHSM操作が完了するように構成できます。

一部のウイルス対策製品では、管理者が読み取り時スキャンまたは書き込み時スキャンを選択できます。この選択は、パフォーマンスとセキュリティのバランスを取ります。ストリーミングされたユーザープロファイル機能は、この選択の影響を受けません。

ストリーミングおよびウイルス対策の展開におけるProfile Managementのトラブルシューティング

ログオンがハングしたり、時間がかかったりするなどの問題が発生した場合は、Profile Managementとエンタープライズ向けウイルス対策製品との間に構成ミスがある可能性があります。次の手順をこの順序で試してください。

1. Profile Managementの最新バージョンを使用していることを確認してください。問題はすでに発見され、修正されている可能性があります。
2. Profile Managementサービス（UserProfileManager.exe）をエンタープライズ向けウイルス対策製品の信頼済みプロセスリストに追加します。
3. HSM操作（開く、作成、復元、ステータスチェックなど）でのウイルスチェックをオフにします。読み取りまたは書き込み操作でのみウイルスチェックを実行します。
4. その他の高度なウイルスチェック機能をオフにします。たとえば、ウイルス対策製品は、実際のファイルタイプを特定するために、ファイルの最初の数ブロックをクイックスキャンする場合があります。これらのチェックは、ファイルの内容を宣言されたファイルタイプと照合しますが、HSM操作を妨げる可能性があります。
5. Windowsの検索インデックス作成サービスをオフにします。少なくとも、プロファイルがローカルドライブに保存されているフォルダーについてはオフにしてください。このサービスは不要なHSM取得を引き起こし、ストリーミングされたユーザープロファイルとエンタープライズウイルス対策製品との間で競合を引き起こすことが確認されています。

これらの手順のいずれも機能しない場合は、ストリーミングされたユーザープロファイルをオフにします（**プロファイルストリーミング**設定を無効にすることで）。それが機能する場合は、機能を再度有効にし、エンタープライズウイルス対策製品を無効にします。それも機能する場合は、機能しないケースのProfile Management診断情報を収集し、Citrixテクニカルサポートに連絡してください。彼らはエンタープライズウイルス対策製品の正確なバージョンを知る必要があります。

Profile Managementの使用を継続するには、エンタープライズウイルス対策を再度有効にし、ストリーミングされたユーザープロファイルをオフにすることを忘れないでください。この構成では、Profile Managementの他の機能は引き続き機能します。プロファイルのストリーミングのみが無効になります。

トラブルシューティング

このセクションでは、Profile Management のトラブルシューティング方法について説明します。

一般的なトラブルシューティングのワークフローは次のとおりです。

1. Profile Management の設定を確認する。
2. Profile Management のログファイルを確認する。
3. Profile Management によってログに記録された Windows イベントを確認する。
4. 一般的な問題をトラブルシューティングする。
5. 高度なトラブルシューティングを実行する。
6. 前述の手順を試しても問題が解決しない場合は、できるだけ多くの診断情報を収集し、Citrix テクニカルサポートに連絡してください。

Profile Management の設定を確認する

問題のトラブルシューティングの最初のステップとして、現在のProfile Management設定を次のように確認します。

1. Citrix Directorでトラブルシューティングを開始します。このコンソールには、問題の診断と修正に役立つプロファイルのプロパティが表示されます。
2. UPMConfigCheckツールを使用して、稼働中のProfile Management展開を調査し、最適に構成されているかどうかを判断します。

   このツールのインストールと使用に関する詳細については、Knowledge Centerの記事CTX132805を参照してください。
3. Profile Managementの.iniファイルが使用されている場合は、影響を受けるマシンでその構成を確認します。
4. リストとして入力するProfile Managementポリシー（たとえば、除外リストや包含リスト）を非アクティブ化するには、ポリシーを「無効」に設定します。ポリシーを「未構成」に設定しないでください。

5. 影響を受けるマシンで`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies`レジストリエントリを確認します。GPタトゥーイングの問題により古いポリシーがある場合は、それらを削除します。タトゥーイングは、ポリシーがGPから削除されてもレジストリに残る場合に発生します。
6. 各ユーザーに適用されているProfile Management設定を含むUPMSettings.iniファイルを確認します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。

Profile Managementログファイルを確認する

ログファイルは、システム動作のトラブルシューティングに役立ちます。Profile Management設定の確認後、Profile Managementのログ記録を有効にし、問題を再現してログファイルを確認します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションに対してProfile Managementのログ記録を有効にする。
2. マシン上で問題を再現します。
3. `%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager`フォルダーにあるProfile Managementログファイル（例：#computername#.#domainname#_pm.log）でエラーと警告を確認します。「ERROR」または「WARNINGS」という単語を検索して見つけます。

   ログファイルの詳細については、この記事の後半にあるリファレンスを参照してください。
4. ユーザーストアへのパスが正しいことを確認します。
5. Active Directoryからのすべての情報が正しく読み取られたことを確認します。
6. タイムスタンプを確認して、時間がかかりすぎるアクションがないか調べます。

> **ヒント:**
>
> Microsoft Excelを使用してProfile Managementログファイルを確認できます。詳細については、Knowledge Centerの記事CTX200674を参照してください。

Profile Managementのログ記録を有効にする

Profile Management展開で問題のトラブルシューティングを行う場合にのみ、すべてのイベントとアクションに対してProfile Managementのログ記録を有効にしてください。問題が解決したら、ロ

グ記録を無効にし、機密情報が含まれている可能性があるためログファイルを削除してください。

このセクションでは、GPOと`UPMPolicyDefaults_all.ini`を使用して、すべてのイベントとアクションのログ記録を有効にする方法について説明します。

Citrix Studio と Workspace Environment Management (WEM) を使用して、この目標を達成することもできます。詳細については、「Profile Management を集中管理する場所を決定する」を参照してください。

GPO を使用してログ記録を有効にする

GPO を使用してすべてのイベントとアクションの Profile Management ログ記録を有効にするには、次の手順に従います。

1. グループポリシー管理エディターを開き、グループポリシーオブジェクトを作成します。
2. **ポリシー > 管理用テンプレート: ポリシー定義 (ADMX ファイル) > Citrix コンポーネント > Profile Management > ログ設定**にアクセスします。
3. 次のように Profile Management のログ記録を有効にします。
   a. **ログ記録を有効にする**をダブルクリックします。
   b. **有効**をクリックします。
   c. **OK**をクリックします。
4. Profile Management ですべてのイベントとアクションをログに記録するように有効にします。
   a. **ログ設定**をダブルクリックします。
   b. すべてのイベントとアクションを選択します。それらの説明の詳細については、「イベントとアクション」を参照してください。
   c. **OK**をクリックします。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、次の手順に従います。
   a. **ログファイルの最大サイズ**をダブルクリックします。
   b. 「**有効にする**」をクリックし、「**最大サイズ（バイト単位）**」フィールドにサイズを入力します。
   c. 「**OK**」をクリックします。

> **ヒント:**

> 最大サイズに達すると、Profile Management は1つのバックアップファイル（例: Logfilename.log.bak）を保持します。

6. マシンで `gpupdate /force` コマンドを実行します。

   これらのポリシーはマシンに適用されます。

ログ設定ポリシーの詳細については、「」を参照してください(/ja-jp/profile-management/2607-ltsr/policies/descriptions-and-defaults.html#profile-managementlog-settings)。

.ini ファイルを使用してログ記録を有効にする

`UPMPolicyDefaults_all.ini` を使用してすべてのイベントとアクションの Profile Management ログ記録を有効にするには、次の手順に従います。

1. Profile Management のインストールフォルダー（デフォルトでは C:\Program Files\Citrix\User Profile Manager）で `UPMPolicyDefaults_all.ini` を開きます。
2. 設定を見つけるには、「**ログ設定**」を検索します。

   ログ記録に関連する設定(/en-us/profile-management/2607-ltsr/media/troubleshoot-ini-log-settings.png)
3. `LoggingEnabled` に `1` を入力します。
4. `LogLevelWarnings` から `LogLevelUserName` までの各パラメーターに `1` を入力します。これらのパラメーターの詳細については、「」を参照してください(#events-and-actions)。
5. ログファイルのデフォルトの最大サイズを変更するには、必要に応じて `MaxLogSize` にサイズを入力します。
6. ログファイルのデフォルトフォルダを変更するには、必要に応じて`PathToLogFile`のパスを入力します。

参照

このセクションでは、次の情報を提供します。

- ログの種類
- イベントとアクション
- Profile Managementログファイルのフィールド

ログの種類

この表には、Profile Managementのトラブルシューティングに使用できるログが一覧表示されています。

非公式名	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
Profile Management ログファイル	#computername#.#domainname#_pm.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	情報メッセージ、警告、およびエラーは、Profile Managementログファイルに書き込まれます。ドメイン名はコンピューターのドメインです。コンピューター名が特定できない場合、このログファイルはUserProfileManager.logという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかかわらずドメインが特定できない場合、ログファイルは#computername#_pm.logという名前になります。
Profile Management 構成ログファイル	#computername#.#domainname#_pm_config.log	%SystemRoot%\system32\LogFiles\UserProfileManager	構成ログファイルは、ログ記録がオフになっている場合でも、GPOおよび.iniファイルの設定をキャプチャします。コンピューター名が特定できない場合、UserProfileManager_pm_configという名前になります。コンピューター名が利用可能であるにもかか

非公式名	ログファイル名	場所	ログ情報の種類
			わらずドメインが特定できない場合、ログファイルは #computername#_pm_config.logという名前になります。
Windowsイベントログ	Application.evtx	%SystemRoot%\System32\winevt\Logs	Microsoftイベントビューアーで表示するWindowsイベントは、主にエラー報告に使用されます。エラーのみが書き込まれます。

イベントとアクション

この表は、Profile Managementがログに記録できるイベントとアクションを示します。

種類	説明	.INIのパラメーター
一般的な警告	一般的なすべての警告。	LogLevelWarnings
一般情報	一般的なすべての情報。	LogLevelInformation
ファイルシステム通知	処理されたファイルまたはフォルダーが変更されるたびに、1つのログエントリが作成されます。	LogLevelFileSystemNotification
ファイルシステムアクション	Profile Managementによって実行されるファイルシステム操作。	LogLevelFileSystemActions
レジストリアクション	Profile Managementによって実行されるレジストリアクション。	LogLevelRegistryActions
ログオフ時のレジストリの差異	セッション中に変更されたHKCUハイブ内のすべてのレジストリキー。重要: この設	LogLevelRegistryDifference

種類	説明	.INIのパラメーター
	定は、ログファイルに大量の出力を生成します。	
Active Directoryアクション	Profile ManagementがActive Directoryをクエリするたびに、エントリがログファイルに書き込まれます。	LogLevelActiveDirectoryActions
ポリシー値	Profile Managementサービスが開始されるか、ポリシーが更新されると、ポリシー値がログファイルに書き込まれます。	LogLevelPolicyUserLogon
ログオン	ログオン中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogon
ログオフ	ログオフ中のアクションのシーケンスがログファイルに書き込まれます。	LogLevelLogoff
パーソナライズされたユーザー情報	該当する場合、ユーザー名とドメイン名はログファイルの専用列に記録されます。	LogLevelUserName

ログファイルフィールド

Profile Managementログファイルの各行には、セミコロンで区切られた複数のフィールドがあります。この表は、ログファイルのフィールドを示しています。

フィールド	説明
日付	ログエントリの日付
時刻	ログエントリの時刻（ミリ秒を含む）
重大度	INFORMATION、WARNING、またはERRORのいずれか
ドメイン	ユーザーのドメイン（該当する場合）

フィールド	説明
ユーザー名	ユーザー名（該当する場合）
セッションID	セッションID（該当する場合）
スレッドID	この行を作成したスレッドのID
関数と説明	その時点で実行されていたProfile Management関数の名前とログメッセージ

Windows イベントの確認

Profile Management によってログに記録された Windows イベントは、トラブルシューティングのための診断情報も提供します。Windows イベントは、`%SystemRoot%\System32\winevt\Logs\` フォルダーの Application.evtx ファイルに保存されます。

Windows イベント ビューアーを使用してイベントを表示するには、次の手順に従います。

1. Windows マシンで **イベント ビューアー** を起動します。
2. 左ペインで **Windows ログ > アプリケーション** ノードを選択します。

   イベントは右ペインに表示されます。

イベントのリスト

Profile Management によってログに記録されるイベントは、すべてが連続して番号付けされているわけではなく、このバージョンの Profile Management で使用されるわけでもありません。ただし、以前のバージョンからアップグレードした場合は、ログに記録される可能性があります。

イベント ID	説明	原因	アクション
5	ユーザーログオン時に Citrix Profile Management が選択したユーザー ストアとネットワーク遅延を示します。	Citrix Profile Management は、ユーザーログオン時にユーザー ストアを選択しました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
6	Citrix Profile Managementサービ	Citrix Profile Managementサービスが開始されまし	開始または再起動が計画されていなかった場合は、イベント

イベント ID	説明	原因	アクション
	スが開始されました。	た。これは、自動開始、手動開始、または再起動の結果である可能性があります。	ログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示されている是正措置を講じてください。
7	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。	Citrix Profile Managementサービスが停止しました。これは、手動停止またはシャットダウン処理の一部である可能性があります。	サービス停止が計画されていなかった場合は、イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示されている是正措置を講じてください。
8	ユーザーのプロファイルは、Citrix Profile Managementの新しいバージョンによって変更されており、このバージョンでは使用できなくなりました…	このマシンのCitrix Profile Managementサービスは、Profile Managementの新しいバージョンがユーザーストア内のユーザープロファイルを変更したことを検出しました。データ損失の可能性を防ぐため、以前のバージョンのProfile Managementは一時プロファイルの使用に戻ります。	このコンピューター（およびユーザーストアを共有し、以前のバージョンのProfile Managementを使用している他のすべてのコンピューター）を最新バージョンにアップグレードしてください。
9	ログオンフックの検出で問題が発生しました…	Citrix Profile Managementサービスは、ログオン通知の設定中に問題が検出されました。Citrix Profile Management	Citrix Profile Managementをスペースのないパスに再インストールするか、Profile Managementがイン

イベント ID	説明	原因	アクション
		サービスは、インストールパスにスペースが含まれていないこと、またはサービスがインストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートが有効になっていることを必要とします。	ストールされているボリュームで8.3ファイル名サポートを有効にしてください。
10	ユーザーストアへのユーザーパスは…	指定された場所に有効なCitrixユーザープロファイルが見つかりました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
11	spsMain: CreateNamedPipeが失敗しました…	（このイベントは現在使用されていません。）	なし。
12	StartMonitoringProfile: ログオン中にWindows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されるすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
13	StopMonitoringProfile: ログオフ中に	Citrix Profile Managementサービ	Profile Managementによって管理されて

イベント ID	説明	原因	アクション
	Windows変更ジャーナル管理で問題が検出されました…	スは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーの監視を停止できませんでした。Windows変更ジャーナル管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。ファイルとレジストリの変更はユーザーに対して同期されません。	いるすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
14	CJIncreaseSizeIfNecessary: 変更ジャーナルの作成/サイズ変更に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを作成またはサイズ変更しようとしたときに問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。

イベント ID	説明	原因	アクション
15	CJInitializeForMonitoring: ジャーナルを照会できません…	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルを照会中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。
16	CJInitializeForMonitoring: 初期MFTスキャンがエラーで終了しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが変更を監視できなくなりました。Citrix Profile Managementはこのフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是正措置を講じてください。

イベント ID	説明	原因	アクション
17	CJInitializeForMonitoring: サービス開始以降のFS変更の処理に失敗しました。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出されました。このエラーは、サービスが変更を監視することを妨げません。Citrix Profile Managementは、このディレクトリを通常どおり処理します。	このエラーはProfile Managementの動作を妨げませんが、念のためエラーを確認してください。Profile Managementによって管理されているすべてのボリュームで、変更ジャーナル処理が構成され、動作していることを確認してください。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認してください。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含む、示された是正措置を講じてください。
18	CJProcessAvailableRecords: 内部エラー…	Citrix Profile Managementサービスが、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視中に障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの更新スキャンを実行中に問題が検出され、サービスが最近の変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementは、このフォルダーの処理	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementは、このフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユー

イベント ID	説明	原因	アクション
		を完了しません。重要なデータを手動でバックアップしてください。	ザープロファイルが使用されます。
19	USNChangeMonitor: 変更ジャーナルの初期化に失敗しました…	Citrix Profile Managementサービスが、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視中に障害が発生しました。ボリューム上のNTFS変更ジャーナルの初期スキャンを準備中に問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementは、このディレクトリの処理を完了しません。重要なデータを手動でバックアップしてください。	Citrix Profile Managementサービスは、プロファイルまたは拡張同期用に構成されたフォルダーを監視できませんでした。Windows変更ジャーナルイベント管理で問題が検出され、サービスが変更を監視できませんでした。Citrix Profile Managementは、このフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。
20	CADUser::Init: DNSドメインとADsPathの決定に失敗しました…	ログオンしているユーザーに関する情報をActive Directoryにクエリ中に問題が発生しました。Citrix Profile Managementは、このフォルダーを処理しません。代わりにWindowsユーザープロファイルが使用されます。	コンピューターがドメインコントローラーへの機能するネットワークパスを持っていることを確認します。コンピューターに十分なシステムリソースがあることを確認します。イベントログでエラーを確認し、Profile Managementのトラブルシューティング手順を含め、示されている是

イベント ID	説明	原因	アクション
			正措置を講じてください。
21	DNSドメインとADsPathの決定に失敗しました…	この問題は、Microsoft TechNetの記事263693に記載されているように、メモリ割り当ての制限によって引き起こされる可能性があります。	この問題の解決策は、Citrix Knowledge Centerの記事CTX124953に記載されています。
22	ファイルアクセスが遅かった。ユーザーがユーザーストアからファイルをフェッチしている間に遅延が発生しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementはこの操作に遅延を検出しました。ユーザーは警告メッセージを受け取りました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアがユーザーストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	エンタープライズアンチウイルス製品のトラブルシューティングと構成に関するアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。
23	ファイルアクセスが拒否される可能性があります。ユーザーがユーザーストアからファイルをフェッチしている間に長い遅延が発生しました。	ユーザーがファイルにアクセスしようとしましたが、Profile Managementはこの操作に非常に大きな遅延を検出し、アクセスが拒否される可能性があります。ユーザーはエラーメッセージを受け取りました。このエラーは、アンチウイルスソフトウェアが	エンタープライズアンチウイルス製品のトラブルシューティングと構成に関するアドバイスについては、Profile Managementのドキュメントを参照してください。

イベント ID	説明	原因	アクション
		ユーザーストア内のファイルへのアクセスを妨げていることが原因である可能性があります。	
24	RevertToSelfがエラーコードで失敗し、Profile Managementがシャットダウンされました。	ログオンおよびログオフ処理の一部は、偽装を使用して実行されます。偽装が完了すると、通常、RevertToSelf関数が呼び出されます。この場合、関数が呼び出されませんでした。そのため、セキュリティ上の理由から、Profile Managementソフトウェアはシャットダウンされました。ユーザーにはエラーメッセージが表示されました。	セキュリティ侵害の疑いがある場合は、組織の手順に従って対処し、Profile Managementを再起動してください。
25	ユーザーのプロファイルはCitrix Profile Managementによって管理されていますが、ユーザー ストアにアクセスできません…	このコンピューター上のCitrix Profile Management Serviceは、指定されたユーザー ストアにアクセスできません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないことが原因です。	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
26	デフォルトのプロファイル場所が無効です。この場所のプ	このコンピューター上のプロファイルは、ドライブ文字	このコンピューター上のプロファイルをドライブ文字にマウ

イベント ID	説明	原因	アクション
	ロファイルは正しく監視できません…	（例: C:）にマウントされたディスク上にある必要があります。	ントされたディスクに移動し、Profile Managementを再起動してください。
27	ユーザーのプロファイル フォルダーがデフォルトのプロファイル場所にありません…	レジストリでは、このユーザーのプロファイルの場所とデフォルトのプロファイルの場所が一致しません。これは、たとえば、Profile Management Serviceを実行しているマシン上の異なるボリューム間でプロファイルが移動された場合に発生する可能性があります。	このユーザーのプロファイルがデフォルトのフォルダーの場所にあることを確認してください。必要に応じて適切なツールを使用して、ファイル システム内のプロファイル データがプロファイルのレジストリ設定と一致するようにしてください。
28	ユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしようとしたときにエラーが発生しました。	このCitrixユーザープロファイルを作成するために使用されたデフォルトまたはテンプレートプロファイルのレジストリに、権限の問題がある可能性があります。	必要に応じて、SetAclなどのサードパーティ製ユーティリティを使用して、Profile Management ユーザー ストア内のユーザーのレジストリハイブのセキュリティ権限をリセットしてください。
29	テンプレートプロファイルのパスが構成されていますが、プロファイルが見つかりませんでした…	指定されたフォルダーにはNTUSER.DATファイルが含まれていないため、テンプレートプロファイル設定では使用できません。この問題は、NTUSER.DATファイルを含むフォルダー	テンプレートプロファイルを含むフォルダーへの有効なパスが構成されていることを確認してください。パスにNTUSER.DATが含まれていることを確認してください。このファイルが有効であ

イベント ID	説明	原因	アクション
		ではなく、NTUSER.DATファイルのフルパスが構成されている場合に頻繁に発生します。テンプレートプロファイル設定は、Active Directory属性、システム環境変数、または `%USERNAME%` および `%USERDOMAIN%` 変数の展開をサポートしていません。	り、すべてのファイルへの読み取りアクセスを許可するようにフォルダーのアクセス権が正しく設定されていることを確認してください。
33	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにあるローカルプロファイルからユーザー ストアにプロファイルを作成しました。	示された場所からユーザー ストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
34	Citrix Profile Managementは、LOCATIONにある移動プロファイルからユーザー ストアにプロファイルを作成しました。	示された場所からユーザー ストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
35	Citrix Profile Management は、LOCATION にあるテンプレート プロファイルからユーザー ストアにプロファイルを作成しました	指定された場所から、ユーザー ストアにプロファイルが作成されました。	なし。このメッセージは情報提供のみを目的としています。
36	USER の既存のプロファイル フォルダーを、このユーザーの	Citrix 強制プロファイルは、ログオンごとにテンプレート プ	既存のプロファイル フォルダーを手動で削除してください。

イベント ID	説明	原因	アクション
	新しい Citrix 強制プロファイル用に準備できません。可能であれば、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。	ロファイルのコピーを使用します。既存のプロファイルはすべて削除され、指定されたテンプレートの場所から Citrix 強制プロファイルがコピーされます。このプロセスは失敗しました。	別のプロセスによってファイルがロックされ、削除が失敗する場合は、コンピューターを再起動する必要がある場合があります。テンプレート フォルダーが存在し、ユーザーがその内容を読み取る権限を持っていることを確認してください。
37	ユーザーのユーザー ストア パスに到達できません。このユーザーのために一時プロファイルが作成され、このユーザー ストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上の Citrix Profile Management Service は、指定されたユーザー ストアに到達できません。これは通常、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためです。	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であり、このコンピューターとサーバー間のネットワークが動作していることを確認してください。
38	ユーザーのプロファイルは Citrix Profile Management によって管理されていますが、ユーザー ストア パスが見つかりません。このユーザーのために一時プロファイルが作成され、このユーザー ストアのプロファイルには変更が保存されません。	このコンピューター上の Citrix Profile Management Service は、指定されたユーザー ストア内のプロファイルを見つけることができません。これは、ネットワークの問題、またはユーザー ストアをホストしているサーバーが利用できないためである可能性があります。しかし、	ユーザー ストアをホストしているサーバーが利用可能であることを確認してください。また、このコンピューターとサーバー間のネットワークが稼働しており、ユーザー ストアへのパスが既存のプロファイルを指していることを確認してください。ユーザー ストア内のプロファ

イベント ID	説明	原因	アクション
		ユーザー ストア内のプロファイルが削除または移動されたためである可能性もあります。あるいは、ユーザー ストアへのパスが変更され、ユーザー ストア内の既存のプロファイルを正しく指していない可能性もあります。	イルが削除されている場合は、ローカル マシン上のプロファイルを削除してください。
41	Citrix Profile Management サービスは、ユーザー '%1\%2' のローカル プロファイル フォルダーに <%3> からプロファイル コンテナーをロードできませんでした。一時プロファイルがユーザー用に作成され、プロファイル コンテナー内のプロファイルへの変更は保存されません。	Citrix Profile Management サービスはプロファイル コンテナーをロードできませんでした。ローカル プロファイル フォルダーが利用できないか、プロファイル コンテナーが破損しています。	詳細については、Citrix Profile Management のログを確認してください。
42	ユーザー `<userdomain>\<username>` のポリシー設定を更新しようとしているときにエラーが発生しました。ポリシー設定が正しく適用されていない可能性があります。エラーコード: `<error code>`	Citrix Profile Management は、Citrix グループ ポリシー設定の更新に失敗しました。	Citrix グループ ポリシー クライアント側拡張機能がインストールされ、正しく動作していることを確認してください。

イベント ID	説明	原因	アクション
3005	`<path1>` からアクセス ポイント `<path2>` への仮想ディスクのマウント試行が失敗しました。	Citrix Profile Management は、仮想ディスクをアクセス ポイントにマウントできませんでした。この問題は、仮想ディスクにアクセスできない場合、アクセス ポイントが空でない場合、または仮想ディスクがすでにマウントされている場合に発生する可能性があります。	マシンを再起動し、問題が解決されたかどうかを確認してください。解決しない場合は、CDF トレースを収集し、Citrix テクニカル サポートにお問い合わせください。
3008	`<path1>` からアクセス ポイント `<path2>` への検索データベースのマウント試行が失敗しました。	Windows Search サービスが検索データベースをマウントできませんでした。この問題は、検索データベースが破損している場合に発生する可能性があります。	CDF トレースを収集し、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。
5000	ローカルホストとユーザー ストア <"%3"> 間のネットワーク遅延は <%2> ミリ秒です。セッション ID は %1 です。	NA	NA
5001	現在のプロファイル サイズは <%1> バイトです。セッション ID のイベント データを参照してください。	NA	NA

イベント ID	説明	原因	アクション
5002	保留中の領域サイズは <%1> バイトで、<%2> 個のファイル、<%3> 個のフォルダー、セッション ID <%4>、およびユーザー名 <%5> で構成されています。	NA	NA
5003	保留領域の同期が開始されました。セッションID: <%1>。ユーザー名: <%2>。	NA	NA
5004	保留領域の同期が完了しました。セッションID: <%1>。ユーザー名: <%2>。	NA	NA
5009	デスクトップウィンドウが表示されています。セッションID: <%1>。	NA	NA

一般的な問題のトラブルシューティング

この記事では、一般的なProfile Managementの問題をトラブルシューティングする方法について説明します。

ログオンが遅い

ユーザーのログオンが遅い場合は、次の手順でトラブルシューティングを行ってください。

1. Citrix DirectorのLogon Durationパネルでプロファイルの読み込み時間を確認します。予想よりも大幅に長い場合は、ユーザープロファイルの読み込みが原因でログオンが遅くなっています。

   詳細については、「ユーザーログオンの問題の診断」を参照してください。
2. Citrix Profile Managementログファイルでプロファイル処理時間を確認します。

`C:\Windows\System32\Log Files\User Profile Manager`にあるProfile Managementログファイルで、`DispatchLogonLogoff`で始まるエントリを見つけます。次の例は、ログオン処理時間が10.22秒であることを示しています。

`DispatchLogonLogoff: ---------- Finished logon processing successfully in [s]: <10.22>.`.

3. 推奨されるProfile Managementポリシーが適用されていることを確認してください。

   ログオンパフォーマンスを向上させるための推奨事項については、「ユーザーログオンパフォーマンスの向上」を参照してください。

4. Citrixテクニカルサポートに問い合わせる.

   ログオンの遅延が続く場合は、Citrixテクニカルサポートに連絡して、さらにサポートを受けてください。詳しくは、「Citrixテクニカルサポートへのお問い合わせ」を参照してください。

プロファイルがストリーミングされていることを確認する

ストリーミングユーザープロファイルを有効にしており、この機能がユーザーのプロファイルに適用されていることを確認したい場合は、次の手順を実行します。

1. Profile Managementログファイルで次の種類のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;16:16:35.369;INFORMATION;;;;1140;ReadPolicy: Configuration
   value read from policy: PSEnabled=<1>
   ```

   機能が有効になっている場合、最後の項目はPSEnabled=\<1\>に設定する必要があります。

2. Profile Managementログファイルで、ユーザーの次のエントリを確認します。

   ```
   2010-03-16;20:17:30.401;INFORMATION;<domain name>;<user
   name>;2;2364;ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile
   support enabled.
   ```

   ストリーミングされたユーザープロファイルが適用されていない場合、項目には「ProcessLogon: User logging on with Streamed Profile support disabled」と表示されます。

適用されているポリシーを特定する

UPMSettings.iniファイルを使用して、適用されているProfile Managementポリシーを特定します。このファイルは、ユーザーストア内の各Citrixユーザープロファイルのルートフォルダーに存在します。このファイルを調べることは、Resultant Set of Policy (RSoP)を使用するよりも便利か

もしれません。特に、GPOと.iniファイル設定を組み合わせてポリシーを決定している場合はそうです。

UPMFRSettings.iniファイルを使用して、除外リストにあるため処理されないプロファイルフォルダーを特定します。UPMFRSettings.iniファイルもルートフォルダーに存在します。

破損したプロファイルデータを除外する

ユーザープロファイルが破損しており、問題が特定のファイルまたはフォルダーにあると確信している場合は、同期プロセスから除外します。その方法は、ファイルまたはフォルダーを除外リストに追加することです。

レジストリエントリへの接続をクリーンアップする

一部のシナリオ（Profile Managementに関連するものだけでなく）では、ユーザーがログオフした後もレジストリプロファイルデータへの接続が保持されます。この保持により、ログオフが遅くなったり、ユーザーセッションが完全に終了しなかったりする可能性があります。MicrosoftのUser Profile Hive Cleanup (`UPHClean`)ツールは、これらのシナリオの解決に役立ちます。

ローカルプロファイルを削除する

Microsoft Delprof.exeとSepago Delprof2は、ユーザープロファイルの削除に役立つツールです。

プロファイルがどこに保存されているかを特定する

プロファイルの問題を診断するには、ユーザープロファイル内のファイルがどこに保存されているかを特定する必要があります。次の手順は、プロファイルがどこに保存されているかをすばやく特定する方法を提供します。

1. イベントビューアーで、左ペインのをクリックします。
2. 右ペインの「ソース」の下で、目的のCitrix Profile Managementイベントを見つけてダブルクリックします。
3. イベントに関連付けられているユーザー ストアへのパスは、「全般」タブにリンクとして表示されます。
4. ファイルを探索したい場合は、リンクをたどってユーザー ストアを参照してください。

サーバーの確認

サーバーがユーザーのログオンとログオフを正しく処理しているかどうかを確認するには、ユーザー ストア内のユーザー プロファイルにある PmCompatibility.ini というファイルをチェックします。このファイルはプロファイルのルートフォルダーにあります。ファイルの最後の項目は、ユー

ザーが最後にログオフしたサーバーの名前です。たとえば、サーバーがProfile Management 5.0を実行している場合、項目は次のようになります。

```
[LastUpdateServerName]

5.0=<computer name>
```

ロールバック

Profile Managementの以前のバージョンにロールバックするには、ユーザー ストアをホストしているファイルサーバーのコマンドラインから **del /s** を実行します。このコマンドは、各プロファイルからPmCompatibility.iniファイルを削除します。たとえば、ユーザー ストアへのローカルパスが `D:\UpmProfiles` の場合、次を実行します。

```
del /s D:\UpmProfiles\pmcompatibility.ini
```

コマンドが完了すると、ユーザーは以前のバージョンを実行しているコンピューターにログオンし、ユーザー ストアからプロファイルを受け取ることができます。

ユーザー ストア内の除外フォルダー

除外フォルダーはユーザー ストアに表示されます。これは想定される問題であり、修正措置は不要です。除外リストにあるフォルダーはユーザー ストアに作成されますが、その内容は同期されません。

ログファイル内の情報不足

デバッグモードをアクティブにしても、完全なログ記録が自動的に有効になるわけではありません。ログ設定で、ログに記録したいイベントのすべてのチェックボックスが選択されていることを確認してください。

ヒント: リストの最後のチェックボックスを有効にするには、下にスクロールする必要がある場合があります。

GPO設定が機能しない

GPO設定を変更しても、Citrix Profile Management Serviceを実行しているコンピューターで機能しません。この問題は、GPがすぐに更新されず、展開で指定されたイベントまたは間隔に基づいているために発生します。GPをすぐに更新するには、コンピューターで `gpupdate /force` を実行します。

変更を有効にするには、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/gpupdate>`に記載されているように、コマンドプロンプトから`gpupdate /force`コマンドを実行します。

ユーザーが新規または一時プロファイルを受け取る

デフォルトでは、問題が発生した場合（たとえば、ユーザー ストアが利用できない場合）に、ユーザーには一時プロファイルが与えられます。または、Profile Managementを構成して、エラーメッセージを表示し、ユーザーをログオフさせることもできます。このアプローチは、トラブルシューティングに役立ちます。

この機能の構成手順については、「ユーザーのログオフを強制する」を参照してください。

状況によっては、ユーザーがログオンしたときに、キャッシュされたプロファイルの代わりに新しいプロファイルを受け取ることがあります。

ユーザー ストア内のコピーが削除された後にローカルプロファイルが存在する場合、ユーザーは一時プロファイルを受け取ることもあります。この状況は、ユーザー ストアがクリアされても、ログオフ時にローカルプロファイルが削除されない場合に発生する可能性があります。

Profile Managementは、このような部分的なプロファイルの削除をネットワーク、共有、または権限のエラーとして扱い、ユーザーに一時プロファイルを提供します。このため、部分的な削除は推奨されません。この問題を回避するには、影響を受けるコンピューターにログオンし、プロファイルを手動で削除してください。

展開にパーソナルvDiskが含まれている場合、これらのディスクのデフォルト処理が正しく調整されていないと、ユーザーは一時プロファイルを受け取る可能性があります。詳細については、「ユーザープロファイルの移行」を参照してください。

仮想デスクトップセッションが応答しなくなったときにプロファイルデータが失われる

Citrix仮想デスクトップの展開では、リモートデスクトッププロトコル（RDP）セッションから切断すると、仮想デスクトップが応答しなくなったり、再起動したりする可能性があります。この動作は、セッション終了時にプロファイルデータが失われるため、Profile Managementに影響を与えます。この問題は、Citrix Virtual Delivery Agentバージョン3.1.3242以降で修正されています。

ユーザーがログオンできない（イベントID: 1000、ソース: Userenv）

ユーザーはCitrix環境にログオンできず、次のエラーメッセージを受け取ります。「Windowsはローミングプロファイルをロードできませんでした。ローカルプロファイルでログオンしようと

しています...ネットワーク管理者に連絡してください。」このエラーは、Windowsアプリケーションイベントログ（イベントID: 1000、ソース: Userenv）に表示されます。

印刷

Citrix仮想デスクトップ™環境では、ユーザーはデフォルトプリンターを選択できますが、ログオン間でその選択が保持されない場合があります。この問題は、標準イメージモードのCitrix Provisioning Servicesパーソナルvdiskに基づいたプールされた仮想デスクトップでプリンターを設定するために、Citrix仮想デスクトップのポリシーが使用された場合に確認されています。

この問題はProfile Managementに起因するものではありません。Profile Managementのログファイルには、プリンターのレジストリエントリがログオフ時にコピーされたこと（これは予期される動作）が示されていますが、ユーザーのNTUSER.datにはそのエントリが含まれていません（これは予期されない動作）。この問題は実際には、Citrix仮想デスクトップが`DefaultPmFlags`レジストリ設定を使用する方法に起因しています。

プロファイルに予期しないプリンターが追加されることがあります。ユーザーがそれらを削除しても、次のログオン時にプリンターが再表示されます。詳細については、Profile Managementサポートフォーラムを参照してください。

複数のプラットフォームでのアプリケーション設定に関する問題

複数のプラットフォーム間でアプリケーション設定が正しくローミングされない問題が発生する場合があります。通常、これらの問題は次の原因で発生します。

- あるシステムから別のシステムに適用できない設定。たとえば、すべてのシステムに存在するわけではないハードウェア固有の設定などです。
- 異なるシステムに異なる方法でインストールされているアプリケーション。例：
    - あるシステムではC:ドライブにインストールされているが、別のシステムではD:ドライブにインストールされているアプリケーション。
    - あるシステムでは`C:\Program Files`にインストールされているが、別のシステムでは`C:\Program Files (x86)`にインストールされているアプリケーション。
    - あるシステムにはインストールされているが、別のシステムにはインストールされていないExcelアドイン。
- 設定情報をプロファイルに保存しないアプリケーション。たとえば、ローカルマシンの設定内またはユーザープロファイルの外部に保存されている情報などです。

- レジストリに保存されている言語固有の構成設定。Profile Management は、バージョン1プロファイルの言語固有のフォルダー名を自動的に翻訳しますが、レジストリ内のものは翻訳しません。

ほとんどの場合、これらの問題を引き起こすシステムをより標準化することで、問題を最小限に抑えることができます。ただし、多くの場合、問題はOSまたはそれぞれのアプリケーションの（複数のプラットフォームとの）固有の非互換性に起因します。問題のある設定が重要でない場合は、プロファイルから除外することで問題が解決する可能性があります。

不明なアカウントが所有するプロファイル

まれに、プロファイルが不明なアカウントに属しているように見えることがあります。コンピューターの ダイアログボックスの タブで、 の をクリックすると、 と表示されます。この問題は、イベントログエントリ *「コンポーネント \<application ID\> のイベント作成のプロファイル通知に失敗しました。エラーコードは???」* とともに発生します。レジストリでは、アプリケーションIDはMicrosoftコンポーネントであるSHACCTプロファイル通知ハンドラーを指します。

この問題が環境で発生していることを確認するには、Profile Management がデータを処理しないユーザーとしてログオンし、これらの症状を確認します。

これはProfile Managementの問題ではありませんが、Active Directoryが仮想マシンのスナップショットと適切に連携しない結果である可能性があります。Citrixユーザープロファイルの操作には影響ありません。ユーザーはログオンおよびログオフでき、プロファイルの変更は保持されます。

高度なトラブルシューティングを実行する

現在のProfile Management設定を確認し、Profile Managementログが有用な情報のソースではないと判断したら、このチェックリストを使用してさらにトラブルシューティングを行います。

- 分析対象のマシンからポリシーの結果セット (RSoP) レポートを確認し、すべてのGPOが期待どおりに適用されていることを確認します。

  レポートを生成するには、マシンで `gpresult` コマンドを実行します。
- 最新バージョンのProfile Managementがインストールされていることを確認します。詳しくは、「Profile Managementのバージョンを確認する」を参照してください。
- 他のユーザーからの解決策については、Profile Managementサポートフォーラムを確認してください。
- 影響を受けるマシンと同じオペレーティングシステムを持つクリーンなマシンで問題を再現してみてください。ソフトウェア製品を1つずつインストールし、各インストール後に問題が再

現するかどうかを確認します。詳しくは、「テスト環境にProfile Managementを展開する」を参照してください。

Profile Managementのバージョンを確認する

バージョン情報を確認するには、次の手順に従います。

1. WindowsエクスプローラーでUserProfileManager.exeファイルを右クリックします。
2. ［プロパティ］>［バージョン］ をクリックします。
3. 最新バージョンでない場合は、My Accountサイトから最新バージョンをダウンロードします。Citrix®製品を選択し、ダウンロードセクションからProfile Managementをダウンロードします。

> **ヒント:**
>
> アップグレード後、必要に応じて新しい機能を有効にできます。

テスト環境にProfile Managementを展開する

ログファイルが問題のトラブルシューティングに役立たない場合は、次の例で使用されているトラブルシューティングアプローチを試してください。このアプローチは、次の目的で使用できます。

- どの構成設定が読み取られているかを特定します。
- 構成設定がどこから読み取られているかを特定します（複数のADMファイルが存在する場合）。
- ログファイルがプロファイルに加えられた変更を正しく追跡していることを確認します。

展開例

この例での展開は次のとおりです。

- Citrix virtual apps™ サーバーはWindows Server 2022で実行されています。
- ユーザーは、Citrix Workspace app for Windowsを使用して、公開されたリソースに接続しています。
- INIファイルベースの構成の代わりに、OUベースのGPOが使用されます。

> **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。レジストリエディターの不適切な使用によって生じた問題が解決できることを保証することはできません。レジストリエディターの使用は自己責任で行ってください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

トラブルシューティングのワークフロー

この例には、1台のサーバーのみで構成される小さなテストOUが含まれています。サーバーのプロファイル設定を編集できます。その後、ログファイルとポリシーの結果セット（RSoP）レポートで設定の変更を追跡します。

詳細な手順は次のとおりです。

1. 実稼働環境から、CitrixユーザープロファイルをホストしているCitrix virtual appsサーバーの1つを削除します。次に、そのサーバーを新しいOUに追加します。
2. サーバーからProfile Managementを削除し、再インストールします。
3. ドメイン管理者としてサーバーにログオンします。
4. ローカルポリシーを調べて、このレベルのADMファイルを削除します。
5. 新しいOUに割り当てられているGPOへのリンクをすべて削除します。
6. サーバーで、レジストリエディターからキーとすべてのサブキーを削除します: `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`。
7. Profile Management の .ini ファイルをすべて削除します。
8. **マイコンピュータ \> プロパティ \> 詳細設定**を使用して、テストするプロファイル以外のすべてのプロファイルを削除します。表示されるエラーを調査します。
9. Authenticated Users グループにファイルのフルコントロールを付与します。これにより、ユーザーとしてログオンしたときに Profile Management のログファイルを確認できます。ログファイルは `C:\Windows\System32\LogFiles\UserProfileManager\<domainname>#<computername>_pm.log` です（\<domainname\> はコンピューターのドメイン、\<computername\> はコンピューター名です）。ドメインを特定できない場合、ログファイルは UserProfileManager.log です。
10. 次の設定のみを含むGPOを作成し、新しいOUにリンクします。GPOがAuthenticated Usersグループに割り当てられていることを確認します。これらの設定を有効にして構成します。

    a. Profile Management を有効にします。

   b. ユーザーストアへのパス。
   c. ログ記録を有効にします。
   d. ログ設定。すべてのイベントとアクションを選択します。
   e. 既存のプロファイルの移行。ローミングプロファイルとローカルプロファイルを選択します。
   f. ローカルプロファイルの競合処理。ローカルプロファイルの名前を変更を選択します。
   g. ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除します。
   h. *ローカル管理者ログオンの処理*設定を無効にします。これにより、Profile Management の構成が誤っていてユーザーのログオンが妨げられた場合でも、管理者としてログオンできます。

11. OUを右クリックし、**継承のブロック**を選択して、GPOリンクがOUに適用される方法を制御します。
12. サーバーに一度もログオンしたことがなく、ローカル管理者グループのメンバーではないドメインテストユーザーを作成します。
13. このユーザーにフルデスクトップを公開し、ユーザーがRemote Desktop Usersグループに属していることを確認します。
14. ドメインに複数のドメインコントローラー（DC）がある場合は、サーバーと同じサイト内のすべてのDC間でADレプリケーションを強制します。
15. ドメイン管理者としてサーバーにログオンし、ログファイルを削除し、Citrix Profile Managementサービスを再起動して、`gpupdate /force`を実行します。
16. レジストリを確認し、`HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager\`内の値が新しいGPOの値のみであることを確認します。
17. 管理者としてログアウトします。
18. Internet Explorerの設定をいくつか変更し、My Docsフォルダーに空のテストファイルを作成します。
19. Profile Managementログファイルへのショートカットを作成します。それを開いてエントリを調べます。注意が必要な項目を調査します。
20. ログアウトしてから、ドメイン管理者として再度ログオンします。
21. `gpresult`を実行して、テストユーザーとサーバーのRSoPレポートを生成します。

レポートに期待する内容が含まれていない場合は、注意が必要な項目を調査します。

Citrix テクニカルサポートへのお問い合わせ

このセクションのトラブルシューティングに関するアドバイスを確認し、発生した問題がProfile Managementに起因すると考えられる場合は、Citrix テクニカルサポートにお問い合わせください。常に以下のファイルと、可能な限り多くのその他の情報を収集して提供してください。

Profile Management のログファイルを収集する

詳細な手順は次のとおりです。

1. すべてのイベントとアクションをログに記録するように、マシンでProfile Managementを有効にします。詳細については、「Profile Management のログを有効にする」を参照してください。
2. 影響を受けるマシンで問題を再現します。
3. `%SystemRoot%\System32\Logfiles\UserProfileManager`からProfile Managementのログファイルとそのバックアップファイルを収集します。

影響を受けるマシンからのログファイルには、少なくとも以下の情報が含まれています。

- サービスの開始（Profile Managementのバージョンとビルド番号を含む）
- サービスによる構成の読み取り
- 影響を受けるユーザーの完全なログオンプロセス
- 問題発生時にユーザーが行ったアクティビティ
- 影響を受けるユーザーの完全なログオフプロセス

Windows イベントログファイルを収集する

影響を受けるマシンで問題を再現した後、以下の手順に従ってWindowsイベントログファイルを収集します。

1. `%SystemRoot%\System32\winevt\Logs`フォルダーを見つけます。
2. Application.evtx ファイルを収集します。

インストールされているソフトウェアの詳細を収集する

影響を受けるマシンにインストールされている以下のソフトウェアの詳細を収集します。

- オペレーティングシステム、言語、およびバージョン。
- Citrix 製品とバージョン。

.ini ファイルを収集する

Profile Management に関連付けられている .ini ファイルを収集するには、次の手順に従います。

1. ユーザー ストア内の各 Citrix ユーザープロファイルのルートフォルダーを見つけます。
2. 次の .ini ファイルを収集します。
   - UPMSettings.ini
   - UPMFRSettings.ini
   - PmCompatibility.ini

Always On Tracing ログファイルを収集する

Always On Tracing (AOT) ログは、Profile Management の重大な問題を特定するのに役立つ情報を提供するため、問題を再現する必要性を減らします。

AOT ログファイルを収集するには、次の手順に従います。

1. 問題が発生したマシンで、`C:\ProgramData\Citrix\TelemetryService\CitrixAOT` に移動します。すべてのAOTログファイルが表示されます。

   > **注:**
   >
   > AOTが有効になっている他のCitrixコンポーネントがマシンにインストールされている場合、AOTログファイルにはそれらのコンポーネントからのログも含まれます。

2. 最新のログファイルを手動で生成するには、次の手順に従います。
   a. **Windows PowerShell** を管理者として実行します。
   b. コマンドを実行します: `Restart-Service -Name "Citrix Telemetry Service"`
3. すべてのAOTログファイルを収集し、Citrixテクニカルサポートに送信します。

CDFControlを使用して診断トレースログを収集する

CDFControlを使用して診断トレースログを次のように収集します。

1. Knowledge Centerの記事 CTX111961 からCDFControlツールをダウンロードします。
2. CDFControl実行可能ファイルを実行します。

3. 表示されるウィンドウで、必要に応じて1つ以上のトレースモジュールを選択します。それらの機能の説明の詳細については、次の表を参照してください。
4. をクリックします。
5. 問題を再現します。
6. をクリックします。
7. CDFControl実行可能ファイルと同じフォルダーでトレースログを見つけます。

この表は、CDFControl のトラックモジュールの機能を示しています。

トレースモジュール	説明
UPM_DLL_GPCSE	プロファイル管理からCitrixグループポリシーのクライアント側拡張に送信されたユーザーグループポリシー評価要求をトレースします。
UPM_DLL_OUTLOOK_HOOK	Outlook のプロファイル管理フックモジュールをトレースします。Outlook 検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_Perfmon	プロファイル管理に関連付けられたWindowsパフォーマンスモニターカウンターと、プロファイル管理によって生成されたエラーをトレースします。
UPM_DLL_SearchSvc_Hook	Windows検索サービス内のプロファイル管理フックモジュールをトレースします。Outlook検索インデックスのローミング機能に関する問題をトレースするには、これを選択します。
UPM_DLL_WfShell	公開アプリケーションのデスクトップ準備完了イベントを報告するプロファイル管理の `Wfshell` プラグインをトレースします。
UPM_Driver	Citrixストリームユーザープロファイルドライバーが使用されるたびに、ファイルシステムの変更をトレースします。
UPM_Service	Profile Management Service が呼び出されるたびに情報をトレースします。例としては、ログオン時、ログオフ時、またはセッション中の

トレースモジュール	説明
	同期や定期メンテナンスが行われる場合などがあります。
UPM_SessionLaunchEvaluation	Profile Management の一意のトランザクション ID に関連付けられた起動イベントをトレースします。
UPM_WMI	Profile Management VDA WMI プラグインイベントをトレースします。

その他の情報の収集

可能であれば、以下の情報を収集してください。

- `gpresult` コマンドを実行して、影響を受けるマシンとユーザーのポリシーの結果セット (RSoP) レポート。
- アプリケーションイベントログ。
- 利用可能な場合は、**Userenv** デバッグファイル。このツールに関する情報については、Microsoft のドキュメントを参照してください。

> **注:**
>
> Citrix Provisioning Services が展開の一部であり、プロファイルが初期化されているときに問題が発生する場合、データ収集は複雑になる可能性があります。そのシナリオでは、前述の構成更新を .ini ファイルで行い (GPO ログ設定を無効にし)、プロビジョニングされたイメージでの Profile Management の事前構成 の手順に従うことをお勧めします。

ベストプラクティス

Windowsユーザープロファイルは、特定のユーザーアカウントでログオンするユーザーの環境を定義する、フォルダー、ファイル、レジストリ、および構成設定の集合です。ユーザーは、管理構成に応じてこれらの設定をカスタマイズできます。

1つの場所からプロファイル管理を構成する

プロファイル管理を構成できる場所は3つあります。プロファイル管理を構成するには、次のいずれかの方法を使用します。

- Active Directory のグループポリシーオブジェクト
- Citrix Studioのポリシー
- ワークスペース環境管理™

プロファイル管理を構成するには、3つの場所のうち1つだけを選択することをお勧めします。

こちらのビデオで詳細を見る**:**

Cookieの処理

プロファイル管理は、Internet Explorer 10およびInternet Explorer 11の古いCookieの削除をサポートしています。**ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する**ポリシーを使用して、古いCookieを削除し、Cookieフォルダーの肥大化を防ぐことができます。さらに、ミラーリングするフォルダーのリストに次のフォルダーを追加します。

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
- `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`

詳しくは、「ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する」を参照してください。

アウトルック と オフィス 365

Microsoftは、一貫したオンラインおよびオフラインのMicrosoft Outlookエクスペリエンスを可能にするために、キャッシュされたExchangeモードを推奨しています。キャッシュされたExchangeモードは、Microsoft Outlookクライアントから有効にできます。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/exchange/outlook/cached-exchange-mode>`を参照してください。

キャッシュされたExchangeモードを使用すると、ユーザーのExchangeメールボックスのコピーが常にオフラインOutlookデータファイル（*.ost）に保存されます。このファイルは大きくなる可能性があります。

Microsoft Outlookデータをローカルまたは共有ドライブに保存することは避けることをお勧めします。代わりに、ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする機能を使用してください。この機能を使用すると、オフラインOutlookデータファイル（*.ost）とユーザー固有のMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。この機能の使用方法について詳しくは、「ネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを有効にする」を参照してください。

Microsoft資格情報ローミングが有効な場合のプロファイルストリーミング

既定では、構成ファイル内の次のフォルダーはプロファイルストリーミングから除外されます。

- `AppData\Local\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Credentials`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Crypto`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\Protect`
- `Appdata\Roaming\Microsoft\SystemCertificates`

プロファイルストリーミングの除外を手動で構成する場合は、前述のフォルダーを「プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ」に追加してください。

スタートメニューのローミング

数回のログオン後、次のオペレーティングシステムでスタートメニューにピン留めされたアプリケーションが表示されなくなることがあります。

- Windows 10バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2016 Standardおよび`Datacenter`エディション
- Windows Server 2019 Standardおよび`Datacenter`エディション
- Windows 10 Enterprise 仮想デスクトップ向け

> **注:**
>
> Windows 10/11とWindows Server 2016/2019の両方に同じポリシーを使用することはできません。VDIおよび共有デスクトッププラットフォームには個別のポリシーを構成するか、Profile Management 2103以降を使用している場合は、自動構成を使用してください。

スタートメニューのローミングを自動的に有効にする

Profile Management 2103以降を使用している場合、**自動構成を無効にする**ポリシーを既定値（**無効**）のままにすると、*スタートメニューのローミング*が自動的に有効になります。

Profile Management 2106以降を使用している場合は、**Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**の下にある**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にすることをお勧めします。この設定により、フォルダーミラーリング機能のユーザーログオンおよびログオフエクスペリエンスが向上します。詳しくは、「フォルダーミラーリングの高速化」を参照してください。

Windows 10およびWindows 11でスタートメニューのローミングを手動で有効にする

自動構成を無効にするポリシーが有効になっている場合、次の手順を使用してWindows 10またはWindows 11で*スタートメニューのローミング*を手動で有効にできます。

1. 「**Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**」に移動します。
2. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**有効**に設定し、以下のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Packages`
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`
   - `!ctx_localappdata!\TileDataLayer` (Windows 10 バージョン 1607 以前にのみ適用)

> **注:**

> Citrix Profile Management 1912 以降、**デフォルトの除外リスト - ディレクトリ**または**除外リスト - ディレクトリ**に追加されたフォルダーは、**ミラーリングするフォルダー**に追加しても同期できません。これらのフォルダー、またはその親フォルダーや祖先フォルダーが除外リストに含まれている場合は、**同期するディレクトリ**リストに追加してください。

3. **同期するファイル**ポリシーを**有効**に設定し、以下のファイルを同期するファイルのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

Windows Server のスタートメニューローミングを手動で有効にする

自動構成を無効にするポリシーが有効になっている場合、以下の手順で Windows Server の *スタートメニューローミング* を手動で有効にできます。

1. **Profile Management \> 詳細設定**に移動し、**自動構成を無効にする**ポリシーを**有効**に設定します。
2. 「**Profile Management \> ファイルシステム \> 同期**」に移動します。
3. **ミラーリングするフォルダー**ポリシーを**有効**に設定し、以下のフォルダーをミラーリングするフォルダーのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Packages`
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\Caches`

> **注:**
>
> Citrix Profile Management 1912 以降、**デフォルトの除外リスト - ディレクトリ**または**除外リスト - ディレクトリ**に追加されたフォルダーは、**ミラーリングするフォルダー**に追加しても同期できません。これらのフォルダー、またはその親フォルダーや祖先フォルダーが除外リストに含まれている場合は、**同期するディレクトリ**リストに追加してください。

4. **同期するファイル**ポリシーを**有効**に設定し、以下のファイルを同期するファイルのリストに追加します。
   - `Appdata\Local\Microsoft\Windows\UsrClass.dat*`

プロファイルを効率的に同期する

同期が不十分なユーザープロファイルは、ログオンの遅延、ユーザー設定の損失、プロファイルの破損につながる可能性があります。また、過剰な管理作業が必要になることもあります。プロファイルを効率的に同期するには、この記事で説明されている推奨事項に従ってください。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクトは、Profile Management とともに使用できる Microsoft Windows の機能です。フォルダーリダイレクトは、成功するプロファイルソリューションを提供する上で重要な役割を果たします。

フォルダーリダイレクトを使用するには、関連するユーザーがProfile Managementが管理するOUに属していることを確認してください。Active DirectoryでGPOを使用してフォルダーリダイレクトを構成することをお勧めします。

たとえば、**ユーザーの構成 \> 管理用テンプレート \> クラシック管理用テンプレート (ADM) \> Citrix \> Profile Management \> フォルダーのリダイレクト**の下にある対応するポリシーを有効にすることで、次のフォルダーをリダイレクトできます。

ドキュメント、ピクチャ、ミュージック、ビデオ、お気に入り、連絡先、ダウンロード、リンク、検索、保存したゲーム

注:

- フォルダーリダイレクトにより、ユーザーがログオンするたびにそれらのフォルダー内のデータをコピーする必要がなくなり、ユーザーのログオンが高速化されます。
- **AppData (Roaming)** および **スタートメニュー** の **フォルダーリダイレクト** を有効にしないことを強くお勧めします。アプリケーションやスタートメニューで問題が発生する可能性があるためです。
- **デスクトップ** フォルダーが大きすぎる場合はリダイレクトしないでください。そうしないと、ユーザーがログオンしたときにブラックスクリーンが発生する可能性があります。

ファイルとフォルダーの包含と除外

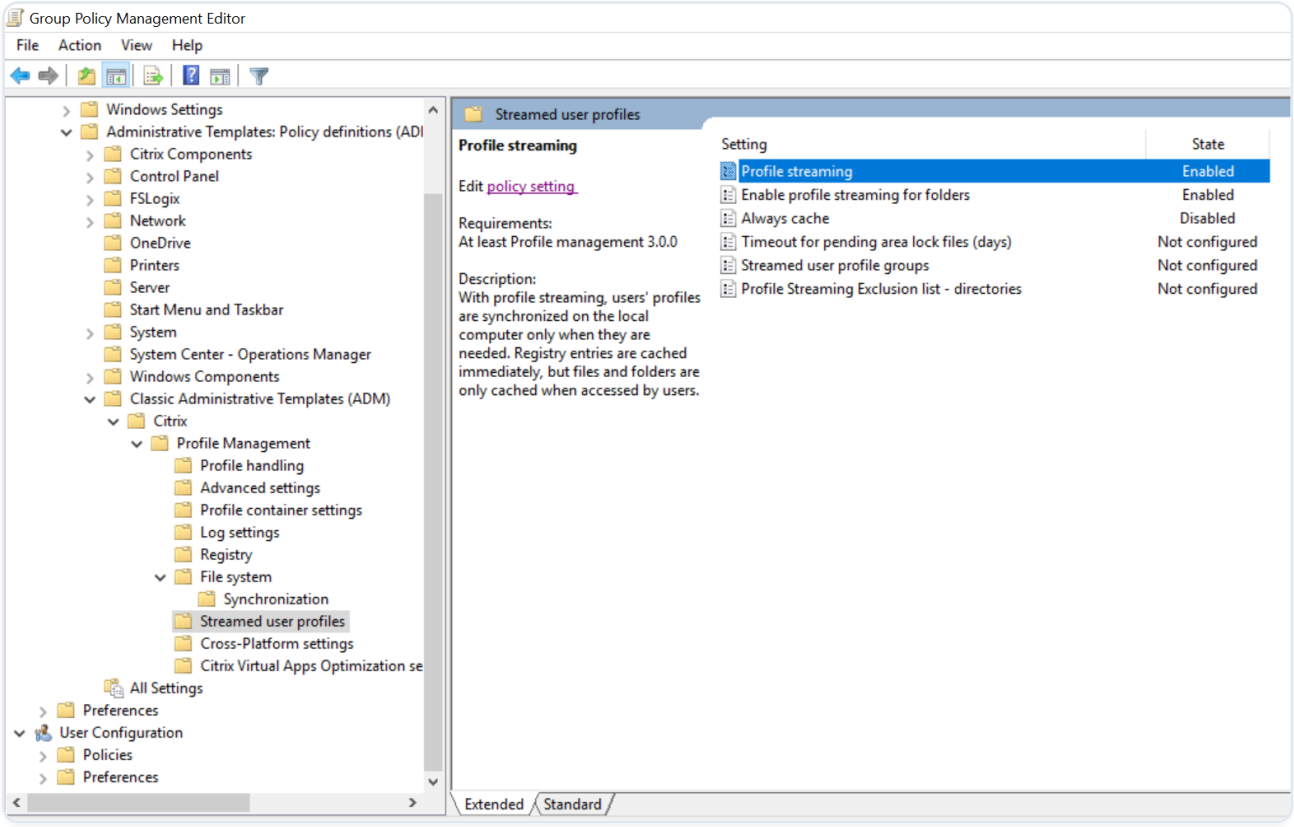
Profile Managementでは、包含リストと除外リストをカスタマイズすることで、同期したくないファイルとフォルダーを指定できます。プロファイルの肥大化を避けるため、サードパーティア

プリケーションのキャッシュファイル（例：Appdata\Local\Google\Chrome\UserData\Default\CacheにあるChromeのキャッシュファイル）を除外してください。詳しくは、「項目の包含と除外」を参照してください。

プロファイルストリーミング

Profile Managementは、ユーザーがログオン後にファイルにアクセスした場合にのみ、プロファイル内のファイルをユーザーストアからローカルコンピューターにフェッチします。これにより、ログオンプロセスが高速化され、プロファイルサイズが削減されます。たとえば、使用されないファイルはローカルプロファイルフォルダーにコピーされません。また、**常にキャッシュ** ポリシーを使用して、ストリーミングされるファイルのサイズに下限を設定することもできます。このサイズ以上のファイルは、ログオン後できるだけ早くローカルにキャッシュされます。

アクセスされないフォルダーをフェッチする必要をなくすために、**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする** ポリシーと **プロファイルストリーミング** ポリシーの両方を有効にできます。



アクティブライトバックとレジストリ

この機能は、特に変更されたファイルが多い場合に、プロファイルストリーミング機能と比較してログオフ時間を短縮します。この機能は、変更されたファイルとフォルダー（レジストリエントリは除く）をセッション中に、ログオフ前にユーザーストアに同期します。

トラブルシューティングのベストプラクティス

潜在的な構成エラーを特定するには、常にProfile Management構成チェッカーツール（UPMConfigCheck）を使用してください。

プロファイル管理が動作しない場合は、まず構成されたユーザー ストアにアクセス可能であるかどうかを検証してください。

Windows 10 スタートメニューのカスタマイズ

部分的なロックダウン カスタマイズ レイアウトを使用し、グループ ポリシーを通じてカスタマイズを展開することをお勧めします。スタートメニューのレイアウトのカスタマイズに関する詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-hardware/customize/desktop/customize-start-layout>`を参照してください。

ハウツー

以下の記事を使用して、特定のプロファイル管理タスクを実行します。

- 新しいMicrosoft Teamsのローミングを有効にする
- ユーザーログオンパフォーマンスを向上させる
- ファイル重複排除を使用してストレージスペースを節約する

新しいMicrosoft Teamsのローミングを有効にする

このアーティクルでは、Profile Managementを使用して新しいMicrosoft Teams（バージョン2.1以降）のローミングを有効にする方法について説明します。プロセスは、選択するインストーラーの種類によって異なります。

- マシンごとのインストーラーを使用してインストールおよび構成する
- ユーザーごとのインストーラーを使用してインストールおよび構成する

マシンごとのインストーラーを使用してインストールおよび構成する

要件: Profile Managementバージョン2402以降。

管理者として、以下の手順に従ってマシンを作成します。

1. マスターイメージに、マシンごとのインストーラーを使用して新しいMicrosoft Teamsをインストールします。

   インストールについて詳しくは、このMicrosoftの記事を参照してください。
2. マスターイメージにProfile Managementバージョン2402以降をインストールする。
3. マスターイメージを使用してマシンを作成します。
4. Microsoft Teamsのローミングを有効にするために必要な設定を構成する。

ユーザーごとのインストーラーを使用してインストールおよび構成する

要件: Profile Managementバージョン2308以降。

管理者として、以下の手順に従ってマシンを準備します。

1. Profile Management をバージョン 2308 以降にアップグレードします。
2. プロファイルローミング機能がユーザーに対して正しく機能することを確認します。
3. **UWP アプリのローミングを有効にする**ポリシー（**Profile Management > 詳細設定**の下）を有効にします。詳細については、「UWP アプリのローミングを有効にする」を参照してください。
4. Microsoft Teams のローミングを有効にするために必要な設定を構成する。

複数のマシンで新しい Microsoft Teams を使用したいユーザーは、それらのマシンのうち *1 台にのみ* 新しい Microsoft Teams をインストールする必要があります。

1. マシンにログオンします。
2. ユーザーごとのインストーラーを使用して、新しい Microsoft Teams をインストールします。

   Profile Management は、インストールされた Microsoft Teams をキャプチャし、コンテナ化します。別のマシンにログオンすると、Profile Management は Microsoft Teams コンテナをそのマシンに自動的にマウントします。

必要な設定を構成する

ファイルベースとコンテナベースの両方のプロファイルソリューションが、新しい Microsoft Teams でのローミングをサポートしています。ローミングを有効にするには、以下の必要な設定をそれぞれ完了してください。

- ファイルベースのプロファイルソリューションに必要な設定
- コンテナベースのプロファイルソリューションに必要な設定

ファイルベースのプロファイルソリューションに必要な設定

Microsoft Teams のローミングを有効にするには、以下の必要な設定を実行します。

1. 以下のフォルダーを**ミラーリングするフォルダー**ポリシー（**Profile Management > ファイルシステム > 同期**の下）に追加します。

   - `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
   - `AppData\Local\Microsoft\Vault`
   - `AppData\Local\Microsoft\Windows\Caches`
   - `AppData\Local\Packages`

2. 「**フォルダーミラーリングの高速化**」ポリシー (「**Profile Management > File system > Synchronization**」の下) が無効になっている場合は、Microsoft の推奨事項 に従ってフォルダーを除外します。
3. 「**フォルダーミラーリングの高速化**」ポリシーが有効になっている場合は、以下の考慮事項に従って除外リストを構成します。

   - フォルダーを除外するために Microsoft の推奨事項に従わないでください。
   - `AppData\Local\Packages` または `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe` が「**フォルダーのミラーリング**」ポリシー (「**Profile Management > File system > Synchronization**」の下) に含まれている場合は、`AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe` の下のフォルダーが除外リストに含まれていないことを確認してください。
   - Microsoft Teams のトラブルシューティングガイド を確認してください - ステップ 3: AppData フォルダー内の以下のすべてのディレクトリにアクセスするための読み取り権限があることを確認してください。`AppData\LocalLow` の下のフォルダーを除き、リスト内のすべてのフォルダーが除外リストに**含まれていない**ことを確認してください。(注: `AppData\LocalLow` フォルダーを除外リストに含めるかどうかは、ユーザーが決定できます)。

4. 次のフォルダーを「**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリ**」ポリシー (「**Profile Management > Streamed user profiles**」の下) に追加します。

   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\AC`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\AppData`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\LocalCache`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\LocalState`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\RoamingState`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\Settings`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\SystemAppData`
   - `AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe\TempState`

5. スタートメニューに新しいMicrosoft Teamsアイコンが表示されない場合 (特にWindows Server 2019または2022およびWindows 10の場合)、次の設定を構成してください。

   - Windows Server 2022およびWindows 10の場合、次のパスを除外リストに追加します。

     `AppData\Local\Packages\Microsoft.Windows.StartMenuExperienceHost_cw5n1h2txyewy\TempS`

- Windows Server 2019の場合、次のパスを除外リストに追加します。

  `AppData\Local\Packages\Microsoft.Windows.ShellExperienceHost_cw5n1h2txyewy\TempState`

- 次のレジストリキーを **1 (DWORD)** に設定します。

  `HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\StateStore\ResetCache`

6. VDAバージョンが2402より前の場合、新しいMicrosoft Teamsクライアントを最適化するために次のレジストリキーを展開します。このレジストリキーがない場合、新しいMicrosoft Teamsクライアントは非最適化モード (サーバー側レンダリング) で動作します。

   - 場所: HKLM\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\WebSocketService
   - キー (REG_Multi_SZ): ProcessWhitelist
   - 値: msedgewebview2.exe

コンテナベースのプロファイルソリューションに必要な設定

Microsoft Teamsのローミングを有効にするには、次の必要な設定を構成します:

1. **プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**ポリシー(**プロファイル管理 > プロファイルコンテナ設定**の下)が無効になっている場合は、次の考慮事項を考慮して除外リストを構成します:

   - Microsoftのフォルダ除外に関する推奨事項に従わないでください。`AppData\Local\Packages\MSTeams_8wekyb3d8bbwe`の下のフォルダがコンテナ除外リストに含まれていないことを確認してください。
   - Microsoft Teamsのトラブルシューティングガイド - ステップ3: AppDataフォルダ内の以下のすべてのディレクトリにアクセスするための読み取り権限があるか確認するを確認してください。リスト内のすべてのフォルダがコンテナ除外リストに**含まれていない**ことを確認してください。

2. **プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする**ポリシーが有効になっている場合は、次の手順に従ってください:

   a. フォルダを除外するために、Microsoftの推奨事項に従ってください。

   b. **ミラーするフォルダ**ポリシー(**プロファイル管理 > ファイルシステム > 同期**の下)に次のフォルダを追加します:

      - `AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Cookies`
      - `AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCookies`

- `AppData\Local\Microsoft\Windows\WebCache`
- `AppData\Local\Microsoft\Vault`
- `AppData\Local\Microsoft\Windows\Caches`
- `AppData\Local\Packages`

3. スタートメニューに新しいMicrosoft Teamsアイコンが表示されない場合（特にWindows Server 2019または2022およびWindows 10の場合）、次の設定を構成します。
   - Windows Server 2022およびWindows 10の場合、次のパスを除外リストに追加します。

     `AppData\Local\Packages\Microsoft.Windows.StartMenuExperienceHost_cw5n1h2txyewy\TempS`
   - Windows Server 2019の場合、次のパスを除外リストに追加します。

     `AppData\Local\Packages\Microsoft.Windows.ShellExperienceHost_cw5n1h2txyewy\TempState`
   - 次のレジストリキーを **1 (DWORD)** に設定します。

     `HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\StateStore\ResetCache`
4. VDAバージョンが2402より前の場合、新しいMicrosoft Teamsクライアントを最適化するために、次のレジストリキーを展開することをお勧めします。このレジストリキーがない場合、新しいMicrosoft Teamsクライアントは非最適化モード（サーバー側レンダリング）で動作します。
   - 場所: HKLM\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\WebSocketService
   - キー (REG_Multi_SZ): ProcessWhitelist
   - 値: msedgewebview2.exe

ユーザーログオンパフォーマンスの向上

Profile Managementは、ユーザーログオンパフォーマンスを向上させるためのさまざまなポリシーを提供します。例としては、**ストリーム配信ユーザープロファイル**、**フォルダーミラーリングの高速化**、**プロファイルコンテナ**ポリシーなどがあります。これらのポリシーは、ユーザープロファイルが日常的に使用されることで増大し続けるシナリオで役立ちます。

このセクションでは、ユーザーログオンパフォーマンスを向上させるための2つのProfile Managementソリューションについて説明します。

ストリーム配信プロファイルを有効にし、フォルダーミラーリングを高速化する

環境にユーザーストアを展開した後、ユーザーログオンパフォーマンスを向上させるために、次のポリシーを有効にします。

1. **Profile Management > ストリーム配信ユーザープロファイル**に移動し、**プロファイルストリーミング**と**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**を有効にします。
2. **Profile Management > ファイルシステム**に移動し、**フォルダーミラーリングの高速化**を有効にします。

完全なプロファイルに対してプロファイルコンテナを有効にする

VHDXベースのCitrix®プロファイルソリューション（プロファイルコンテナと呼ばれます）を展開して、ログオンパフォーマンスを向上させることができます。これらのVHDXファイルは、ユーザーログオン時に動的にアタッチされます。 VHDXベースのソリューションを展開するには、完全なユーザープロファイルを次のように保存するようにプロファイルコンテナを有効にします。

1. **Profile Management > プロファイルコンテナ設定**に移動します。
2. **プロファイルコンテナ**を有効にし、プロファイルコンテナリストにアスタリスク（*）を入力します。

パフォーマンスの比較

前述のソリューションは、標準的なユーザープロファイルでのテストに基づいて推奨しています。詳細については、Knowledge Centerの記事CTX463658を参照してください。次の表に示すように、いずれかのソリューションを展開した後、ユーザーのログオンおよびログオフ時間が大幅に短縮されました。

ストリーム配信ユーザープロファイルと**フォルダーミラーリングの高速化**ポリシーを有効にした場合のテスト結果：

パラメーター	前	後
ログオン時間 / 合計ログオン時間	53.81 s / 56.48 s	1.80 s / 4.45 s
ログオフ時間 / 合計ログオフ時間	42.49 s / 43.67 s	5.62 s / 6.89 s

完全なプロファイルに対して**プロファイルコンテナ**ポリシーを有効にしたテスト結果:

パラメータ	前	後
ログオン時間 / 合計ログオン時間	53.81 s / 56.48 s	2.66 s / 5.26 s
ログオフ時間 / 合計ログオフ時間	42.49 s / 43.67 s	3.63 s / 4.99 s

ファイルの重複排除を使用してストレージ容量を節約する

ユーザーストア内のさまざまなユーザープロファイルに、同一のファイルが存在する場合があります。たとえば、異なるユーザーが同じファイルをダウンロードしたり、同じソフトウェアをユーザープロファイルにインストールしたりすることがあります。**ファイルの重複排除**ポリシーを使用すると、Profile Managementは、ユーザーストアからファイルの重複インスタンスを中央の場所（*共有ストア*と呼ばれます）に移動し、他のインスタンスを削除します。これにより、ストレージコストが削減されます。

前提条件

ファイルの重複排除を有効にするには、以下を確認してください。

- 共有ストアが自動的に作成されるように、**ユーザーストアへのパス**設定で**%username%**または**#samaccountname#**を使用します。
- Citrix Profile Managementバージョン2209以降をインストールします。

ファイルの重複排除ポリシーを有効にして構成する

Workspace Environment Management™ (WEM) Webコンソールを例にとります。コンソールを使用してファイルの重複排除を有効にして構成するには、次の手順に従います。

1. **プロファイル > Profile Management設定 > ファイルの重複排除**に移動します。
2. **ファイルの包含を有効にする**を選択し、重複排除するファイルを指定します。必要に応じて、**ファイルの除外を有効にする**を選択し、含まれるファイルから除外するファイルを指定します。詳細については、「ファイルの重複排除を有効にする」を参照してください。

変更頻度の低いファイルのみを重複排除することをお勧めします。たとえば、次のとおりです。

- ユーザーがインストールするプログラムファイル：

  `AppData\Local\Microsoft\Teams*.exe`,
  `AppData\Local\Microsoft\Teams*.dll`,

`AppData\Local\Microsoft\OneDrive*.exe`,
`AppData\Local\Microsoft\OneDrive*.dll`

- ユーザーがダウンロードするインストーラーファイルまたはイメージファイル：

  `Downloads*.exe`, `Downloads*.msi`, `Downloads*.iso`

以下のファイルの重複排除は推奨されません。

- ユーザーが頻繁に編集する可能性のあるドキュメント:

  `Documents*.xlsx`, `Documents*.docx`

- 頻繁に変更される可能性のあるデータファイル:

  `AppData\Local*.dat`

> **注:**
>
> ファイルの重複排除の効果は、ユーザー環境や重複排除に指定するファイルによって異なります。実際の状況に基づいてファイル設定をカスタマイズすることをお勧めします。

権限設定を変更する

共有ストアフォルダーを作成する際、Profile Management はそのフォルダーを以下のプリンシパルに付与します:

- ドメインコンピューター (フルコントロールアクセス権付き)
- ドメインユーザー (読み取りアクセス権付き)

これらのデフォルトの権限設定では、ファイルの重複排除はドメイン参加済みマシンでのみ機能します。ドメインに参加していないマシンで機能させるには、共有ストアフォルダーへのフルコントロールアクセス権を持つユーザーアカウントをそれらのマシンに割り当てる必要があります。詳細な手順は次のとおりです。

1. 共有ストアサーバーで、ユーザーアカウント (例: `admin0`) に共有ストアフォルダーへのフルコントロールアクセス権を付与します。
2. 各VDAで、共有ストアフォルダーにサインインするための`admin0`ユーザーアカウントのWindows資格情報を追加します。これを行うには、Windows資格情報マネージャーまたはWorkspace Environment Managementを使用します。詳細については、ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にするに記載されている手順を参照してください。

3. (オプション) 共有ストアサーバーで、共有ストアフォルダーを見つけて、ドメインコンピューターの権限エントリを削除します。

重複排除されたファイルへのデータ変更のサポート

この機能は、重複排除されたファイルへのデータ変更を処理できます。たとえば、2人のユーザーがソフトウェアXYZバージョン1をインストールし、それをファイル重複排除の対象に含めたとします。その後、1人のユーザーがバージョン2にアップグレードすると、Profile Managementは共有ストアにファイルの新しいバージョンを作成します。もう1人のユーザーもバージョン2にアップグレードすると、Profile Managementは古いバージョンのファイルを削除します。

用語集

この記事では、Profile Managementソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義を一覧表示します。他のCitrix®ソフトウェアで使用されるプロファイル関連の用語も含まれています。Windowsユーザープロファイルに関連する他の概念を理解するには、MicrosoftのWebサイトを参照してください。

用語	定義
ベースプラットフォーム	クロスプラットフォーム設定ストアを参照してください。
ベースプロファイル	ベースプロファイルは、ユーザーストア内のプロファイルへのUNCパスによって定義されます。クロスプラットフォーム設定機能が使用されている場合、レジストリ設定とファイルは、ベースプロファイルのサブセットからプラットフォーム間で共有できます。このサブセットはクロスプラットフォーム設定ストアにコピーされ、そこから移行またはローミングのターゲットとして使用されるプロファイルに追加されます。クロスプラットフォーム設定ストアにはベースプロファイルのサブセットが含まれていますが、これ（およびターゲットプロファイル）は常に完全なプロファイルとして保存されます。必要に応じて、標準のWindowsローミングプロファイルまたはローカルプロファイルとして使用できます。ただし、ストリーム配信ユーザープロファイル機能が使用されている場合、ベースプロファイルは一時的に不完全になる可能性があることに注意してください。ユーザーがログオフするまで、一部のファイルは保留領域に存在する可能性があります。ローミングシナリオでベースプロファイルを定義する際の考慮事項については、「ローミング」を参照してください。

用語	定義
キャッシュ	キャッシュと同期という用語は、ユーザーストアからファイルをダウンロードする、またはユーザーストアにファイルをアップロードする行為を指します。フェッチという用語はより具体的で、ストリーム配信ユーザープロファイル機能が、ログオン後いつでもユーザーが必要とするときに、ユーザーストアからファイルのサブセットをダウンロードする方法を指します。
Citrix強制プロファイル、Citrixローミングプロファイル、Citrixユーザープロファイル	Citrixユーザープロファイルは、Profile Managementがインストールおよび有効化されたときにユーザーが受け取るプロファイルの総称です。Citrixユーザープロファイルには、Citrixローミングプロファイルと Citrix強制プロファイルの2種類があります。Citrixローミングプロファイルは、ユーザーが日常業務でカスタマイズし、ログオフ時にユーザーストアに保存され、Profile Managementポリシーによって処理されるファイル、フォルダー、およびレジストリ設定の標準的なコレクションです。Citrix強制プロファイルは、Profile Managementがそれらを処理する方法においてCitrixローミングプロファイルと似ています。しかし、ログオフ時にユーザーストアに変更は保存されません。ログオン時には、強制プロファイルの新しいコピーがロードされます。Citrixユーザープロファイルは、Microsoftローカルプロファイル、Microsoftローミングプロファイル、またはMicrosoft強制プロファイルとは異なります。
コンピューター	これらのProfile Managementトピックで使用される「コンピューター」という一般的な用語は、Citrix Profile Management Serviceがインストールされている任意のコンピューターを指すことができます。これは、ユーザーデバイス、仮想デスクトップ（Citrix Virtual Desktops™仮想マシンからプロビジョニングされた可能性のあるもの）、または公開アプ

用語	定義
	リケーションをホストするCitrix仮想アプリサーバーである可能性があります。
クロスプラットフォーム定義ファイル	このファイルは、Profile Management に付属する .xml ファイルで、クロスプラットフォーム設定機能を動作させるために必要な情報が含まれています。サポートされているアプリケーションごとに1つのファイルがあります。
クロスプラットフォーム設定ストア	この場所はユーザー ストアとは別に、クロスプラットフォーム設定機能が構成されると、サポートされているアプリケーションの設定を保持します。どのプラットフォームのプロファイル データを使用してクロスプラットフォーム設定ストアをシードするかを選択します。それがベース プラットフォームです。
フェッチ	キャッシュを参照してください。
レガシーアプリケーション	レガシーアプリケーションは、設定を非標準の場所に保存するため、適切に動作しないアプリケーションです。これには、一時的なアプリケーションデータをユーザープロファイルに保存し、それによってプロファイル肥大化を引き起こすシステムが含まれます。
移行	移行とは、プロファイルをあるプラットフォームから別のプラットフォームへ計画的に一方向で移動することです（例：Windows XPからWindows 7へ）。
プロファイルの肥大化	一時ファイルが削除されない場合、Windows ユーザープロファイルのサイズは増加する可能性があります。これはログオンの遅延を引き起こし、プロファイルの肥大化と呼ばれます。
ローミング	ローミングとは、複数のコンピューターまたはセッションから異なるベースプロファイルを使用することです（例：Windows 2008 R2 を実行しているコンピューター用のベースプロファイルと、Windows 7用の別のベースプロファイル）。ユーザーは、異なるベースプロ

用語	定義
	ファイルを持つコンピューターまたはセッション間を行き来する際にローミングします。組織単位（OU）の構成方法によっては、ベースプロファイルをプラットフォーム間で共有できます。たとえば、Windows 2008 R2とWindows 7の両方のOUで同じプロファイルを使用できます。この場合、同じベースプロファイルが共有されるため、ユーザーはローミングしません。ベースプロファイルは、同じプロファイルバージョン（バージョン1またはバージョン2プロファイル）のオペレーティングシステムでのみ共有できます。バージョン1とバージョン2の両方のプロファイルがアクティブな場合、ユーザーは常にローミングします。
同期	キャッシュを参照してください。
ユーザー ストア	ユーザー ストアは、Citrix ユーザー プロファイルを保存するための中央のネットワーク ロケーションです。クロスプラットフォーム設定ストアも参照してください。
vディスク、パーソナルvディスク	vDisk は、Citrix Provisioning™ Services によってマスター イメージから作成される仮想ディスクです。Personal vDisk は、Citrix 仮想デスクトップがプロファイル、ユーザーがインストールしたアプリケーション、部門別アプリケーション、およびユーザー データを保存するために使用するディスクです。Personal vDisk は、オペレーティング システム、レジストリ、および基本アプリケーションに使用されるディスクとは別個のものです。
バージョン 1 プロファイル、バージョン 2 プロファイル	Microsoft Windows XP および Windows Server 2003 のプロファイルは、バージョン 1 プロファイルとして知られています。Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2 のプロファイルは、バージョン 2 プロファイルとして知られています。バージョン 1 とバージョン 2 のプ

用語	定義
	ロファイルは異なる名前空間を持ち、その構成のいくつかの側面に影響を与えます。